# 北杜市文化財年報

— 平成17年度 —

北杜市埋蔵文化財調査報告第16集
附録　屋敷平遺跡発掘調査報告書

山梨県北杜市教育委員会

# 北杜市文化財年報

— 平成17年度 —

北杜市埋蔵文化財調査報告第16集
附録　屋敷平遺跡発掘調査報告書

2006

山梨県北杜市教育委員会

史跡谷戸城跡

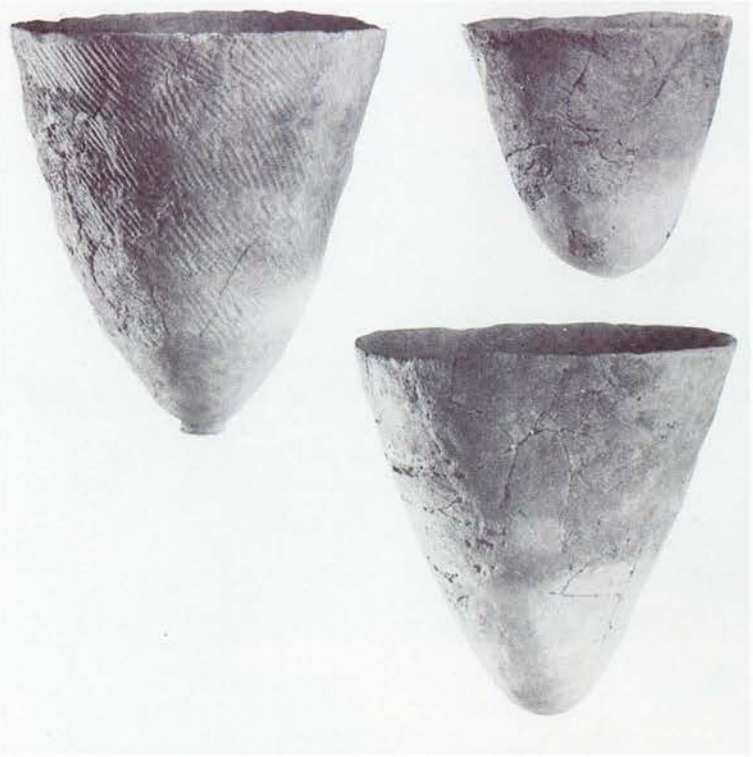
甲斐源氏発展の礎を築いた逸見清光（1110 ～ 1168?）の築城と伝えられる山城。発掘により 14 ～ 15 世紀に使用されたことが判明した。南には居館の存在を示すような方形の地割り（上写真　手前右）が見られる。

天然記念物「山高神代ザクラ」大正年間
（長坂町清光寺において大正11年に開催された高原夏期大学開設記念絵はがきより）

天然記念物再生事業竣工後の神代ザクラのようす

天然記念物「萬休院の舞鶴マツ」平成17年初夏

天然記念物「萬休院の舞鶴マツ」平成18年厳冬



上北田遺跡出土の縄文時代前期の土器

同　石製垂飾

深山田遺跡出土の銅椀

▲「植松波雄全仕事」展　～八ヶ岳の名を県下に広めた写真館の記録～
会期：2005（平成17）年４月２日（土）～７月10日（日）
会場：北杜市長坂郷土資料館

▲「北杜・山梨ゆかりの鎧」展～甲冑、その移り変わり～
会期：2005（平成17）年７月16日（土）～９月11日（日）
会場：北杜市長坂郷土資料館

梅之木遺跡の全景（平成15年11月撮影）　直径100m ほどの環状集落である。

湯沢川の河岸段丘状の低地で検出された敷石遺構。曽利Ⅳ式期の敷石住居の可能性も考えられる。

向山遺跡の五輪塔群と石列

向山遺跡の火葬施設

御所遺跡出土の緑釉陶器

高根町御所遺跡からは、８個体の緑釉陶器が発見された。このようにまとまって出土することは珍しい。高台の特徴から畿内産の製品も含まれると考えられる。周囲には須恵器の甕の破片が散らばり、通常とは異なる出土状態に見える。

# 例　　言

1　本書は、山梨県北杜市における平成17年度の文化財保護活用事業の概要を記した年報である。
2　北杜市は、旧明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村の７町村が合併し、平成16年11月１日に発足した。また平成18年３月15日に小淵沢町が合併し、新北杜市が発足した。
3　本書には、北杜市教育委員会の文化財保護活用事業を所管する機関の組織機構、平成17年度の指定文化財等の保護活用事業、北杜市郷土資料館の事業活動、埋蔵文化財保護業務、埋蔵文化財関連事務一覧を掲載した。また、巻末に北杜市埋蔵文化財調査報告第16集『屋敷平遺跡』を収録した。
4　本書の編集発行は下記の組織で行った。
　　北杜市教育委員会　教育長　小清水淳三
　　北杜市教育委員会　生涯学習課文化財担当
5　本書中各章・項目の文責は、各文末に執筆者名を記して示した。
6　本書の印刷製本費は、国庫補助金、県費補助金、各種土木工事等の事業主体者からの負担金、北杜市費をもって充てた。
7　本書中に掲載した遺跡の出土品及び調査に係わる諸記録は、北杜市教育委員会が保管している。
8　平成17年度の文化財保護業務にあたり、多くの市民、事業者、関係機関、関係者のご理解とご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

# 目　　次


巻頭口絵
例言
Ⅰ　平成16・17年度事業の概要と組織……1
Ⅱ　北杜市文化財保護審議会……2
Ⅲ　指定文化財……4
　1　指定文化財の保護と保存……4
　2　文化財の指定及び解除……21
　3　文化財活用事業……24
Ⅳ　北杜市郷土資料館……26
　1　平成17年度事業内容……26
　2　年間入館者状況……33
Ⅴ　発掘調査速報……34
　1　梅之木遺跡……35
　2　向山遺跡……38
　3　平山遺跡……40
　4　御崎前遺跡……42
　5　御所遺跡……44
　6　御所遺跡……46
　7　西ノ原Ｂ遺跡……60
　8　斜遺跡……64
　9　坂上遺跡……75
　10　後原遺跡……78
　11　一道下遺跡……79
　12　山本遺跡……81
　13　新宿区健康村遺跡……83
　14　窪田遺跡……87
　15　窪田遺跡……89
　16　頭無Ａ遺跡……91
　17　史跡谷戸城跡……93
　18　獅子吼城跡……96
　19　真原Ａ遺跡……99
　文化財保護法による届出・通知・保護措置一覧……101
　平成17年度刊行の埋蔵文化財調査報告書一覧……102
附録　　北杜市埋蔵文化財調査報告第16集　屋敷平遺跡発掘調査報告書……105

# Ⅰ　平成16・17年度事業の概要と組織

## 1　概要

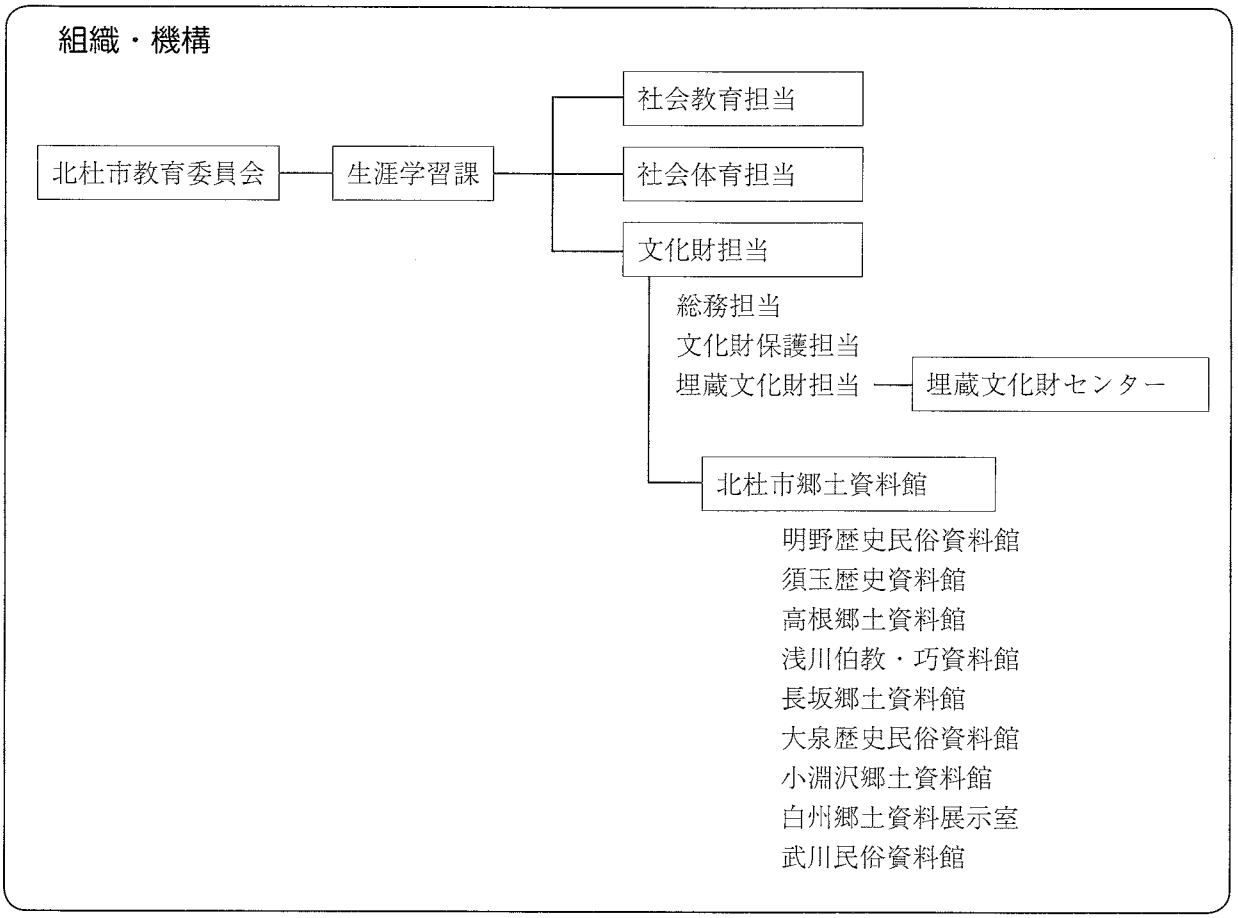
平成16年11月１日、北巨摩郡下７町村の北杜市への合併後、その業務は全て北杜市が引き継いだ。569㎢という膨大な面積に850件を上回る周知の埋蔵文化財包蔵地が存在し、農業関連の各種開発に伴う発掘調査事業、合併後の都市基盤を構築するためのインフラ整備に伴う発掘調査あるいは民間の開発に伴う確認、発掘調査等、膨大な件数の処理を要するのに対して、職員体制の上で大きな課題を孕んでの船出であった。また、これら開発に伴う発掘調査事業以外に史跡谷戸城跡の整備事業、同ガイダンス施設建設事業、国指定天然記念物山高神代ザクラの天然記念物再生事業、農業関連事業に伴い発掘調査され、その内容が注目されてきた梅之木遺跡の重要遺跡確認緊急調査等、新市の施策上も重要なものが含まれていた。さらには昭和30年前後の旧町村合併後、各々整備された資料館施設はそのまま新市に引き継がれ、その管理・運営も課題とされた。

また、管内の指定文化財は、北杜市指定が150件、山梨県指定文化財が36件、国指定の文化財が７件を数える。これらの保全・管理も大きな課題となった。

これらの課題は解決を見ないまま平成18年３月15日、さらに小淵沢町との合併により増大することとなった。

## 2　組織

文化財保護推進体制は以下の表のとおりである。教育委員会生涯学習課内に文化財担当を置き、その中を緩やかに総務担当、文化財保護担当、埋蔵文化財担当と分け、業務に臨んだ。また、北杜市郷土資料館を文化財担当所管とし、北杜市埋蔵文化財センターを埋蔵文化財担当所管とした。　（伊藤公明）



# Ⅱ　北杜市文化財保護審議会

平成16年11月１日、北巨摩郡下７町村の合併により北杜市が誕生した。合併後、北杜市文化財保護条例（平成16年11月１日条例113号）第55条に基づき、保護審議会委員の選任を進め、平成17年２月18日付け委員７名を任命する運びとなった。委員の互選により会長に中山嘉明氏、副会長に中島明氏が選出された。

文化財保護審議会委員名簿（任期：平成17年２月18日～平成19年３月31日）

| 氏　　名 | 役　　職 | 選　出　基　準 |
|---|---|---|
| 清水恭輔 | | 明野町選出 |
| 篠原旭 | | 須玉町選出 |
| 白倉良二 | | 高根町選出 |
| 仲山茂 | | 長坂町選出 |
| 中島明 | 副会長 | 大泉町選出 |
| 小林秀雄 | | 白州町選出 |
| 中山嘉明 | 会長 | 武川町選出 |

合併後の平成16年度、平成17年度の議事の概要は以下のとおり。ただし、北巨摩文化財審議会委員連絡協議会、山梨県市町村文化財審議会委員連絡協議会の活動内容は割愛する。

### 平成16年度第１回北杜市文化財保護審議会

平成17年２月18日午後１時30分～　市役所302会議室

委員の任命後、互選により会長・副会長選出。北杜市文化財保護条例、北杜市文化財保護条例施行規則について事務局より説明し議事に入る。

１）北杜市指定文化財の概要について

合併協定により、旧町村で指定された文化財は現行のとおり新市に引き継ぐことになっており、北杜市指定文化財が150件に昇ることを報告。これに対して旧町村において指定された種別、名称に齟齬があり整合がとれていないこと、名称に錯誤があることが指摘された。これらについては事務局で整理するよう指示があったが、名称の変更、種別の変更については告示を伴う事項であることから、教育委員会に諮り、正式に文化財保護審議会に諮問した上で種別、名称について答申を受け告示するという事務手続きを取ることとした。

２）平成16年度事業概要および平成17年度事業計画について

平成16年度の文化財保護事業の概要、および平成17年度の文化財保護事業の概要について説明。主要事業として史跡谷戸城跡史跡等総合整備活用推進事業、山高神代ザクラ天然記念物再生事業、梅之木遺跡緊急確認調査事業が継続して取り組まれている状況を説明。

### 平成17年度第１回北杜市文化財保護審議会

平成17年８月10日午後１時30分～　市役所302会議室

平成17年８月５日の定例教育委員会により文化財保護審議会に対し北杜市指定文化財の指定名称、種別の再検討につき諮問することが了承され、これを受けて開催された保護審議会。

1）北杜市指定文化財の名称・種別について

事務局より指定名称・種別案を提示。指定名称・種別の整合を図るため、山梨県指定文化財の名称の付け方、種別を原則として採用することとした。次回の審議会まで県指定物件に倣い検討しておくこととした。また、合併以前から調査・検討が進められてきた新規指定物件についても検討を進めたい旨の発言があった。

### 平成17年度第２回北杜市文化財保護審議会

平成17年９月27日午前９時30分～　北杜市役所302会議室

1）北杜市指定文化財の名称・種別について

前回の保護審議会に引き続き標記の議題について審議。事務局より個別の資料となるが「小荒間の口留番所跡」について資料を提示。指定されていた位置が文献資料等により錯誤である可能性が高く、現地の調査を経て必要であれば指定解除の手続きを進めることとした。また、他にも指定の位置等に問題があるものがあり、次回に現地調査を実施することとした。

### 平成17年度第３回北杜市文化財保護審議会

平成17年11月８日午後０時30分～　現地調査、帰着後市役所302会議室

現地調査：浅川伯教・巧兄弟生誕の地、小荒間の口留番所跡、三分一湧水、伝小荒間古戦場跡、逸見清光の墓、八幡大神社、日蓮上人高座石

帰着後の会議において浅川伯教・巧生誕の地は地番を特定できる生家跡、もしくは墓の指定が望ましいこと、小荒間の口留番所跡については指定地が直接番所跡に係わらないことを確認。指定解除については数日内に方向を示すこととした。また、他の物件については小淵沢町との合併を控えていることから住民の動揺を抑えるため合併後に結論を出すこととした。

以上の検討を受け、平成17年11月16日付けで「北杜市指定文化財の名称・種別の見直しに伴う文化財の指定解除について」として単件での処理であるが小荒間の口留番所跡の指定解除につき教育委員会に答申することとなり、同日開催の定例教育委員会に議され指定解除するものとして議決された。なお、指定解除の告示も同日付けで公告された。

### 平成17年度第４回北杜市文化財保護審議会

平成18年２月10日午前９時30分～　北杜市明野埋蔵文化財センター会議室

北杜市明野町上手地内で平成10年度に発掘調査された深山田遺跡出土の銅製鋺14口について、北杜市指定有形文化財として指定することの可否につき教育委員会から諮問を受けて開催されたもの。深山田遺跡出土銅鋺の現地調査を兼ねて、当該物件を収蔵、展示している北杜市埋蔵文化財センターにおいて開催。

1）市指定文化財の新規指定について

当該物件が出土した深山田遺跡は宗教施設としての性格が考慮され、当該物件は大小14口が全て重なって埋まっていたと考えられること、その数、組み合わせにおいていわゆる六器の可能性には疑問があるものの、中世甲斐国の信仰の一端を示すものである可能性があること、また、13～14世紀と推定される製作年代の金属製品としての希少性、重要性から当該物件のより一層の普及・活用を図るため、北杜市指定文化財に指定すべき物件と判断された。

保護審議会では速やかに調査書の作成に着手し、２月13日付けで教育委員会に答申した。教育委員会での議決を受け当該物件を北杜市指定文化財として指定することになり、２月15日付けで告示した。（伊藤公明）

# Ⅲ　指定文化財

## 1　指定文化財の保護と保存

### 1）史跡谷戸城跡調査保存整備事業

事業の概要と事業フロー

史跡谷戸城跡は、逸見黒源太清光（1110～1168？）の居城であったとの伝承が伝わり、山梨県内でも最古に位置付けられる山城跡である。清光の二男武田信義が後の戦国大名武田氏の祖であることから「武田氏の発展過程を具体的に跡づけることができる重要な城跡」という評価を受け、平成５年11月29日付けで国の指定史跡となった。

旧大泉村では昭和49年２月１日付けで村史跡に指定し、その保護に努めてきた。平成３年に至り、谷戸組及び逸見神社氏子総代会長より国史跡指定も含めた谷戸城と八幡神社の有効活用についての陳情があったことから、史跡指定に向けた方向付け、調査計画等を検討するため、平成４年６月２日に谷戸城跡調査保存整備委員会を発足した。史跡指定後の平成６年８月25日付けで史跡谷戸城跡調査保存整備委員会と改称し、現在に至っている。

史跡指定後の事業は平成６年度に開始した。この年、史跡の概要、保存管理計画、保存整備計画、活用計画で構成される整備基本構想の策定を行ったほか、史跡買い上げ事業にも着手し、11年度に史跡指定地全域の公有地化が完了している。10年度からは整備の基礎資料を得るための発掘調査事業、12年度には整備基本計画の策定、13年度からは調査の成果を基にした保存整備工事事業を進めてきた。また、谷戸城ガイダンス施設を建設するため、15年度から18年度までの期間で史跡等総合整備活用推進事業を導入した。事業は19年度で終了する予定で、17年度の発掘調査は第８次調査、整備工事は第５次工事となる。

#### 史跡谷戸城跡調査保存整備委員会及び専門委員会の開催

毎年、史跡谷戸城跡調査保存整備委員会として年１～２回、同専門委員会として年２～３回開催し、発掘調査成果や整備方法等の検討を行っている。委員には、行政関係者以外に住民代表として谷戸地区の財産区管理団体である谷戸組の代表、谷戸城のある町屋、城南地区の地区長、学識経験者として考古、文献、造園の専門家を委嘱している。16年度は整備委員会１回、専門委員会４回、17年度は整備委員会１回、専門委員会２回を開催した。以下に町村合併後に開催された委員会の抄録をまとめる。

#### 平成16年度第４回専門委員会　平成16年11月29日

１）谷戸城ふるさと歴史館展示計画について

歴史館展示計画については予算計画に合わせた内容となるよう絞り込んだ計画を提示し、意見を求めた。これについて検討手法への批判もあったが、大筋で合意を得た。また、内容的に考証が困難なものもあるので専門委員の校正を受けた後、専門委員会に諮ることとした。なお、金生遺跡の展示に至る導入部分に旧大泉村の他の遺跡出土品を展示する計画を提出したが、導入としての簡単な展示とし、ケースについても移動可能とするなどして、あくまで金生遺跡のガイダンスに主眼を置くべきとされた。

２）平成16年度城内整備工事について

11月８日の文化庁調査官との打ち合わせ事項を説明し、それに沿った土塁・空堀の整備計画を提出し、了承された。また、除木については法面崩壊を防止する範囲、遺構破壊を防止する範囲として確認された。現在発注している法面復旧工事について現地指導を受け、それを反映した変更設計を後日個別

に送付し了承を得ることとした。

**第20回史跡谷戸城跡調査保存整備委員会**　平成17年６月28日10時～

合併後、初の整備委員会であるため、規約改正の審議を行い、承認された。

１）平成16年度事業報告を行い了承された。

２）平成17年度発掘調査計画・城内整備計画について

事務局案説明後、発掘調査計画は了承され、整備計画については安全対策、排水処理についての質疑、管理計画についての指導があった。

安全対策は土塁上からの転落と空堀への転落防止についてのもので、整備後しばらくは芝の養生のため人の出入りを制限するが、それ以後の具体的な安全対策は今後の検討課題とした。排水処理は空堀内と帯郭での具体的な工法についてであるが、整備前から雨水が溜まったことがなかったので、特別な排水施設は設けず自然浸透とすることを説明した。

他の整備事例からも、適切な雨水処理と盛土の崩落防止に細心の注意を払うこと、城内の管理、植栽の管理は計画に沿って行うことについて指導を受けた。

３）谷戸城ふるさと歴史館の経過報告について

建設がストップしている谷戸城ふるさと歴史館の経過報告を行った。事務局からは財政的な問題、市内の施設の整理・統合による館の利用方法の再検討が理由で建設がストップしていること、谷戸城ガイダンスについては平成18年度中に完成させ、19年４月にはガイダンス部分だけでもオープンすることを説明した。

委員長からは、歴史館を北杜市全体の文化財展示のスペースとして位置付けており、谷戸城ガイダンス・金生遺跡ガイダンス・市内の文化財という構成で考えている、との説明がなされた。また、17年度中に館の使用方法の方向性を決め、18年度以降の事業につなげていく、との説明が付け加えられた。

専門委員からは、市として資料館を再配置することの必要性に理解が示された。しかし、史跡のガイダンスは必ず必要であり、展示内容は町村合併を見据えて大泉村の紹介に偏らないよう留意し、協議を積み重ねたなかで決めたもので、これまでの協議の結果を尊重してほしい、との意見が出された。この他、各館の個性を重視したなかでセンター館を設置し、歴史館の展示計画に含まれている八ヶ岳と大泉の紹介部分はセンター館に含めてはどうか。歴史館は金生遺跡・谷戸城のガイダンスに特化したほうがよいのではないか。史跡のガイダンスは、史跡から歩いて行ける範囲にあるのが理想であり、金生遺跡の場合、現在の大泉歴史民俗資料館では少し遠いので、少しでも近くの歴史館に金生遺跡ガイダンスを移すほうがよいのではないか、との意見が出された。

**平成17年度第１回専門委員会**　平成17年６月28日午後１時30分～

１）平成17年度城内整備工事実施設計について

一の郭の整備について

排水は、これまで降雨後に一の郭で水たまりを見たことがないので、特別な排水処理は行わずに自然浸透とし、この方法で支障をきたす場合は再検討するという事務局案について、次回の専門委員会までに、降雨中・降雨後の様子を観察するとともに、降雨量による地表面の水量計算、降雨後の水道の確認が必要との指導を受けた。

土塁については具体的な設計を進めていくにあたり、土塁がどの程度自然崩落したかを発掘調査で確認しておく必要がある、との指摘を受けた。設計は遺構面に50cmの厚さの保護盛土を基本とすることを

説明した。

除木はスギ・ヒノキを対象とし、モミ・アカマツを除木する場合はスカイラインを変えないように気をつけること、残すものについては枝打ちを行い、盛土後に樹木に影響ないよう処置すること、との指導を受けた。

三の郭土塁・空堀について

現状では一部に土塁が確認されないところがあるが、調査結果からは土塁があったものと想定されるので、周囲に合わせた整備が必要になるのではないか、との意見が出された。また、三の郭土塁は二の郭土塁に比べて外側の法面が長く、斜面の勾配も緩いため、１：１の勾配で盛土をするとその部分だけ不自然に盛り上がった形になる。このように元の地形に沿わない盛土は崩れやすく危険なため、盛土の勾配を緩くして天端の幅を狭くしてはどうか、との意見があった。

設計では、一の郭土塁と同じく土塁想定高＋50cmの盛土を基本とする、空堀は埋め戻し層以下は掘削しない、の２点が確認された。

２）城内導線の確認については事務局から説明を行い、了解を得た。

**平成17年度第２回専門委員会**　平成17年12月13日午後１時30分～

１）平成17年度城内整備工事について

二の郭虎口南階段について

階段は直線的な設計になっているが、折りをつけたほうがよいのではないか、との意見が出された。

これまでの発掘調査で虎口へ至るルートが確認できなかったことから、平成15年度に設計案として提出されたもの（当時は発掘調査をしておらず、ルートは想定）を再度検討することとした。

休憩施設について

平成19年度に設置する予定の休憩施設について検討した。文化庁からは、後で検証できるような整備としてほしいとの要望が出されており、発掘調査で柱穴が確認された上にそのまま建てるのは避けるべきである、との意見が出された。反対に、城内の施設を撤去しておいて新たに休憩施設を設置するのはおかしい、トイレは駐車場と歴史館にあり、城内も広くはないので休憩施設は必要ないのではないか、との意見も出された。これまでの整備委員会・専門委員会での協議内容を整理し、再度検討することとした。

２）歴史館建設の経過について

資料に則り、これまでの経過について報告した。

**環境整備工事**

併後の整備工事内容は以下のとおり。

平成16年度工事

工事内容　二の郭　除木、土塁・空堀の復元的整備

南側山裾　崩落部の復旧

工事方法　除木作業は切り倒さず、クレーンで吊りながら行った。遺構への影響が大きいため基本的に抜根はしなかったが、空堀内のものは整備に支障をきたすため抜根した。

土塁は頂上の幅180cm、勾配45°を設計上の基本的な形状とした。工事は高さ10～20

ｃｍの土留め柵を設置した後、強度を増すために生石灰を混ぜた土を盛って復元的に土塁の形状を整えた。表土面に石灰の影響が出ることを防ぐため、さらにその上に10cm厚で普通の土を盛り、芝を張っている。空堀は人力にて掘削を行い、その上に芝を張った。空堀の底面を北から南に一定勾配で傾斜させており、これに沿って雨水の排水が行われる。これまでも、空堀内に水が溜まったことはなかったので、空堀内に排水路を設けることはせず、自然浸透による排水とした。

崩落部の復旧は崩落土を除去後、地面を10cmの厚さですき取り、生石灰を散布して地盤を固めた。その上にフトン籠（基本形は長さ200cm、幅120cm、高さ50cm、）を崩落部の形状に合せて10段積み上げ、これを土のうで覆った。表面には植生土のうを使い、いずれ元の地形・景観に戻るようにした。

平成17年度工事

工事内容　　一の郭、二の郭、三の郭、帯郭での土塁・空堀の復元的整備、郭内の遺構保護のための盛土、二の郭南虎口と五の郭南斜面に園路階段設置

工事方法　　土塁・空堀は16年度と同じ方法である。郭内の平場は保護盛土後に張芝仕上げとした。ただし、一の郭では雨水を自然浸透させるため、保水性の高い旧表土（腐植土）を戻したため張芝仕上げとはしていない。

## 史跡谷戸城跡総合整備活用推進事業

谷戸城整備の一環としてガイダンス施設を建設するにあたり、短期間に集中的に補助金が得られる史跡等総合整備活用推進事業を導入した。

この事業は、10項目のメニューのうち５項目を選択して実施するもので、谷戸城では１）史跡等の全体像を認識できるような復元的整備　２）史跡等のオリエンテーション及びガイダンス、体験・活用等のために必要な施設の設置　３）案内板・説明板等の設置、休憩施設等の便益施設の設置、管理運営施設の設置　４）遺構等の調査、環境整備、その他史跡等の保存・活用上必要と認められる事業　５）史跡等の整備に伴って行われる活用のために必要なパンフレット等の作成　の５項目を選択している。

事業期間は15～18年度の４年間とし、１）４）は全年度、２）は15・16年度、３）５）は18年度に実施する予定である。

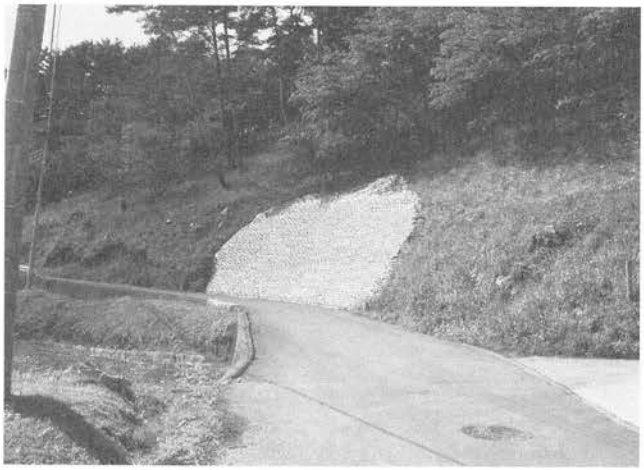
## ガイダンス施設「谷戸城ふるさと歴史館」建設事業

当初の計画では、総事業費230,000千円程度、建築面積400㎡の規模であった。しかし、平成15年８月に大泉総合会館と併設する大泉歴史民俗資料館（以後、資料館に略す）を取り壊し、跡地に大泉総合支所を建設するという村の方針転換により、資料館で担っていた史跡金生遺跡のガイダンス機能、埋蔵文化財の収蔵・展示、調査・研究の機能を合わせた規模に計画が拡大され、延床面積1,231㎡の谷戸城ふるさと歴史館を建設することとなった。そのうち、補助の対象となる谷戸城ガイダンス部分は全体のほぼ４分の１にあたる307.5㎡で、その他は単費による建設となる。総事業費３億、平成16年５月までに建物を完成、16年11月に仮オープン、17年４月に竣工、という計画であった。しかし、15年11月の文化庁との協議では過密スケジュールでの建設計画に難色が示されたため、16年10月までに建築を終了し、内装・展示工事を18年３月までとする計画に変更し了承された。15年12月に開催された第18回整備委員会では各展示室のテーマについて、展示室１を金生遺跡、展示室２を八ヶ岳南麓の開発と牧、展示室３を谷戸城に充てることが決定した。

工事は15～16年度の間に第３期工事までを終え、谷戸城ガイダンス部分の工事は終了している。しか

し合併後の現在、市内では７館の資料館が開館している状態で、歴史館を含めたこれらの資料館の整理・統合と機能分化が課題となっており、その検討期間として１年を設けた。よって今年度は歴史館建設事業を凍結した。補助対象となっているガイダンス部分については、予定通り谷戸城ガイダンスとする方針が打ち出されているが、市費で建設した部分の利用方法については現状では未定で、市内に７館ある資料館施設の統廃合も視野に入れて検討を進めているところである。　（渡邊泰彦）

16年度　二の郭土塁・空堀整備

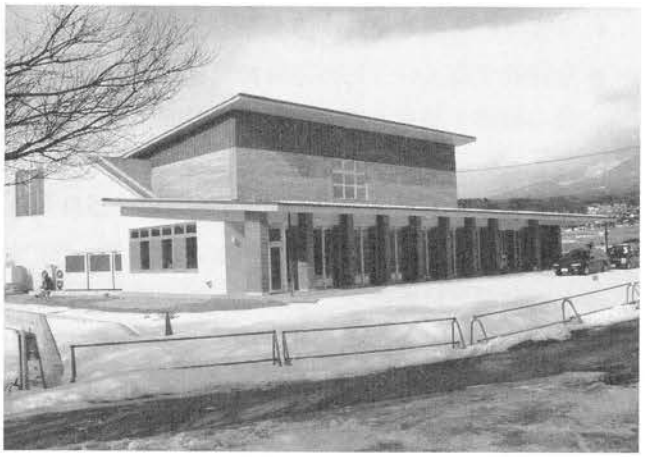


16年度　南側山裾崩落部復旧

17年度　一の郭整備

17年度　二の郭南側虎口整備

17年度　三の郭整備



谷戸城ふるさと歴史館

2）山高神代ザクラ天然記念物再生事業

**事業の概要と事業フロー**

山高神代ザクラ（以下「神代ザクラ」と記述。）は大正11（1922）年、桜として初めて国指定の天然記念物として指定されたものの一つである。この神代ザクラについては合併以前の旧武川村当時からその保護、保全に向けての努力が継続して払われてきた。

神代ザクラの極盛期は幕末頃と推定されており、国の天然記念物指定以後は徐々に樹勢を衰えさせることになる。原因として極盛期を過ぎての経年的変化や気象害、人為によるものが考えられる。後者については増加する観光客に対し誤った方法で環境整備をしたことによる樹勢の衰退と、道路改良、下水道工事など生活者の利便を図るために生育条件を悪化させたものとがある。特に神代ザクラの樹勢に深刻な打撃を与えたものとして南接する旧村道の改良、下水道工事により南側に延びる根の損傷、石製囲い柵の施工による根の切除とこれに伴い施工された盛土による根の呼吸困難化、園路の整備による根周辺の踏圧、樹形維持のために設置された櫓による主幹周辺の根の乾燥および不定根の乾燥等が上げられる。旧武川村では詳細な現況調査を繰り返しながら樹勢回復に向けてその方法の検討を進めた。

平成14年11月には旧村道迂回路を竣工させ、具体的な樹勢回復措置に着手している。これに先行して平成13年度から樹木の専門家で構成する「山高神代ザクラ樹勢回復調査委員会」を組織し、詳細な調査を実施し、樹勢回復の方針、樹勢回復工事の内容について検討している。これらの検討結果を受けて天然記念物再生事業は平成14年度から平成17年度までの４ヶ年の継続事業とし、平成14年には当該事業の執行機関として行政関係者、地元住民、県内樹木医等で構成する「山高神代ザクラ樹勢回復検討委員会」を組織して事業執行にあたっている。これらの組織は平成16年11月の北杜市への移行に伴い、「専門委員会」を「検討委員会」の内部組織とすることとし改組した。

天然記念物再生事業の骨子は一義的に神代ザクラの樹勢回復とし、主要な工種は土壌改良工事、病虫害対策、客土・石積み撤去による根系拡大、支柱の付け替え・新設とした。また、事業の最終年度となる平成17年度には説明板の設置、事業報告書および管理マニュアル作製を実施した。ただし、管理マニュアルについては地元との協議が具体化せず、形式的なものとなっているのは否めない。この問題については平成18年度以降も継続して地元や関係機関との協議を継続することを確認している。

**山高神代ザクラ樹勢回復検討委員会の開催**

北杜市移行後、環境整備工事施行の検討のため「樹勢回復検討委員会」を開催している。議事の概要について記す。

**平成16年度第１回検討委員会**　平成17年２月20日午後１時30分～

北杜市移行後初の会合となることから武川教育センターにおいて規約の確認、自己紹介後、現地において平成16年度第２期工事施行状況を視察。その後議事に移る。

１）平成16年度第１期工事施工内容について

合併以前の平成16年８～９月施工の第１期工事施工内容の確認。

２）平成16年度第２期工事施工内容について

施工中の平成16年度第２期工事施工内容についての説明と質疑応答。この中で盛土の施工について地山の改良により盛土厚を極力抑えるよう指摘されたが、既に盛土材料を発注済で変更が不可能であり、会議開催の時期について課題が指摘された。また、東接するエドヒガンの根の侵入を阻害するために施工する防根シートの施工について意見を聴取した。これは東接するエドヒガンの枝が神代ザクラに被り神代ザクラの枝が淘汰されないよう設置するものであり、根の活性化による枝の剪定か枝の抑制のための根の切断かを選択する問題である。今回の事業は一義的に神代ザクラの再生を図るのが目的であるこ

とから防根シートは施工するが、その設置位置についてはあまり太い根を切断しないよう現場で判断することとした。併せてナラタケが神代ザクラ周辺から発見されたが神代ザクラに影響のないものであることを確認すると共に、不定根の状況について報告を受けた。シャイゴメーターの使用による確認であり、これにより南側のものが枯れたという報告であった。

**平成17年度第１回検討委員会**　平成17年８月27日午後１時30分～

神代ザクラ現地において生育状況等につき視察後議事に入る。

１）平成16年度第２期工事施工内容について

平成16年度第２期工事施工内容について説明。併せて花や葉、枝の伸長等生育状況について説明すると共に自主的に実施した土壌分析結果について報告。花は平成16年度に比し数が多かったこと、全体の葉の付き方、平成13年度からデータを取っている枝の伸長から北側において回復が期待されることが報告された。また、平成15年度の施工に際し誤って切断した細根から健全な状態の細根の伸びが確認されていることが報告された。これについては対応する上の枝の枯れを誘発したのか、良好な根の発達を促したのか評価は即断できないものの、今後新生根の確認されていない高い枝に関係する根については特に慎重を期すことが確認された。また、ネコブセンチュウに罹患したものの中に１年で新生根が出ているものがあり、樹勢回復に繋がっている可能性があること、ネコブセンチュウは処理すれば新しく分蘖した部分にはいないので処理を適切にすることが必要であること、有機質資材の中に完熟堆肥など経験的にネコブセンチュウの増殖を拮抗する効果があるものを投与していることが効果を発揮していることが指摘された。

２）平成17年度施工計画について

平成17年度の施工計画について説明。土壌改良工事については従来どおりの施工とすることを確認。また、切り戻し剪定、枝空かしを積極的に施工すべきという指摘があったが、施工による根の状況、今後の生育状況を見ながら判断することとした。この他、説明板の設置、管理マニュアルの作製等について協議された。

**平成17年度第２回検討委員会**　平成18年２月19日午後１時30分～

当日開催された一般を対象とした工事説明会に合わせ現地視察後会議に入る。

１）平成17年度工事施工内容について

平成17年度の工事施工内容について説明。従来どおりの掘削深度、土壌改良工事の内容となることを説明。これに対し、この工事の目的は力学的な回復にあり、その視点を忘れてはならないこと、そのために力学的支持根を探し、これを回復させる必要があることが指摘された。これを受け、設計による掘削深度をある程度超えて力学的支持根を探すこととした。一方、葉が大きく、強くなったこと、枝の生長も良好であること等から光合成量が増加したものと考えられ、不定根を出す作用が期待できるのではないかという指摘に対し、不定根の枯死を防ぐため乾燥を防ぐ等の養生は必要となるが、未だ光合成量は十分ではなく、不定根に期待するのではなく、根の展開をしっかり把握して力学的な安定を図るべきことが指摘された。不定根については様子を見てしっかりした段階でその措置を考えることとした。また、施工者からは根の切り戻し手法によりその再生と回復を図りたい旨発言があり、技術的なことについては施工者に一任することとした。

２）樹勢回復事業報告書について

樹勢回復事業報告書に併せて保存管理計画、管理マニュアルを作製することとし、その内容について説明。保存管理計画、管理マニュアルについては地元、あるいは行政機関との調整が進んでいないことから暫定的なものになることを報告。これに対して年度内刊行が前提であることから今回は案を提示す

るに留め、平成18年以降継続して協議を進めることとして了承を得た。今後保護・保全に向けた組織作りが課題となる。

## 環境整備工事

年度別の工事内容は以下のとおり。

平成16年度第２期工事

土壌改良工事：固堅破砕　62.21㎥・撤去処分　64.54㎥・客土　18.93㎥・培養土１　3.31㎥・培養土２　13.86㎥・根の保護養生　１式・東側桜の根切り、防根シート敷設　６ｍ

南・東側石積み撤去工事：南・東側石積み撤去処分・客土・貼り芝・四つ目垣 25m・縁石（雑割石）設置・アスファルト舗装切断・アスファルト、Ｌ字側溝撤去

環境改善工事：薬剤散布作業　１式・支柱立て直し　４組・支柱設置　３組

平成17年度工事

土壌改良工事：固堅破砕　59.43㎥・培養土、客土剥き取り　8.40㎥・撤去処分　54.40㎥・客土　20.69㎥・培養土１　1.84㎥・培養土２　15.65㎥・剥き取り土敷き均し、土壌改良　10.08㎥・根の保護養生　１式

付帯工事：四つ目垣 17.20m・西側石積み撤去処分 1.30㎥・客土（石垣撤去後）2.94㎥・隣接桜剪定作業　１式・薬剤散布作業　１式・支柱立て直し　２組・支柱設置　４組・石積み補強9.00m・玉石

平成17年度　山高神代ザクラ樹勢回復検討委員会・専門委員会　委員名簿

検討委員会

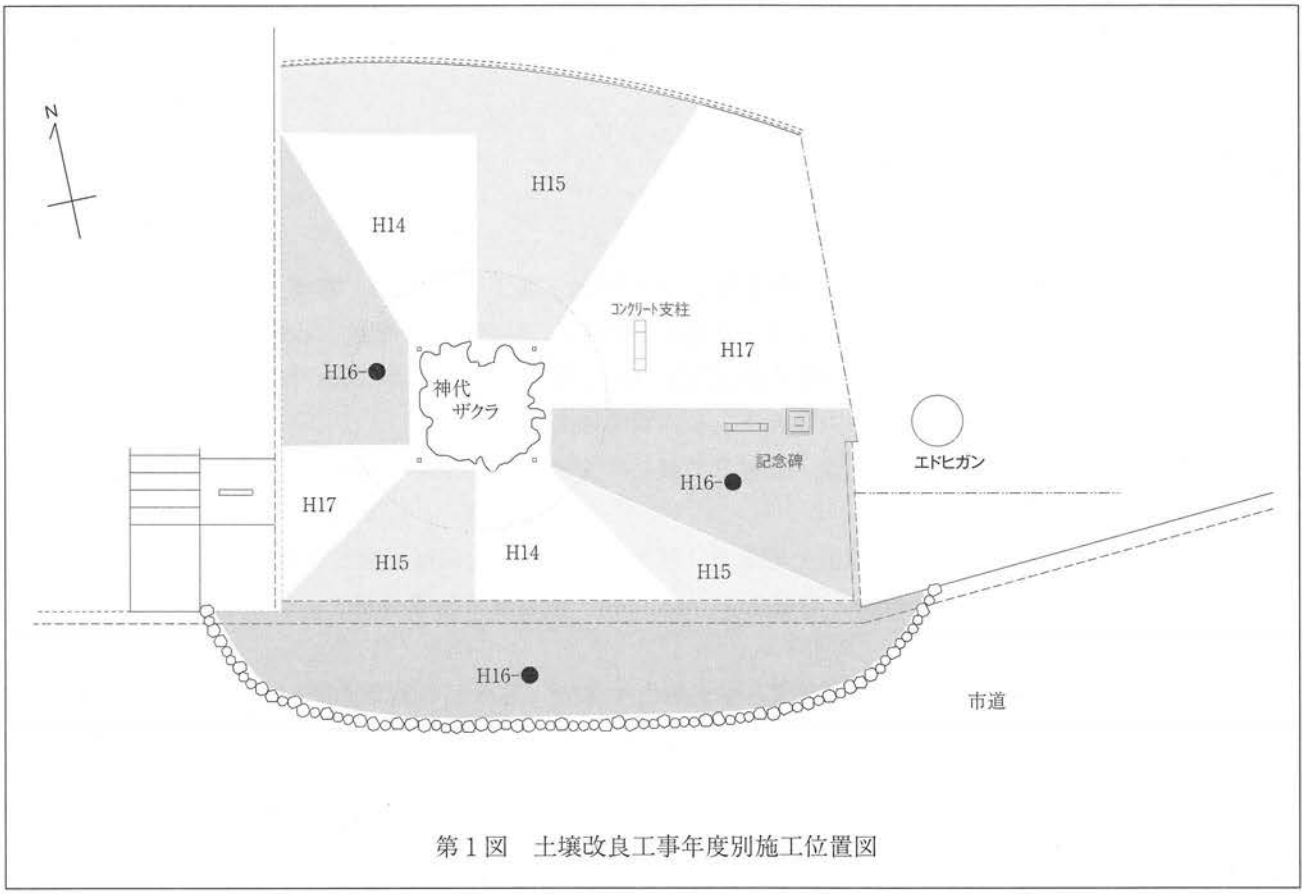
| 役　職 | 氏　名 | 所　属 |
|---|---|---|
| 顧　問 | 本　間　　暁 | 文化庁文化財部記念物課　文化財調査官　理学博士 |
| 委員長 | 小清水　淳三 | 北杜市教育長 |
| 副委員長 | 中　山　嘉　明 | 北杜市文化財保護審議会長 |
| 委　員 | 渡　辺　直　明 | 東京農工大学農学部助手・附属ＦＳセンター |
| 〃 | 松　永　直　樹 | 實相寺住職 |
| 〃 | 小　池　清　夫 | 武川町山高区長 |
| 〃 | 溝　口　則　本 | 武川町山高分館主事 |
| 〃 | 内　藤　　明 | 樹木医 |
| 〃 | 輿　石　栄　徳 | 日本樹木医会山梨県支部長 |
| 〃 | 中　山　嘉　明 | 山梨県文化財保護指導委員 |
| 〃 | 小　池　光　和 | 北杜市教育委員会次長 |
| 〃 | 山　田　栄　明 | 北杜市武川教育センター長 |
| コーディネーター | 和　田　博　幸 | 日本花の会　主任研究員・樹木医 |
| 参　与 | 新　津　　健 | 山梨県教育委員会学術文化財課指導監 |
| 〃 | 坂　村　裕　輔 | 山梨県教育委員会学術文化財課文化財保護担当主査 |
| 〃 | 森　原　明　廣 | 山梨県教育委員会学術文化財課文化財保護担当副主査 |

専門委員会

| 役　職 | 氏　名 | 所　属 |
|---|---|---|
| 委　員 | 渡　辺　直　明 | 東京農工大学農学部助手・附属ＦＳセンター |
| 〃 | 川　崎　圭　造 | 信州大学助教授 |
| 〃 | 長谷川　秀　三 | ジオグリーンテック㈱代表取締役 |
| 〃 | 大　澤　正　嗣 | 山梨県森林総合研究所森林環境部森林保護研究員 |
| 〃 | 河　辺　祐　嗣 | 森林総合研究所森林微生物研究領域森林病理研究室長 |
| コーディネーター | 和　田　博　幸 | 日本花の会　主任研究員・樹木医 |

（順不同・敬称略）

| | | |
|---|---|---|
| 事務局 | 原　　哲　也 | 北杜市教育委員会　生涯学習課長 |
| | 山　路　恭之助 | 北杜市教育委員会　生涯学習課　文化財担当リーダー |
| | 伊　藤　公　明 | 北杜市教育委員会　生涯学習課　文化財担当 |
| | 坂　口　広　太 | 北杜市教育委員会　生涯学習課　文化財担当 |




第１図　土壌改良工事年度別施工位置図

培養土混合

培養土攪拌

掘削

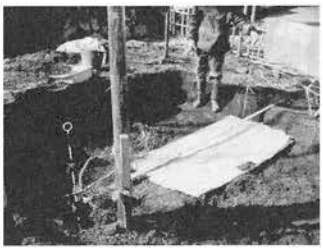
根の養生

工事の公開

工事の見学会（武川小）

天然記念物再生事業　竣工

樹勢回復検討委員会



根の伸長（3年で2.5mの伸長）

第２図　山高神代ザクラ環境整備工事状況

縁石設置 1.50m・サツキ玉物植栽 10株・腐葉土敷設 120.00㎡・案内板設置 1式

土壌改良工事の年度別施工箇所は第1図による。

### その他の事業

北杜市移行後、樹勢回復事業の記録の撮影を市単独予算で執行している。事業途中からの記録作成ではあるが、工事内容を記録し、学校教育、社会教育の教材としての利用を目的としたものである。編集、プレスは平成18年度以降の予定である。（伊藤公明）

### 3）重要文化財「八代家住宅」小修理事業

平成16年度旧明野村上手に所在する国指定重要文化財八代家住宅について小修理事業を実施した。

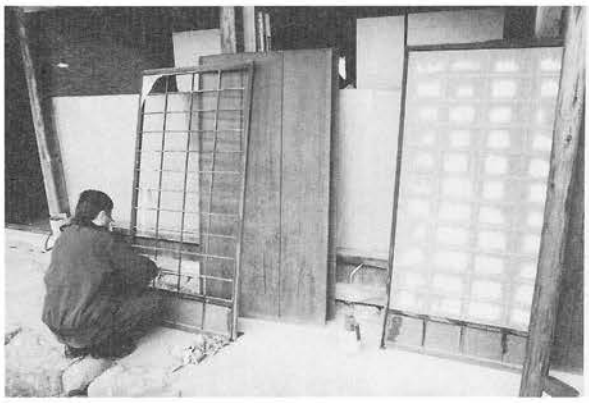
主屋土間および床下の湿気帯がひどく、床下部材柱元の腐朽のおそれが高いため乾燥を促すため主屋床下に換気口を設置すると共に、主屋北側井戸の強制排水設備を設置して、地下水位を低下させることとした。併せて建具の破損部補修等を実施した。

この事業は山梨県文化財保存事業費補助金および北杜市文化財保存事業費補助金を受けて当該物件の所有者八代謹蔵氏が実施したものである。補助事業に係わる文書の流れは大凡以下のとおりである。

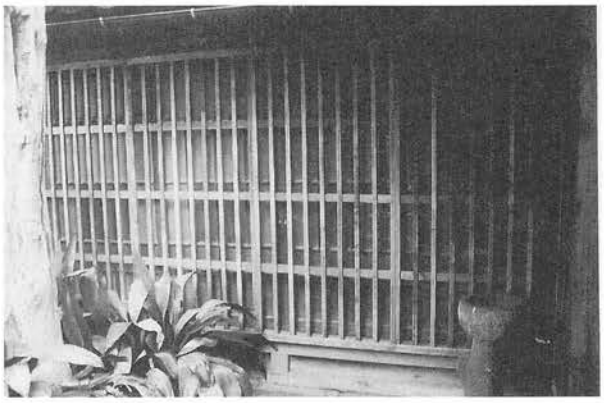
山梨県文化財保存事業費補助金の交付内示－平成16年5月31日付け教学文第323号、同補助金交付申請書－平成16年6月18日付け、同交付決定－平成16年6月25日付け教学文第323号、同実績報告書－平成17年4月5日付け。

北杜市文化財保存事業費補助金交付決定－平成17年3月28日付け北杜生学24号、同実績報告書－平成17年4月5日付け。

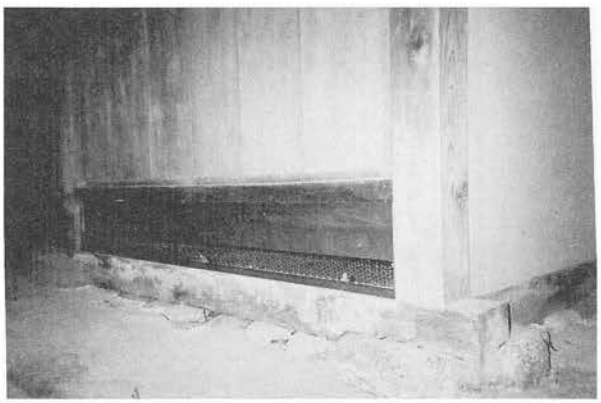
工事は山梨県塩山市上於曽1990㈱石川工務所が受注し、平成17年1月17日付け契約、同1月18日着手、同3月25日完成している。（伊藤公明）



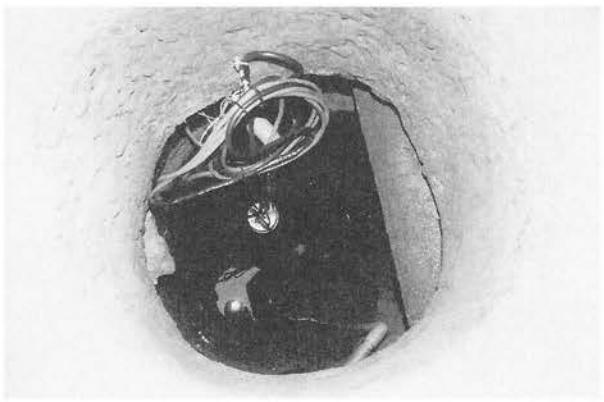
建具修理作業風景



上便所外側の格子設置状況



主屋北側の換気口設置状況



井戸水汲上ポンプの設置状況

4）北杜市指定名勝「浄古寺庭園」修理事業

浄居寺庭園は、平成16年度の合併以前に旧明野村が村文化財に指定した名勝である。

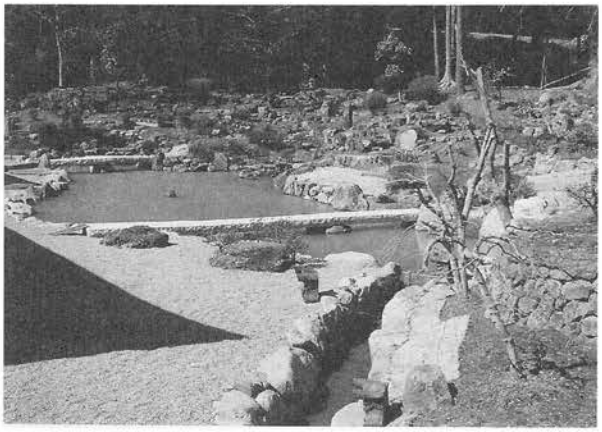
常牧山浄居寺は臨済宗妙心寺派寺院で、寺記によると往古は山梨郡城古寺村（現甲州市）にあったものを法泉寺大器和尚により現在地に移し、寛永十九年に開削完成した浅尾堰により誕生した浅尾新田村の檀那寺として創建されたものである。

庭園は城古寺村にあった、夢窓疎石作庭と伝えられる「城古寺」庭園を模したものと思われる。池泉鑑賞式の庭は、本堂「上間の間」からの眺望を中心に作庭される。本堂正面には「心」字を象った池泉を配し滝石組を設ける。池泉の東奥には立石と築山を配し、西傍には坐禅石を置く。池泉の小さな石組と舟形石は蓬莱山と宝船を思わせる。本庭の作庭時期は不明で、歴代住職の手により管理・修繕されてきたものと思われる。

庭園は、太平洋戦争中の食糧難に対応するため、池泉の半分ほどが埋め立てられて畑にされたらしい。さらに、永年の風雪により庭石、池泉護岸石の崩れが目立っていた。また、寺檀家等から寄進された樹木の生長に伴い庭石が動き、作庭本来の風を損なってもいたことから、浄居寺と檀家とで復旧修理に着手し、合併前の明野村が補助金交付を決定したものである。修理工事費は4,866,750円で補助金交付額は3,200,000円である。

修理は、平成16年11月１日に着手し、平成17年３月30日に完成した。修理項目は、１）崩れた池泉護岸石の復旧、２）埋め立てられた池泉の復旧、３）移動した庭石の復旧、４）過剰な植栽の整理、５）石橋の復旧、とした。埋め立てられた池泉の本来の形状を確認するため、畑に転用された地点を発掘調査し、旧来の池泉汀線を確認して、復旧工事の参考とした。工事内容を定める際に日本庭園協会龍居竹之介氏の指導を受けた。工事は、株式会社生山土木が請負・施工した。　（佐野隆）

浄居寺庭園（工事前）



竣工後の庭園

5）緊急保護対策

### 山梨県指定天然記念物「下黒沢のコウヤマキ」保護事業

平成16年６月21日に高知県室戸半島付近に上陸し、同日中に京都府舞鶴付近から日本海に抜け北上した台風６号により太枝が折れる被害が発生した。これに対し所有者が補助事業者となり山梨県文化財保存事業費補助金（緊急対策）を受け、毀損部位の補修および枝折れ部分を撤去したもの。全体事業費の50％を県が補助し、さらに県補助残の50％を北杜市が補助。施工は平成16年11月11日に着工、同12日に完了。

### 山梨県指定天然記念物「大豆生田のヒイラギ」保護事業

樹勢が衰退し、幹折れ、枝折れの危険が増大したことにより、管理者である北杜市が補助事業者となり山梨県文化財保存事業費補助金（緊急対策）を受け保護事業を実施したもの。施工内容は専門業者により枝折れ防止用に主要な枝に補助支柱を設置したもので、着工は平成17年１月31日で、同日完了。

### 山梨県指定天然記念物「渋沢のヒイラギモクセイ」保護事業

平成17年３月10日、所有者より積雪による枝折れが市教育委員会に報告された。市教委で確認後、同３月16日に中込山梨県文化財専門委員、県教委の視察を受ける。平成17年度に入り、５月16日付けで所有者より山梨県文化財保存事業費補助金（緊急対策）申請書の提出を受け保護事業を実施したもの。折れた枝の伐採および枯れ枝の伐採、一部枯死等により弱っている枝の枝折れ防止のために支柱を設置する。平成17年６月６日に着工し、同日中に完了。補助事業者は所有者で、全体事業費の50％を県が補助し、県補助残の50％を北杜市が補助。

### 山梨県指定天然記念物「本良院の大ツゲ」保護事業

平成17年６月３日、所有者から樹勢衰退について市教委に相談があり、同６月７日現地確認。同６月20日に中込山梨県文化財専門委員、県教委の視察を受ける。平成17年12月２日付けで所有者より山梨県文化財保存事業費補助金（緊急対策）申請書の提出を受け保護事業を実施したもの。折れた枝の伐採および枯れ枝の伐採、一部枯死等により弱っている枝の枝折れ防止のために支柱を設置する。施工は平成18年３月23日に着工し、翌24日に完了。補助事業者は所有者で、全体事業費の50％を県が補助し、県補助残の50％を北杜市が補助。

下黒沢のコウヤマキ保護事業

渋沢のヒイラギモクセイ保護事業

本良院の大ツゲ保護事業

6）指定文化財管理等補助事業

**山梨県文化財保存事業費補助金対象事業**

**国指定天然記念物万休院の舞鶴マツマツクイムシ防除薬剤散布事業**

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間４回実施。補助事業者は所有者である万休院。平成17年度は５月25日、７月15日、８月19日、９月13日に実施。薬剤はスミパインを使用。全体事業費の50％を県が補助し、県補助残の50％を北杜市が補助。周辺にマツの人工林が広がり、マツクイムシ被害が増大していることから当該物件への被害が懸念されている。具体的な動きを伴っていないが、周辺のマツ人工林の樹種転換を模索している。これについては市林政課が主管で武川支所産業振興課、峡北林務環境部等の行政機関と万休院とで継続して協議していくこととなっている。

**山梨県指定天然記念物遠照寺のアカマツマツクイムシ防除薬剤散布事業**

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間２回実施。補助事業者は所有者である遠照寺。平成17年度は５月27日、８月27日に実施。薬剤はマツグリーンおよびジマンダイセンを使用。この散布の間の７月28日に活力増強剤ＳＩ－ＭＲを１回散布。また、グリーンパイルによる施肥を実施。全体事業費の50％を県が補助し、県補助残の50％を北杜市が補助。

**山梨県指定天然記念物横手の駒のマツマツクイムシ防除薬剤散布事業**

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間３回実施。補助事業者は管理者である北杜市。平成17年は６月７日、７月６日、８月６日に実施。薬剤はスミチオン乳剤を使用。全体事業費の50％を県が補助。平成16年度までは旧白州町で直接実施していたが、平成17年度から地元農家に委託で実施している。

万休院の舞鶴マツ

遠照寺のアカマツ

横手の駒のマツ

**重要文化財八代家住宅防災施設保守・点検事業**

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間２回実施。自動火災報知設備５窓、加圧式消火設備３基、避雷設備１針の保守点検。補助事業者は所有者である八代氏。平成17年度は平成17年９月21日、平成18年２月１日に実施。全体事業費の50％を県が補助し、県補助残の50％を北杜市が補助。避雷針導線が隣接樹木と干渉し合い、導線をコンクリート柱に固定している金具が損傷し導線が外れているため導線を固定するための修繕が必要となっている。

**山梨県指定有形文化財（建造物）旧津金学校防災施設保守・点検事業**

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間２回実施。自動火災報知設備５窓、避雷設備１

針、消火設備上下水道連結式１基の保守点検。補助事業者は所有者である北杜市。平成17年度は平成17年10月７日、平成18年３月23日に実施。全体事業費の50％を県が補助。

### 北杜市文化財保存事業費補助金対象事業

### 北杜市指定天然記念物諏訪大神社のアカマツマツクイムシ防除事業

隔年で実施。樹幹注入によるマツクイムシ防除作業。薬剤はセンチェリー注入剤と併せて活性剤のメネデール注入剤を使用。また、グリーンパイルによる施肥を実施。全体事業費の50％以内を北杜市が補助。施工に際し、山梨県緑化センターの樹木医による診断を受け事業の適正な執行に努めた。

### 国指定天然記念物万休院の舞鶴マツ管理事業

日常管理に対する市単独補助。補助事業者は所有者の万休院。剪定および猛暑小雨の夏期に発生したハダニの消毒作業を実施。ハダニの消毒にはダニトロンフロアブルを使用。全体事業費の50％を北杜市が補助。ハダニ消毒施工時には山梨県緑化センターの樹木医の診断を受け事業の適正な執行に努めた。

### 国指定天然記念物山高神代ザクラ管理事業

日常管理に対する市単独補助。補助事業者は所有者の実相寺。神代ザクラ周辺の除草管理、神代ザクラに隣接する桜のテングス病に罹患した枝の除去、神代ザクラ周辺の花の植え替え作業を実施。全体事業費の50％を北杜市が補助。

### 北杜市指定無形民俗文化財伝承活動補助事業

北杜市指定無形民俗文化財の広義の伝承活動に対する補助で、全体事業費の50％以内を補助。熱那神社の太々神楽については使用する篠笛の購入を補助。箕輪海道の道祖神祭りについては伝承活動の補助を実施。平成17年11月の山梨県立博物館開館に合わせた特別展に出展するお仮屋の製作等に充当。逸見神社、八嶽神社の大和神楽では神楽衣装の保存、クリーニング代の一部として補助を実施した。

## ７）現状変更

### 山梨県指定天然記念物「諏訪神社の社叢」の現状変更

平成17年６月13日、北杜市白州町大武川区に所在する諏訪神社の氏子総代小林氏より山梨県指定天然記念物諏訪神社の社叢に係わる樹木の伐採について打診があった。諏訪神社境内に存するポプラの大木が社殿側に傾き、今後の台風の時期を控え、早めに対処したいという内容であった。現地を確認後、同６月20日に中込山梨県文化財専門委員、県教委の視察を受ける。問題となるのは50年生ほどのポプラの大木で、今後の管理の問題から氏子としては根からの伐採を希望していた。これに対して県教委からは社叢林としての指定であることから基本的に根からの伐採は問題があるが、該当するのが外来種のポプラであることと、地元での管理を優先させる立場をとり、根からの伐採を止む無しとした。また、当該ポプラの伐採にあたり周辺の樹木についても最小限の枝の伐採等が伴うが以下のとおりとした。

ポプラの西側のケヤキについては樹上10mほどの社殿側に張り出した枝１本の切除に留める。社殿北側のイチョウについては樹上４mほどの二股になる箇所で社殿側の１本を切除する。伐採作業のために導入するクレーン車の作業に支障のあるプラタナスについては樹上10mほどの枝を下から３本のみ切除すること。クレーン車搬入に係わる仮設道設置についてはヤマブキソウの繁殖している可能性のある斜面部には排土しないこととした。

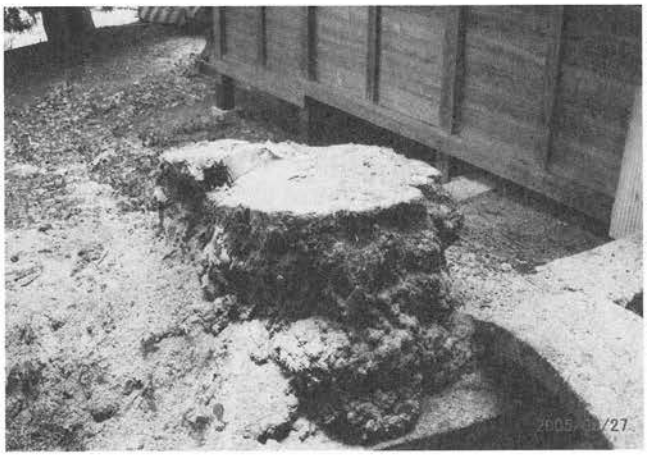
以上を受けて大武川区長より平成17年７月８日付けで現状変更許可申請書の提出を受け、同日付けで県教委から許可通知を受理する。現地の作業は９月21日に施工され、10月７日付けで終了報告が提出さ

れた。

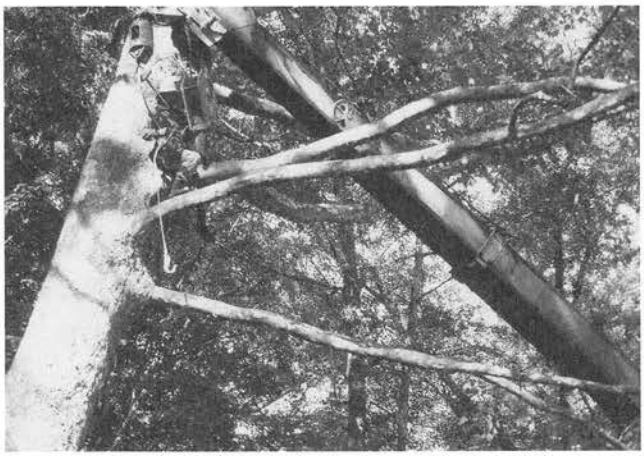
実際の施工に際しては、当初の計画で予定されていた社殿北側のイチョウの枝の伐採は見送られている。

ポプラ伐採作業(1)

ポプラ伐採作業(2)



ポプラ伐採完了



プラタナス枝切除作業

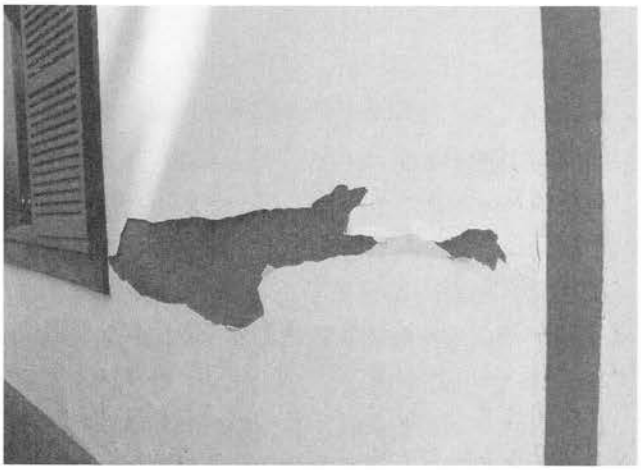
諏訪神社の社叢　現状変更

8）文化財等修理事業

**山梨県指定有形文化財（建造物）「旧津金学校校舎」外壁修理工事**

平成17年９月６日、経年の劣化により外壁漆喰塗りに窓枠等からクラックが入っていたものを手指により打診して点検中に大きく剥落した。これについて平成17年９月13日付けで文化財の毀損届を県教委に提出した。併せて補助事業での修理が可能か照会したが、経費的に少額であることから補助の対象とできない旨回答を受ける。北杜市では12月補正により予算対応し、左官工事の凍結防止のため３月末に施工することとした。

平成18年３月９日付けで文化財修理届を県教委に提出。同３月10日付けで㈱石川工務所から工事請書の提出を受け、同11日に工事に着手し、同３月30日に完成した。



破損状況

漆喰塗り

コーキング処理

完成

旧津金学校校舎外壁修理工事

**「史跡金生遺跡ふるさと歴史公園」木製階段修理工事**

経年の劣化により破損していた史跡金生遺跡ふるさと歴史公園の木製階段について改修工事を実施した。平成18年３月22日付けで（株）平井工務店から工事請書の提出を受け、同23日に着工、３月30日に完成している。

９）その他の保護・保存措置

**指定文化財の通常管理**

・国指定天然記念物「美し森の大ヤマツツジ」の管理

県教委の委託を受けて「大ヤマツツジを守る会」が清掃、下草除去等の管理を実施しているほか、北杜市単独予算により峡北シルバー人材センターにテングス病の消毒を委託している。

・「史跡谷戸城跡ふるさと歴史公園」の管理

峡北シルバー人材センターに除草管理を委託。年３回の実施。

・「史跡金生遺跡ふるさと歴史公園」の管理

北杜市大泉町城南地区青年会に除草管理を委託。年３回の実施。また、峡北シルバー人材センターに植木の管理を委託している。

・山梨県指定史跡「深草館跡」の管理

北杜市長坂町大八田の個人に除草管理を委託。

・北杜市指定天然記念物「石尊神社参道の松並木」の管理

北杜市白州町鳥原地区の三耕地後継者部会に委託してマツクイムシ防除薬剤散布作業を年２回実施。使用薬剤はスミチオン乳剤。平成17年度は６月５日、７月10日に実施。

・北杜市指定史跡「獅子吼城跡」の管理

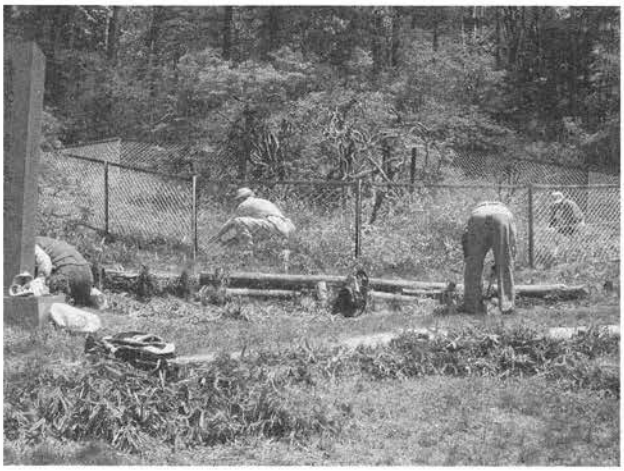
北杜市須玉町江草地区に委託して年１回の除草管理を実施。

・北杜市指定史跡「長清寺古寺跡」の管理

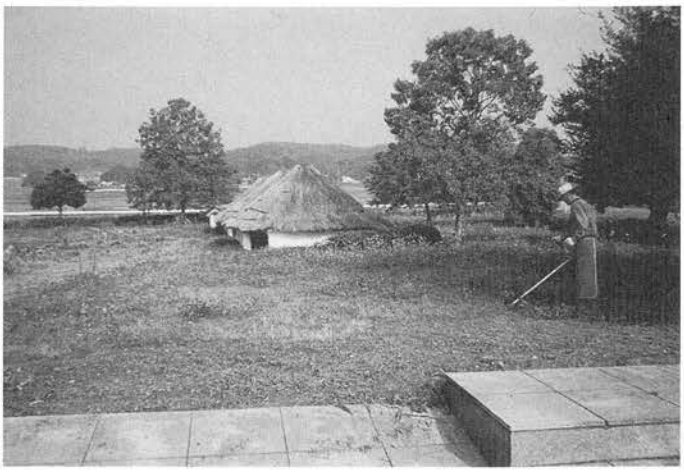
指定時の条件により通常管理は市が担当することになっている。これにより直営で賃金対応により除草管理を年２回実施。

・北杜市指定史跡「屋代氏館土塁跡」の管理

指定時の条件により通常管理は市が担当することになっている。これにより直営で賃金対応により除草管理を年２回実施。



美し森の大ヤマツツジ除草管理



史跡金生遺跡の除草管理

獅子吼城跡の除草管理

石尊神社の松並木のマツクイムシ防除薬剤散布

その他の指定文化財の管理

### 滅失・毀損届

前述の山梨県指定有形文化財「旧津金学校校舎」の毀損届以外に特別天然記念物カモシカの死亡確認および処理状況について（報告）を２件処理している。以下。

① 平成17年12月18日発見。平成17年12月20日確認。発見および確認場所は北杜市武川町黒沢1959－４林道釜無川右岸線路上。性別オス、体長110cm、体高75cm、体重約40kg(推定)、死亡原因感染症(口唇部に腫瘤)

② 平成18年１月13日発見。平成18年１月16日確認。発見および確認場所は北杜市白州町大坊地内篠沢第３堰堤下流300m付近の桑木沢林道上。性別メス、体長75cm、体高55cm、体重15kg（推定)、死亡原因転落死

(伊藤公明)

## ２　文化財の指定及び解除

１）新規指定物件

**北杜市指定有形文化財（考古資料）「深山田遺跡出土銅鋺」**

指定に至る手続き的なものについてはⅡ北杜市文化財保護審議会の項を参照のこと。以下に調査書の抜粋を提示する。なお、指定告示後、県工業技術センターに依頼して成分分析を実施している。その結果、銅を主成分に鉛と錫を含む青銅製品であることが明らかとなった。

**調査書**（抜粋）

深山田遺跡は明野町小笠原に位置する。本遺跡の東側には真言宗福性院と曹洞宗長清寺が存する。本遺跡は1998年に発掘調査され、掘立柱建物の柱穴と思われるピット3340基、中世の墓坑６基、備蓄銭を収めたと思われる土坑１基、火葬施設３基、竪穴遺構１基、埋葬施設と思われる配石２基、溝、石垣８列、平場、建物基礎と思われる石列１基、焼骨散布地２箇所等が検出された。これらの成果から本遺跡は宗教施設としての性格が考慮されている。

本遺跡東３区で仏具と思われる銅鋺が大小７口ずつ、計14口が出土した。中世の仏具がまとまって出土する例は少ないため、非常に貴重な発見である。

銅鋺は大小14口が全て重なって埋まっていたと考えられる。13口の見込部には上に重ねられた銅鋺底部との接触の痕跡が残る。

銅鋺はいずれも素文の鋳造品で、出土時には緑青に覆われていた。直径10.7cm、器高3.4cm、底径5.8cmの大型品と、直径7.9cm、器高3.0cm、底径4.0cmの小形品とがある。大小共に全ての底面に「十」字形の線刻が見られる。

銅鋺は形状から密教具の「六器」の可能性が高い。しかし、大型品は六器としてはやや大きく、大小七口ずつの組み合わせも六器とするにはやや躊躇させる。加えて六器であれば本来対となっていたはずの皿を欠いている。あるいは仏供具などである可能性もあろう。製作年代は13世紀から14世紀頃という。特に14世紀代の可能性が高い。

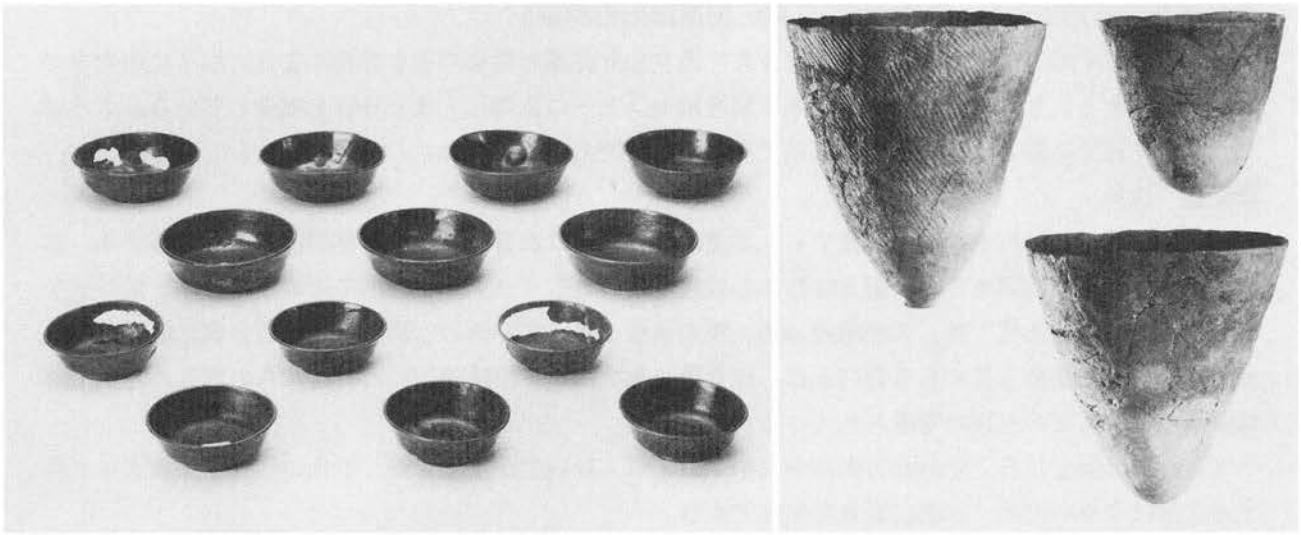
銅鋺に残された痕跡から推測する出土状況から、これらの銅鋺はまとめて埋まっていたのは間違いなく、意図的に埋めたものと思われる。底面の「十」字形の線刻は、廃棄ないし祭儀に用いる際に刻まれたと思われる。本来的な使用を停止し、無縁の存在として祭儀に供したことを明示する呪術的な意味が込められたと思われる。ただし、具体的な祭儀の内容と意図は不明である。近世以降の密教修法の事例に照らすと、大小７口ずつの六器を用いた祭儀を想定することはできないという。近世には廃れてしまった祭儀があったのか、あるいは正式な僧侶ではない宗教者が関与した祭儀であったかも知れない。

以上のことから当該物件は、従来知られていなかった当地域、あるいは山梨県域の中世の信仰の一端を示すと共に、銅鋺自体も出土例がほとんど無く、その希少性からも重要な遺物といえる。現在、当該物件は北杜市明野埋蔵文化財センターに保管・展示されているが、より一層の普及・活用を図るため、北杜市指定文化財に指定すべき物件と判断される。

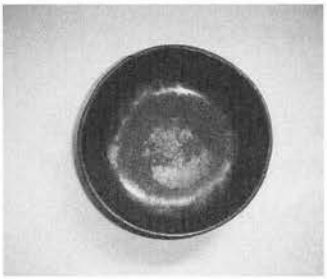
## 山梨県指定有形文化財（考古資料）「上北田遺跡出土品」

北杜市指定有形文化財に指定されている北杜市白州町に所在する上北田遺跡の出土品の一部が12月26日付け平成17年山梨県教育委員会告示第７号により山梨県指定文化財に指定された。

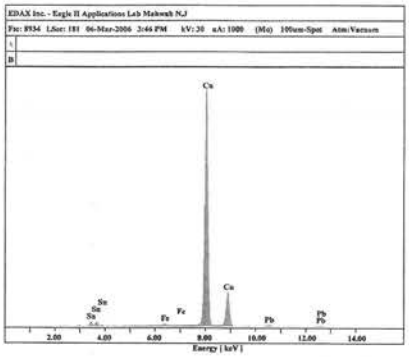
上北田遺跡は平成３年度に県営圃場整備事業に伴い発掘調査された集落跡で、縄文時代前期前半の竪穴住居跡22軒、平安時代の竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２棟などが調査されている。今回指定を受けたのは18号住居跡からの出土品を中心とする縄文時代前期前半の土器、石器等53点である。この遺跡では土器は主に長野県に分布する尖底のものを主体として、わずかに東海地方、関東地方に分布するものが出土している。また、石器も長野県の同時期の遺跡に特徴的に見られる固定式石皿と呼ばれる大型で扁平な石器や、打製石垂と呼ばれる特徴的な石器が見られる。これらの資料から、これまであまり知られていなかった当該時期のこの地域の姿が浮き彫りになった。

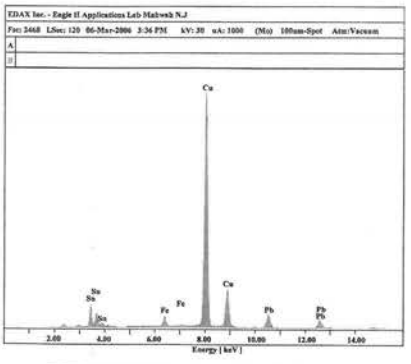


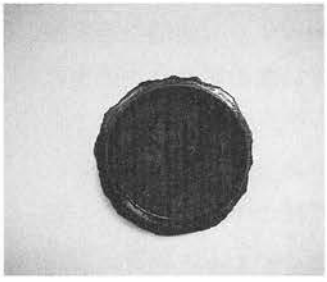
深山田遺跡出土銅鋺（左）と上北田遺跡出土品（右）



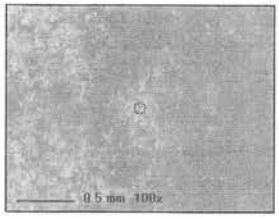
分析資料　No.1



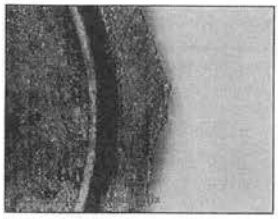



分析資料　No.2




No.1　分析結果



No.2　分析結果

深山田遺跡出土銅鋺蛍光Ｘ線分析結果表

2）指定解除

**北杜市指定史跡「小荒間の番所」の指定解除**

指定解除に至る手続き的なものについてはⅡ北杜市文化財保護審議会の項を参照のこと。以下に調査書の抜粋を提示する。

**調査書**（抜粋）

小荒間口留番所跡は旧長坂町により史跡として指定されてきた。この番所は甲斐国志によると江戸時代に甲斐の国に置かれた24ヶ所の番所の内の一つで、その由来は天文年間（1532～55）に棒道に備えて設置されたものである。その後江戸時代に至り人々の往来や商品の流通を管理するため口留番所が置かれたものである。

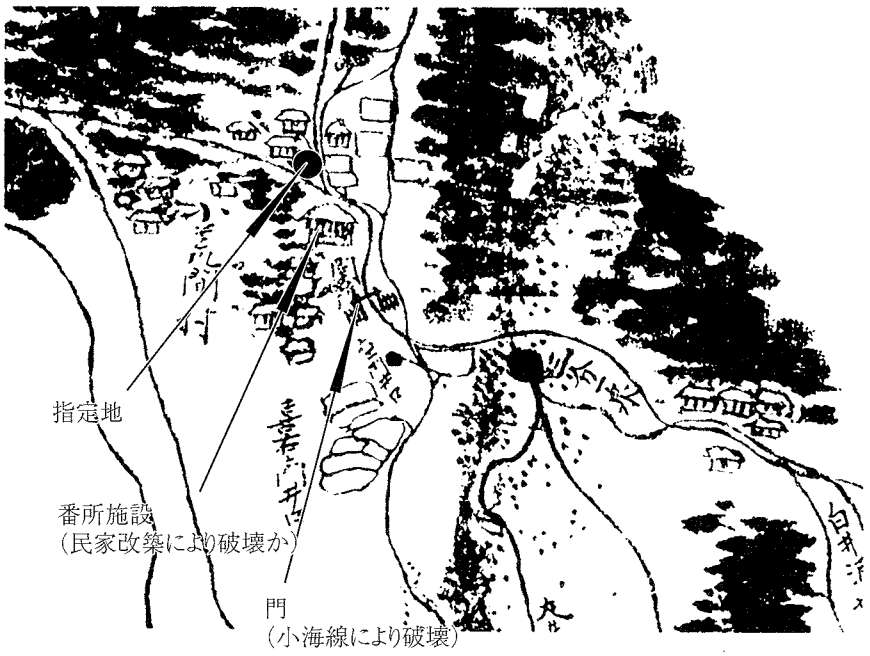
この口留番所は残された記録（小荒間村口留番所仕様帳）からその構造、規模が明らかとなっているほか、近年確認された古絵図からその位置もかなり正確にわかるようになっている。

この古絵図による位置と現在の道路の状況、さらに現指定地内にある道標の位置関係を確認する。

前提となる条件は現在の道路が当時の位置と変わらないことである。これは現在の集落の展開と比較してみて大規模な改変はあり得ないと判断できる。この条件でまず番所自体の位置をみると古絵図では門が三叉路の南側に位置し、番所を抜けて三叉路に至ることになる。また、門のあった位置は現在小海線により破壊されていることが昭和初期の聞き取り調査、新聞等の記事から確認されている。即ち現指定地は番所の遺構、範囲から外れていることが明らかであり、「確実にその場所に該当する上、遺構が残されている」という要件から外れ、史跡としての価値は全く認められない。

また、絵図面等から推定される番所本体のあった位置については、現在個人の住宅となっており、近年改築されている。番所の置かれた当時の一般的な建物形態から礎石建ちの建物構造が想定されるが、この改築により遺構の残されている可能性は、なお、より詳細な調査に依らなければならないものの、極めて低いものと判断される。このことにより現在の指定地を錯誤として、本来番所の施設のあったと想定される位置を史跡指定することにも遺構の遺存という要件を満たしている可能性が極めて乏しく、根拠に乏しいこととなる。

以上のことから本物件は北杜市指定史跡としての要件を満たしているとは認められず、その指定を解除するのが相当と判断した。




古絵図に見る小荒間口留番所の施設と指定地

## 3　文化財活用事業

とかく文化財行政は日々埋蔵文化財の発掘調査やその整理作業、指定文化財の維持管理、環境整備工事等に追われ住民への還元がおろそかになりがちとなっている。これらの作業自体を住民への還元と考えることは当然できるのだが、もっと身近なものとして文化財を捉える助けとするため文化財活用事業を企画した。当初は他にもメニューを検討していたが、やはり日々の忙しさにかまけて実施できたのは下記の棒道ウォークのみであった。

### 棒道ウォーク

棒道は小淵沢町～大泉町までの間が文化庁の「歴史の道100選」に選定されているが、現在までに有効な保護施策が打ち出せず、周辺の開発が進んでいるのが現状である。このような状況ではあるが、須玉町の若神子城跡を起点に北杜市を縦断するこの古道は単に歴史に触れる機会を与えるのみでなく、住民の連帯感・一体感を醸成する効果的な素材といえる。これらの事業を通じて文化財の保護意識を涵養するのみではなく、住民の結びつきをより強固なものとすることを目的とした。

今回は第１回として須玉町ふるさと公園（若神子城跡）を出発し、谷戸城跡までを踏破する延長約10kmのコースとした。

期日は平成17年11月３日の勤労感謝の日とした。当日は晴天に恵まれ、事故もなく目的地に全員達することができた。目的地到着後に参加者全員からアンケートを採ったが、その内容の一部を記す。

### 年齢構成について

60代が57％と中心で、50代が33％、70代10％を占める。居住歴についての設問はあえてしなかったが、八ヶ岳南麓からの参加者を中心に居住歴の短い住民の参加が目立つ。

### 出身地の構成について

須玉が若神子起点ということで43％を占め、小淵沢を含む八ヶ岳南麓は50％を占める。当日大きな行事催行（武川こめこめ祭り）と重なった武川・白州地区からの参加はなかった。

### 周知方法について

本事業開催に際する周知方法として市広報への掲載と支所・教育センターへのチラシ・ポスター掲示に留めておいた。その結果広報でこの企画を知った参加者が多くを占めているのは当然であるが、八ヶ岳南麓を中心に会員の多い『八ヶ岳歩こう会』ＨＰで取り上げられた結果、このＨＰで開催を知り参加した者も比較的多かった。また、今回参加者に日常の市開催行事の情報入手手段について問うたところ市広報は主体を占めるものの、CATVが整備されている高根・大泉町ではこれによるものが多くを占めるほか、市ＨＰでの情報入手も見られる。

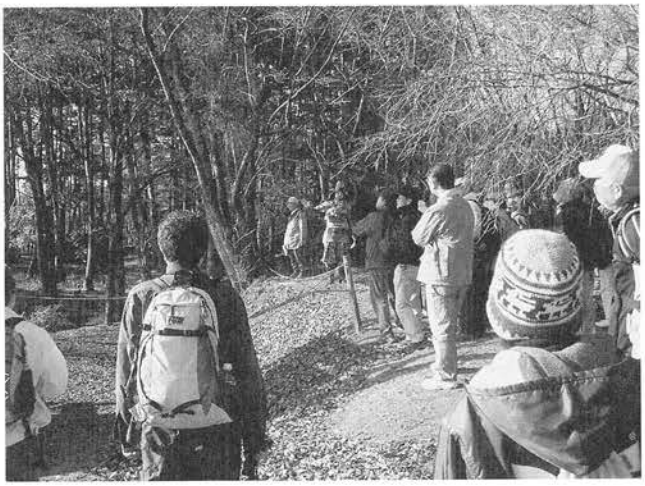
### ウォーキングについて

今回のコースは約10kmと長めの設定であったが、ほとんどの参加者がちょうど良いと回答している。今後の参加希望を見てもほとんどが是非参加したい、機会があれば参加したいと回答している。健康志向の中でウォーキングがブームとなっていること、居住歴の短い住民を中心に自然志向、あるいは居住地を積極的に知ろうとする動きが大きな要因と考えられる。

説明については甲冑を身につけた職員を中心に進めたが、これの効果により説明に集中し、その結果理解に繋がったものか。

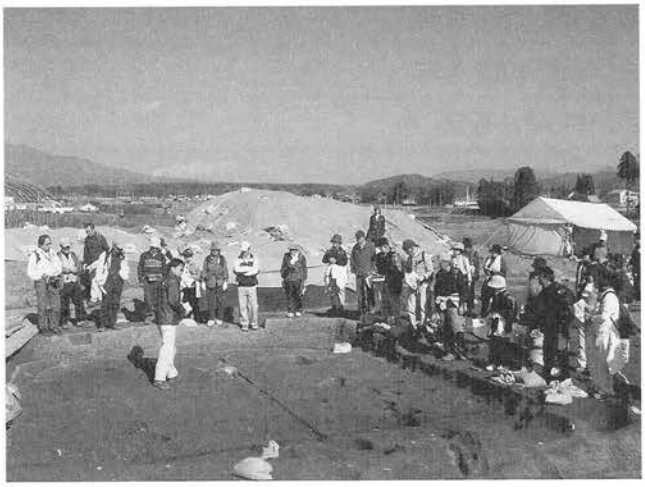
以上から今回の事業については予想以上に好評で、今後part.２以降の開催を望む声が多かった。

（伊藤公明）



若神子城跡にて

鎧堂観音にて



西ノ原Ｂ遺跡にて

深草館跡で説明する武田天眞？

文化財活用事業　棒道ウォーク実施状況

# Ⅳ　北杜市郷土資料館

## 1．平成17年度の事業内容

７町村合併による北杜市誕生（平成16年11月１日）に伴い、以下の９施設を置き、全体の総称を北杜市郷土資料館と定めた（北杜市郷土資料館条例第１条、第２条、第３条）。

[施設の名称及び位置]

| | |
|---|---|
| 明野歴史民俗資料館 | 北杜市明野町上手 8310 番地 |
| 須玉歴史資料館 | 北杜市須玉町下津金 2963 番地 |
| 高根郷土資料館 | 北杜市高根町村山北割 3315 番地 |
| 浅川伯教・巧兄弟資料館 | 北杜市高根町村山北割 3315 番地 |
| 長坂郷土資料館 | 北杜市長坂町中丸 1996 番地 |
| 大泉歴史民俗資料館 | 北杜市大泉町谷戸 2916 番地 |
| 小淵沢郷土資料館 | 北杜市小淵沢町 7707 番地 |
| 白州郷土資料展示室 | 北杜市白州町白須 312 番地 |
| 武川民俗資料館 | 北杜市武川町三吹 2161 番地１ |

平成17年度事業として、合併による利点を生かしながら、①９館の基本業務の点検と確認、②９館の事業提携等の運営改善に努めた（なお、明野歴史民俗資料館は平成16年10月５日よりNPO法人茅ヶ岳文化財研究所の指定管理施設であったため、基本的には本事業から除外されている。また、小淵沢郷土資料館は、平成18年３月15日に合併した）。

### (1)　推進体制の充実

#### a）　運営協議会

８資料館全体の運営に関して必要な事項を協議するために、北杜市郷土資料館運営協議会を設置した。本年度の開催は次のとおりである（以下、小淵沢町合併前のため協議は８資料館についてなされている）。

[会議内容]

| 開　催　日 | お　も　な　協　議　内　容 | 会　　場 |
|---|---|---|
| ５月24日(火) | 市内資料館の現状把握及び今後の運営について | 市庁特別会議室 |
| ６月21日(火) | ９資料館視察（合併予定の小淵沢町郷土資料館を含む） | 市内各資料館 |
| 11月22日(火) | 視察レポートの報告・再編案の確認／H17,18年度事業について | 市庁特別会議室 |

今後の運営に関して３度にわたる協議の結果、運営協議会としては次の提案を行うに至った。

①　７地域の歴史を伝える各施設を廃館にして、一つに統合することは困難。
〈理由〉　一つを残して他を廃館とするような突出した館はない／各館とも特色があるので、条例に

則した運営を行うのがよい／各館ごとの特徴を生かす運営をする／１館にすると、遠くなり不便／地域の特色を出すのがよい／文化財の現地保存を守るべき／８館の特性を掘り起こして事業を展開していくべき／８館の地域テーマを設定し、再整備する。

② 散型施設の北杜市郷土資料館に再編する。

③ ８館の資料を精選集約する。

④ ８館における共通資料は１ヶ所に集めて特化する。

⑤ ８館が横の連絡を取り合って事業を進める。

⑥ ８館の中核となる施設を設置し整備する。

[運営協議会委員]（任期：平成17年４月１日～平成19年３月31日）　◎会長　○副会長

| 氏　名 | 役　職　等 |
|---|---|
| 堀内　弘 | 北杜市校長会　会長 |
| 花輪昭和 | 北杜市社会教育委員会　議長 |
| ◎中山嘉明 | 北杜市文化財保護審議会　会長　／　武川町文化協会郷土研究部　部長 |
| 村田　博 | 明野町文化協会郷土研究部　部長 |
| 白倉唯行 | 須玉町文化協会郷土史部会　会長 |
| 清水磋太夫 | 高根町郷土研究会　会長 |
| 小尾達朗 | 長坂町郷土研究会　会長 |
| 浅川晃暉 | 大泉町郷土研究会　会長 |
| 千野国雄 | 元白州町文化財審議委員 |
| ○安達　満 | 山梨県史編さん委員会専門委員（近世史） |
| 清水琢道 | 元山梨県立文学館準備委員　／　高龍寺住職 |
| 白倉一由 | 山梨英和短期大学名誉教授（近世文学） |
| 八巻與志夫 | 山梨県立考古博物館学芸課長（考古学） |

### b）　７館学芸担当連絡会の運営

７館（高根郷土資料館と浅川伯教･巧兄弟資料館は１館とみなす）に携わる学芸担当職員（専任３名、兼任４名）による連絡会議を随時実施した。また、北杜市郷土資料館の事業運営にあったって、職員の事務分掌を定め、以下の事業を行った。

[学芸担当連絡会事業]

| 事　業　名 | 内　容 |
|---|---|
| ①７館利用マップの発行 | ７館の施設概要・地図・利用案内掲載のマップ発行、配布。<br>A4版４C 両面刷。配布数20,000部。 |
| ②合併に伴う公文書の移管 | 合併に伴い散逸の可能性のある庁内公文書を把握し、種類・保管場所を確認した。<br>〈対象公文書〉①文書管理規定整備以前の公文書（明治時代以降の議会議事録、土地台帳・見分図、災害の記録、伝染病の記録、戦争資料等）<br>②町村史誌編纂時収集資史料 |

### (2) 展示活動

#### a） 常設展示

| 資料館名 | 常設展示内容 |
|---|---|
| 須玉歴史資料館 | ①復元教室　②須玉町の出土品　③須玉町と「のろし」<br>④近代教育の曙　⑤津金学校の思い出（卒業写真ほか）<br>⑥昔の学校体験コーナー |
| 高根郷土資料館 | ①高根の遺跡　②民間信仰と石造物　③江戸時代の俳諧<br>④清里の開拓 |
| 浅川伯教・巧兄弟資料館 | ①兄　伯教の功績　②弟　巧の功績　③兄弟と日韓友好親善 |
| 長坂郷土資料館 | ①長坂の遺跡　②中央線・小海線３駅ができた頃、できるまで<br>③信玄公旗掛松事件　④東山魁夷画にみる80年前の八ヶ岳南麓生活<br>⑤長坂の民家　⑥植松波雄ギャラリー |
| 大泉歴史民俗資料館 | ①史跡金生遺跡　②大泉の歴史　③生産の道具・くらしの道具 |
| 白州郷土資料展示室 | ①白州町の出土品　②生業とくらし　③暮らしの道具<br>④昔の学校 |
| 武川民俗資料館 | ①武川米の歴史と稲作　②畑仕事　③山仕事<br>④労作と民謡　⑤暮らしの道具 |

#### b） 企画展示

[須玉歴史資料館]

| 企画展名 | 会期 | 内容 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 南雄三スケッチ展 | 7/16（土）～8/28（日） | 南雄三氏の水彩画展 | — |
| ちいさな書道展 | 9/ 3（土）～10/ 2（日） | 書道教室の発表 | — |

[高根郷土資料館]

| 企画展名 | 会期 | 内容 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 清里（八ケ岳）の開拓 | 平成16年度からの継続展示 | 高根町清里地区の開拓史<br>開館３周年および合併記念展示 | — |

［長坂郷土資料館］

| 企　画　展　名 | 会　　期 | 内　　容 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 第10回企画展<br>植松波雄全仕事<br>～八ヶ岳の名を県下に広めた写真館の記録～ | 4／2（土）～7／10（日） | 八ヶ岳南麓で写真店を営んだ植松波雄氏の全仕事を紹介することで、八ヶ岳観光の歴史と、仕事に及ぼした風土の影響を探る | 1,808名 |
| 第11回企画展<br>北杜・山梨ゆかりの鎧<br>～甲冑、その移り変わり～ | 7／16（土）～9／11（日） | 北杜市に関わる県内の甲冑を時系列で紹介し、その美と甲冑への人間の思いを探る | 1,472名 |
| 第12回企画展<br>北杜の縄文文化<br>～山と川に育まれた1万年の歴史～ | 9／17（土）<br>～平成18年2／5（日） | 北杜市内旧7町村の遺物を紹介することで、北杜市全体の縄文時代の傾向を展観する | 1,352名 |
| 第13回企画展<br>塩谷章子、立原道造など四季派詩人を謳う<br>～墨であらわされた音の世界～ | 平成18年2／11（土）<br>～3／26（日） | 当館所蔵四季派書庫の詩歌13編の墨書による紹介 | 471名 |
| 縄文王国スタンプラリー<br>共催／<br>山梨県立考古博物館<br>ほか5施設 | 平成18年3／1（水）<br>～5／31（水） | 石原田北遺跡・酒呑場遺跡・段道遺跡・上条宮久保遺跡・小屋敷遺跡などの土器、石器 | — |

▲「北杜の縄文文化」展～山と川に育まれた1万年の歴史

▲「北杜・山梨ゆかりの鎧」展

［武川民俗資料館］

| 企　画　展　名 | 会　　期 | 内　　容 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 第２回企画展<br>武川衆と中山砦 | 11/21（月）<br>～平成18年３/31（金） | 戦国時代に甲斐国の辺境防備にあたった武川衆とその居城中山砦を紹介し、乱世に生きた彼らの足跡を辿る。<br>〈展示構成〉<br>①武川衆の発祥と展開について<br>②中山砦の概要 | — |

### (3)　教育普及活動

### a）　講演会・講座・上映会・体験教室など

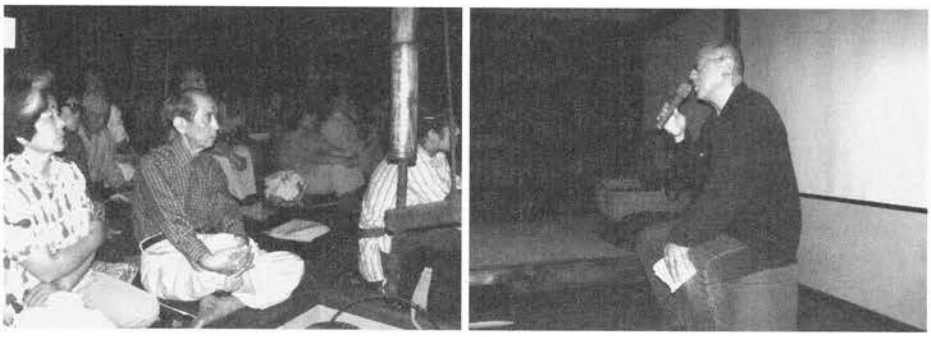
［須玉歴史資料館］

| 事　業　名 | 開催月日 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 講演会<br>南雄三氏 | ４/18（月） | 演題「世界の高齢者対応と地域での暮らし方」 | 約50名 |
| 講演会<br>岩瀬忠篤氏 | ８/７（日） | 演題「都市と農山漁村の『二地域居住への提言』～多様なライフスタイルを求めて～」 | 約50名 |

［長坂郷土資料館］

| 事　業　名 | 開催月日 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| リードオルガン<br>定例演奏会<br>共催／八ヶ岳リードオルガン美術館・清春リードオルガン愛好会<br>後援／日本リードオルガン協会 | ①４/10（日）<br>②５/15（日）<br>③６/19（日）<br>④７/17（日）<br>⑤８/21（日）<br>⑥９/18（日）<br>⑦10/16（日）<br>⑧11/20（日） | オルガンにまつわるトークを交えた、町内リードオルガン愛好者を中心にした演奏会 | 328名 |
| ギャラリートーク<br>伊澤昭二氏 | ①７/30（土）　14:00～<br>②８/20（土）　14:00～ | 企画展「北杜・山梨ゆかりの鎧」関連ギャラリートーク | 88名 |
| 体験教室<br>鎧着付け体験 | ７/30（土）～８/７（日） | 企画展「北杜・山梨ゆかりの鎧」関連小学生向け鎧着付け体験教室 | 26名 |
| 講演会<br>平山優氏 | ８/６（土）　13:30～ | 企画展「北杜・山梨ゆかりの鎧」関連中世史研究者による講演。<br>演題「北杜の戦国時代」 | 47名 |
| 16ミリ映画上映会<br>「旭巫女縁起」 | ９/24（土）　13:30～ | 平成16年度事業に引き続く「ふるさととは何か」を問う16ミリ映画上映および監督赤羽敏夫氏によるトーク | 40名 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 講演会<br>阿毛久芳氏<br>共催／<br>山梨県詩人会 | 3/11（土）14:00～ | 企画展「四季派詩人を謳う」関連。<br>阿毛久芳氏（都留文科大学教授）による山梨の四季派詩人について。<br>演題「『四季』と山梨の詩人」 | 42名 |



▲16ミリ映画「旭巫女縁起」上映会と監督のトーク（民家展示室にて）

［武川民俗資料館］

| 事　業　名 | 開催月日 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 体験教室<br>縄文土器作り | 8／4（木） | 子ども達が縄文時代に身近に触れる機会を提供するために、武川町内で出土した土器を見本に土器作りに挑戦 | 19名 |

### b）　学校教育・社会教育との連携

［長坂郷土資料館］

| 事　業　名 | 実施月日 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 小学校受入授業 | ①5/17（火）小泉小6年<br>②10/18（火）秋田小4年<br>③10/28（金）小泉小4年<br>④11/25（金）高根西小4年<br>⑤2/17（金）長坂小3年 | 資料館所蔵資料を使った、農具の変遷・人の知恵の歴史を探るプログラムの実践授業。<br>復元民家・民具（石臼など）・農具(千歯扱き･足踏み脱穀機など)で、季節・学年・人数に相応の体験学習を行った | ①27名<br>②19名<br>③18名<br>④32名<br>⑤35名<br>計131名 |
| 講師派遣<br>甲陵中学校2年 | 6/17（金） | 八ヶ岳南麓の湧水について | 40名 |
| 講師派遣<br>地域教育協議会 | 6／1（水） | 博物館と地域教育について | 20名 |
| 講師派遣<br>北巨摩教育事務所 | 6/30（木） | 地域素材の教材化と博学連携について | 8名 |
| 講師派遣<br>放送大学山梨学習センター | 10/23（日） | 発掘調査例から見た北巨摩地域の縄文時代について | 15名 |

▲足踏み脱穀機での稲こき体験教室

▲千歯こきでの稲こき体験教室

[大泉歴史民俗資料館]

| 事　業　名 | 実施月日 | 内　　容 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 小学校受入授業 | 5/19（木）　忍野小学校 | 史跡金生遺跡の現地案内と資料館説明 | 108名 |
| 小学校受入授業 | 6/21（火）小平第六小学校 | 総合的な学習の時間「八ヶ岳マイチャレンジ」歴史コースの体験学習。史跡金生遺跡と資料館の解説、石器作り | 10名 |
| 講師派遣<br>ことぶき勧学院大学院 | 7/14（木） | ことぶき勧学院大学院の第1回郷土史野外研修会。史跡金生遺跡、史跡谷戸城跡の現地案内 | 18名 |
| 講師派遣<br>大泉教育センター | 7/14（木） | 大泉教育センター第1回歴史講座。<br>これまでの調査からみた谷戸城の歴史について解説 | 10名 |
| 講師派遣<br>大泉教育センター | 10/25（火） | 大泉教育センターの第2回歴史講座。<br>谷戸城が史跡指定されるまでの保護活動とその意義について解説 | 11名 |

### c）　調査研究活動

| 資　料　館　名 | テ　ー　マ | 概　　要 |
|---|---|---|
| 須玉歴史資料館 | 津金地区の空家の現状 | 過疎化により増えた空家の現状調査 |
| 長坂郷土資料館 | 北杜市内の茅葺き屋根 | 北杜市域の茅葺き屋根の特色と県全域との比較調査 |
| | 日野春開拓と富岡敬明 | 山梨県権参事富岡敬明の明治28～41年までの日記翻刻 |
| 北杜市郷土資料館 | 長坂町清光寺史料調査 | 蔵内の古文書・古記録等史料調査（平成18年3月10日実施） |

### (4) 資料収集・保管活動

[寄贈資料]

| 資料館名 | 寄贈資料数 | 資料名 |
|---|---|---|
| 長坂郷土資料館 | 53点 | 中央本線鉄道資料・鎖帷子・蒔絵三段箱・清春村全図・清春尋常小学校運動会パンフレット・防空頭巾・標準服・仕事着・胴着・戦争資料・味噌釜及び杓子 |

### (5) その他の活動

[刊行物]

| 資料館名 | 書籍タイトル | 発行部数 | 発行 |
|---|---|---|---|
| 長坂郷土資料館 | ながさか、もっと知りたい booklet ②『棒道の本』改訂 | 1,000部 | 5月 |
| | ながさか、もっと知りたい booklet ⑥『北杜・山梨ゆかりの鎧』 | 3,000部 | 7月 |

[博物館実習]

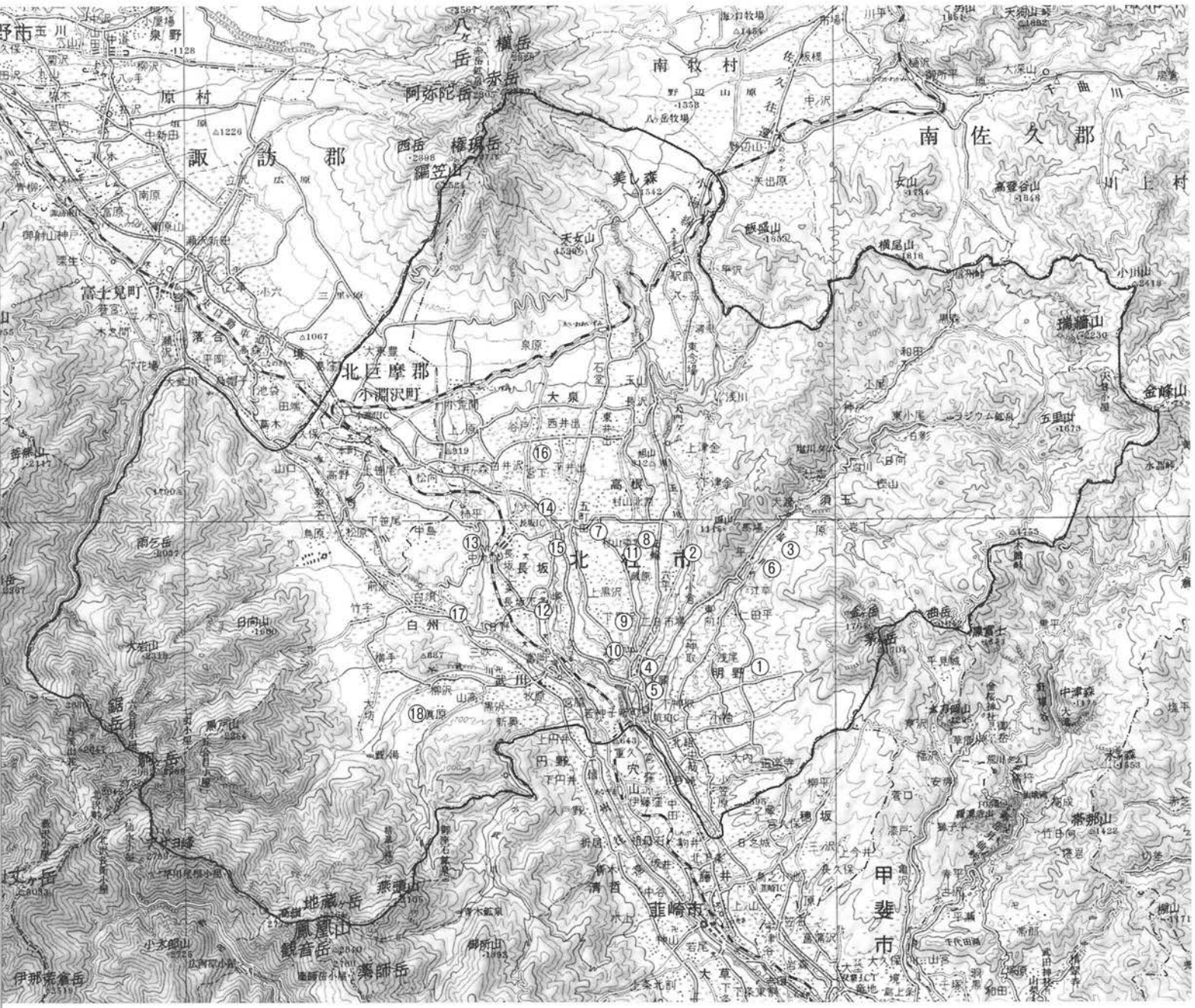
| 資料館名 | 期間 | 大学名 | 受入人数 |
|---|---|---|---|
| 須玉歴史資料館 | 8/9(火)～8/16(火) | 山梨英和大学 | 2名 |
| 長坂郷土資料館 | 7/26(火)～8/7(日) | 山梨英和大学 | 2名 |

## 2. 年間入館者状況

| 資料館名 | 入館者数 | 資料館名 | 入館者数 |
|---|---|---|---|
| 須玉歴史資料館 | 6,675名 | 大泉歴史民俗資料館 | 623名 |
| 高根郷土資料館／浅川伯教・巧兄弟資料館 | 29,400名 | 白州郷土資料展示室 | — |
| 長坂郷土資料館 | 7,157名 | 武川民俗資料館 | 141名 |

(澤谷滋子)

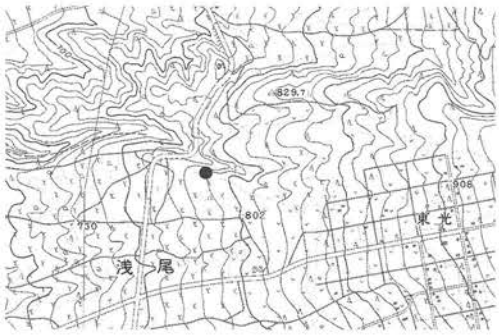
# V　発掘調査速報



1　梅之木遺跡
2　向山遺跡
3　平山遺跡
4　御崎前遺跡
5　一道下遺跡
6　獅子吼城跡
7　御所遺跡
8　西ノ原Ｂ遺跡
9　斜遺跡
10　坂上遺跡
11　後原遺跡
12　山本遺跡
13　新宿区健康村遺跡
14　窪田遺跡
15　頭無Ａ遺跡
16　谷戸城（含む周辺遺跡）
17　屋敷平遺跡
18　真原Ａ遺跡

平成17年度調査遺跡位置図（Ｓ＝１／200,000）

# 1　梅之木（うめのき）遺跡



調査地点位置図

**所在地**　北杜市明野町浅尾5259-2285地ほか
**調査原因**　重要遺跡確認緊急調査
**調査期間**　2005年６月６日～2006年３月31日
**調査面積**　2,573㎡
**担当者**　佐野隆

梅之木遺跡は、縄文時代中期後半（曽利式期）の環状集落跡である。平成15年度に、県営畑地帯総合整備事業に伴う事前調査で、環状集落が良好に保存されていることが判明したため、明野村教育委員会（当時）は、事業主体である山梨県峡北地域振興局農務部（当時 現中北農務事務所）その他関係機関と協議のうえ、遺跡の範囲については事業を中断して、文化財的価値を確認する調査を実施することとした。確認調査は平成16年度より平成19年度までの４カ年計画とし、国庫補助金「需要遺跡確認緊急調査費補助金」と県補助金の交付を受けて経費に充当することとした。

甲府盆地北西部の休火山茅ヶ岳・金ヶ岳の西麓の標高600m 以上は、主に畑地となっている。小河川が流れているものの水に乏しい環境で、本遺跡などごく少数の例外を除くとほとんど遺跡が分布しない。本遺跡は、湯沢川という小河川に接して立地し、この小河川の存在ゆえに集落が成立したと容易に想像される。

平成15年度時点では、外径100m 程度に竪穴住居跡150軒程度が環状に配置された環状集落跡であることが確認されたのみであった。そこで確認調査では、１）遺跡の範囲、２）遺跡の年代、３）遺跡を構成する遺構の種類と分布、４）遺跡の性格を主に確認することとした。また、理化学分析等により湯沢川周辺の地形環境の変遷、遺跡周辺の植生環境などについても可能な限り復元することとした。

平成16･17年度の確認調査の結果、この環状集落跡は井戸尻３式期に始まり曽利Ⅴ式期まで継続した後、廃絶することが判明した。土坑には貯蔵穴と墓坑とがあると思われ、群を形成していない。集落中央には遺構が希薄な空間＝広場があり、その直径は概ね40m ほどである。竪穴住居跡は、畑総事業の区域を越えて北へ広がっており、平成15年度に確認した約150軒に加えてさらに20～30軒程度の竪穴住居跡がある。

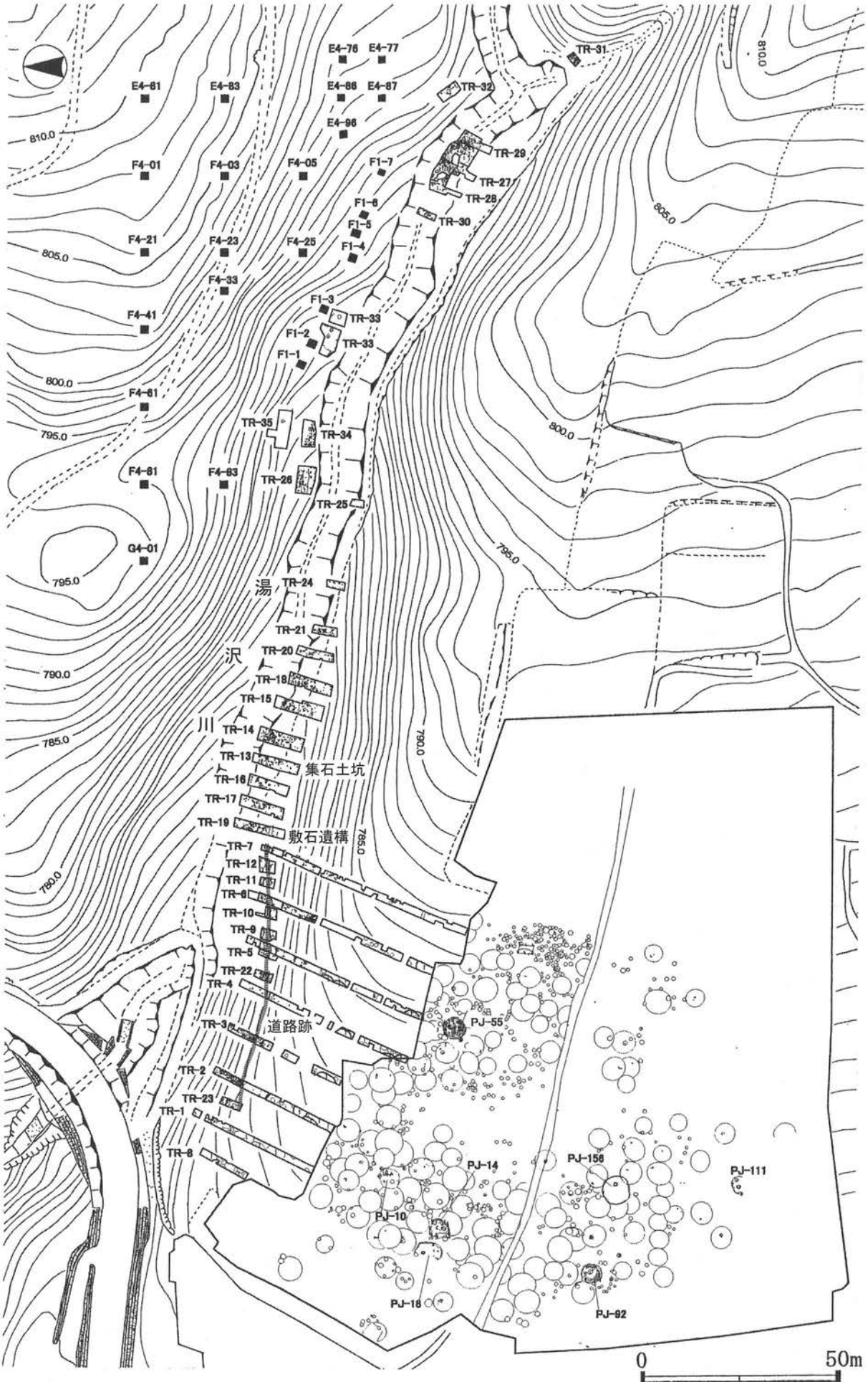
集落北の湯沢川の川岸には狭い平坦面（河岸段丘面か）があり、試掘したところ、多数の曽利式土器、石器、石材とともに敷石遺構１ヶ所、集石土坑１基、焼土跡１ヶ所、土坑４基を確認した。山梨県内初の水辺周辺の施設の発見であるが、いわゆる水場遺構は検出されていない。

環状集落と湯沢川のあいだには斜度25度程度の急な北斜面がある。ここで幅50cm ほどの帯状硬化面が検出された。地山を幅１m ほどに削り込んで平坦面を造成した地点もみられた。この遺構は環状集落の西端から始まり、斜面を横切りながら緩やかに湯沢川岸まで下っていて、縄文時代の「道」跡と思われる。

確認調査は平成18年度にも現地調査を行い、平成19年度に整理作業を経た後、本報告書を刊行して完了する計画である。調査結果の詳細は各年度の調査概要報告書を参照されたい。　（佐野隆）

**参考文献**

北杜市教育委員会　2005　梅之木遺跡Ⅳ　平成16年度確認調査概要報告書
北杜市教育委員会　2006　梅之木遺跡Ⅴ　平成17年度確認調査概要報告書


E4-76
E4-77
E4-81
E4-83
E4-86
E4-87
E4-96
F4-01
F4-03
F4-05
F1-7
F1-6
F1-5
F1-4
F4-21
F4-23
F4-25
F4-33
F1-3
F4-41
F1-2
F1-1
F4-61
F4-63
F4-81
G4-01
TR-31
TR-32
TR-29
TR-27
TR-28
TR-30
TR-33
TR-33
TR-35
TR-34
TR-26
TR-25
TR-24
TR-21
TR-20
TR-18
TR-15
TR-14
TR-13
TR-16
TR-17
TR-19
TR-7
TR-12
TR-11
TR-8
TR-10
TR-9
TR-5
TR-22
TR-4
TR-3
TR-2
TR-23
TR-1
TR-6
湯
沢
川
集石土坑
敷石遺構
道路跡
PJ-55
PJ-14
PJ-156
PJ-111
PJ-10
PJ-16
PJ-92
810.0
805.0
800.0
795.0
790.0
785.0
780.0
0
50m

梅之木遺跡全体図

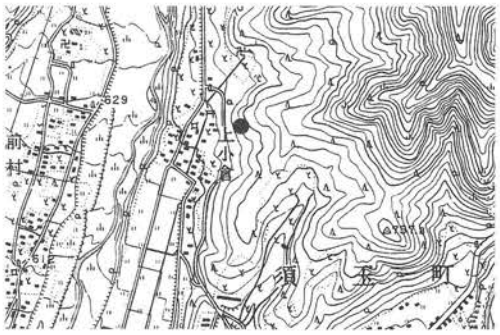
敷石遺構

梅之木遺跡全体写真

道路跡

曽利式期の住居跡

# 2　向山（むこうやま）遺跡



調査地点位置図

**所在地**　北杜市須玉町小倉字向山2,606他
**調査原因**　八ヶ岳地区農村地域活性化農道整備事業
**調査期間**　2005年4月18日～7月4日
**調査面積**　1,600㎡
**担当者**　村松佳幸・坂口広太

本遺跡は、東を塩川、西を須玉川に挟まれた斑山の西南麓にある。遺跡は山裾の斜面に立地し、遺跡の直ぐ下の西側には上小倉集落が広がり、その北端には日蓮宗長栄山見本寺がある。

平成15年に須玉町教育委員会により発掘調査されていたが、途中で中断されていたところ、市町村合併で誕生した北杜市教育委員会が引き継ぎ発掘調査を実施した。農道建設のため調査区は斜面中腹を横切るように位置し、やや大きい沢筋と尾根筋に挟まれた所で、その中央が山側にやや奥まったような地形になっている（写真１）。その中には、上・中・下段の３つのテラス状平坦面があり、主にその平坦面を利用して、中世の礎石建物跡や墓などの遺構が作られていた。

下段には、礎石建物跡や火葬施設などが発見された。礎石建物跡（写真５）は、一部の礎石は確認できなかったが、おそらく東西２間（約４ｍ）・南北４間（約７ｍ）の建物と思われる。その性格は断定できないが、庵か寺に付随するお堂のような建物の可能性が高い。

その礎石建物跡の直ぐ東の山側には火葬施設群がある。五輪塔の部位や礫で組まれており、その周辺から炭化物や骨片が確認できた。また、礎石建物が使われなくなり、礎石が埋まった上からも石を組んで作った小型の火葬施設が発見された。

中段は、調査区南側の張り出したところにあり、そこから五輪塔を再利用した石畳状及び石垣状の遺構（写真４）と、蔵骨器の破片が出土した石組遺構が発見された。蔵骨器は、少なくとも３個体確認でき、１つは小瀬戸灰釉四耳壷であった。もう２つは瓶子であった。この中段の南西側斜面の下から梵字の刻まれた水輪が出土していて、この中段から崩落したものと推測される。

上段には、五輪塔を再利用して作られた石列（口絵上段）、その石列に区画された中に並んでいた宝篋院塔の基礎列、石垣状遺構２ヶ所、石垣状遺構の前に並んでいた五輪塔列（写真２）、土坑墓などが発見された。全てが同時期に存在したのではなく、何段階かの時期差がある。そこからは多数の石造物が出土し、五輪搭が崩れた状態のものや転用された状態のものなど様々である（写真３）。

調査区南側の緩斜面には、火葬施設（口絵下段）・火葬墓・土坑墓・石列などが密集し、この周辺からは骨片・炭化物・古銭が数多く出土した。火葬墓では五輪搭の地輪の下に拳大の範囲で焼骨片が埋葬されていた。

出土した遺物は、中世のかわらけ・小瀬戸灰釉四耳壷などの土器類、石造物、古銭、釘などの鉄製品、骨片、炭化物などがあり、中でも石造物は、五輪塔・宝篋院塔などの部位を含めて800点以上も出土した。五輪塔は小型のものが多く、それらは15世紀後半～16世紀のものと考えられる。

今回の調査で、礎石建物跡を伴う中世の墓地が発見され、それもかなり大規模であることが確認された。このような調査事例は県内では少なく、山梨県の中世墓を考える上で貴重な発見となった。また、各遺構の時期差も確認されており、その変遷を解明することにより、各時期の墓の形態や造営の様子が明らかになってくるであろう。

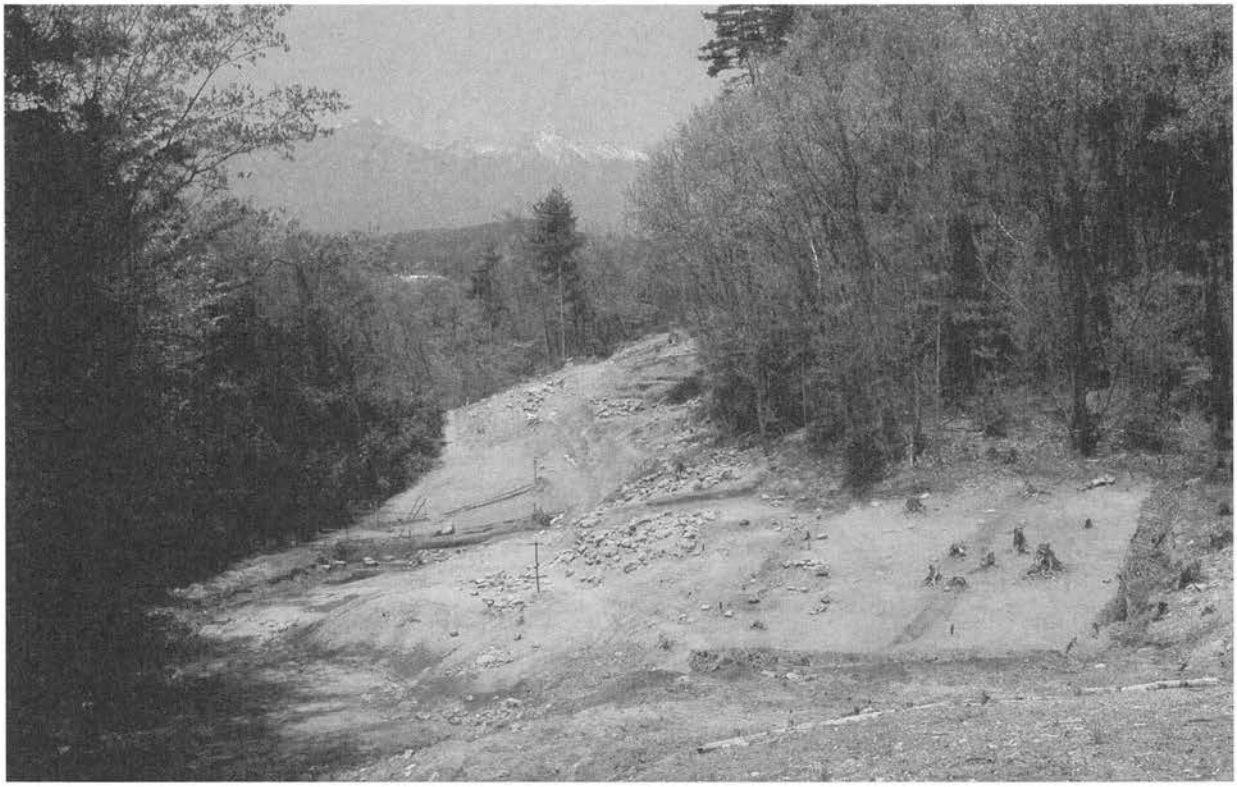


写真１　調査区近景

写真２　コの字状石垣と五輪搭列

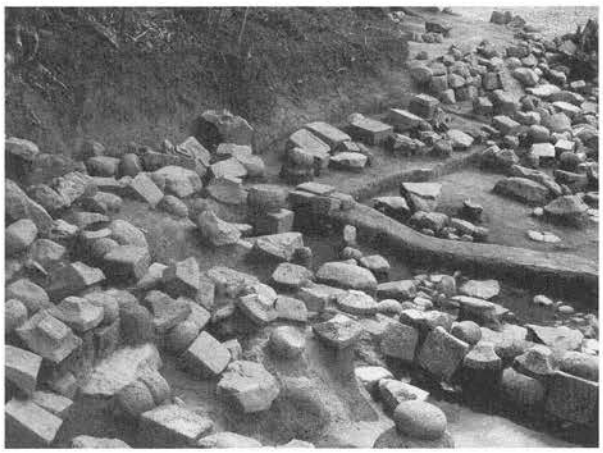


写真３　石造物出土状況

写真４　石垣と石畳状遺構

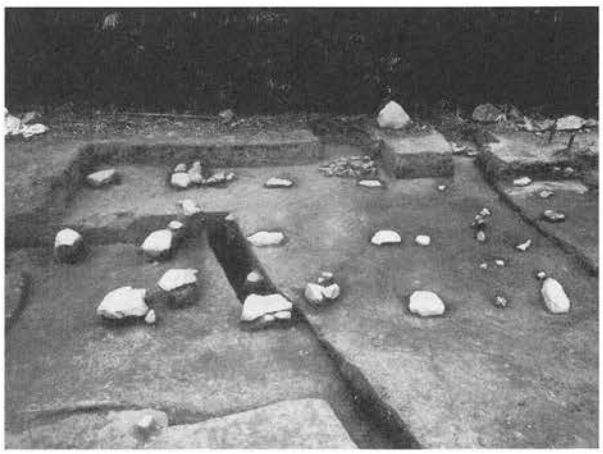
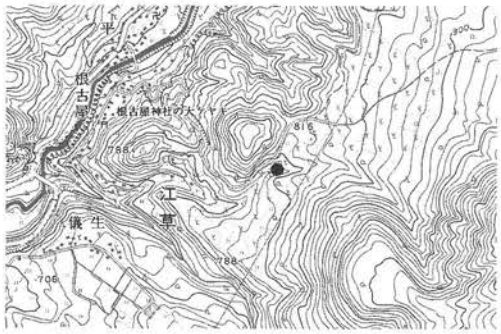


写真５　礎石建物跡

# 3　平山（ひらやま）遺跡

**所 在 地**　北杜市須玉町江草字平山5743-1ほか
**調査原因**　農産物加工施設工事
**調査期間**　2005年６月21日～2005年７月22日
**調査面積**　1669㎡
**担 当 者**　佐野隆



調査地点位置図

塩川左岸の金ヶ岳山麓中に所在する平山遺跡は、縄文時代、弥生時代、平安時代の小規模な集落跡である。これまでに圃場整備事業で２回発掘調査が実施されている。

本遺跡は、金ヶ岳山麓の北端が秩父山塊と接する丘陵地にあり、標高791m ほどである。遺跡周辺の丘陵地は小河川によって解析されて起伏に富んだ地形であるが、一部に塩川の古い河岸段丘面と思われる小規模な平坦地が残されている。遺跡は、この平坦地から埋没谷の谷頭にかけての緩斜面に展開している。

この山間の平坦地には棚田がつくられており、平成14年度には田園空間整備事業に伴う圃場整備が実施された。これに伴い須玉町教育委員会（当時）が２回にわたり発掘調査を実施し、縄文時代の散布地と平安時代の小規模な集落跡であることが判明した。平成17年度には、地元農業の振興を目的に農産物加工施設が建設されることなり、事前に試掘調査を実施したところ、埋蔵文化財の所在が確認されたため、事業主体である北杜市役所農林課と協議の上、第３次となる発掘調査が実施された。発掘調査に要した経費は3,068,416円で北杜市が負担した。この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

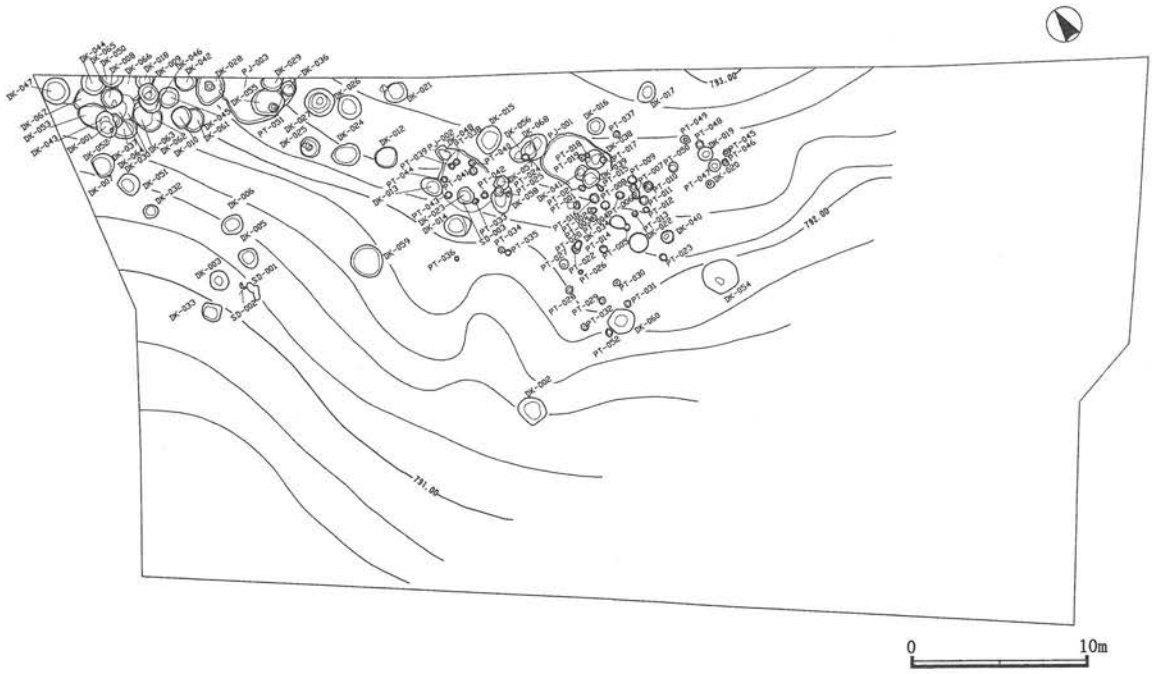
| | |
|---|---|
| 文化財保護法第94条による通知 | 平成17年６月27日付け北杜須総第714号 |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成17年７月21日付け教学文第1025号 |
| 文化財保護法第99条による発掘着手報告 | 平成17年８月２日付け北杜生学第590-3号 |
| 同条による発掘終了報告 | 平成18年４月18日付け北杜生学第103-4号（見込み以下同） |
| 埋蔵物発見届 | 平成18年４月18日付け北杜生学第103-1号 |
| 埋蔵物保管請書 | 平成18年４月18日付け北杜生学第103-2号 |
| 埋蔵文化財保管証 | 平成18年４月18日付け北杜生学第103-3号 |

発掘調査の結果、縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の竪穴住居跡１軒、同時期の土坑、弥生時代中期の竪穴住居跡２軒、同時期の掘立柱建物１棟、土坑を検出した。平安時代の遺構、遺物は出土しなかった。いずれの時期についても、山梨県内では遺跡数、遺構数が少なく、丘陵地に小規模遺跡が形成される傾向にあり、本遺跡も同様の状況である。

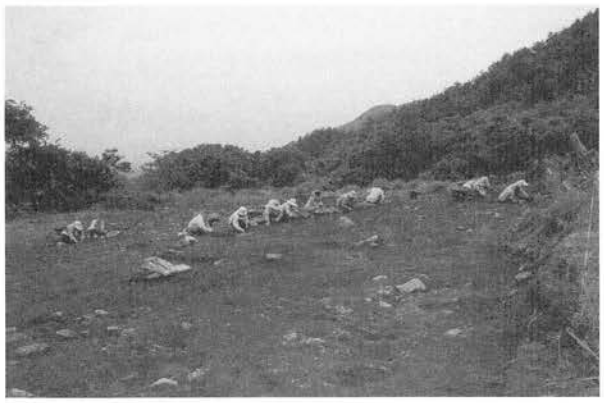
発掘調査終了後、調査区域は深く削られて造成され、農産物加工施設が建設されている。出土品と調査記録は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。（佐野隆）

**参考文献**

須玉町教育委員会　2003　『平山遺跡　―田園空間整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
北杜市教育委員会　2006　『平山遺跡　―農産物加工施設工事に伴う発掘調査報告書―』




平山遺跡全体図



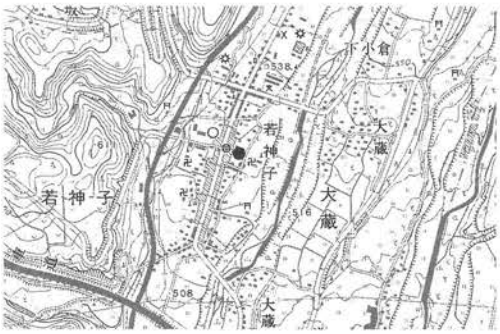
調査地点近景

弥生時代の住居跡

弥生時代住居の炉跡

掘立柱建物跡

# 4　御崎前（みさきまえ）遺跡



調査地点位置図

**所 在 地**　北杜市須玉町若神子716番地ほか
**調査原因**　市道若神子大蔵線工事
**調査期間**　2005年９月９日～2005年10月21日
**調査面積**　424㎡
**担 当 者**　佐野隆

近世初頭頃に開設されたという佐久往還は、山梨県韮崎市と長野県小諸市とを結ぶ山梨県北西部の幹線道路で、現在は国道141号線としてバイパス道路が整備されている。富士川水運の拠点として近世に成長した韮崎市から甲信国境までには、韮崎、中条、若神子、長沢の四宿があり、本遺跡は若神子宿の東側の一角に位置する。平成15年度から若神子宿を東西に横切る形で市道若神子大蔵線を新設する工事が計画されたため、須玉町教育委員会（当時）が事前に試掘調査を実施したところ、平安時代と中世、近世の埋蔵文化財が確認されたため、事業主体である山梨県峡北地域建設部（当時、現山梨県中北建設事務所）、北杜市役所土木部と協議し、調査経費を峡北地域振興局建設部が負担することとして、発掘調査を実施することとした。発掘調査経費は4,023,576円で、この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 文化財保護法第94条による通知 | 平成17年８月４日付け峡北建第1860号 |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成17年８月25日付け教学文第1330号 |
| 御崎前遺跡発掘調査事業協定書 | 平成17年８月25日付け |
| 文化財保護法第99条による発掘着手報告 | 平成17年９月12日付け北杜生学第696-3号 |
| 御崎前遺跡発掘調査実施結果報告書 | 平成18年３月31日付け北杜生学第1499号 |
| 文化財保護法第99条による発掘終了報告 | 平成18年４月18日付け北杜生学第101-4号 |
| 埋蔵物発見届 | 平成18年４月18日付け北杜生学第101-1号 |
| 埋蔵物保管請書 | 平成18年４月18日付け北杜生学第101-2号 |
| 埋蔵文化財保管証 | 平成18年４月18日付け北杜生学第101-3号 |

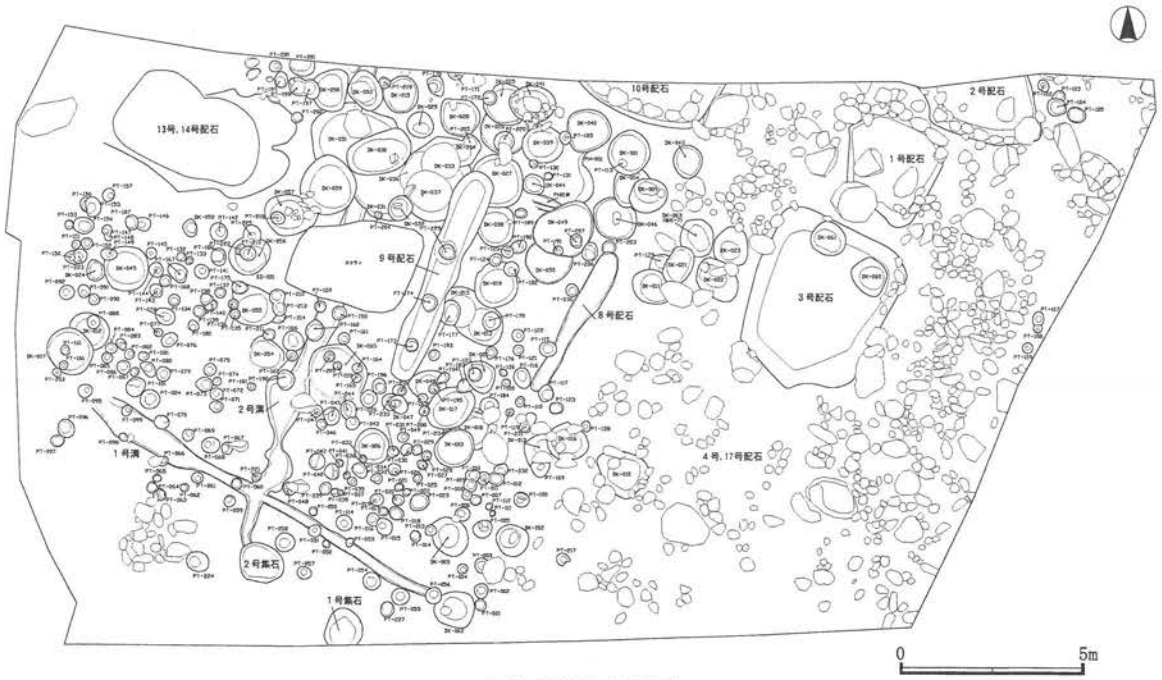
市道若神子大蔵線の計画路線内ではこれまでに御崎前遺跡、後田遺跡と２回にわたり発掘調査が実施されており、平成17年度の発掘調査は都合３回目となる。

平成17年度に施工する地点での発掘調査の結果、縄文時代の土器、石器、平安時代の竪穴住居跡１軒と溝跡２条、中世の掘立柱建物跡、土坑、墓、配石墓、近世と思われる配石、焼土面を検出した。中世もしくは近世の配石募は出土品が乏しく時期決定が難しいが、地元の古老によるとかつて真言宗寺院があったとの伝承があるという。調査地点の北側には小型の五輪塔などが集められており、この伝承に係わるものと推測される。五輪塔は16世紀頃のものと思われる。若神子宿の発生に係わる中世初頭頃の遺構を期待したが、本調査区域では確認されなかった。

この発掘調査に係わる調査記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。　（佐野隆）

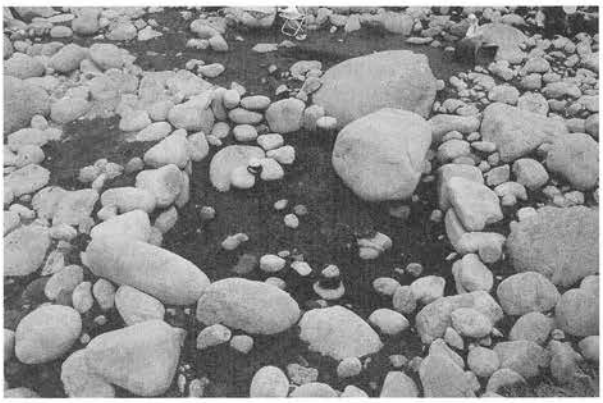
**参考文献**

北杜市教育委員会　2005　『後田遺跡　―指導若神子大蔵線工事に伴う発掘調査報告書―』
北杜市教育委員会　2006　『御崎前遺跡　―市道若神子大蔵線工事に伴う発掘調査報告書―』




御崎前遺跡全体図

調査地点近景

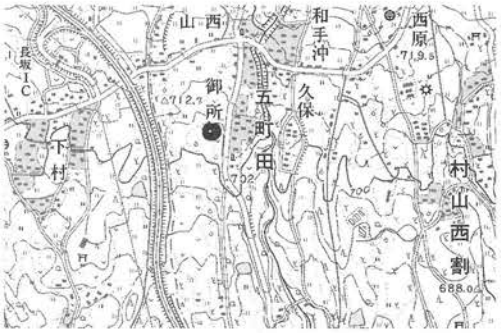


1号配石

8号・9号配石

掘立柱建物跡

# 5　御所（ごしょ）遺跡



調査地点位置図

所　在　地　北杜市高根町五町田852番地ほか
調査原因　県道北杜八ヶ岳公園線改築工事
調査期間　2005年10月28日～2005年12月９日
調査面積　800㎡
担　当　者　渡辺泰彦

## 発掘調査に至る経緯

平成16年11月の町村合併に伴い北杜市が発足したことに合わせて、市町村合併促進基盤整備事業県道北杜八ヶ岳公園線改築工事が高根町五町田地内で計画された。計画路線一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地「御所遺跡」であることから、事業主体である山梨県峡北地域振興局建設部（当時、現山梨県中北建設事務所）と北杜市教育委員会とで協議し、試掘調査を実施したところ、施工区域内で埋蔵文化財の所在が確認されたため、工事に先立ち発掘調査を実施することとした。この発掘調査の経費2,150,000円は事業主体である山梨県が負担し、北杜市教育委員会が依頼を受けて発掘調査を実施した。この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 文化財保護法第94条による通知 | 平成17年６月28日付け峡北建第1345号 |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成17年７月12日付け教学文第875号 |
| 御所遺跡発掘調査事業協定書 | 平成17年10月24日付け |
| 御所遺跡発掘調査実施結果報告書 | 平成18年３月15日付け北杜生学第1432号 |
| 文化財保護法第99条による発掘終了報告 | 平成18年４月18日付け北杜生学98-4号 |
| 埋蔵物発見届 | 平成18年４月18日付け北杜生学98-1号 |
| 埋蔵物保管請書 | 平成18年４月18日付け北杜生学98-2号 |
| 埋蔵文化財保管証 | 平成18年４月18日付け北杜生学98-3号 |

なお、発掘調査は軽微なものであり、検出された遺構も限られることから、この報告をもって本調査の発掘調査報告書とする。本年報別項にある同じ遺跡の別地点の調査結果報告もあわせて参照いただきたい。

## 遺跡周辺の環境

本遺跡は、休火山八ヶ岳の南麓、標高710m 付近に位置する。遺跡は、甲川の右岸にあり、埋没谷と甲川に挟まれた幅500m ほどの尾根筋上に展開すると思われる。なだらかな南斜面であり近世以降は水田が広がり、現在では周辺で宅地化が進んでいる。発掘調査を実施した地点は、ややくぼんだ凹地に黒色土が堆積しており、かつて甲川が氾濫したときに運ばれたという大きな礫も混じっている。後述するが、この黒色土から遺構に釣り合わないほどの大量の遺物が出土している。

御所遺跡はすでに平安時代の遺跡として周知化されているが、これまで本格的な発掘調査が企画されたことはなかったため、その詳細は不明であった。しかし、周辺の水田では昭和50年代から県営圃場整備事業が大規模に施工され、各所で発掘調査が実施されている。

## 調査地点と遺跡の概要

県道改築計画路線のうち平成17年度の施工地内において重機を用いて試掘調査を実施したところ、南側３分の１で遺物が出土したため、800㎡で本発掘調査を実施した。北側では試掘溝を発掘したが、遺構、遺物ともに確認されなかった。

本発掘調査（第３図 県道地点）で検出された遺構は、平安時代の竪穴状遺構１ヶ所、土坑２基と平

安時代の緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、土師器、石器、金属製品、時期不明の溝跡１条である。出土金属製品は保存処理を委託実施した。出土品から、遺構の年代は９世紀後半から10世紀前半頃と思われる。

## 検出された遺構と遺物

### １号竪穴状遺構（第５図～第10図）

南北8.5m×東西４mの範囲が不定形に落ち込んでいたため、竪穴状遺構として発掘調査を実施した。調査地区は先述したとおり尾根上の凹地であったため、本遺構もそうした自然地形のくぼみではないかと疑ったが、遺物が多量に出土し、さらに炭化材、焼土、金属製品も確認されたことから、性格は不明ながら遺構として認定した。竪穴住居であることを示すカマドなどの施設は確認されなかったが、貼床かと思われる固くしまった黄褐色土層（18層）が認められた。

遺構埋土からは満遍なく土師器等の破片が大量に出土し、フイゴ羽口破片、土錘、刀子などのほか、緑釉陶器がまとまって出土している。

山梨県北西部の平安時代遺跡群は一般的な集落跡が主体で、そこから出土する緑釉陶器は破片資料ばかりで、数量もごく限られる。ところが本遺跡では、ほぼ完形の高台付皿の緑釉陶器を含めて破片152点474gが出土した。これらの緑釉陶器の出土状況には、特別な様子はなく、遺構埋土のうち主に２層および15層の黒褐色土層から小片となって出土しており、灰釉陶器、須恵器、土師器も同じ状況で出土している。９図－３の緑釉陶器椀は２層中から潰れた状態で出土している。緑釉陶器は乳白色の軟質胎土で、釉調は明るい緑がかった鶯色である。薄い円盤状の高台が貼り付けられている。こうした特長から関西系の製品ではないかとも考えられ、東山道沿線の当地方でよく見られる瀬戸美濃系の緑釉陶器とは異なっている。

金属製品は、刀子１点、釘１点と板状製品がある（10図）。この板状製品は、狐原遺跡で出土した「墓誌」と推測される金属製品に類似しているが、X線写真では刻印、刻字は認められなかった。竪穴状遺構南側の大きな礫の横の床面上で出土しているが、墓を思わせる遺物の出土状況ではなかった。

### １号土坑

１号竪穴状遺構の北西で検出された浅い土坑で、長軸３m、短軸2.4mである。土師器等が出土している。

### ２号土坑

１号竪穴状遺構の北西で検出された浅い土坑で、３m四方の隅丸方形である。南側に溝状の張り出しがあるが、遺構がすぐに途切れるため、溝として延長していたのか不明である。土師器破片、滑石製臼玉が出土している。臼玉（12図－５）は、土坑北東角の床面から壁面に立ち上がる付近の土坑底部で出土している。

### １号溝

調査区域の南端で検出された。人工的な溝跡と思われるが、調査範囲が限られるため、性格は不明である。

第12図に示した土層観察図は、調査区東側の壁面で作図したものである。

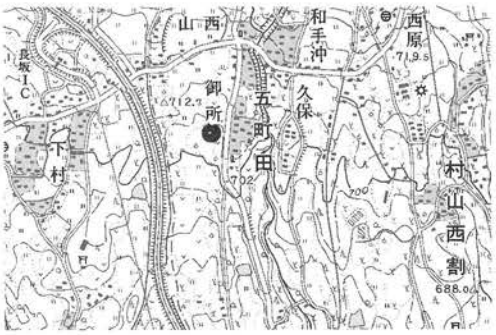
本調査区域は、発掘調査が終了した後、道路改築工事が施工されている。調査に係わる記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。なお末筆ながら、発掘調査に協力いただいた関係機関、各位に感謝申し上げる。

（佐野隆）

注

森原明廣ほか　1996『狐原遺跡　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第120集』山梨県教育委員会
山梨県林務部

# 6　御所（ごしょ）遺跡



調査地点位置図

所　在　地　北杜市高根町五町田字御所854-1番地
調査原因　民間工場建設工事
調査期間　2006年２月13日～2006年２月22日
調査面積　345㎡
担　当　者　佐野隆

## 発掘調査に至る経緯

ここで報告するのは、本年報前頁で報告した御所遺跡の別地点での発掘調査結果である。先述したとおり御所遺跡周辺で県道改築工事が計画されたが、その際、いくつかの店舗・住宅が移転することとなった。そのうちのひとつ、民間自動車工場は、移転先が先述した県道改築工事に伴う発掘調査地点（以下「県道地点」と仮称する）の東側に隣接する地点となった。同地点の地盤は軟弱であるため、深い基礎を施工するという計画であったため、建築主と協議の上、発掘調査を実施することとした。

本調査の原因となった民間自動車工場は零細事業者と認められたため、国庫補助事業において発掘調査を実施することとした。本報告はこの発掘調査の本報告書である。図版、出土品観察表を先の県道地点の報告中に併せて掲載しているので、参照していただきたい。

| | |
|---|---|
| 文化財保護法第93条による通知 | 平成18年１月31日付け |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成18年２月17日付け教学文第2683号 |
| 文化財保護法第99条による発掘着手報告 | 平成18年２月21日付け北杜生学第1274-3号 |
| 同条による発掘終了報告 | 平成18年４月18日付け北杜生学第99-4号 |
| 埋蔵物発見届 | 平成18年４月18日付け北杜生学99-1号 |
| 埋蔵物保管請書 | 平成18年４月18日付け北杜生学99-2号 |
| 埋蔵文化財保管証 | 平成18年４月18日付け北杜生学99-3号 |

発掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡１棟が検出された。県道地点から東へわずか数メートルでの発掘調査であったが、明確な遺構が確認されたこととは対照的に、県道地点ほどの緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、土師器は出土しなかった。調査地点は県道地点と同様に尾根上の凹地である。

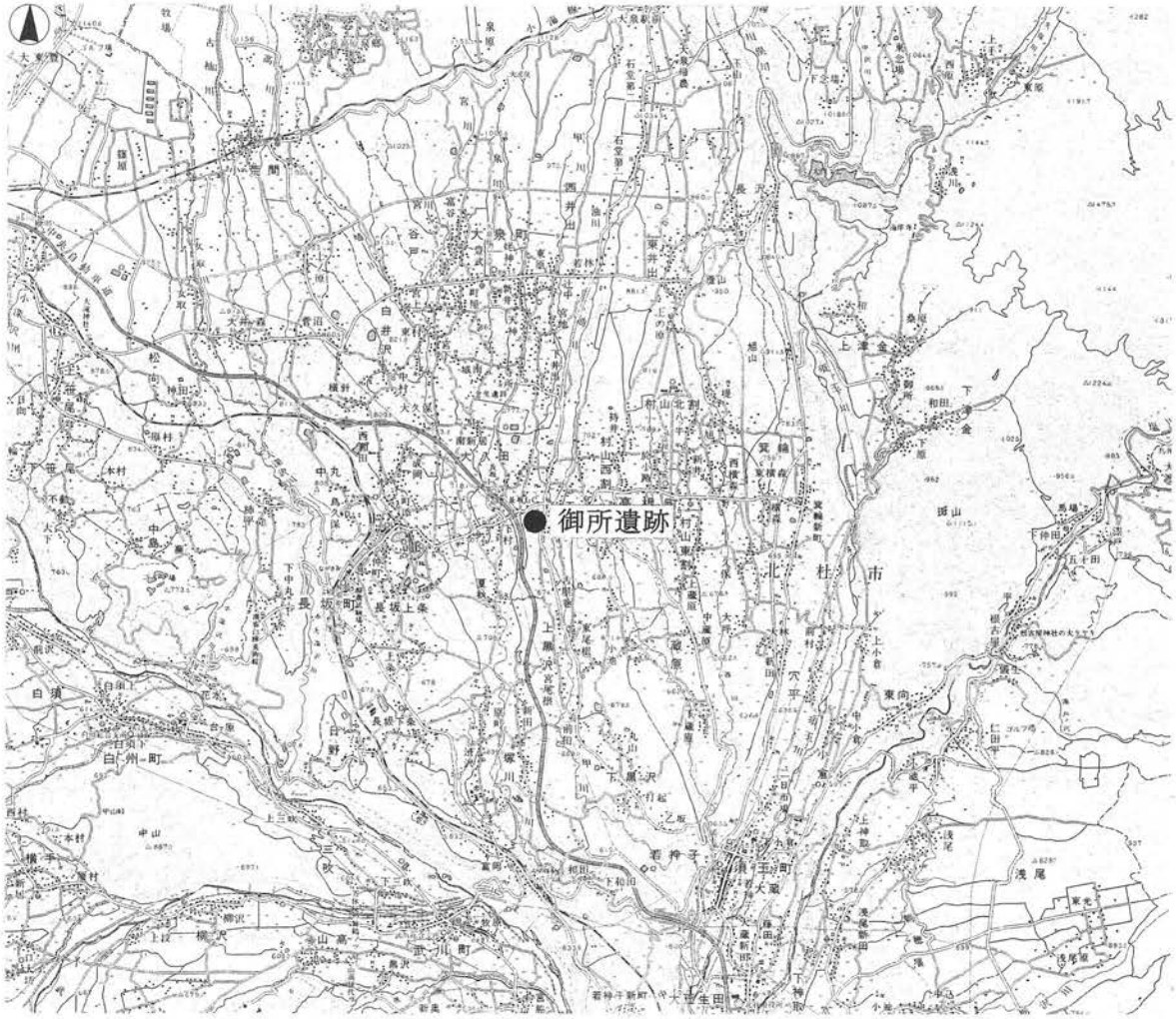
竪穴住居跡は3.8m ×3.8m の方形で、明るい黄褐色の地山面で確認された（12図）。確認面から住居床面までの深さは最大でも10cm と浅い。地山面から上層は県道地点と同様の黒色土である。この住居跡は調査区東端で検出されたため、調査区を区切る壁面において堆積土の断面観察ができた。それによると遺構（６層以下）は確認面から30cm ほど上層の、黒色土から掘り込まれており、本来は黒色土の途中で遺構確認をするべきところであった。しかし、黄褐色の地山面でも少なからぬ土師器等が各所で出土しており、気づかないまま当時の生活面を掘り込んでしまったとも言い切れない状況である。出土品（13図）から住居の時期は10世紀前半頃と想定される。固くしまった床面は検出されず周溝もなかった。

掘立柱建物は２間×２間で、実測図には示さなかったが、出土品から平安時代と判断される。

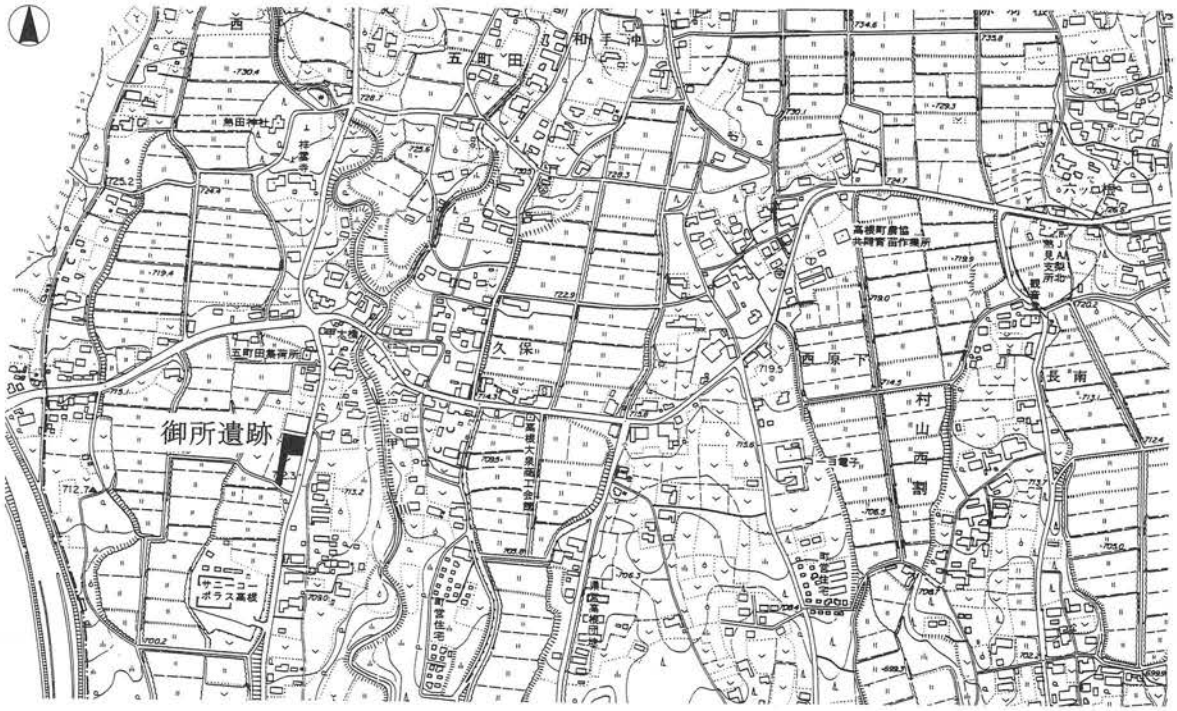
土坑は４号、５号の２基が確認された。うち５号土坑は竪穴住居の床面下で掘り込まれたもので、竪穴住居に係わるものである。４号土坑は調査区西端で検出され、平安時代の土師器１点が出土している。

ほかに置カマド破片、土錘、銅製品破片などが出土している。

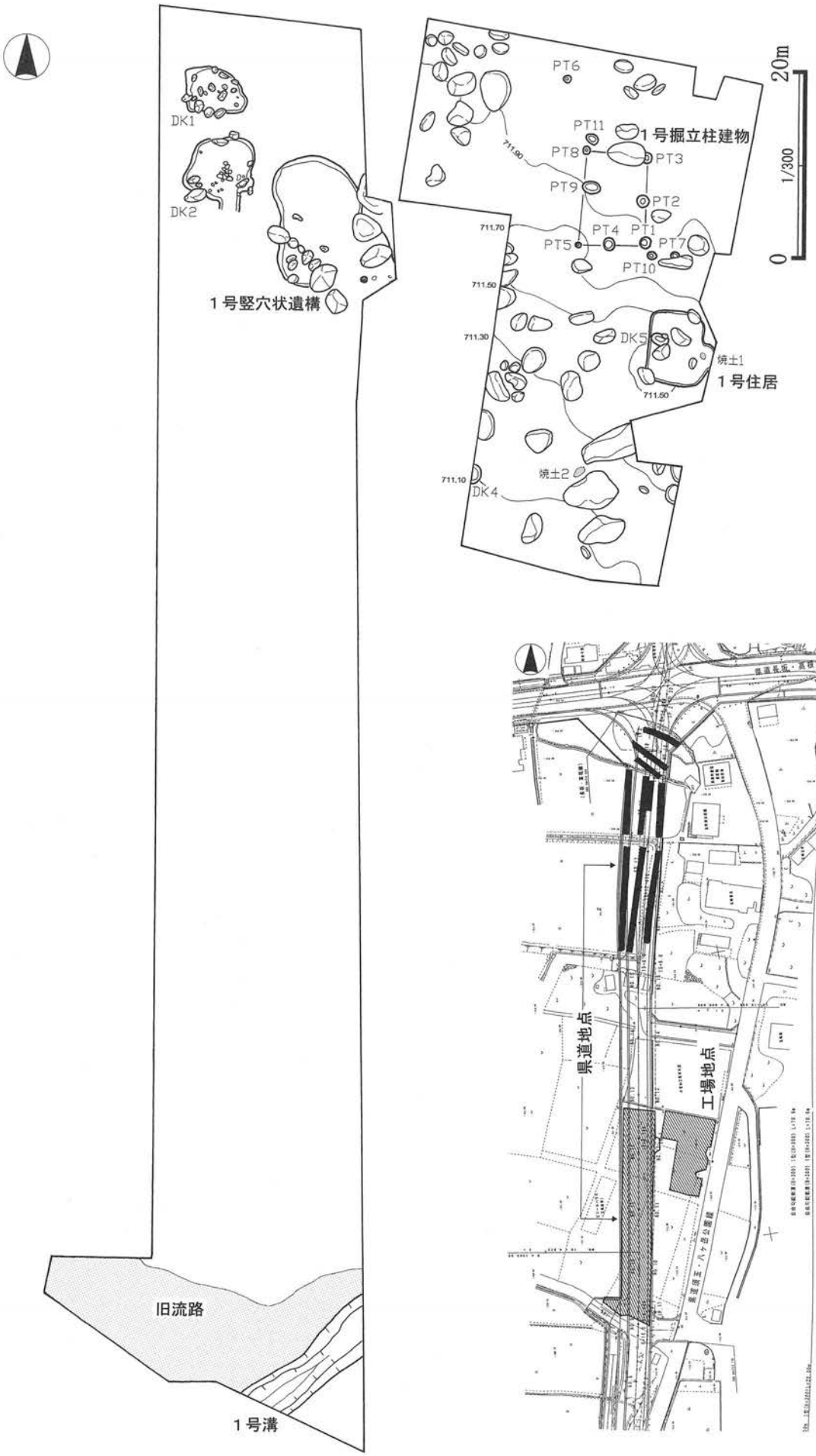
この発掘調査に係わる記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。　（佐野隆）




第１図　遺跡位置図（１／100,000）



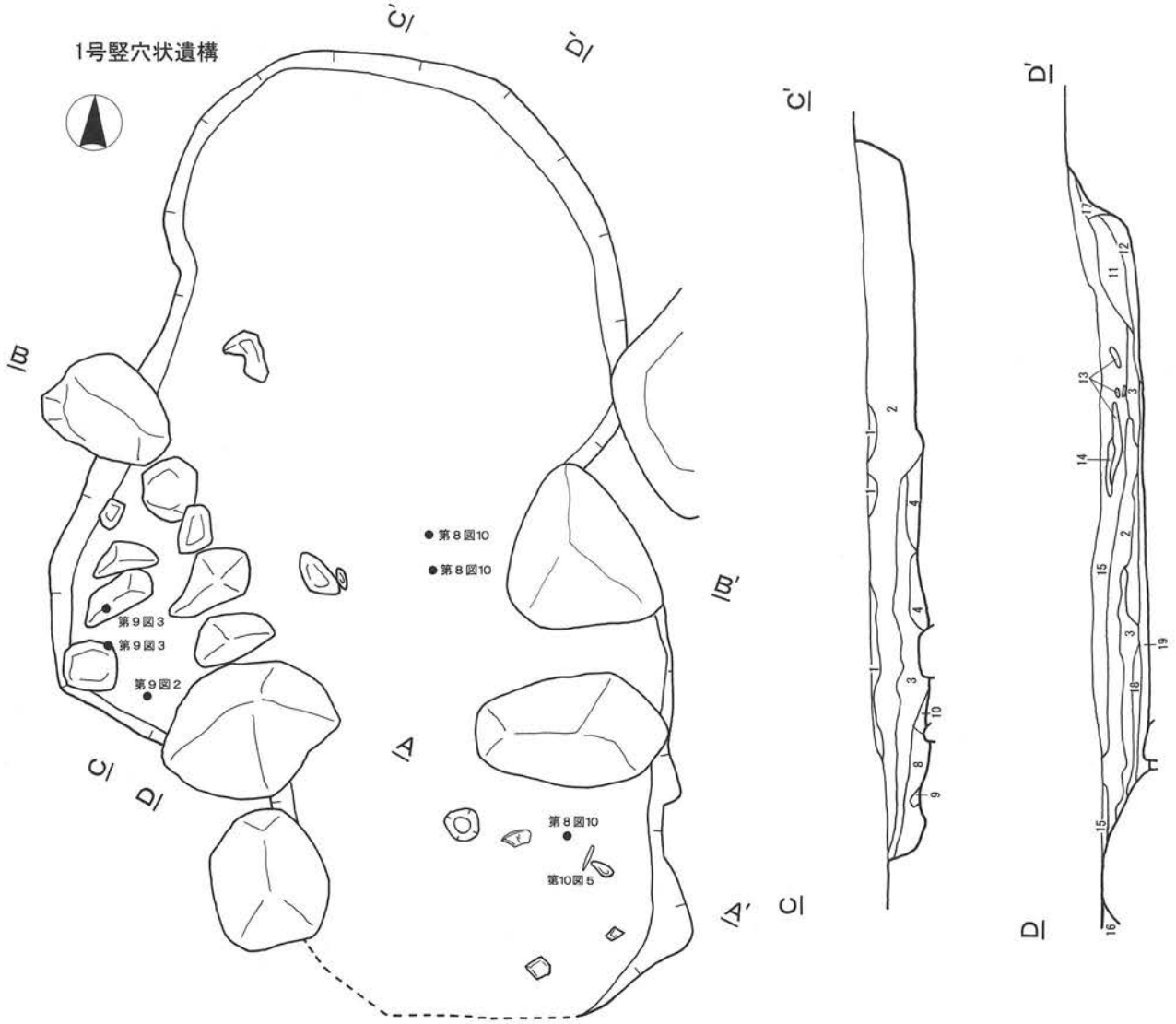

第２図　調査区位置図（１／10,000）

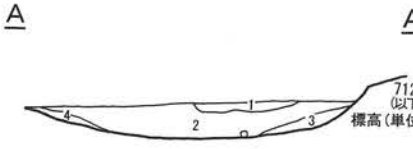



第４図　遺構配置図

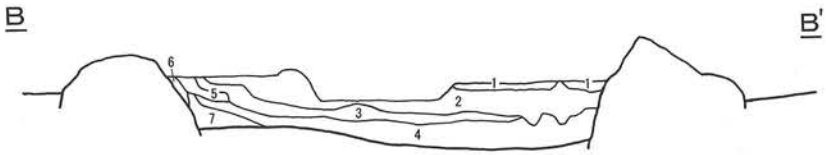



第３図　土木工事の範囲と調査の範囲（１／２,０００）



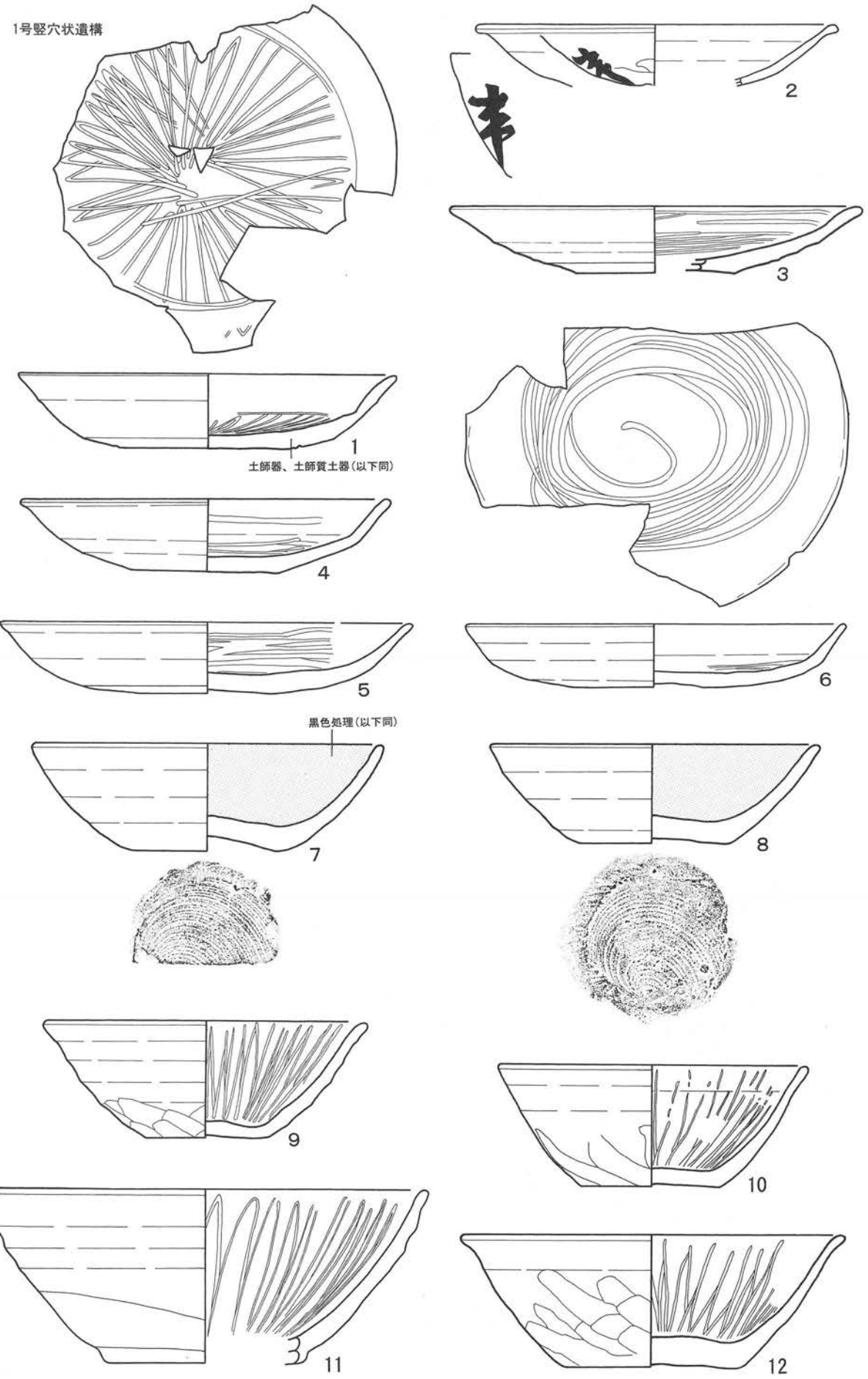




1層　10YR4/1(褐灰)。ローム粒、炭、焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
2層　10YR3/1(黒褐)。ローム粒、炭、0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
3層　2.5Y4/2(暗灰黄)。ローム土と黒色土が混じった土。ローム粒と0.5cm大のロームブロック、炭をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
4層　10YR4/2(灰黄褐)。炭、ローム粒、0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。

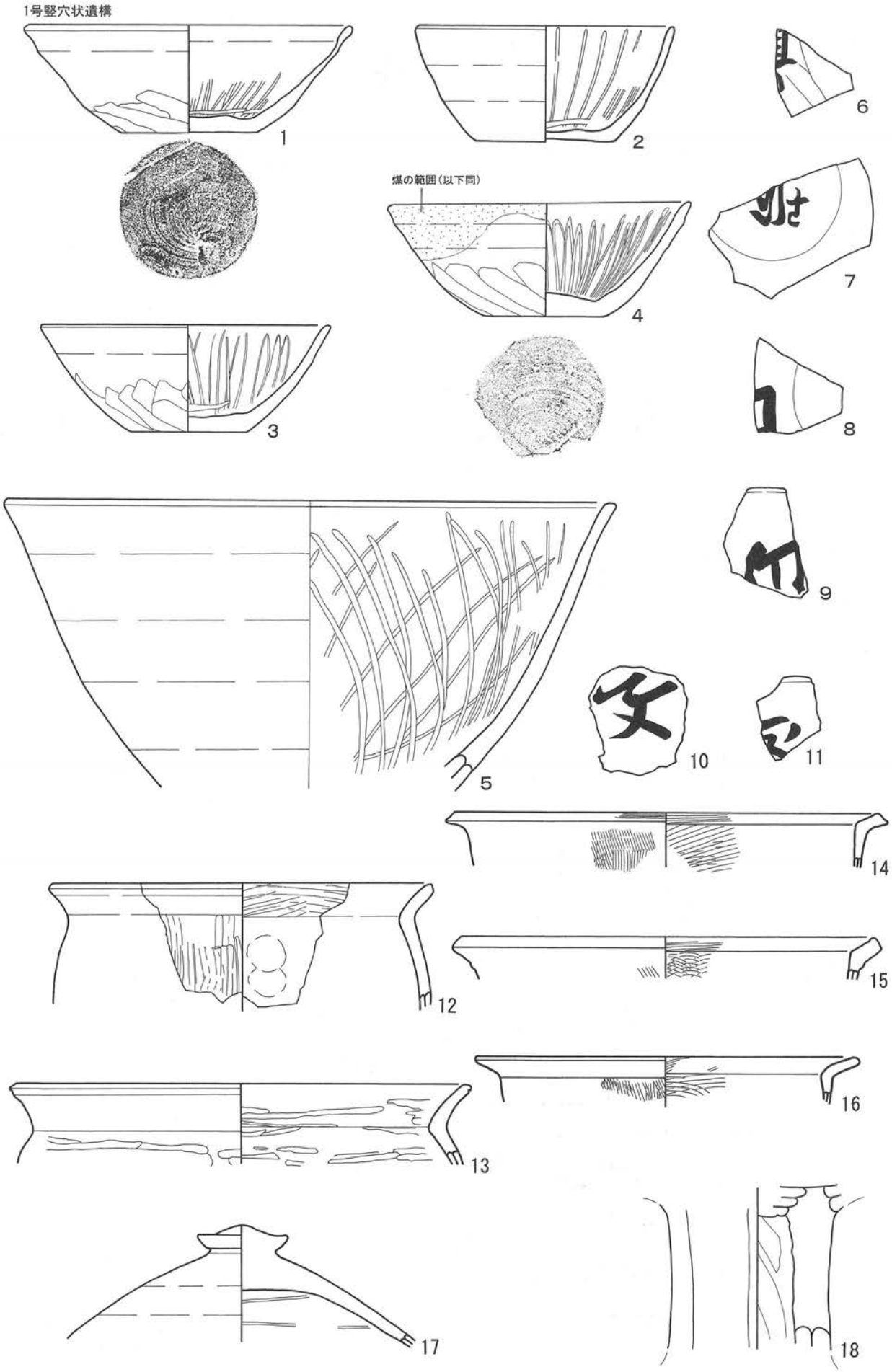



1層　10YR4/1(褐灰)。砂を含む。小石、炭、焼土粒もわずかに含む。しまりあり。粘性弱い。
2層　10YR3/1(黒褐)。黒色土層で焼土塊、焼土粒、炭を多く含む。ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
3層　10YR5/2(灰黄褐)。ローム粒、0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
4層　10YR4/1(褐灰)。きめ細かい土。ローム粒、0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
5層　10YR5/2(灰黄褐)。焼土粒を含む。炭、ローム土をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
6層　10YR4/1(褐灰)。焼土粒、ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
7層　10YR5/3(にぶい黄褐)。ローム系の土。ローム粒、炭をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
8層　10YR4/1(褐灰)。黒色土に、暗褐土とローム粒を含む。しまりあり。粘性あり。
9層　10YR6/6(明黄褐)。ローム土に0.5～1cm大のロームブロックを含む。しまりあり。粘性あり。
10層　10YR5/3(にぶい黄褐)。砂を含む。ローム粒と炭をわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
11層　2.5Y5/2(暗灰黄)。きめ細かい土に、砂、ローム粒、黒色土をわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
12層　2.5Y4/1(黄灰)。ローム粒と0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
13層　10YR6/1(褐灰)。灰の層。焼土と黒色土をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
14層　10YR3/1(黒褐)。黒色土に焼土を含む。しまりあり。粘性あり。
15層　10YR4/1(褐灰)。焼土粒、炭が多く、ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
16層　10YR4/2(灰黄褐)。炭、小石、ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
17層　2.5Y5/3(にぶい黄褐)。ローム粒、0.5cm大のロームブロックを含む。しまりあり。粘性あり。
18層　10YR5/4(にぶい黄褐)。褐色土と1～5cm大のロームブロックを含む(貼床)。しまり強い。粘性あり。
19層　10YR3/1(黒褐)。きめ細かい黒褐色土。ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。

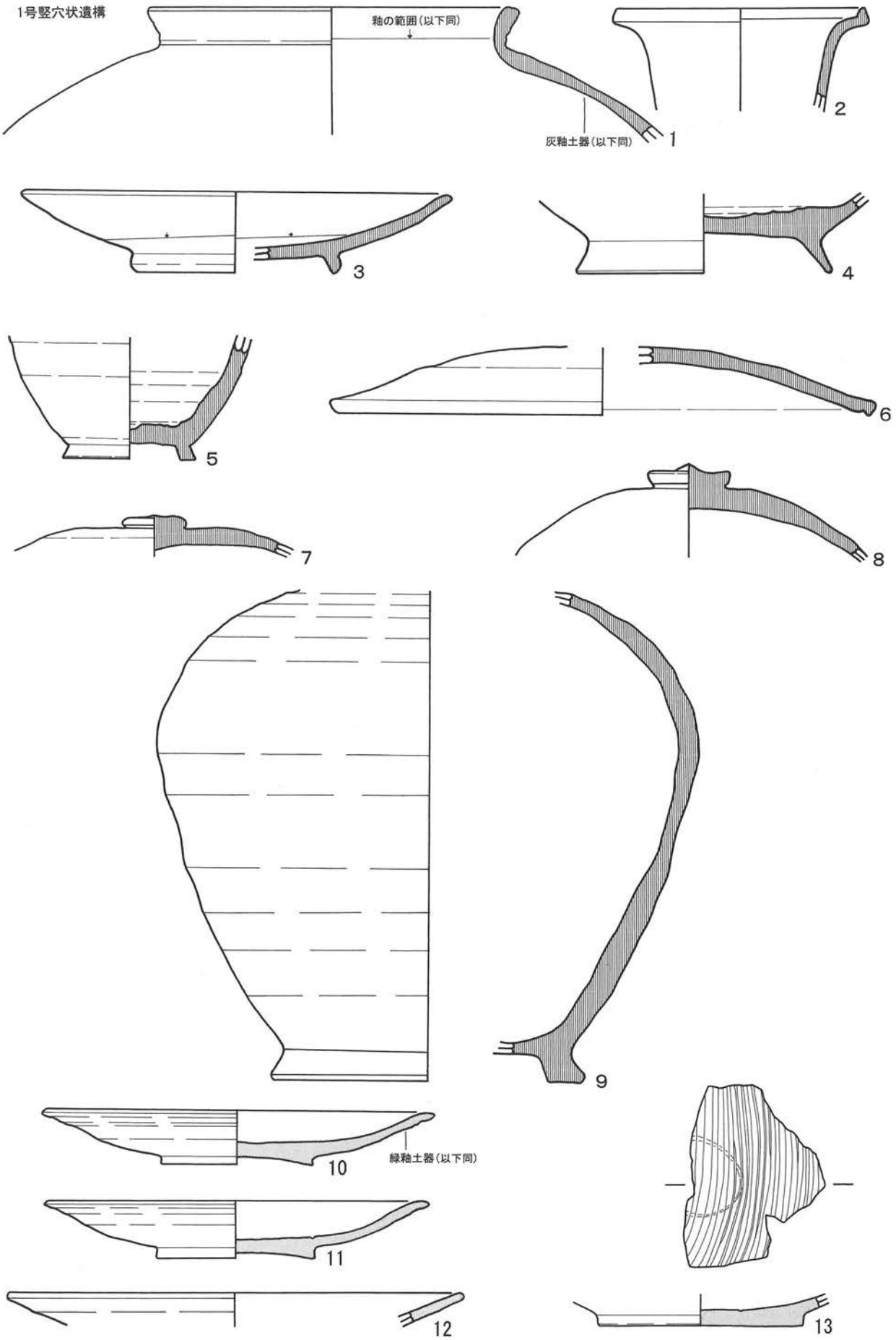
第5図　1号竪穴状遺構（1／60）



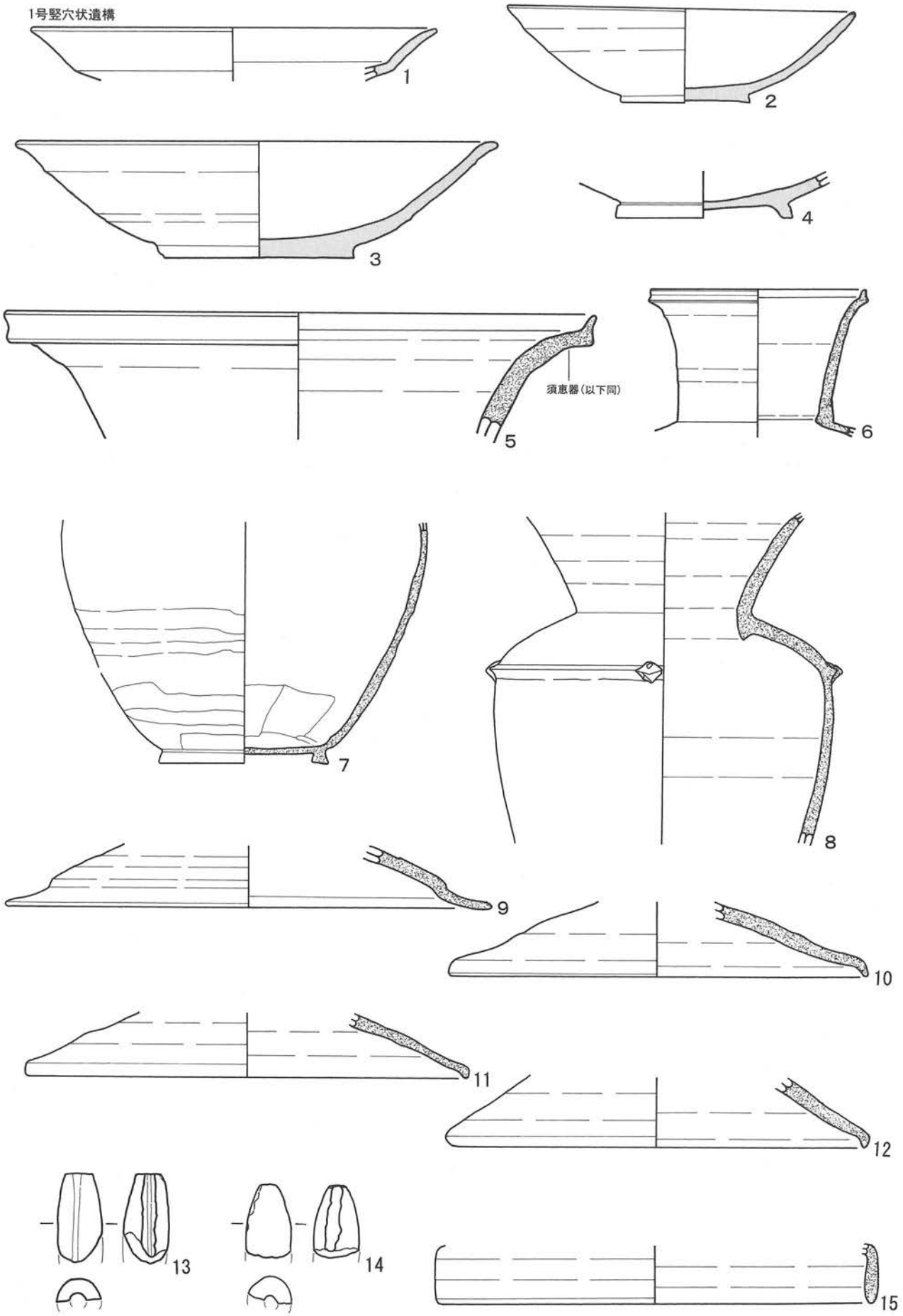

第６図　出土遺物（１／２）



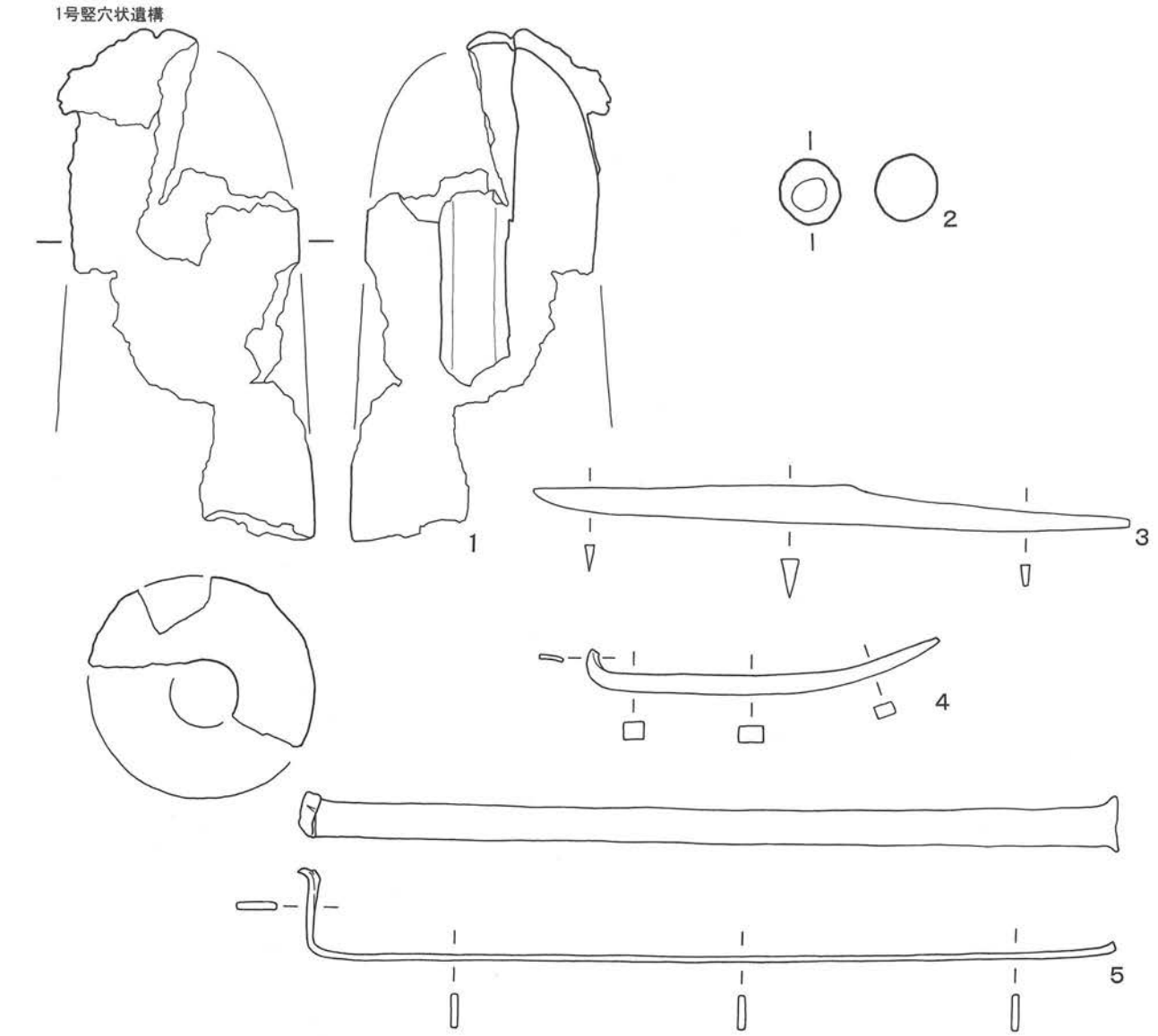

第７図　出土遺物（１／２、14~16　１／４）

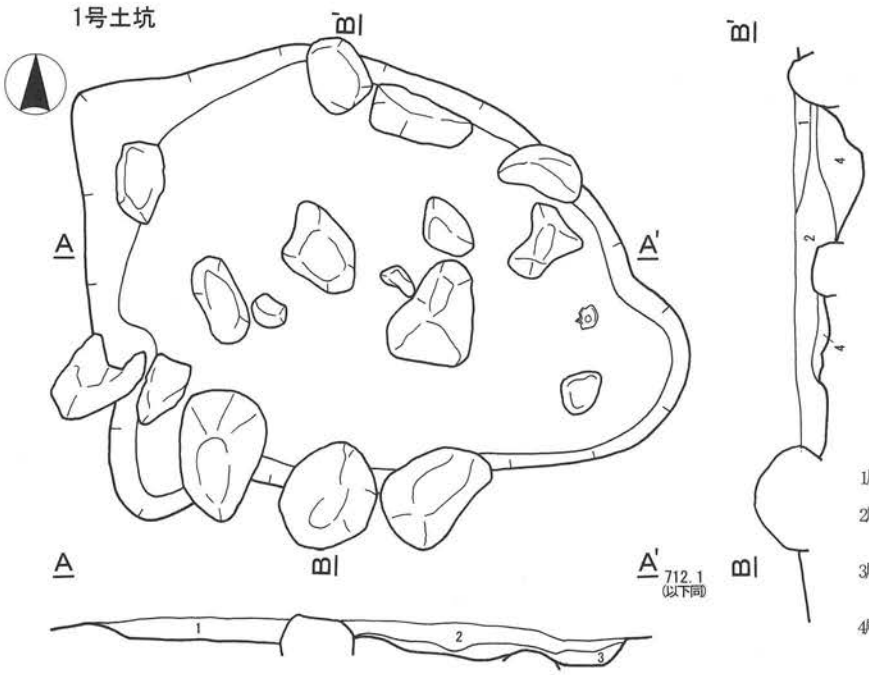



第８図　出土遺物（１／２）



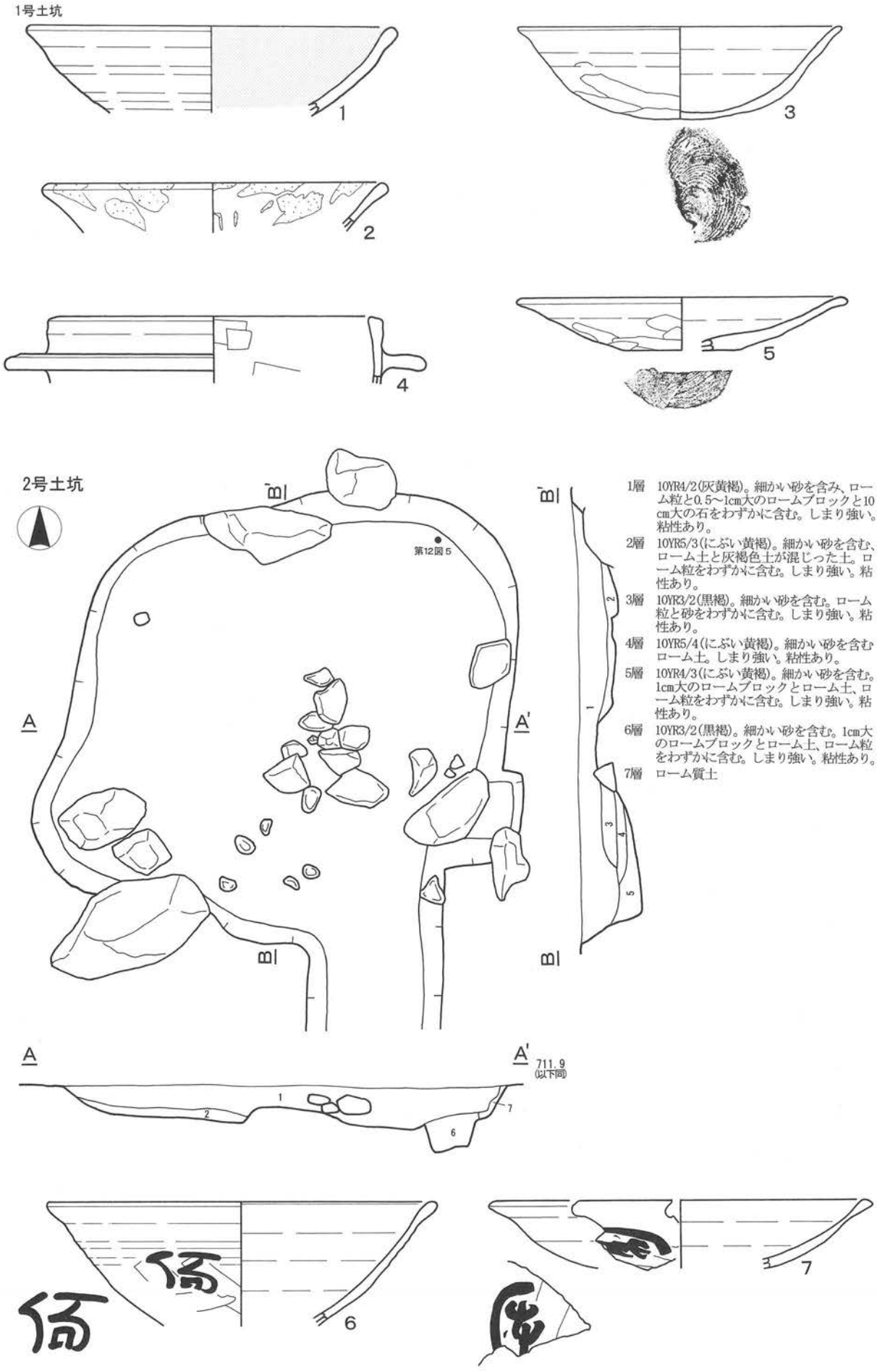

第9図　出土遺物（1／2、6～8　1／4）



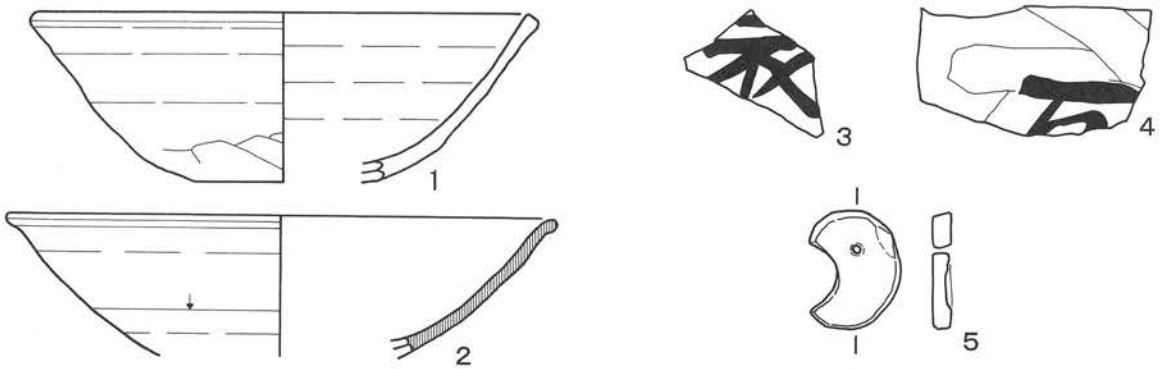

1層　10YR4/3(にぶい黄褐)。黒色土をわずかに含むローム質土。しまりあり。粘性なし。
2層　10YR3/1(黒褐)。細かい砂と炭、ローム粒をわずかに含む、きめの細かい黒色土。10cm大の石を多く含む。しまりあり。粘性強い。
3層　2.5Y3/2(黒褐)。ローム粒をわずかに含むローム土と黒色土が混じった土。10cm大の砂を少量含む。しまりあり。粘性あり。
4層　10YR4/1(褐灰)。灰色土。10cm大の石を多く含む。しまり弱い。粘性あり。

第10図　１号土坑（１／40）出土遺物（１／２、５　１／４）

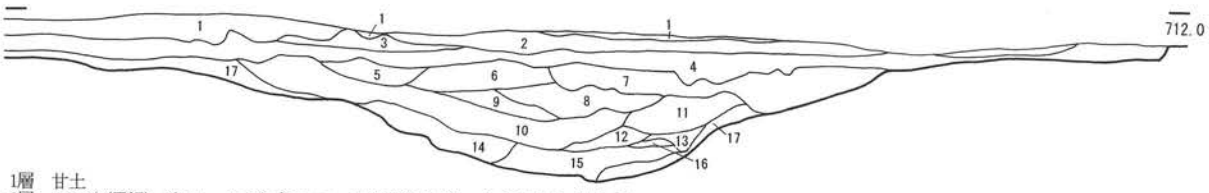



第11図　２号土坑（１／40）出土遺物（１／２、４　１／４）

2号土坑

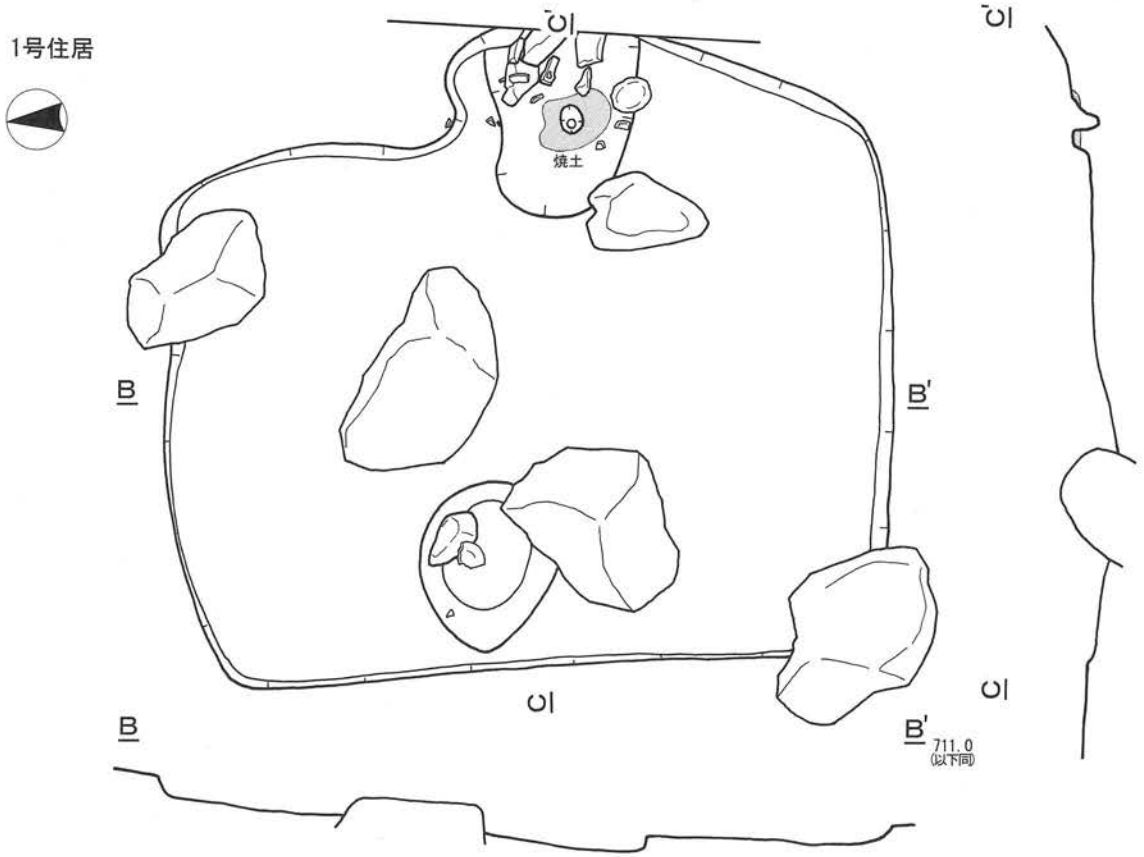



1号溝



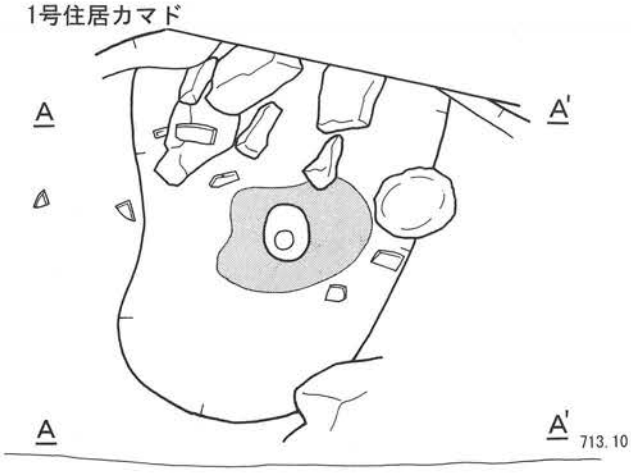

1層　甘土
2層　10YR3/2(黒褐)。砂、ローム玉を含み、ローム粒を多く含む。しまりあり。粘性なし。
3層　10YR3/1(黒褐)。砂、ローム玉を含み、ローム粒を多く含む。しまり弱い。粘性なし。
4層　10YR4/2(灰黄褐)。砂、ローム玉を含み、ローム粒を多く含む。しまりあり。粘性なし。
5層　10YR3/1(黒褐)。0.5～1cm大の灰褐色土ブロックをわずかに含む、きめ細かいサラサラの土。しまりあり。粘性弱い。
6層　10YR3/2(黒褐)。ローム粒を多く含み、0.5cm大のローム玉をわずかに含む。黒色土にローム粒の混じった0.5～1cm大のロームブロックを少し含む、きめの細かいサラサラの土。しまりあり。粘性なし。
7層　10YR4/3(にぶい黄褐)。ローム粒と黒色土が混じったきめの細かいサラサラの土。ローム粒を多く含み、0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性弱い。
8層　10YR3/1(黒褐)。ローム粒を含む。ローム粒を含んだ1cm大の灰褐色土ブロックをわずかに含む。0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性弱い。
9層　2.5Y4/1(黄灰)。ローム粒を含む。ローム粒を含んだ1cm大の灰褐色土ブロックを少し含む。0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性なし。
10層　10YR3/1(黒褐)。ローム粒を含む。ローム粒を含んだ1cm大の灰褐色土ブロックを少し含む。砂を含む。しまりあり。粘性弱い。
11層　2.5Y5/3(黄褐)。ローム粒を多く含み、0.5～2cm大のロームブロックを少し含む。しまりあり。粘性弱い。
12層　10YR3/2(黒褐)。砂と小石、ローム粒を含み、ローム土を少し含む。しまりあり。粘性弱い。
13層　10YR7/3(にぶい黄褐)。小石を少し含む、ローム土と黄灰色土。しまりあり。粘性あり。
14層　10YR3/1(黒褐)。砂粒、ローム粒、小石を含む。しまりあり。粘性あり。
15層　10YR3/1(黒褐)。砂粒、10～30cm大の石を含む。ローム粒と黒色土を少し含む。しまりあり。粘性あり。
16層　2.5Y4/1(黄灰)。ローム粒、小石を含む、ローム土と褐色土の混じった土。しまりあり。粘性あり。
17層　地山

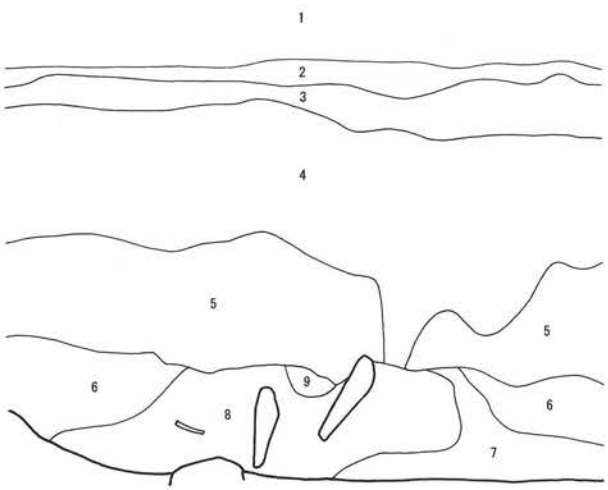
1号住居

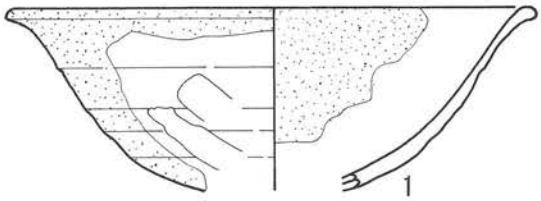



第12図　出土遺物（1／2）　1号溝（1／80）　1号住居（1／40）

1号住居カマド

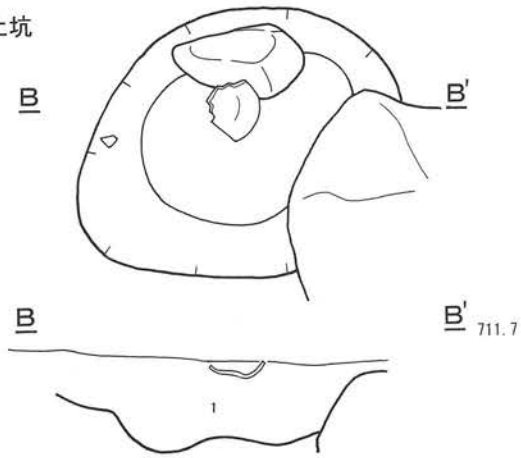


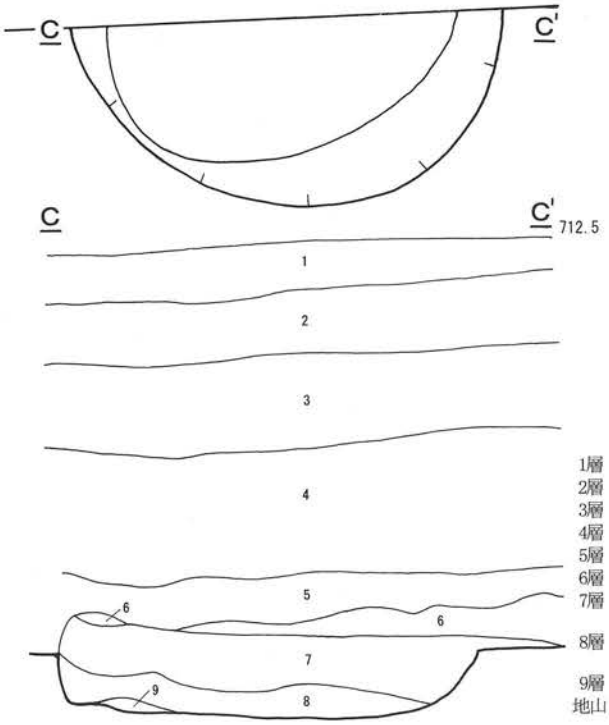

1層　カクラン
2層　7.5YR6/8(橙)。粘土。しまりなし(土壌硬度296.17kpa)。
3層　7.5YR2/2(黒褐)。細粒土。ややしまる(土壌硬度342.26kpa)。
4層　7.5YR3/2(黒褐)。細粒土。しまりなし(土壌硬度296.17kpa)。
5層　7.5YR3/3(暗褐)。細粒土。ややしまる(土壌硬度616.86kpa)。
6層　7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/4(暗褐)が40%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度531.54kpa)。
7層　7.5YR3/4(暗褐)に7.5YR4/3(褐)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度458.97kpa)。
8層　5YR3/3(暗赤褐)に7.5YR4/3(褐)が30%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度531.54kpa)。
9層　7.5YR5/3(にぶい褐)に焼土が1%、灰が1%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる(土壌硬度717.87kpa)。

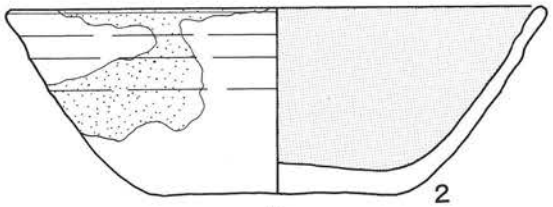
5号土坑




1層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、炭化物1%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度368.74kpa)。

4号土坑

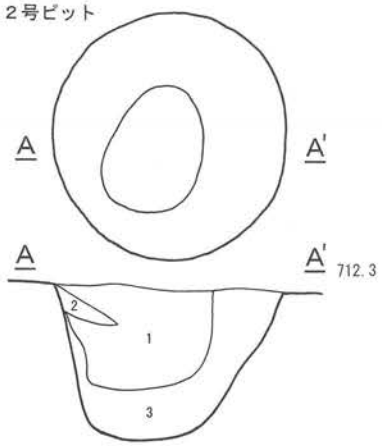


1層　カクラン
2層　耕作土
3層　5YR3/2(暗赤褐)。シルト粒土。しまりなし(土壌硬度493.29kpa)。
4層　5YR3/3(暗赤褐)。シルト粒土。しまる(土壌硬度717.87kpa)。
5層　7.5YR3/2(黒褐)。シルト粒土。しまる(土壌硬度774.75kpa)。
6層　7.5YR2/3(黒褐)。シルト粒土。しまる(土壌硬度774.75kpa)。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%と焼土粒が1%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度426.60kpa)。
8層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が20%と、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる(土壌硬度342.26kpa)。
9層　10YR3/3(暗褐)。シルト粒土。しまりなし(土壌硬度274.60kpa)。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。しまる(土壌硬度717.87kpa)。

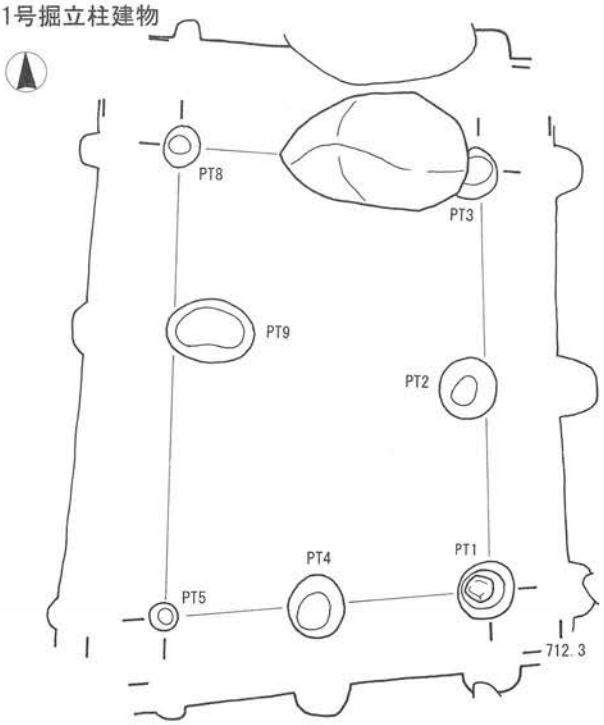
第13図　1号住居カマド、4号、5号土坑（1／20）　出土遺物（1／2）

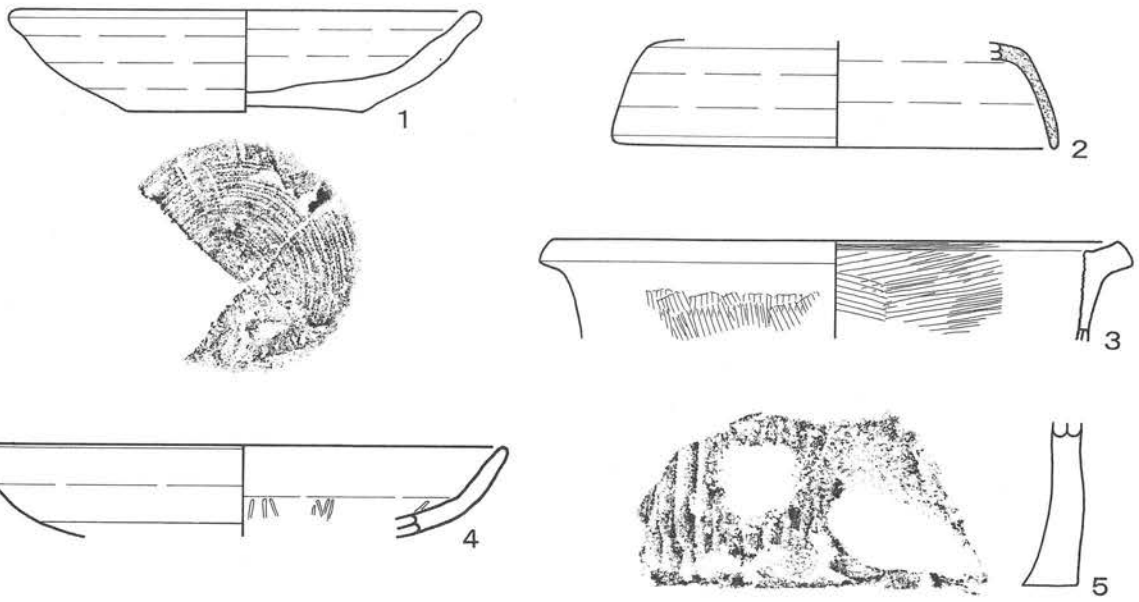
2号ピット

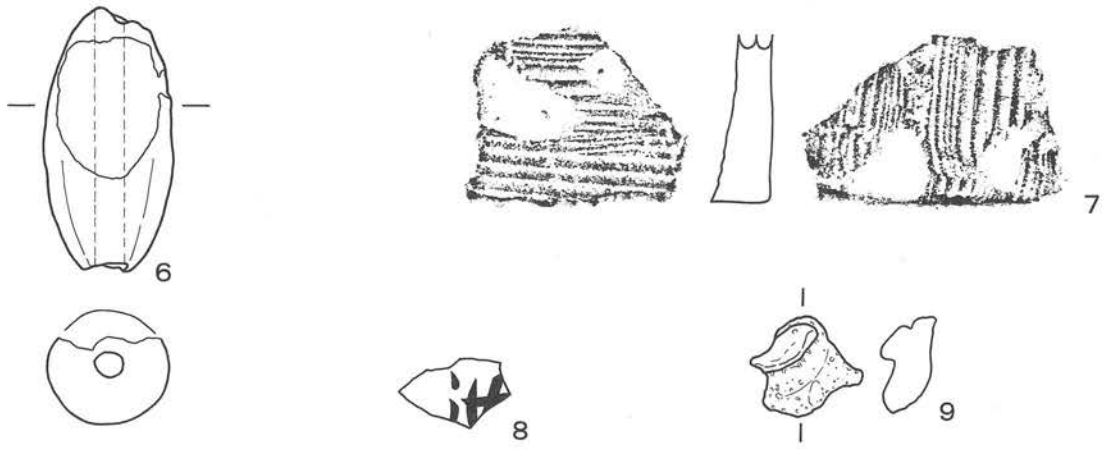



1層　10YR2/2（黒褐）に10YR3/3（暗褐）が30%混じる。シルト粒土。（柱痕）ややしまる（土壌硬度342.26kpa）。
2層　10YR5/6（黄褐）。シルト粒土。ややしまる（土壌硬度531.54kpa）。
3層　10YR4/6（褐）に10YR5/6（明褐）が20%混じる。シルト粒土。ややしまる（土壌硬度318.73kpa）。
地山　10YR5/6（黄褐）。シルト粒土。しまる（土壌硬度664.91kpa）。

1号掘立柱建物

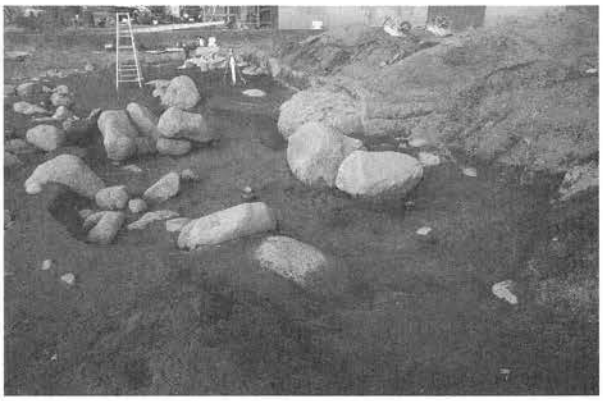



第14図　２号ピット（１／20）　１号掘立柱建物溝（１／80）　出土遺物（１／２、３　１／４　）

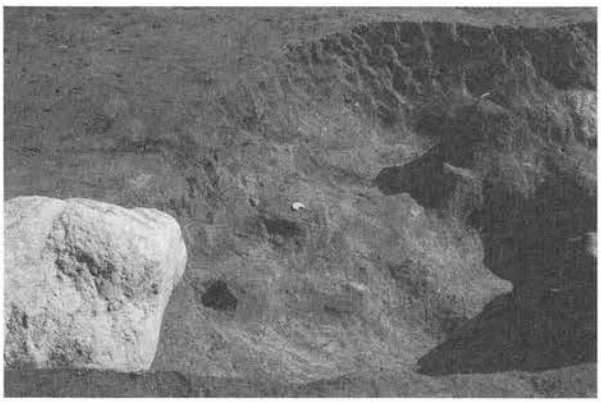
調査地点近景
（中央は工場建設地点。左端が県道改築地点）



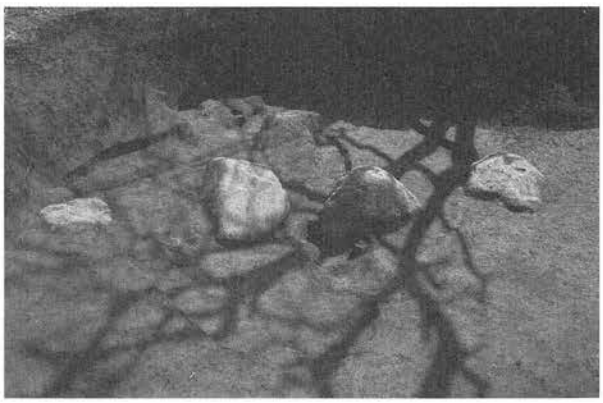
竪穴状遺構

1号土坑（DK1）

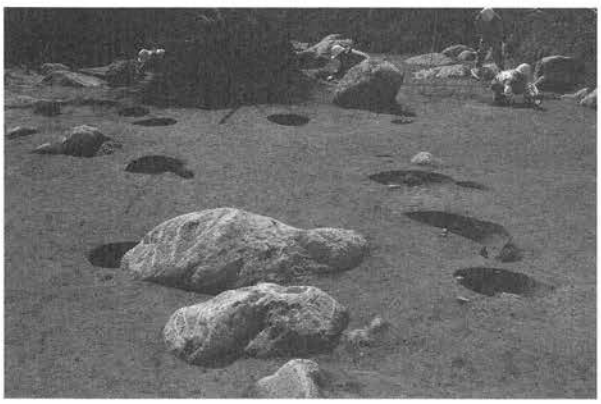
2号土坑（DK2）



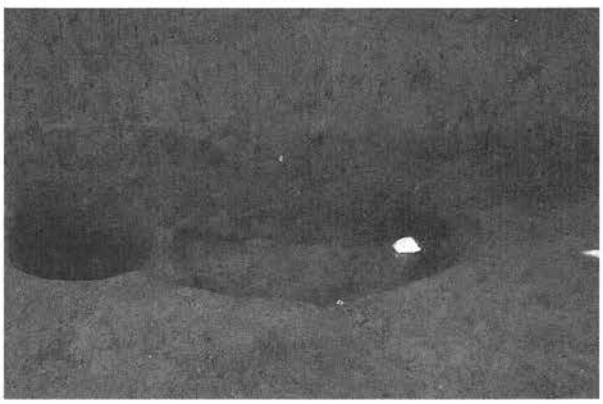
2号土坑の臼玉出土状況



1号住居跡

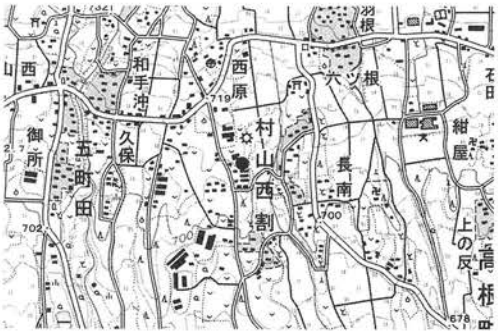


掘立柱建物跡



4号土坑（DK4）

# 7　西ノ原Ｂ遺跡



調査地点位置図

所　在　地　北杜市武川町3567外
調査原因　市営住宅建設
財　　源　市単独
調査期間　2005年10月18日～2006年２月７日（中断）
　　2006年３月13日～2006年３月29日
調査面積　1,202㎡
担　当　者　坂口広太

南に緩やかに傾斜する幅広い尾根の平坦地、標高約700m に立地する。昭和60年に圃場整備事業に伴って発掘調査され、古墳時代前期の住居跡が１軒と縄文時代の土坑が10基発見された。

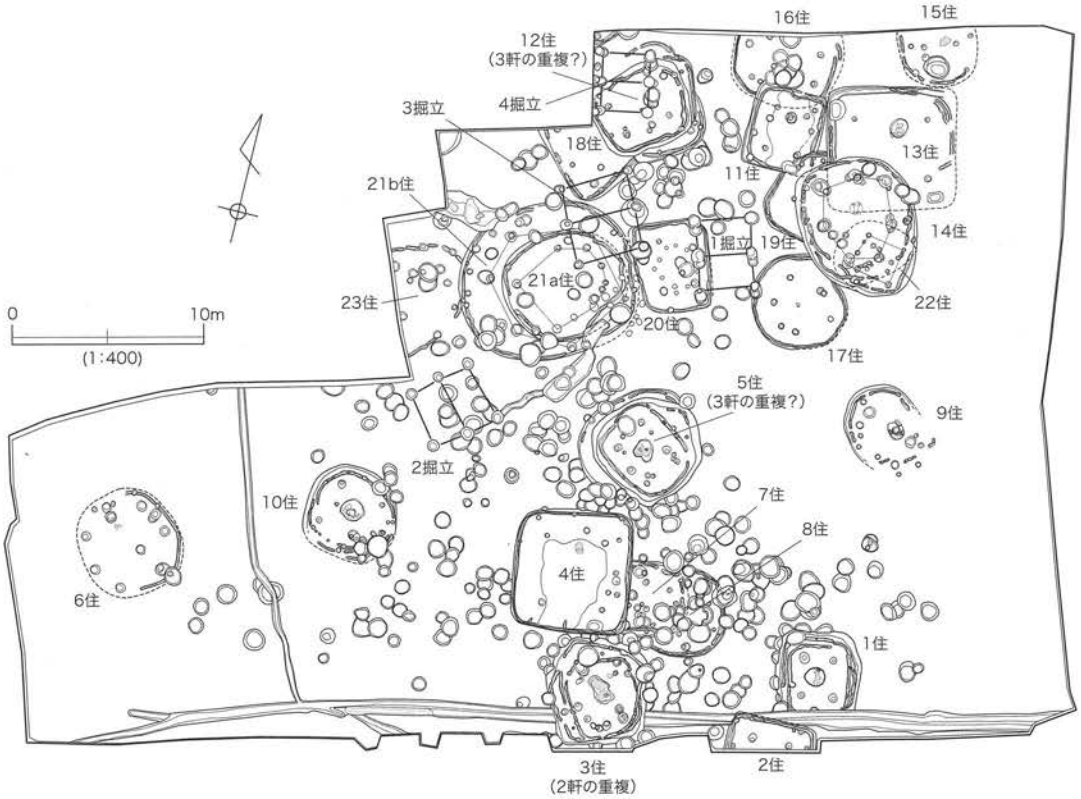
今回発見された遺構は縄文時代前期及び中期の住居跡が19軒、古墳時代前期の住居跡が４軒、掘立柱建物跡が４棟、土坑がおよそ300基である。掘立柱建物跡は１軒×２軒で桁行きが３m前後と概して小型の建物である。出土遺物や覆土の状況から古墳時代前期に比定される。土坑は大多数が縄文時代と考えられるが、非常に浅く形状の不整なものもあり、全てを遺構と判断してよいか今後の整理で検討したい。ここでは各期の特徴的な住居跡について紹介する。

縄文時代前期の５号住居跡は7.2m×６mの楕円形を呈し、掘りこみの残存高が40cmと比較的残りがよい。床面中央付近に地床炉を有する。２軒の住居が重複しているため、床面で検出されたピットの本数は多いが、４本程度の単純な柱穴配置と考えられる。出土した土器は中越式期に比定される無文土器が多く、図示した格子目状の条線を有する土器は特異な存在であった。石器は石鏃が多く、ほかに石匙や磨石、固定式の石皿が出土した。

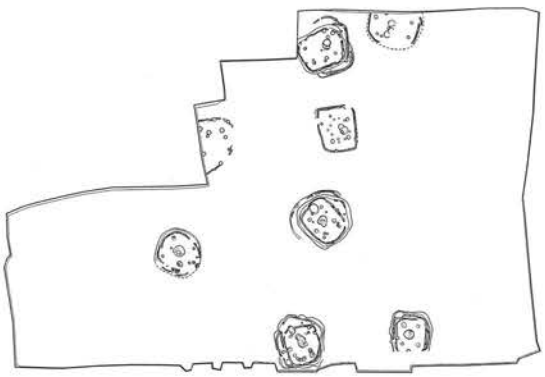
縄文時代中期の９号住居跡は遺構上面の大部分が削平されているため正確な規模・形状は不明である。ピットも脆弱で柱穴配置も定かでない。床面からは埋甕炉が検出されており、炉体として使用された土器は狢沢式期に比定される。

同じく縄文時代中期の14号住居跡は9.6m×8.4mの楕円形を呈する。床面中央よりやや端によった位置に方形の石囲い炉を有する。主柱穴は６～７本で、それぞれに若干の配置換えがうかがえた。住居覆土からは顔面把手１点、土製円盤を含む多量の土器片に加え、打製石斧、横刃形石器、磨石、石鏃が出土した。その出土量は今回の調査における総遺物量の４割近くを占める。図示した抽象文土器は柱穴内から出土した。土器は概ね藤内式期に比定されるが、完形品は少なく、その多くは住居が廃屋となった後、窪地へ廃棄されたものであろう。

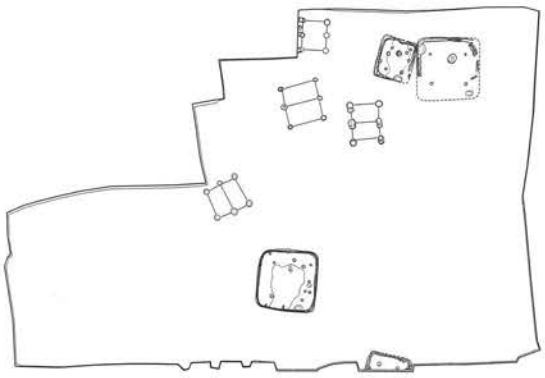
古墳時代前期の４号住居跡は8.4m×8.2mの方形を呈する。床面中央より端によった位置に一辺に石をそえた地床炉を有する。主柱穴は４本である。床面の硬化状況から、南側が出入り口と考えられる。そのすぐ右側に方形の小規模な土坑が検出され、貯蔵穴としての機能が想定される。遺構確認時より多量の焼土と炭化物の粒子が検出されており、掘り下げると焼土は床面中央に層となって堆積し、その下から炭化材が検出された。床面も焼土化した部分があるものの、焼失住居と考えるには炭化材の量が少ないように思われる。出土遺物はわずかで多くが甕や坏の小片である。完形品に近いものでは胴部に小孔を穿った小型壷が挙げられる。（坂口広太）



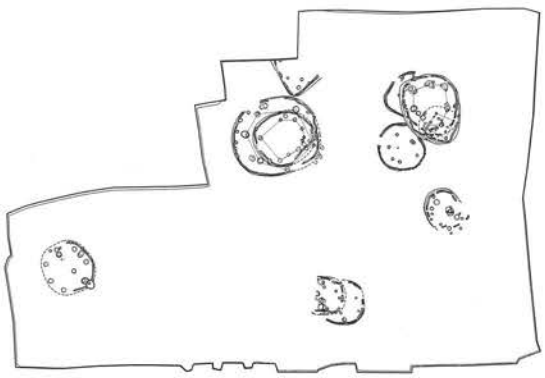

西ノ原B遺跡遺構配置図



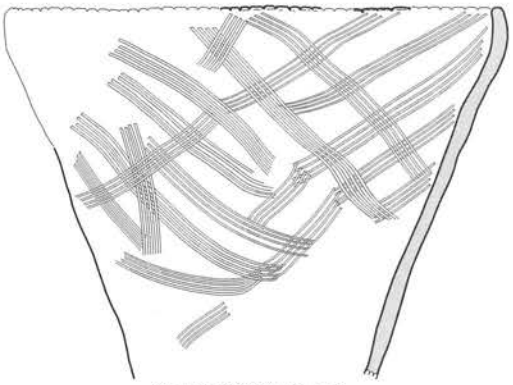
縄文時代前期の遺構



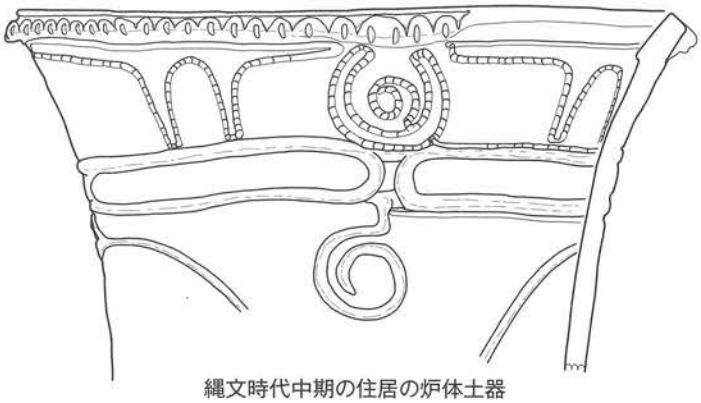
古墳時代前期の遺構



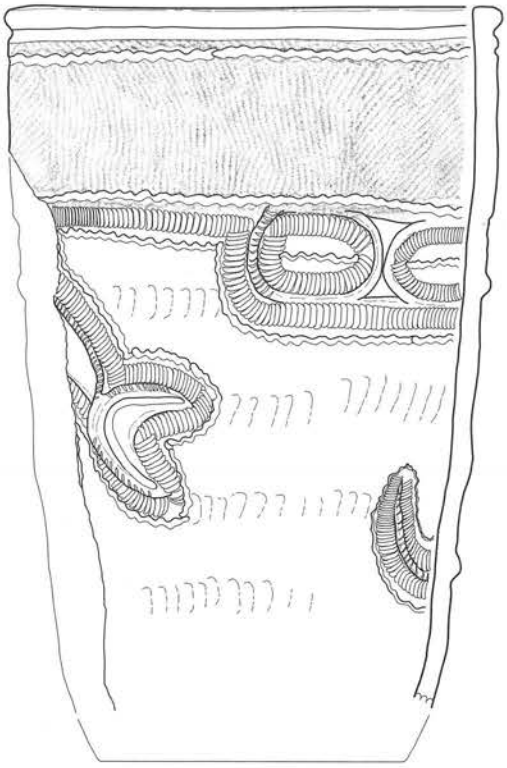
縄文時代中期の遺構



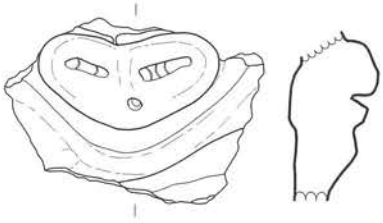
縄文時代前期の土器



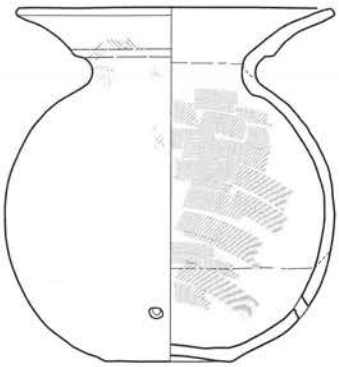
縄文時代中期の住居の炉体土器



縄文時代中期の土器



顔面把手破片



古墳時代前期の土器

写真１　縄文時代前期の住居跡

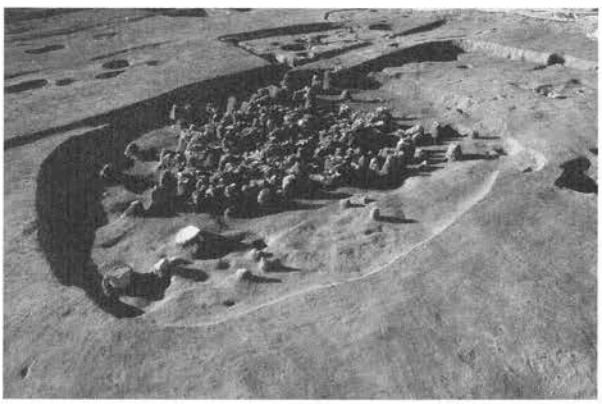


写真２　縄文時代中期の住居跡

写真３　調査区全体写真

写真４　縄文時代中期の住居跡の炉跡

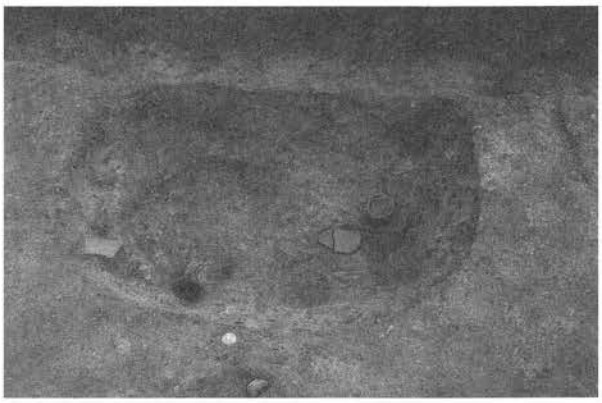


写真５　縄文時代中期の土坑

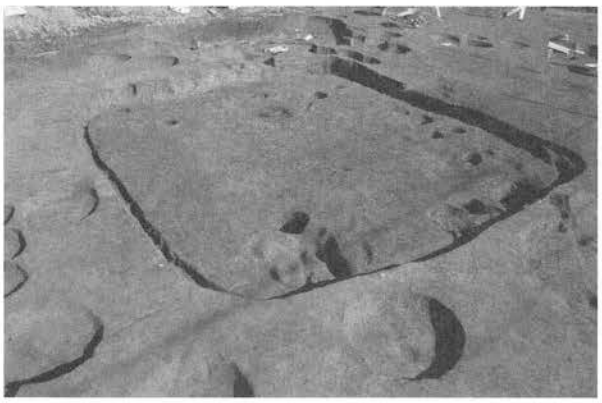


写真６　古墳時代前期の住居跡

写真７　古墳時代前期の土器出土状況

# 8　斜（ななめ）遺跡

調査地点位置図

所　在　地　北杜市高根町下黒沢字斜385番地ほか
調査原因　火葬場建設事業関連道路工事
調査期間　2005年10月４日～2005年10月19日
調査面積　150㎡
担　当　者　渡辺泰彦

周知の埋蔵文化財包蔵地「斜遺跡」において市道改良工事が計画されたため、試掘調査を実施したところ、縄文時代の出土品が多数出土したため、北杜市建設部と北杜市教育委員会とで協議した結果、施工前に発掘調査を実施することとした。この調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 文化財保護法第99条による発掘終了報告 | 平成18年４月18日付け北杜生学第100-4号 |
| 埋蔵物発見届 | 平成18年４月18日付け北杜生学第100-1号 |
| 埋蔵物保管請書 | 平成18年４月18日付け北杜生学第100-2号 |
| 埋蔵文化財保管証 | 平成18年４月18日付け北杜生学第100-3号 |
| 文化財認定通知書 | |

現道を拡幅改良する幅３m、延長320m にわたって発掘調査を実施したところ、縄文時代中期後半（井戸尻３式～曽利Ⅱ式）の竪穴住居３軒、土坑４基と当該時期の土器、石器が地表下わずか10cm程度から検出された。この状況から斜遺跡は、直径数十ｍほどの環状集落であると推測されたが、その保存状態は不良である。なお調査内容は軽微であるため、この報告文をもってこの発掘調査の本報告とする。

１号住居跡は、推定直径3.3m の円形で、炉跡と思われる礫と井戸尻３式土器がまとまって検出された。住居は地表下10ｃｍほどで検出されたが、耕作などによる撹乱がひどく、住居形状は不分明である。調査区域西端の壁面で土層観察を行ったが、住居床面や壁を捉えることはできなかった。また柱穴も精査したが確認できなかった。

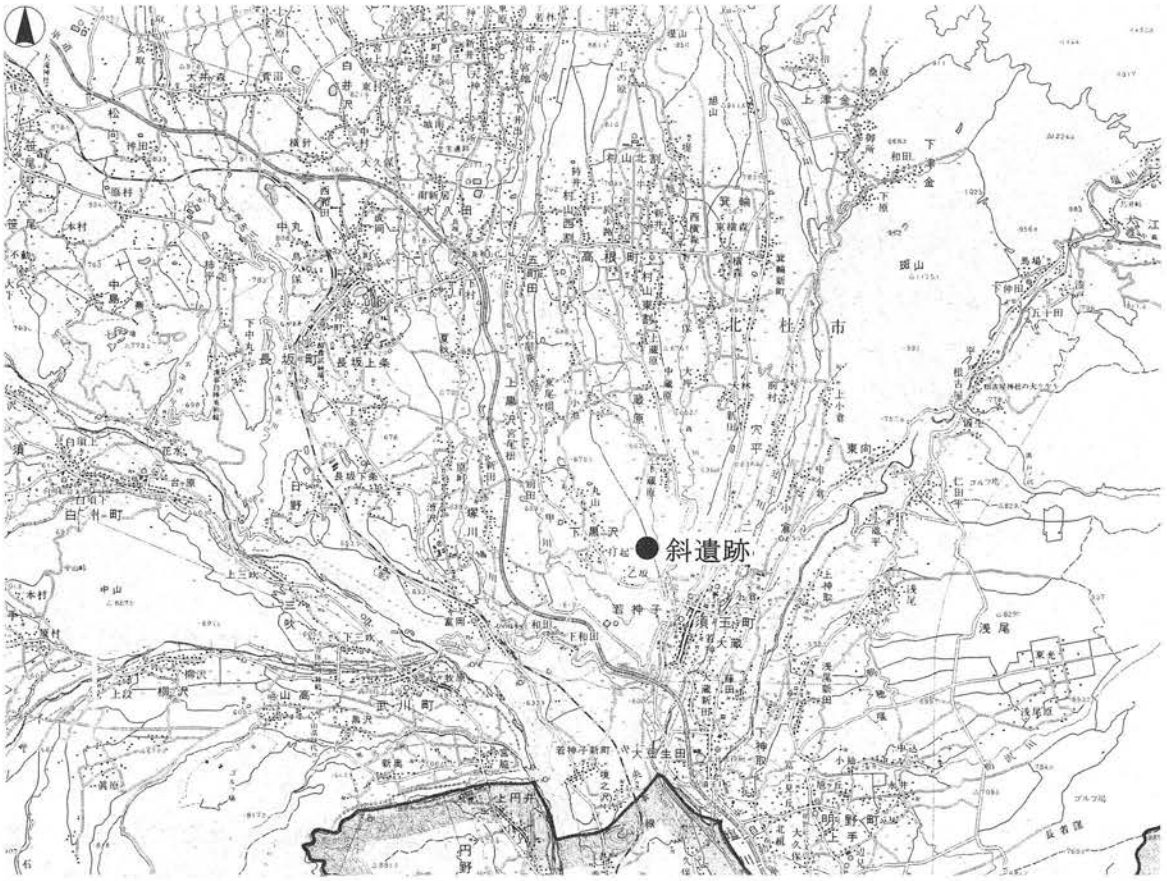
２号住居は、直径5.6mの円形で、炉跡かと思われる礫、土坑２基が検出された。３号土坑は住居埋土上層から掘り込まれており、当住居より新しい遺構である。１号土坑も同様であるが、住居埋土から出土した曽利２式土器と１号土坑から出土した井戸尻３式末ころの土器との新旧関係と遺構の切り合い関係は矛盾する。２号住居が１号土坑よりも古い時期の遺構であるとするならば、曽利２式土器は後世の流入か廃棄ということになろうか。ただし、住居埋土自体も20ｃｍの厚みしかなく撹乱も著しいことから、セクション観察で認識した住居と土坑の新旧関係に見誤りがあったかも知れない。

１号土坑から意図的に縦方向に割られた半個体分の深鉢形土器と椀形土器が出土した。２号土坑とその周囲の礫は炉跡かとも思われるが、焼土もなく不明である。

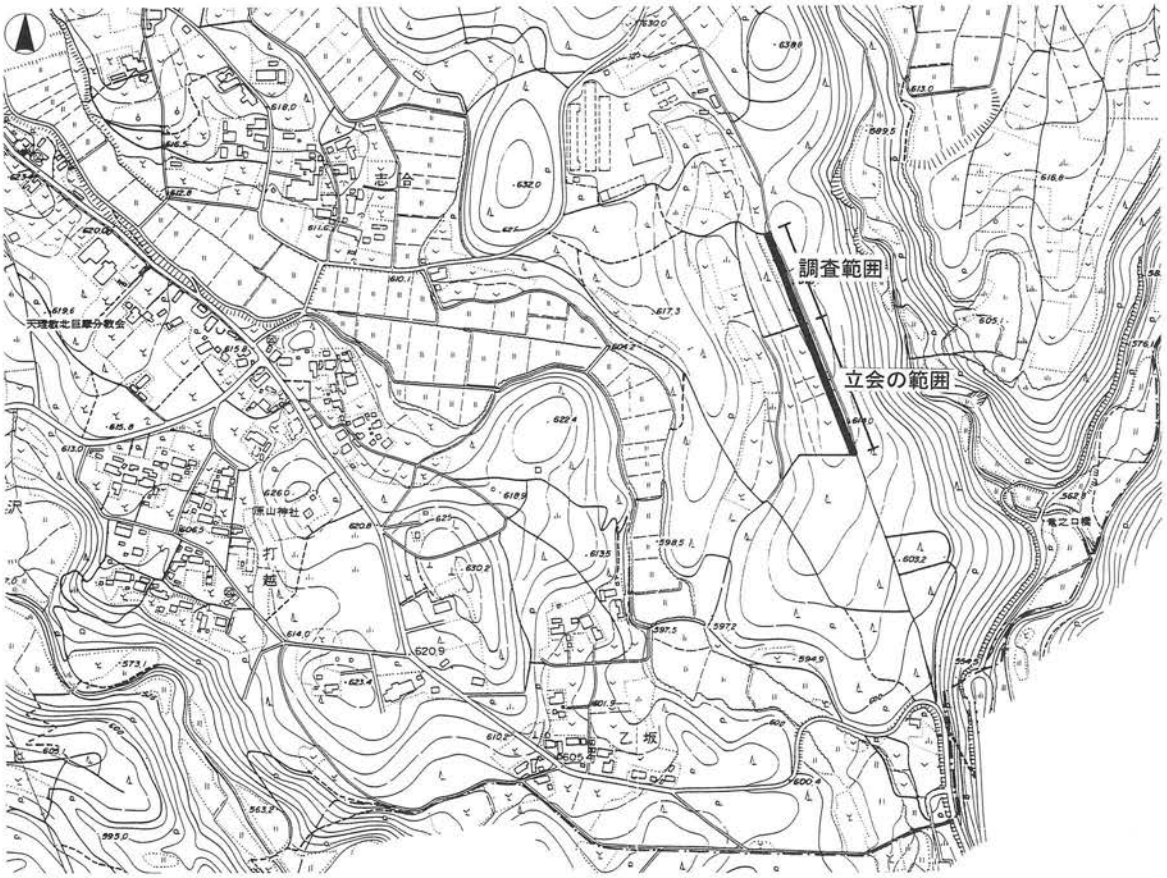
３号住居は、推定直径3.2mほどの円形で、北側は撹乱により大きく破壊されている。南側には土坑状の落ち込みがあったが、住居と別の遺構として認識するほどの状況ではなかった。床面も不明瞭で、おそらく住居跡も撹乱されているのだろう。埋土から曽利Ⅰ式初頭頃の土器破片と石器がまとまって出土している。

末筆ながら、発掘調査に際して工事請負者その他関係機関にご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

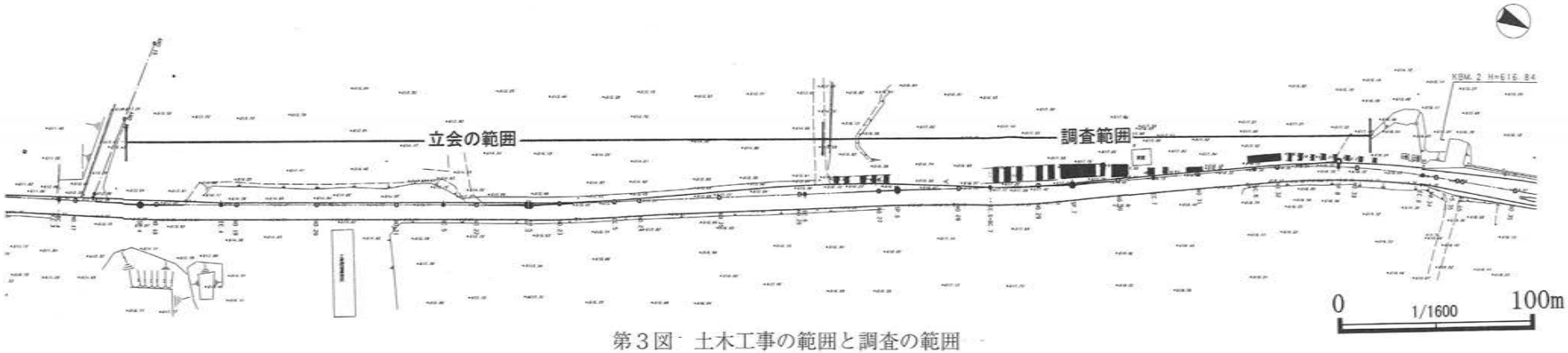
この試掘調査に係わる記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。　（佐野隆）



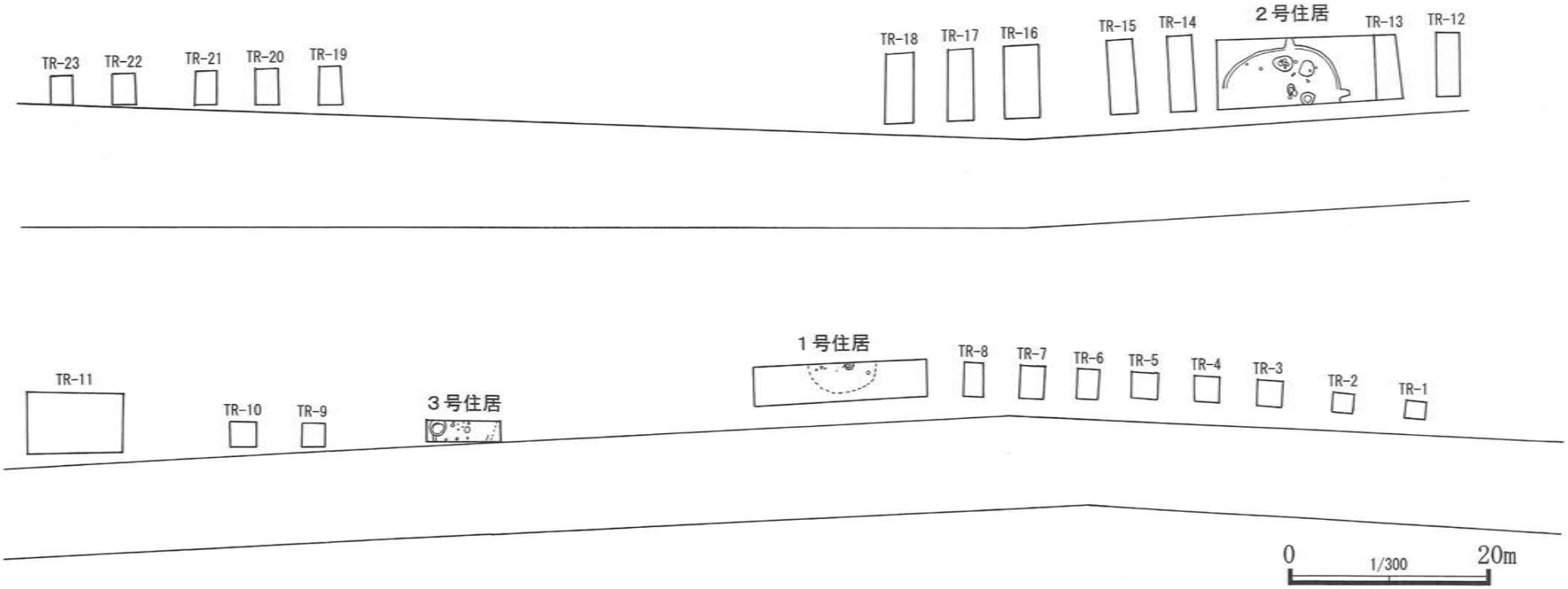

第１図　遺跡位置図（１／100,000）




第２図　調査区位置図（１／10,000）



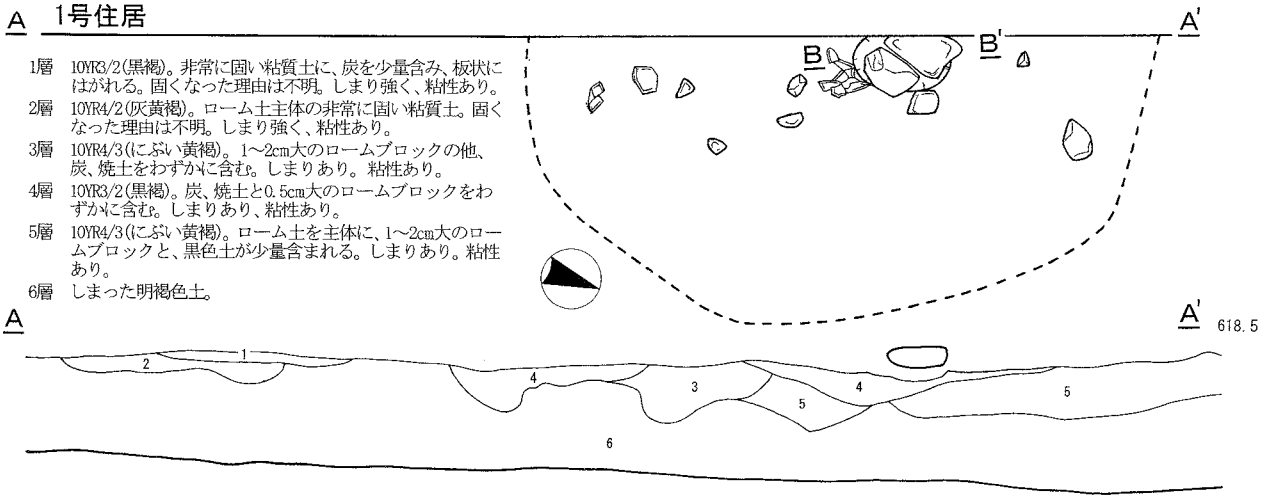

第３図　土木工事の範囲と調査の範囲



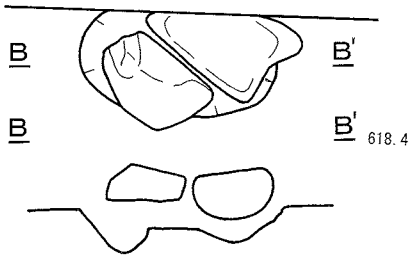

第４図　遺構配置図

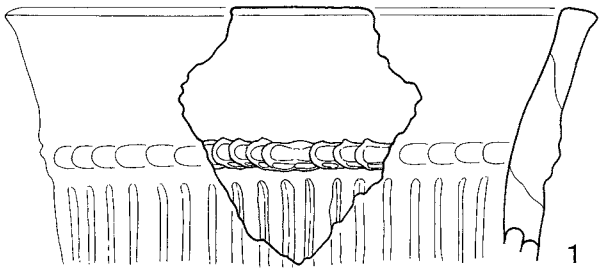
A　1号住居

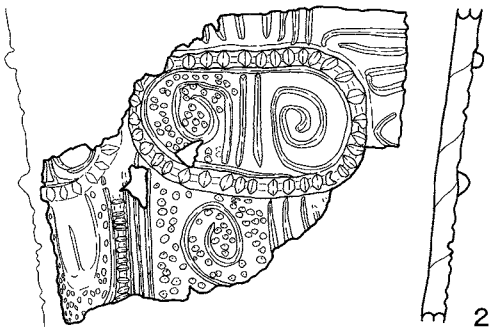
1層　10YR3/2(黒褐)。非常に固い粘質土に、炭を少量含み、板状にはがれる。固くなった理由は不明。しまり強く、粘性あり。
2層　10YR4/2(灰黄褐)。ローム土主体の非常に固い粘質土。固くなった理由は不明。しまり強く、粘性あり。
3層　10YR4/3(にぶい黄褐)。1～2cm大のロームブロックの他、炭、焼土をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
4層　10YR3/2(黒褐)。炭、焼土と0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり、粘性あり。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)。ローム土を主体に、1～2cm大のロームブロックと、黒色土が少量含まれる。しまりあり。粘性あり。
6層　しまった明褐色土。

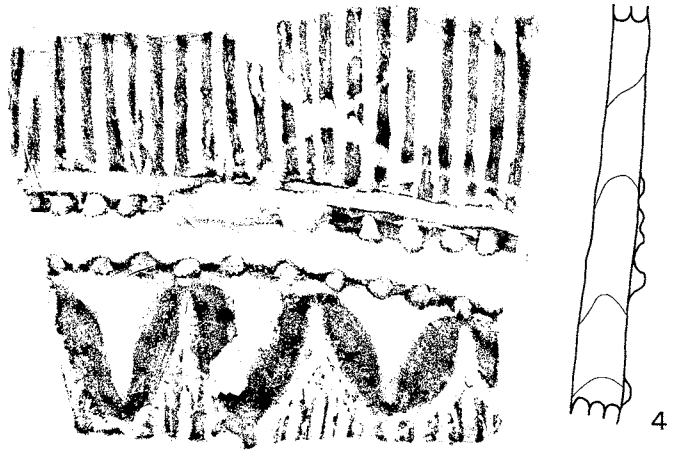


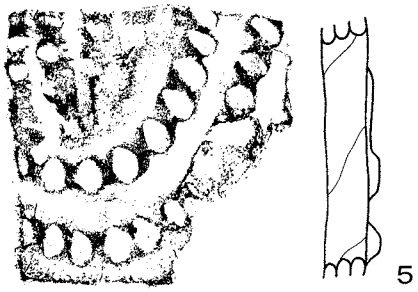

1号住居　炉



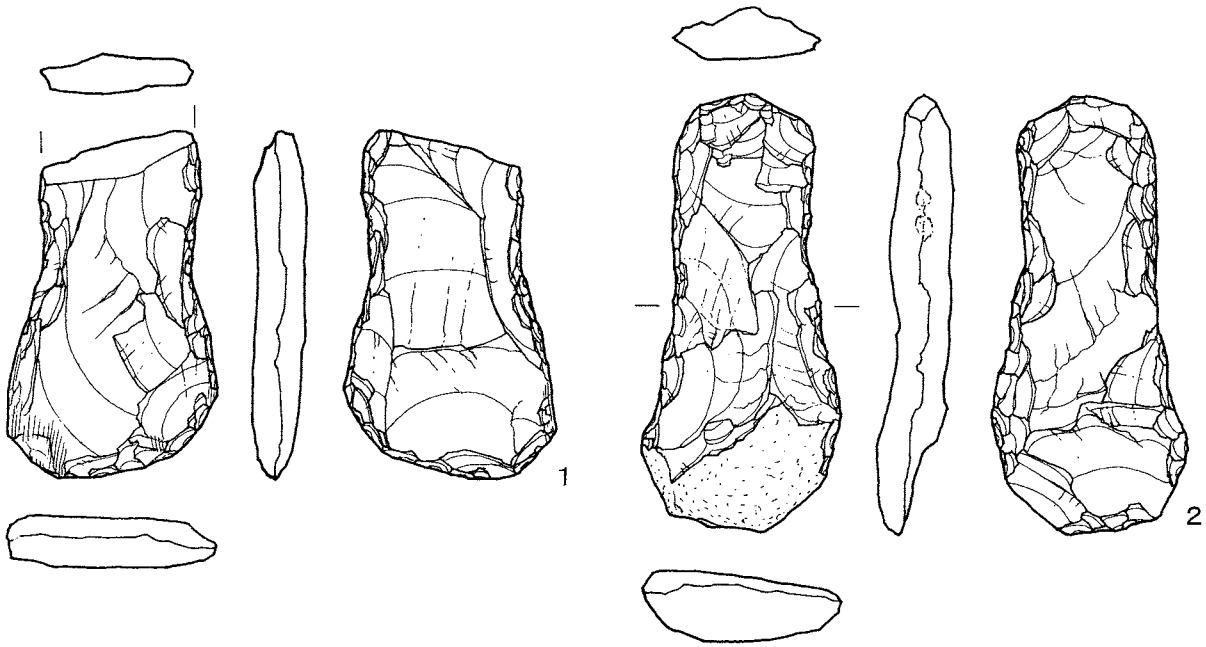





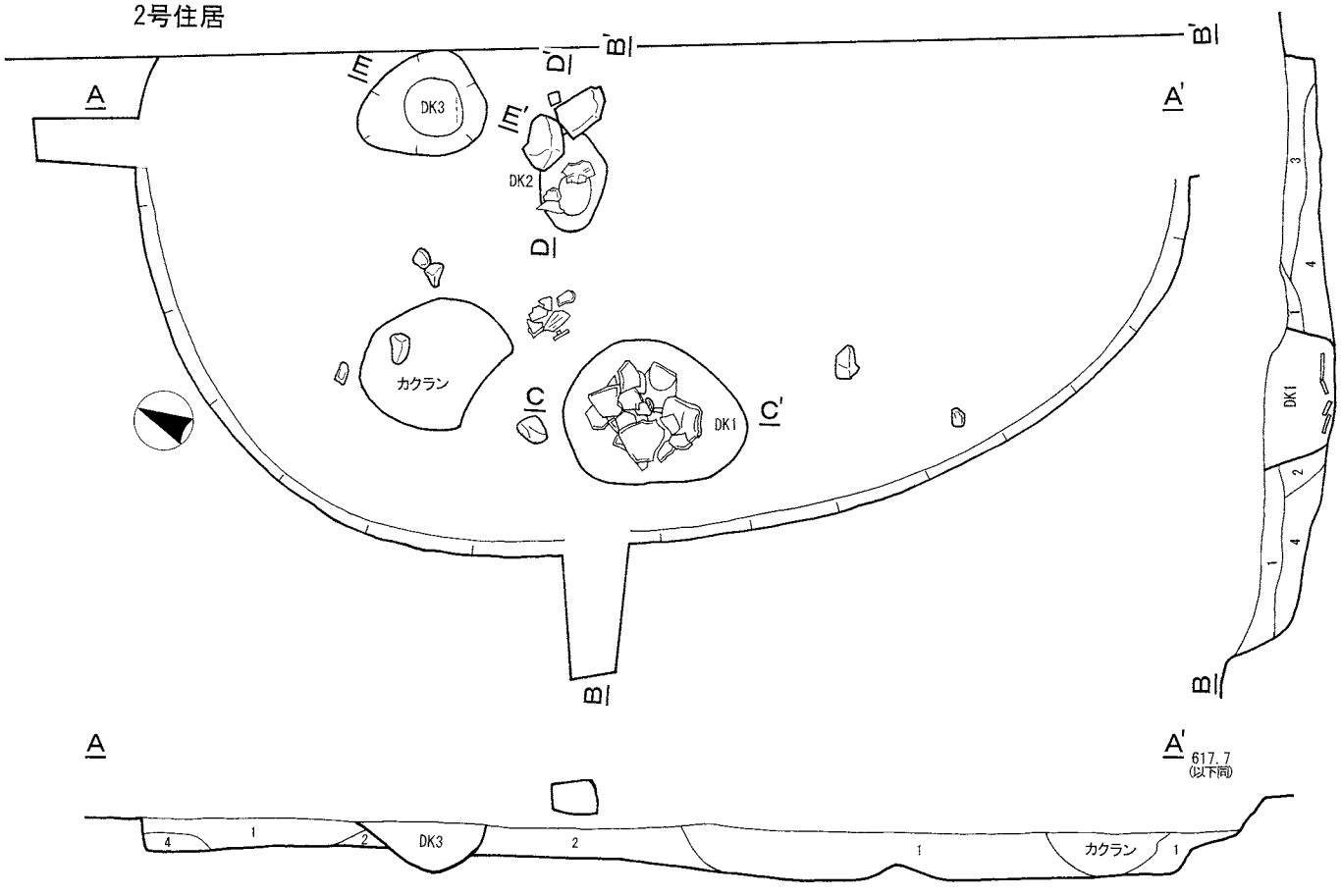




第５図　１号住居（１／40）　１号住居炉（１／20）　出土遺物（１／２、２　１／４）

1号住居

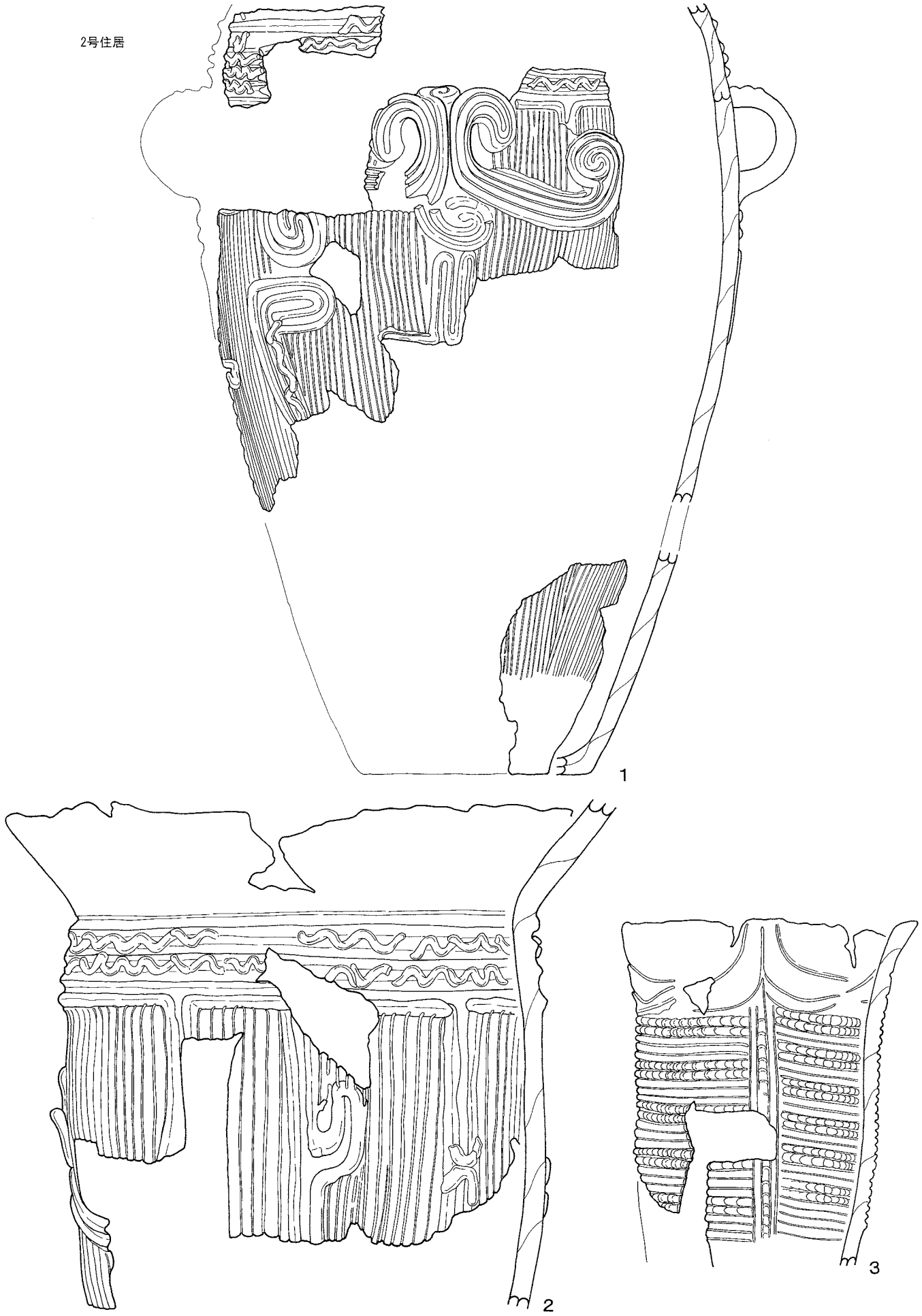



2号住居

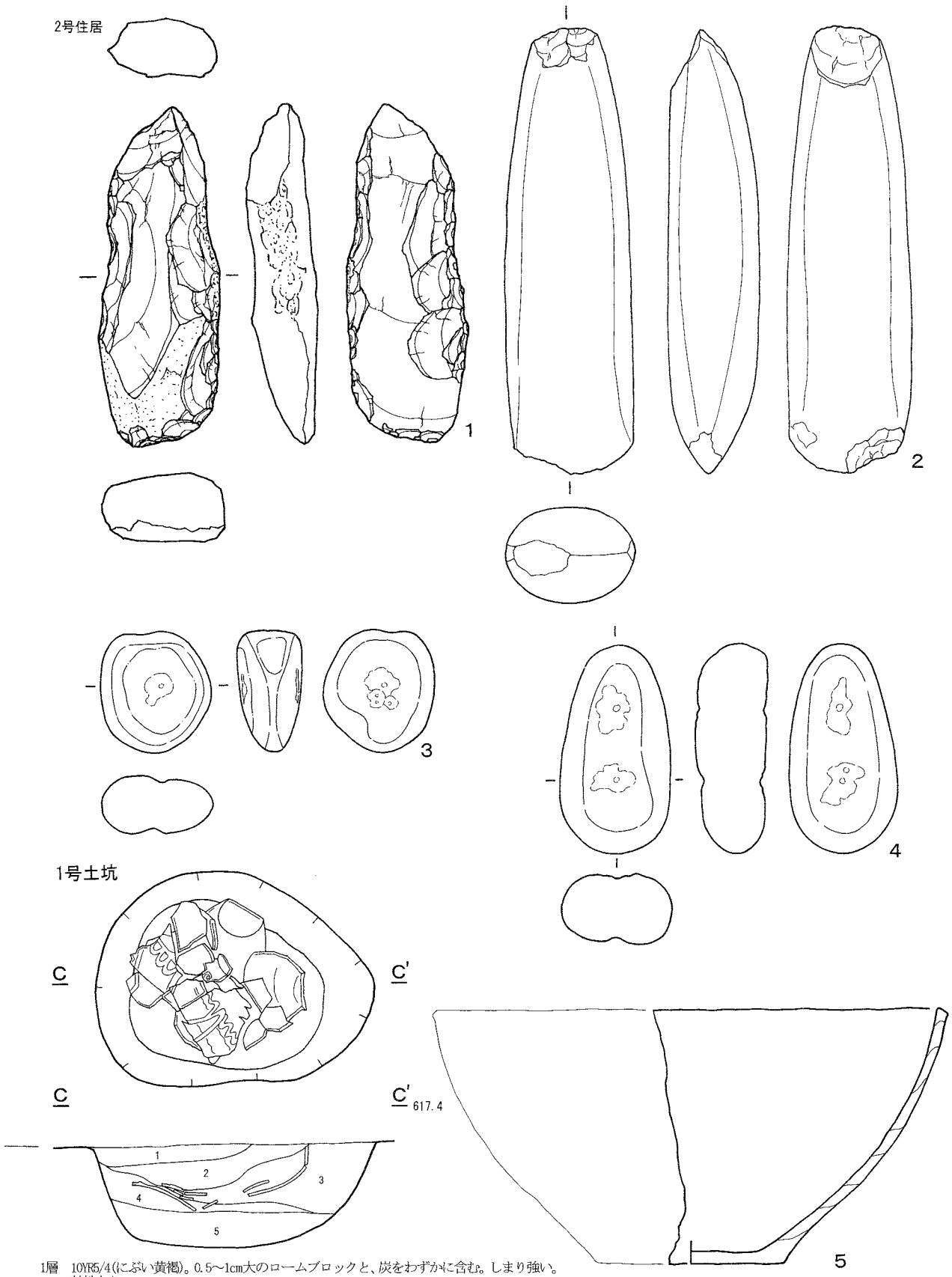



1層　10YR6/4(にぶい黄橙)。ローム質土。1～2cm大のロームブロックをわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
2層　10YR5/3(にぶい黄褐)。ローム質土。0.5cm大のロームブロックと、炭をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
3層　10YR4/2(灰黄褐)。ローム質土。0.5～1cm大のロームブロックを含む。しまりあり。粘性あり。
4層　しまった明褐色土。

第６図　２号住居（１／40）　出土遺物（１／２）

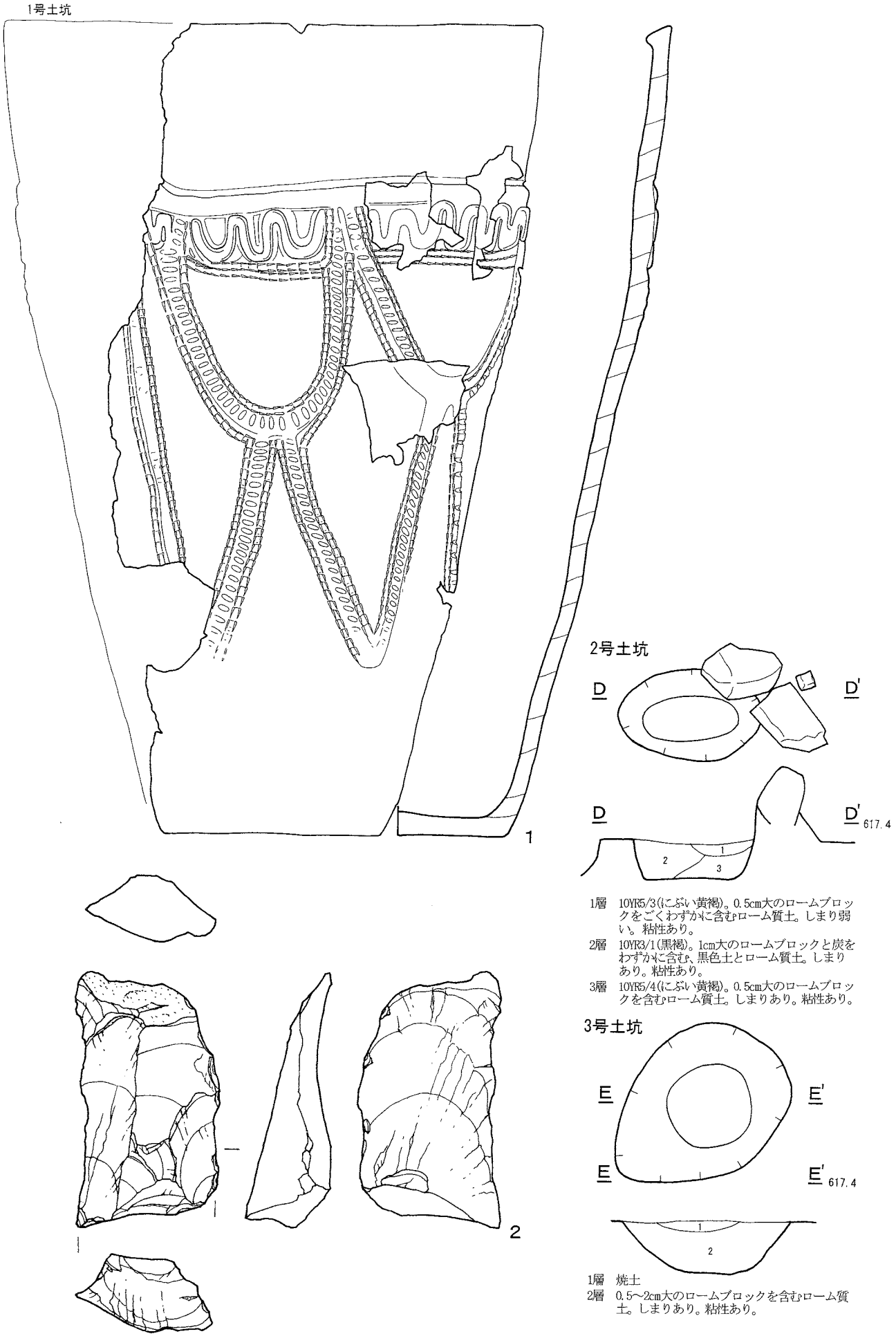



第7図　出土遺物（1／2、1　1／4）



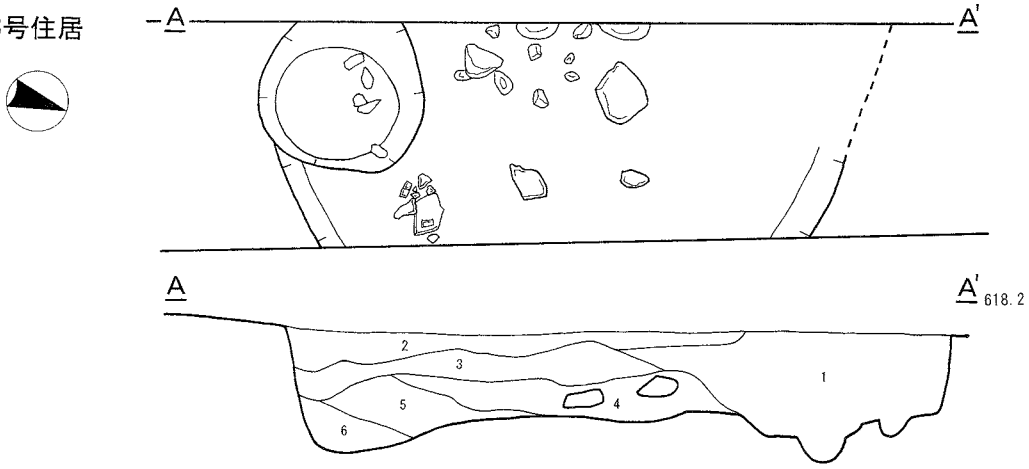

1層　10YR5/4(にぶい黄褐)。0.5～1cm大のローム ブロックと、炭をわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
2層　10YR6/3(にぶい黄橙)。1cm大のローム ブロックを少量と、炭をわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
3層　10YR5/3(にぶい黄褐)。1～2cm大のローム ブロックを少量と、炭をわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
4層　10YR4/1(褐灰)。0.5cm大のローム ブロックをわずかに含む。しまり強い。粘性あり。
5層　10YR4/2(灰黄褐)。0.5cm大のローム ブロックを少量と、炭をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。

第８図　１号土坑（１／20）　出土遺物（１／２、３～５　１／４）

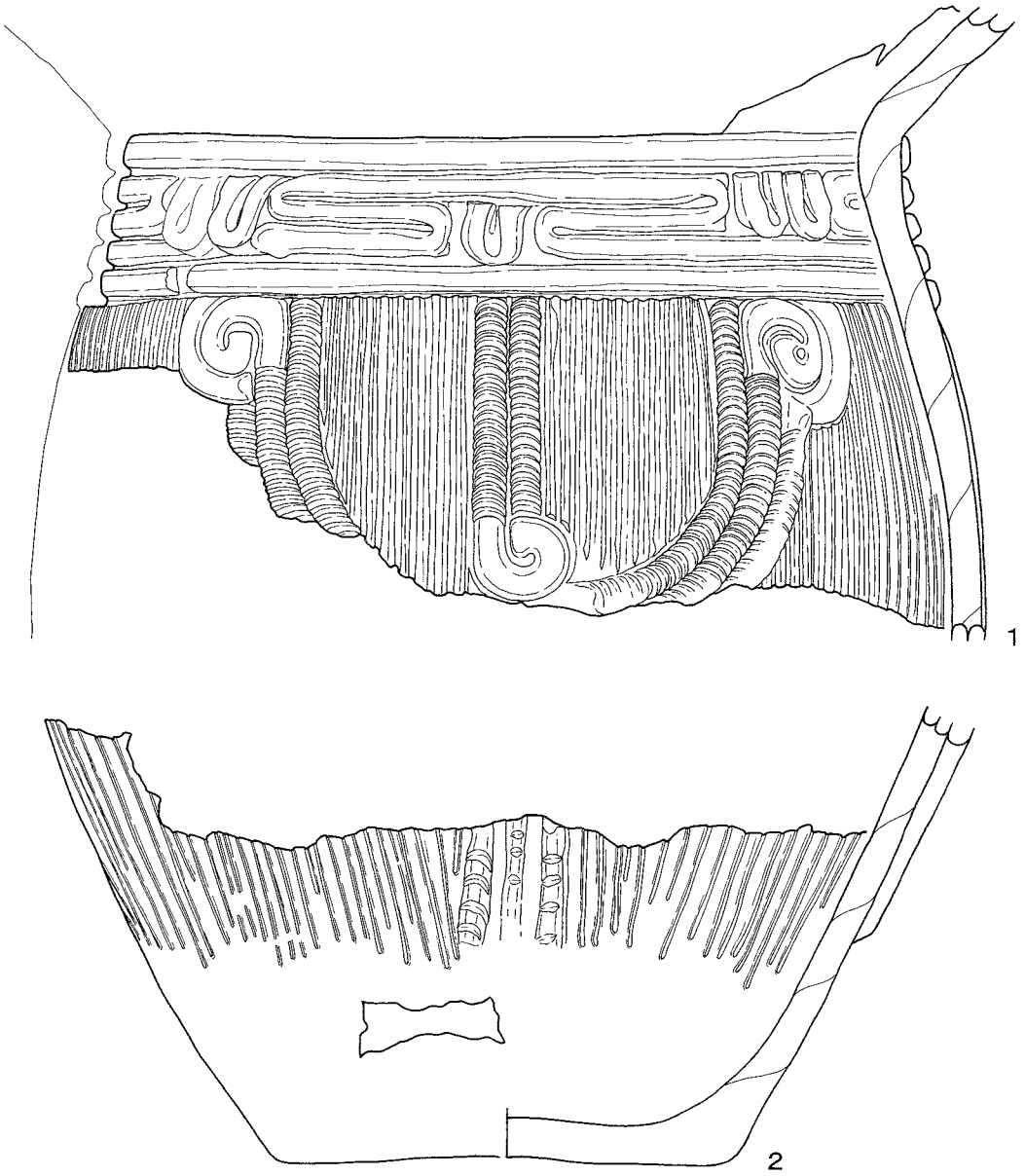



第９図　２号土坑、３号土坑（１／20）　出土遺物（１／２、１　１／４）

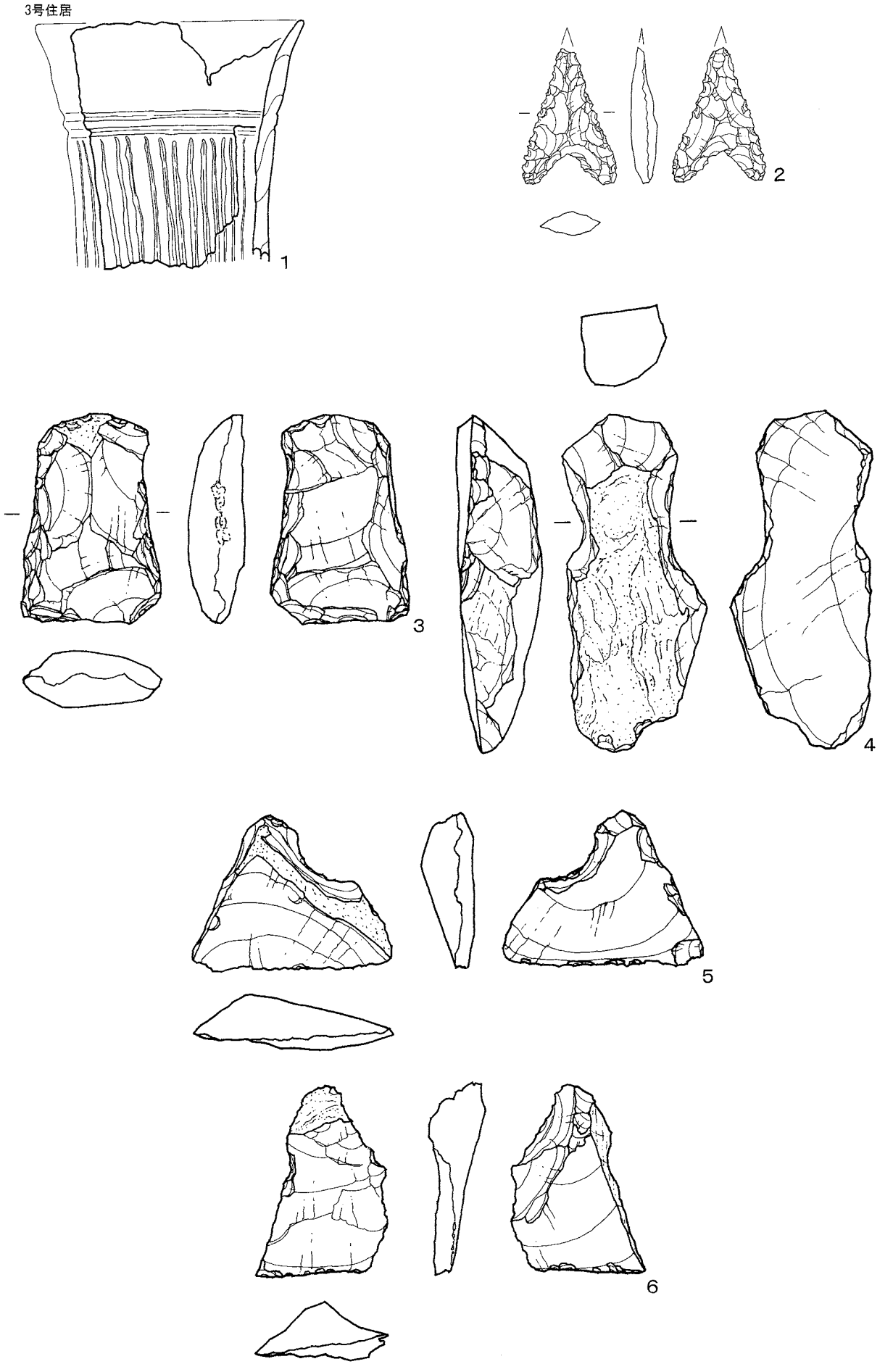
3号住居



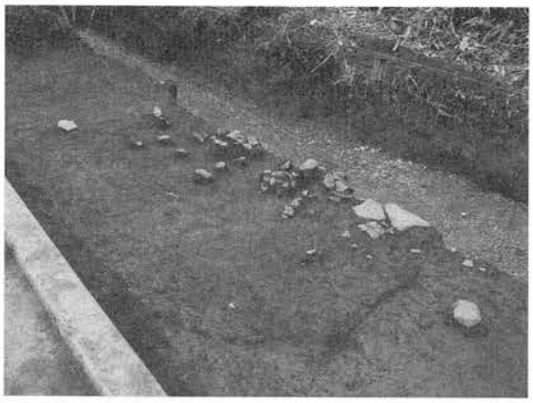

1層　カクラン
2層　表土
3層　10YR5/3(にぶい黄褐)。炭、ローム粒、0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
4層　10YR3/2(黒褐)。炭、0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
5層　10YR5/3(にぶい黄褐)。炭、0.5～1cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
6層　10YR3/2(黒褐)。0.5cm大のロームブロックをわずかに含む。しまりあり。粘性あり。



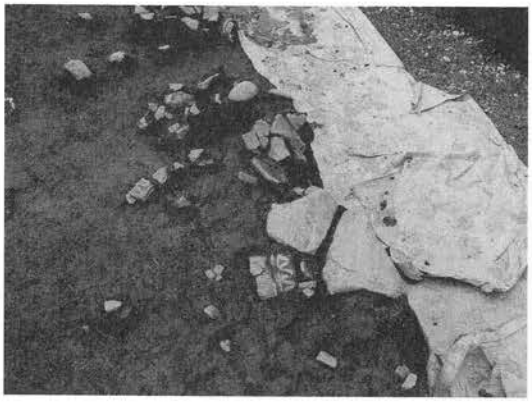

第10図　３号住居（１／40）　出土遺物（１／２）



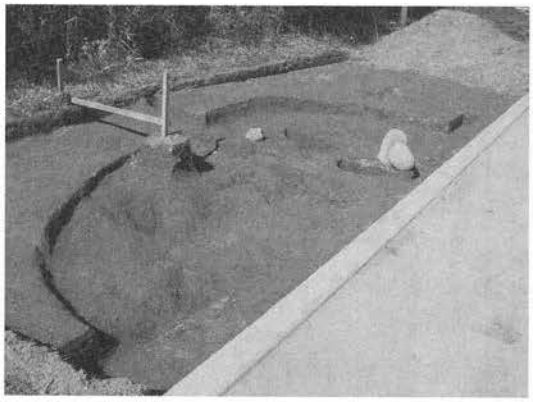

第11図　出土遺物（1／2、2　1／1）



1号住居跡

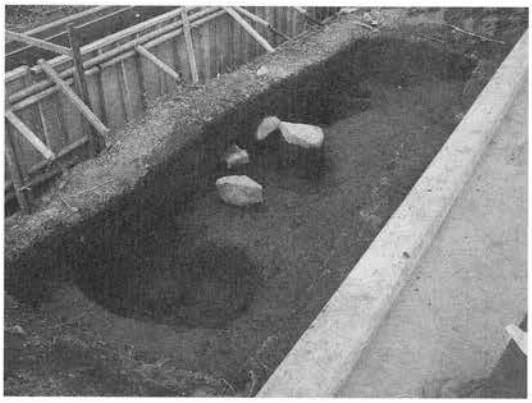


1号住居跡遺物出土状況

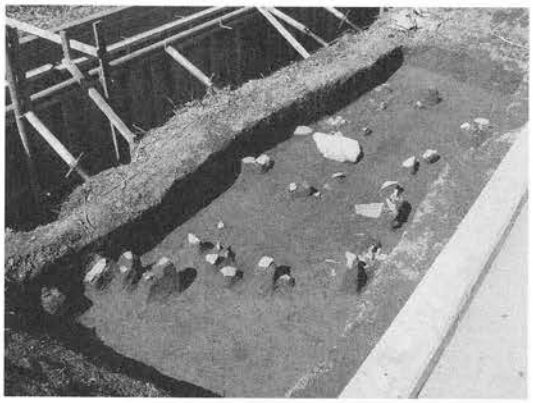


2号住居跡

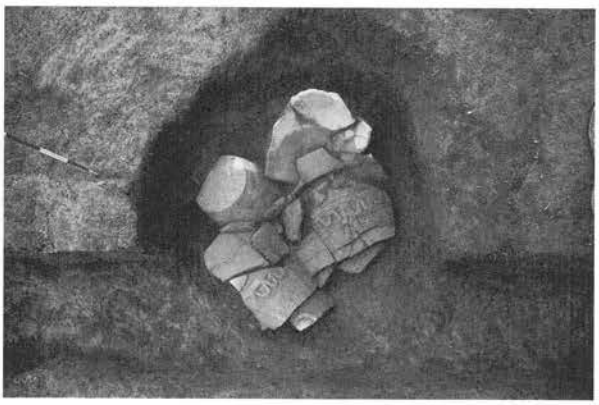
2号住居跡遺物出土状況



3号住居跡



3号住居跡遺物出土状況



1号土坑（2号住居内）

調査地点

# 9　坂上（さかうえ）遺跡

**所　在　地**　北杜市高根町下黒沢乙坂
**調査原因**　個人住宅建築
**調査期間**　2005年11月5日～2005年11月9日
**調査面積**　116㎡
**担　当　者**　村松佳幸

調査地点位置図

本遺跡は、八ヶ岳山麓を南流する甲川が、須玉川の西側を流れる西川に合流する地点から北へ約700m離れたところに位置する。そこは八ヶ岳台地の縁辺にあたり、直ぐ南は甲川が浸食した比高差約60mの崖になっている。標高は605mである。なお、遺跡から約300m南東には若神子城（若神子古城）がある。

遺跡内において個人住宅が建築されるため工事立会を行ったところ、平安時代の竪穴住居跡が確認された。工事施工者と協議し、住宅建築範囲を本調査することとなった。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡が１軒発見された。１号住居跡は、東西3.4m、南北3.1m、深さ32cmである。北壁の一部が掘削により撹乱されていた。カマドは東壁やや南寄りに構築されており、左右の袖石と支脚石が残存していた。カマドの手前にはカマドを構築していたと思われる礫が多数散在していた（写真２）。壁際には周溝が巡り、ピットが南壁の中央付近に２ヶ所、北東隅に１ヶ所ある。

第４図は１号住居跡から出土した遺物である。１は甲斐型坏で、口径12.8cm、底径5.6cm、器高3.9cmである。外面はロクロナデされた後体部下半を手持ちでヘラケズリされており、底部は回転糸切り後ヘラケズリされている。内面に暗文はなく、口縁部は玉縁である。２は甲斐型坏で、口径12.6cm、底径5.2cm、器高3.7cmである。外面と底面の調整や特徴は１と同様である。１・２は甲斐型土器編年のXI期、宮ノ前編年のⅨ期に位置付けられ、10世紀前半頃のものと考えられる。

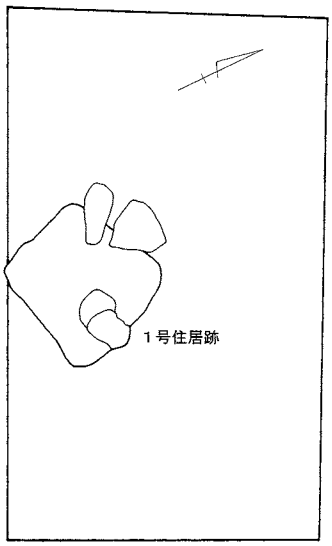
３は甲斐型坏であるが、内面に黒色処理が施されている。推定口径15.4cm、底径5.3cm、器高4.3cmである。外面と底面の調整は１・２と同様で、玉縁の口縁部も同じである。４は土師器の坏である。口径13.0cm、底径5.5cm、器高4.7cmである。体部下半と底部のヘラケズリがないこと以外は甲斐型土器と技法は同じである。宮ノ前編年のX期に位置付けられる。５は黒色土器の坏で、口径12.5cm、底径6.0cm、器高4.0cmである。６も黒色土器の坏で、推定口径12.2cm、底径6.2cm、器高3.9cmである。

７は甲斐型皿で、推定口径13.4cm、底径4.0cm、器高2.2cmである。外面はロクロナデの後手持ちでヘラケズリを行っている。底部は回転糸きり後の調整はない。８も甲斐型皿で、口径12.8cm、底径4.0cm、器高2.5cmである。外面の調整は７と同様で、底部は回転糸切り後手持ちでヘラケズリを行っている。９は甲斐型甕で、ナデが施されているためであろうか、外面のタテハケメははっきり確認できない。10は小型の甲斐型甕である。11は須恵器大甕の破片で、これ以外の破片は出土しなかった。

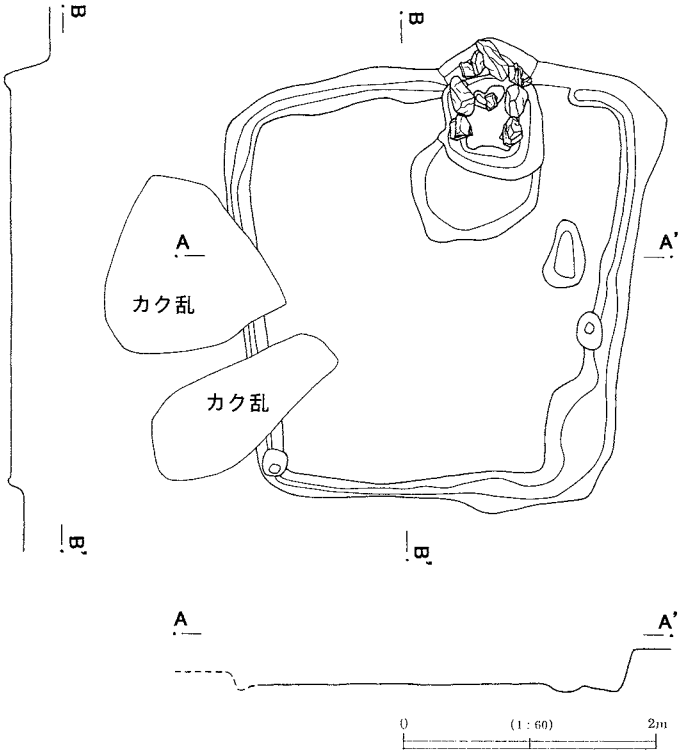
今回調査した住居跡の時期は、第４図１・２・４等から10世紀中頃と考えられる。

**参考文献**

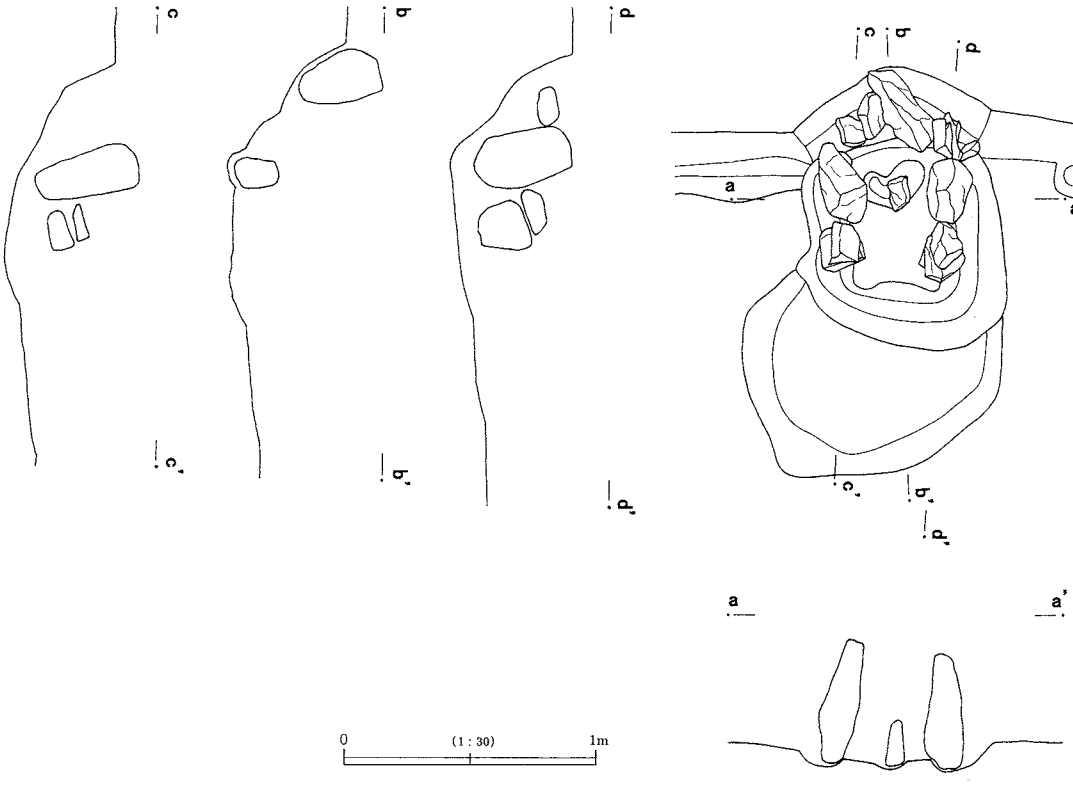
甲斐型土器研究グループ1992『甲斐型土器―その編年と年代―』山梨県考古学協会
平野修・櫛原功一1992『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会



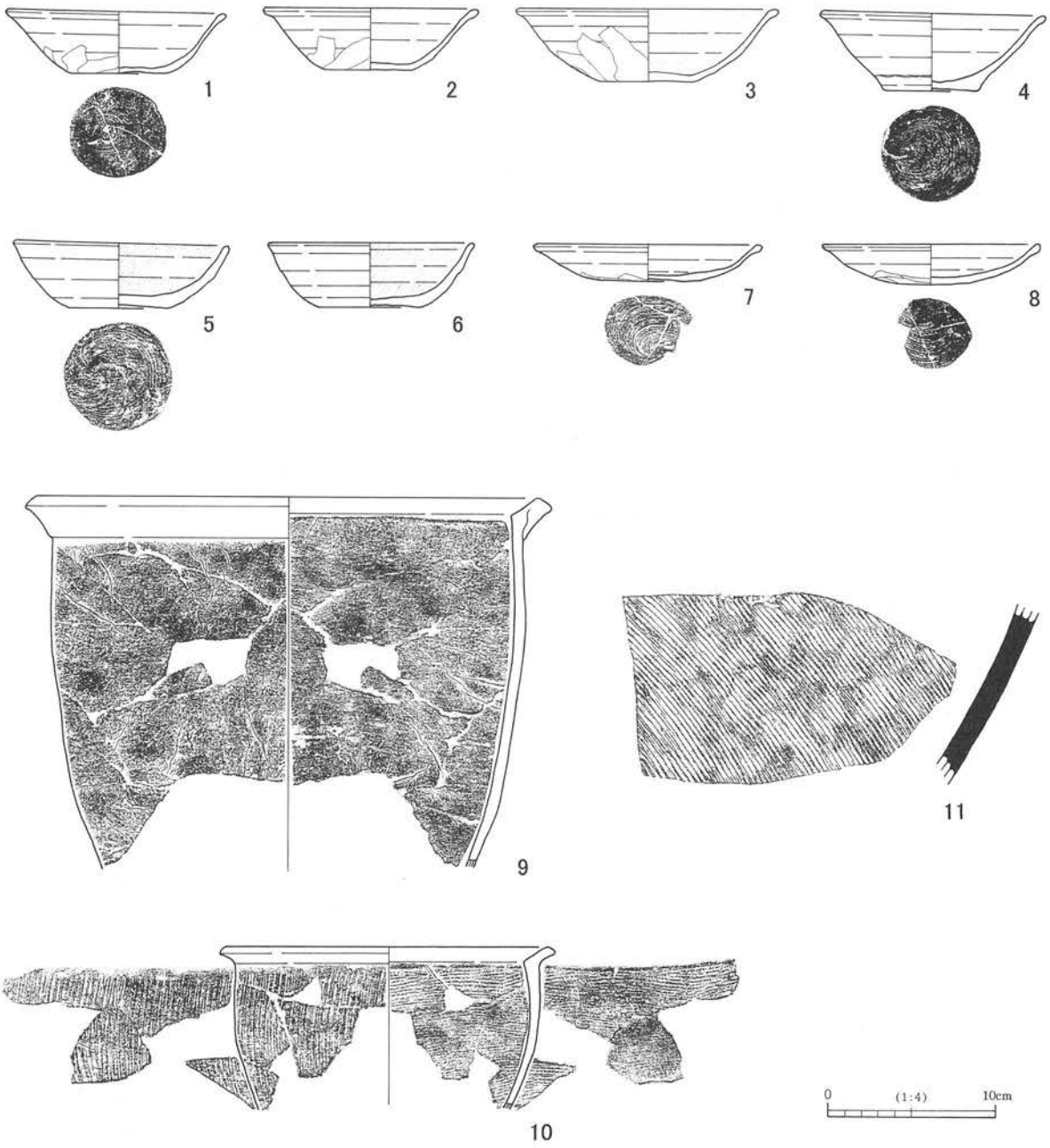

第１図　調査区全体図




第２図　１号住居跡




第３図　１号住居跡カマド




第４図　１号住居跡出土遺物

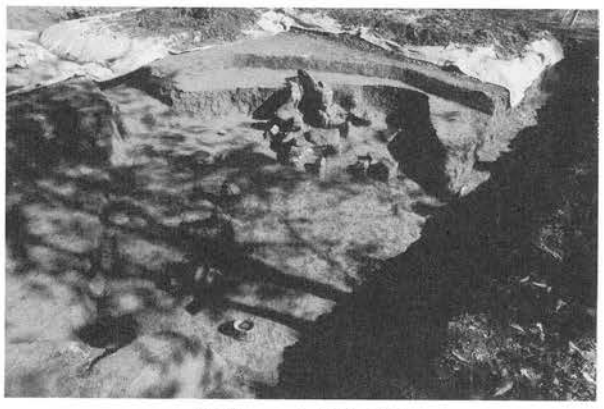
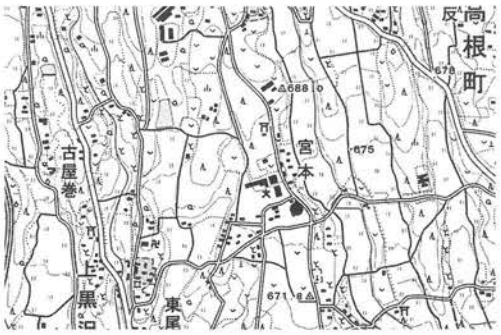


写真１　１号住居跡

写真２　１号住居跡カマド

# 10　後原遺跡



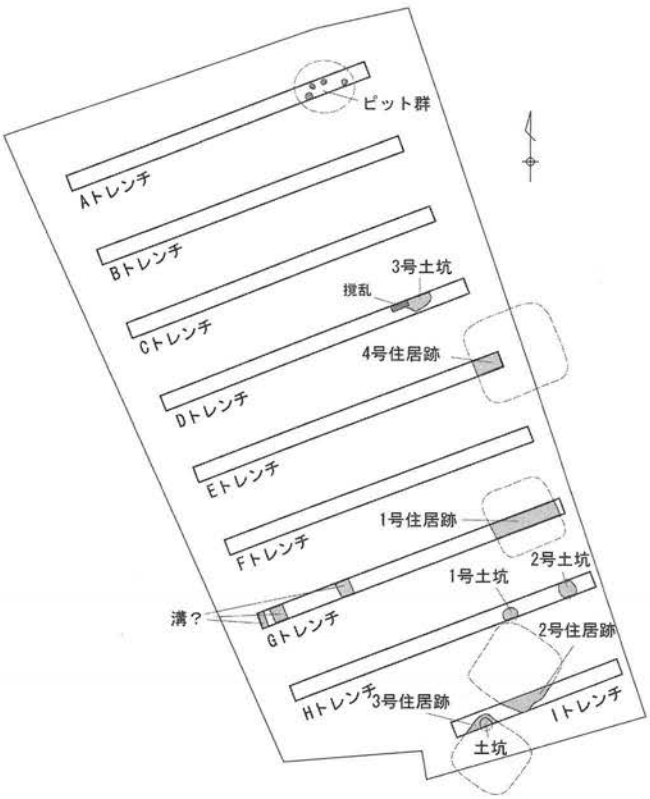
調査地点位置図

所　在　地　北杜市高根町村山西割1675-1
調査原因　市営児童館建設
財　　源　国庫補助事業
調査期間　2005年５月26日～30日
調査面積　171㎡
担　当　者　坂口広太

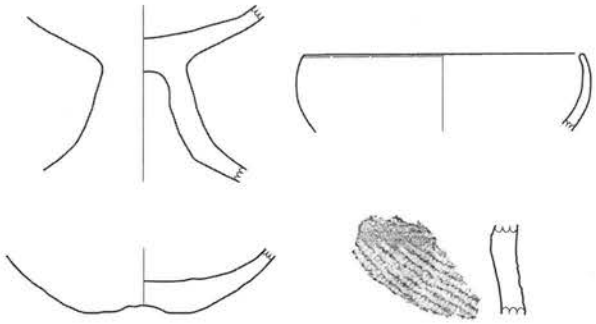
南に緩やかに傾斜する幅広い尾根の平坦地、標高約670m に立地する。調査地の現況は畑地でトラクターなどによる攪拌をうけており、地表面からは縄文時代及び古墳時代の土器片や黒曜石の剥片が多く採集された。隣地が高根西小学校の学校園ということもあり、児童からも付近で土器や石器を拾ったという話を聞いた。

調査は工区に合わせて試掘溝を９本設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。調査の結果、古墳時代の住居跡が４軒、土坑が４基、ピットが４本検出された。教育委員会は事業課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、建設工事に盛土工法を取り入れることが可能であったため、遺跡は現状のまま保存されるに至った。

（坂口広太）

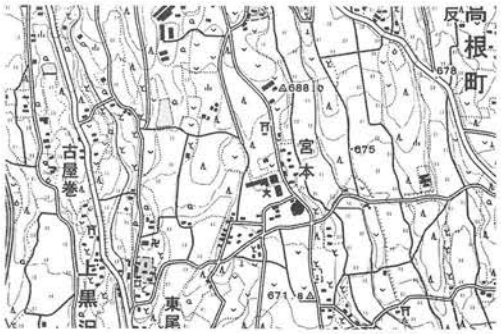


試掘溝及び遺構配置図（１/400）


主な出土遺物（１/３）

試掘作業風景

# 11　一道下（いちみちした）遺跡



調査地点位置図

所　在　地　北杜市須玉町大蔵字一道下526-1番地ほか
調査原因　宅地造成
調査期間　2005年２月13日～200年２月15日
調査面積　1223㎡
担　当　者　村松佳幸

周知の埋蔵文化財包蔵地「一道下遺跡」において宅地造成が計画されたため、試掘調査を実施したところ、地表下30cmほどで、縄文時代、平安時代の出土品と、平安時代の竪穴住居跡２軒が確認された。そこで事業主と北杜市教育委員会とで協議した結果、造成を計画した宅地の全面にわたって20cmの盛土を施して、遺構を現状保存した上で、宅地整備工事を実施することとした。この際、土留擁壁など遺構確認面まで掘り込む箇所については試掘調査を実施して、遺構の有無を改めて確認した。調査は国庫補助事業において実施した。この調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

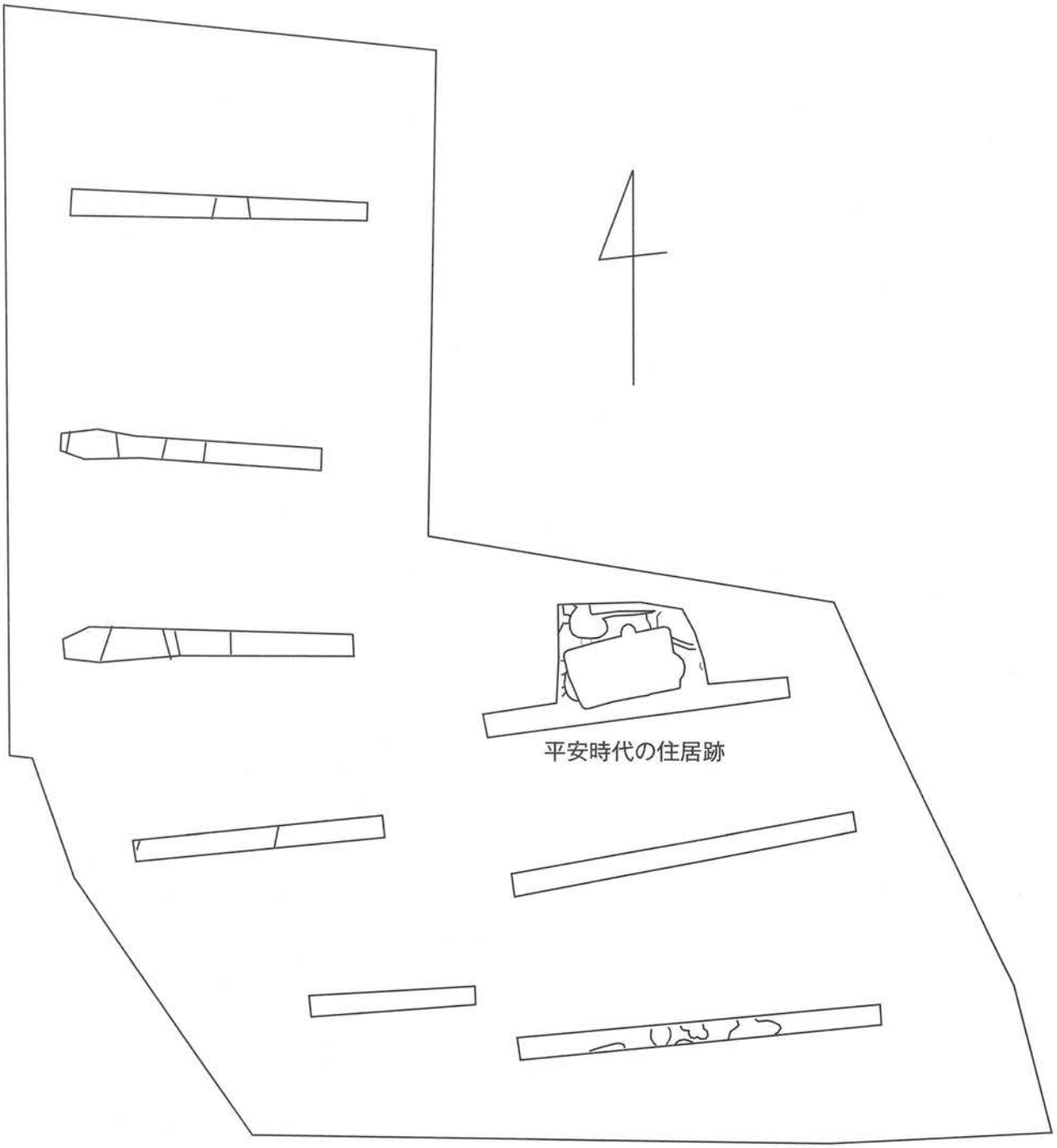
| | |
|---|---|
| 文化財保護法第93条による通知 | 平成17年６月10日付け |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成17年６月29日付け教学文第793号 |
| 文化財保護法第99条による発掘着手報告 | 平成17年７月29日付け北杜生学第392-3号 |

土留擁壁等の試掘調査では幸いにして遺構は確認されず、発掘調査には至らなかった。

最初の試掘調査で確認された竪穴住居跡は形状と出土品から平安時代の施設と考えられる。試掘溝の範囲内ではカマドなどの施設は確認されなかった。床面までの深さも不明である。

試掘調査の終了後、事業主と北杜市教育委員会とで埋蔵文化財の現状保存を図るための協定書を締結し、今後、さらに遺跡の保存に係わる工事等が発生した場合には、改めて協議の上、埋蔵文化財の保存に必要な措置を講じることとした。末筆ながら、工事計画の変更等に快く協力くださった事業主、株式会社深沢土木に感謝申し上げたい。

この試掘調査に係わる記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。　（佐野隆）



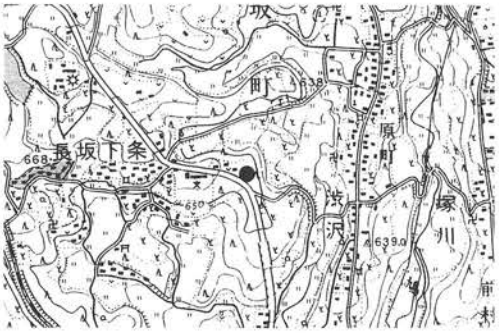

一道下遺跡検出遺構・トレンチ配置図

調査地点近景

作業風景

# 12　山本（やまもと）遺跡

**所　在　地**　北杜市長坂町長坂下条1307-1外
**調査原因**　個人住宅建築
**調査期間**　2005年12月13日～2005年12月17日
**調査面積**　123㎡
**担　当　者**　村松佳幸



調査地点位置図

本遺跡は、八ヶ岳南麓を流れる白井沢宮川の右岸の台地上にある。標高は655mである。周辺は河川により浸食されてできた舌状台地が入り組んだように展開し、その台地中央を通称七里岩ラインと呼ばれる県道が走っている。遺跡はその県道沿いにある。県道を北西へ約500m行ったところには、古墳時代・平安時代・中世の集落が確認された龍角西遺跡や、平安時代・中世の集落跡が確認された紺屋遺跡がある。

その中で個人住宅の建築が計画され、現状が山林であったため樹木の伐採・抜根が必要となり、建築敷地内で遺跡範囲の確認調査を行った。その結果、縄文時代の遺構・遺物が確認され、支障のない部分の抜根を行い、住宅建築範囲と下水道配管埋設範囲を本調査することとなった。調査地点は北杜市立日野春小学校から約150m東のところである。

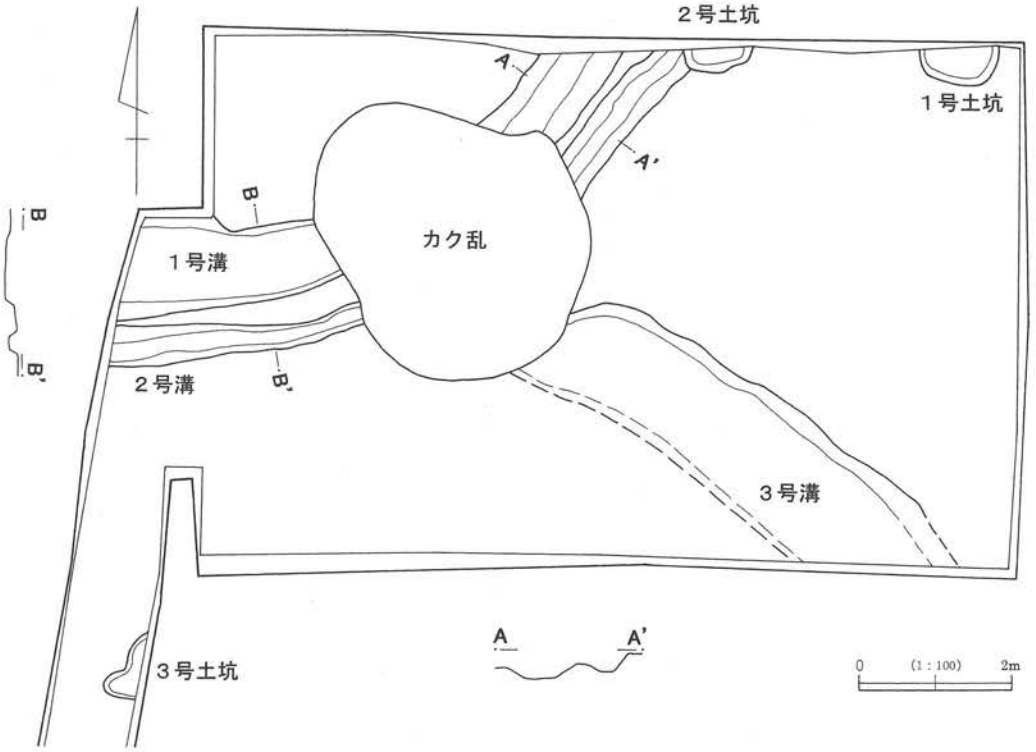
調査の結果、土坑３基と溝状遺構３基が発見された。土坑はいずれも調査区の壁にかかる状態で発見された。１号土坑は東西100cm、南北53cm、深さ10cmである。２号土坑は東西91cm、南北33cm、深さ20cmである。３号土坑は東西45cm、南北91cm、深さ7cmである。それぞれ遺物の出土はなかった。

１号溝と２号溝は並行しながら、調査区北壁から西壁にかけてカーブしながら走っている。中央で掘削により撹乱されている。１号溝は幅86～120cm、深さ13～18cmである。２号溝は幅26～56cm、深さ12～24cmである。１号溝は幅広く、道とも考えられるが、硬化面は特に確認できなかった。

３号溝は、南西側の壁が掘削されて確認できなかったが、調査区南壁の土層観察により立ち上がりが確認できたので、おおよその幅が推定できた。推定幅220cm、深さ10cmである。調査区南東から１・２号溝の方へ向かい、撹乱部で切れていた。その先に続くのかは不明である。残存している溝の壁付近は比較的硬化しており、道として使われていた可能性が考えられる。溝の走る方向は、現在の県道と同じ方向であり、３号溝が台地を縦走する道として使われていたかもしれない。

今回の調査では、遺構から遺物が出土せず、各遺構の所属時期が確定できない。遺構外からは図示しなかったが縄文時代中期の土器片がわずかながら出土した。範囲確認調査で、縄文時代中期の遺構・遺物が確認されているので、本遺跡は縄文時代中期を主体とする遺跡であることが確認できた。

第１図　調査区配置図（S＝１／2,500）




第２図　遺構配置図

写真１　１・２号溝（北側）

写真２　１・２号溝（西側）

# 13　新宿区健康村（しんじゅくくけんこうむら）遺跡

調査地点位置図

**所在地**　北杜市長坂町中丸1620-3
**調査原因**　個人住宅建築
**調査期間**　2005年７月13日～2005年７月20日
**調査面積**　133㎡
**担当者**　村松佳幸

本遺跡は、大深沢川と小深沢川とに挟まれた台地上に位置する。1992（平成4）年に総合的余暇活動施設『新宿区区民健康村』の建設に先立ち、新宿区区民健康村遺跡調査団により発掘調査が行われている。Ａ～Ｇ地区の７ヶ所調査され、縄文時代の竪穴住居跡・土坑・埋甕、平安時代の竪穴住居跡、中世の石組土坑等が発見され、旧石器時代のナイフ形石器・石刃、縄文時代前期末・中期初頭・中期後半・後期前半・晩期末の土器や石器、平安時代の土師器・灰釉陶器、中世の内耳土器等が出土している。特にＥ区で出土した縄文時代晩期末の土器群は、健康村遺跡段階として中部高地における浮線文土器の第３段階の前半に位置付けられている。今回は、遺跡内において住宅が建築されるため、Ｈ地区として住宅建築範囲を調査した。Ｈ地区は大深沢川にやや張り出した台地縁辺に位置し、Ｅ地区の約100ｍ東側にあたる。標高は758ｍである。

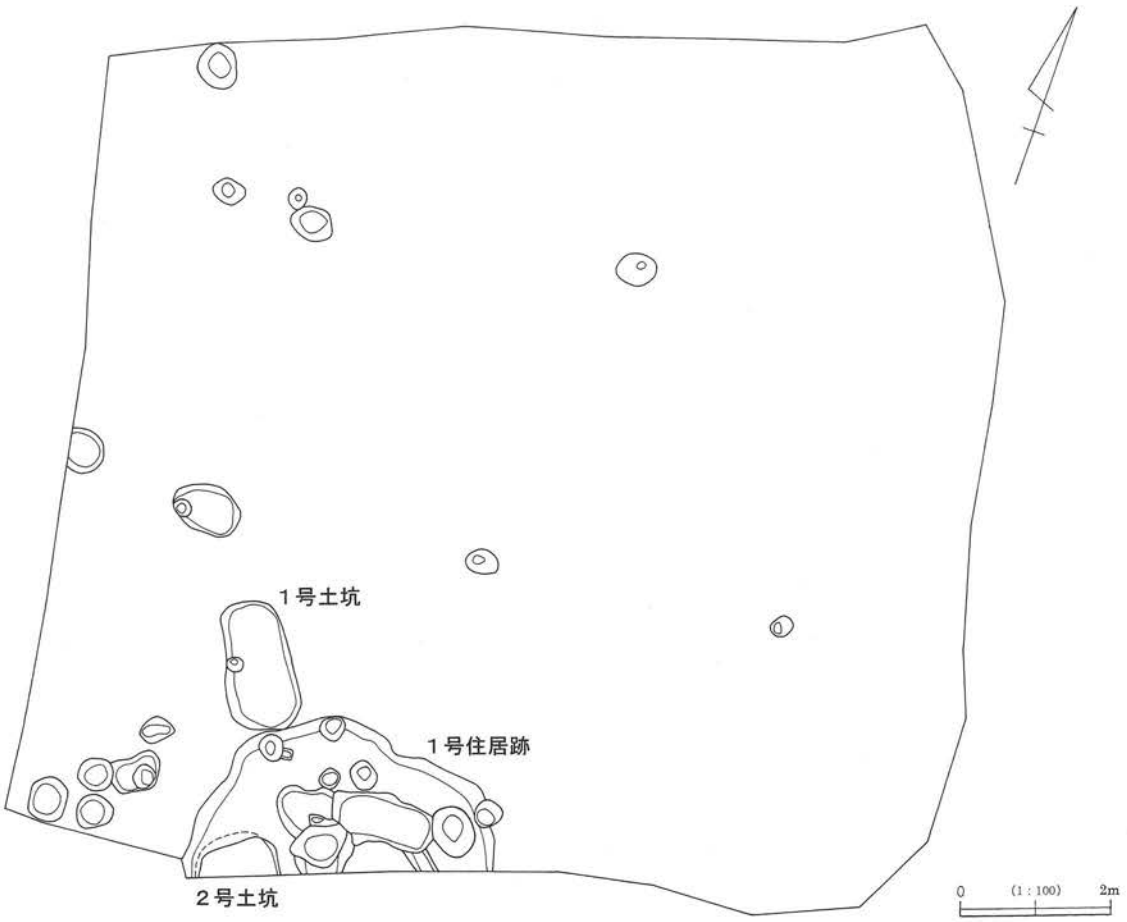
調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡１軒・土坑３基・ピット13基が発見され、縄文時代前期末・中期・晩期の土器・石器・石製品・黒曜石片、弥生時代前期の土器が出土した。

１号住居跡は、調査区の南西に位置し、南半分は調査区外である。２号土坑の上に作られている。住居跡中央に掘削による撹乱箇所があり、そのためであろうか炉跡は確認できなかった。主柱穴もはっきりしない。出土遺物は第４図１～３・13で、それ以外は図示するようなものはなく、黒曜石片が比較的多く出土した。１は細い結節浮線文を施し、ボタン状貼付文のある諸磯ｃ式である。２・３は平行沈線文の上に細かく刻みを施し、三角印刻文が刻まれた十三菩提式に並行する土器である。13は石製品の垂飾である。滑石製で、縦軸に貫通する孔があり、側面の上部に対になる２箇所の切れ込みがある。縦軸の孔周辺が破損しているが、その破損面を切るように切れ込みが入っているので、縦軸の孔を先に開け、その周辺が破損した後切れ込みを入れていることになる。図示した遺物は、住居跡の中央付近から出土しているので、１号住居跡の時期は縄文時代前期末の可能性が高いが、遺物が少量なのではっきりと断定できない。また、２号土坑からも遺物が少ししか出土していないので、はっきりした時期決定は出来ないが、切り合い関係により１号住居跡の前であることは確かである。

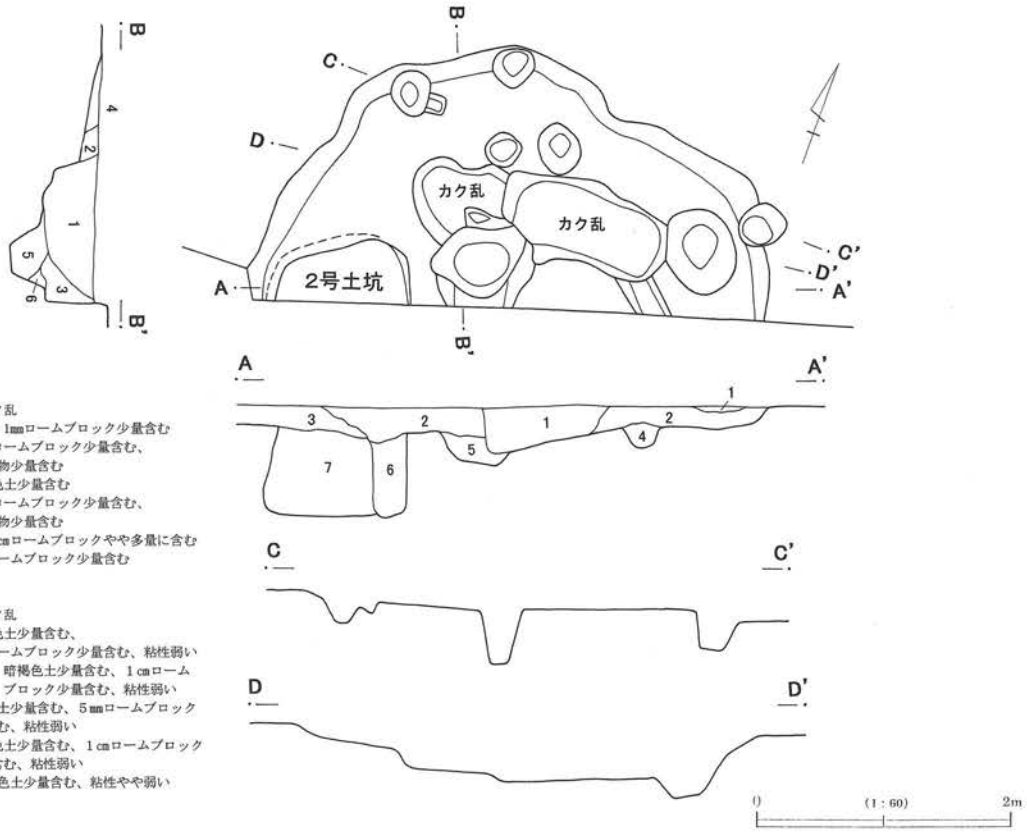
１号土坑は１号住居跡の北西にあり、長軸175cm、短軸95cm、深さ18cmである。出土した遺物は第４図４の曽利Ⅳ式であり、土坑の南側で横倒しになっていた。それ以外は出土しなかった。４は口縁部が欠損しており、胴部には条線が縦位にやや雑に施されている。残存器高19.5cm。

第４図５～12は遺構外から出土している。５は諸磯ｃ式で、ボタン状および棒状貼付文の上に半截竹管で刻みを入れている。６は十三菩提式で、縄文地文の上に結節浮線文を施している。７は新道式で、隆線による楕円区画の中に三角押文が施されている。８は氷Ｉ式で、口唇部直下に４条の凹線文がある。９～12は弥生前期の条痕文を施した土器である。９・10は口唇部に刻みをもっている。

今回の調査では、1992年の調査と同じように、主に縄文時代前期末と晩期末の土器が出土した。Ｅ地区からＨ地区周辺には、当該期の遺構・遺物がまとまっていることが予想される。




第1図　調査区全体図




1号住居跡土層観察

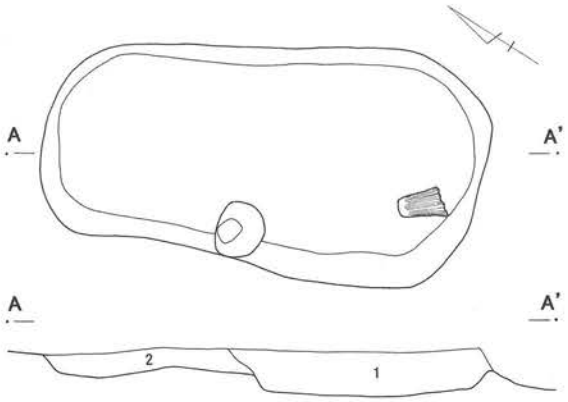
A－A'

1．5YR3/6暗赤褐色土　カク乱
2．10YR3/3暗褐色土　1cm・1mmロームブロック少量含む
3．10YR3/4暗褐色土　1mmロームブロック少量含む、炭化物少量含む
4．7.5YR4/4褐色土　暗褐色土少量含む
5．10YR3/4暗褐色土　5cmロームブロック少量含む、炭化物少量含む
6．10YR3/4暗褐色土　1～3cmロームブロックやや多量に含む
7．7.5YR4/6褐色土　3cmロームブロック少量含む

B－B'

1．5YR3/6暗赤褐色土　カク乱
2．7.5YR4/4褐色土　暗褐色土少量含む、1cmロームブロック少量含む、粘性弱い
3．5YR4/4にぶい赤褐色土　暗褐色土少量含む、1cmロームブロック少量含む、粘性弱い
4．10YR4/6褐色土　暗褐色土少量含む、5mmロームブロック少量含む、粘性弱い
5．7.5YR4/6褐色土　暗褐色土少量含む、1cmロームブロック少量含む、粘性弱い
6．10YR5/6黄褐色土　暗褐色土少量含む、粘性やや弱い

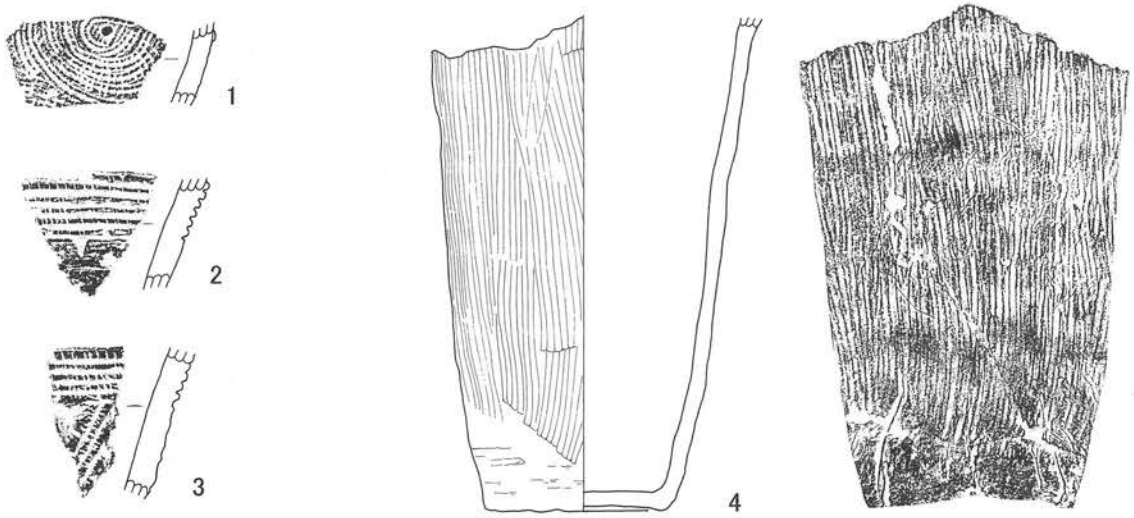
第2図　1号住居跡



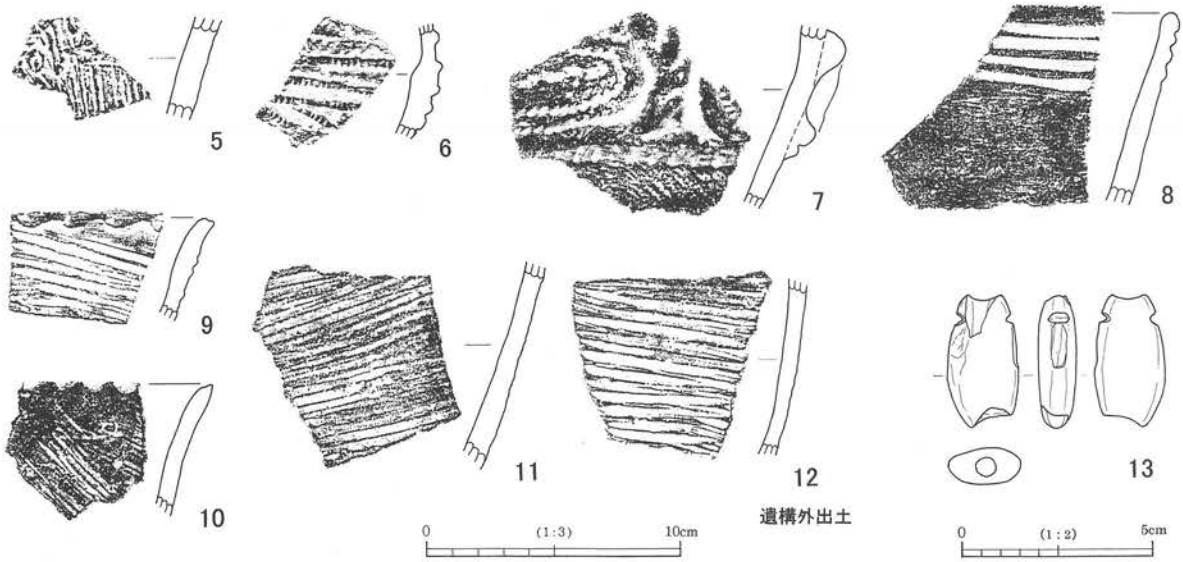

1号土坑土層観察
1．10YR4/6褐色土　1～3cmロームブロックやや多量に含む、暗褐色土粒少量含む、粘性弱い
2．7.5YR5/6明褐色土　5mmロームブロック少量含む、1～5cmロームブロックやや多量に含む、粘性弱い

0　(1：30)　1m

第3図　1号土坑




1号住居跡出土　　1号土坑出土




遺構外出土

第4図　出土遺物

写真１　調査区近景（南から）

写真２　調査区近景（西から）

写真３　調査区近景（西半分）

写真４　１号住居跡

写真５　１号土坑

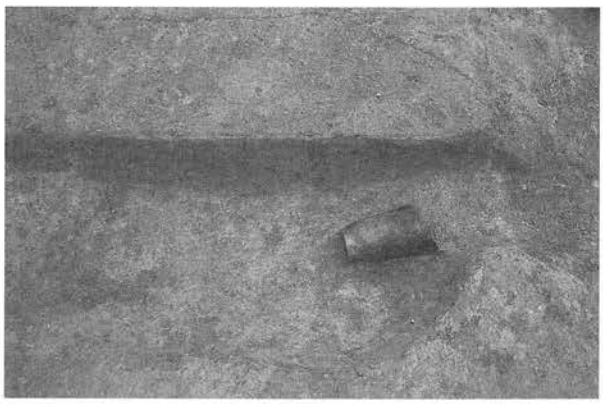


写真６　１号土坑遺物出土状況

写真７　１号土坑出土土器

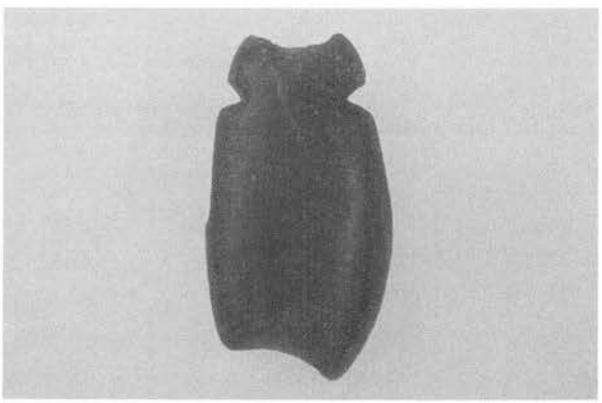
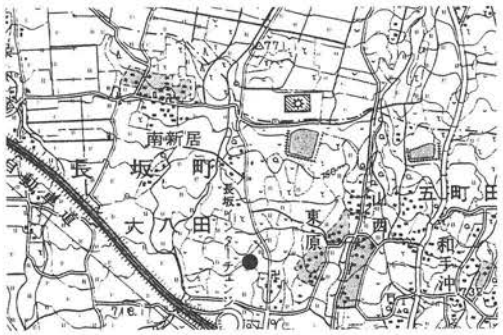


写真８　１号住居跡出土垂飾

# 14　窪田（くぼた）遺跡

所　在　地　北杜市長坂町大八田1584-1外
調査原因　民間工場建設
調査期間　2005年９月28日～2005年10月27日
調査面積　503㎡
担　当　者　村松佳幸



調査地点位置図

本遺跡は、河川による浸食の弱い緩傾斜地が広がる、東に甲川、西に泉川とに挟まれた低い台地上に立地する。1973（昭和48）・1984（昭和59）年に発掘調査された柳坪Ｂ遺跡の北側から、南北に伸びる尾根筋上に遺跡は広がり、その南北方向の距離は約650mになる。2002（平成14）年に遺跡の中央を通る町道の拡幅工事に伴い発掘調査が行われ、縄文時代の土坑や平安時代の竪穴住居跡等が発見されている。

今回、遺跡内および近接地において民間工場建設が計画されたため、試掘調査を実施した。2002年の調査地点から南へ約150m離れたところである。開発予定地は北西側と東側の県道沿いにある台地部と、それに挟まれた低地部とに別れる。調査地点の標高は723～736mである。

開発予定地内に31箇所の試掘坑（以下TP○と表記）を設定し、重機により掘削した後、人力による遺構確認を行った。TP1～3・31が東側台地部、TP5～21・29・30が北西側台地部、TP4・22～28が低地部にあたる。

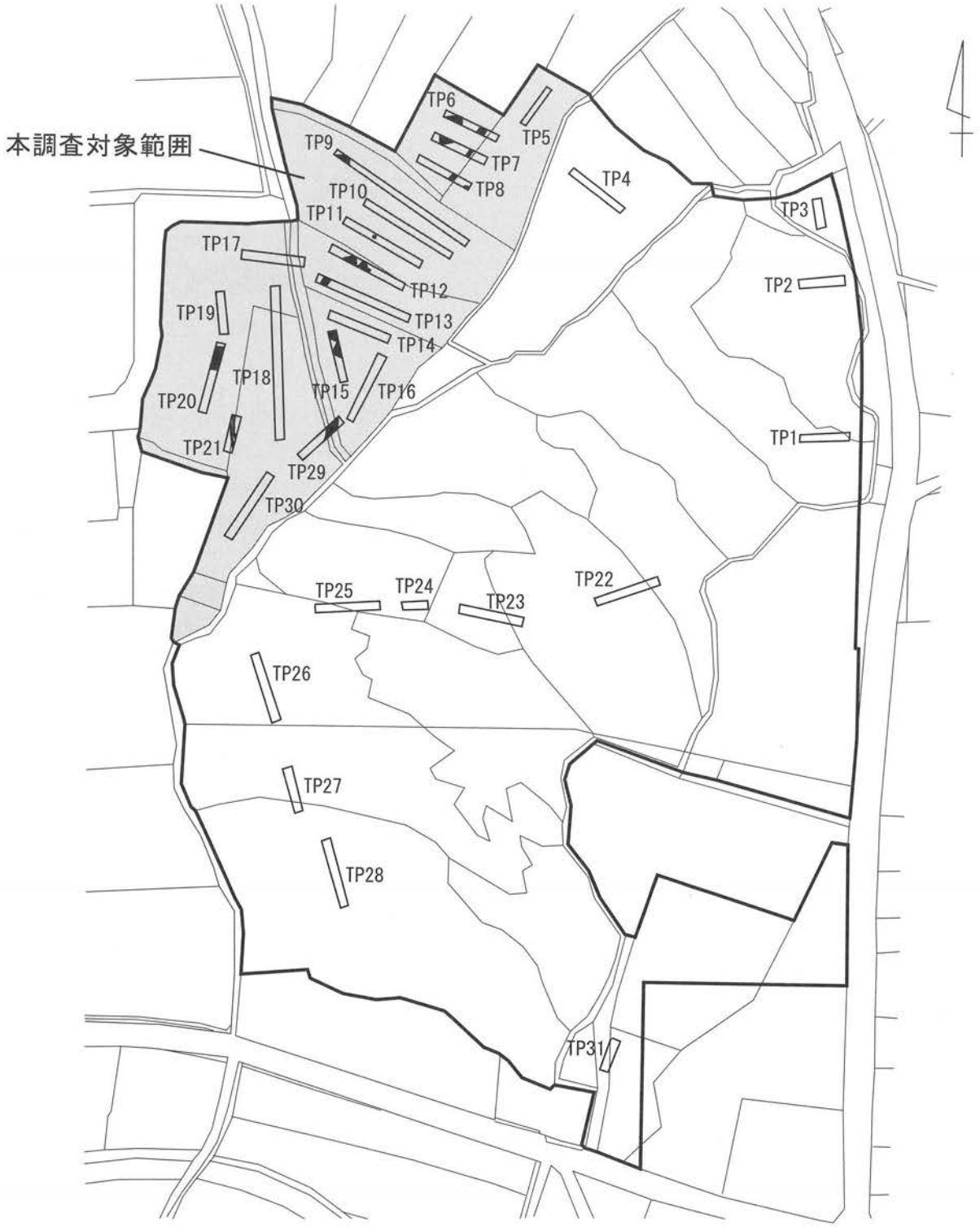
その結果、開発予定地の北西側台地部から古墳時代の住居跡１軒（TP20）と平安時代の住居跡が６軒（TP6・TP7・TP9・TP12・TP15）発見された。それ以外に土坑４基（TP8・TP11・TP12）、溝５条（TP6・TP7・TP8・TP13・TP21・TP29）が発見された。また、北西側台地部の試掘坑から少量ながら縄文時代の土器・石器、古墳時代の土師器、平安時代の土師器、陶磁器等が出土した。表土を剥ぐと直ぐに黄褐色ローム層になり、それが地山で遺構確認面となる。その深さは約20～30cmである。

上記以外の試掘坑からは遺物・遺構とも出土しなかった。市道沿いは既に盛土されており、TP1～3でそれが確認できた。低地部は重機の進入が困難な場所もあり、全体的に試掘坑を設定できなかった。低地部西側のTP26～28では、地表から約50～60cm下に黒褐色土層が約20cm堆積し、その下に灰褐色のローム層があった。低地部中央のTP24・25では３枚の砂利層と、その間に２枚の黒褐色土層があり、地表下約２mの所で岩盤に近い礫層を確認した。それらの黒褐色土が遺物包含層の可能性も考えられるが、低地部全ての試掘坑から遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果から、開発予定地北西側の台地部に古墳時代と平安時代の集落が確認でき、遺跡の範囲がそこまで広がっていることが判明した。よって、その範囲については埋蔵文化財保護措置が必要となり、今後開発事業者との協議をしていく予定である。

**参考文献**

長坂町教育委員会　2003『窪田遺跡　町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』




第１図　試掘坑および遺構配置図

写真１　ＴＰ６

写真２　ＴＰ15

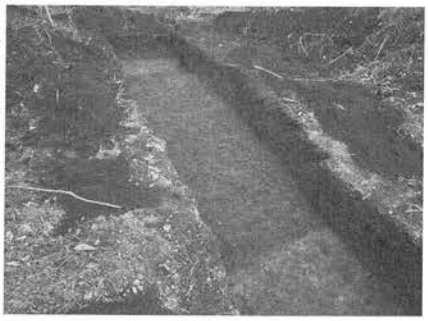
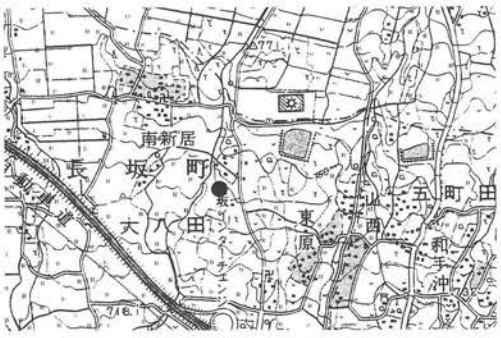


写真３　ＴＰ20

# 15　窪田（くぼた）遺跡

所　在　地　北杜市長坂町大八田1749-1外
調査原因　民間駐車場建設
調査期間　2005年12月20日～2006年１月21日
調査面積　262㎡
担　当　者　村松佳幸



調査地点位置図

ここで報告するのは、前述した日本ダボ工業地点から約300m北西へ離れたところで実施した試掘調査である。遺跡の北西部の近接地に駐車場建設が計画され、その場所へ遺跡が延びる可能性があったため、試掘調査を実施した。調査地点は、中央自動車道長坂インターチェンジから北へ約500m離れたところで、縄文時代の土坑や平安時代の竪穴住居跡等が発見された2002（平成14）年の調査地点から約100m北西の地点にあたる。調査地点の標高は740～744mである。

開発予定地に12ヶ所の試掘坑（以下TP○と表記）を設定し、重機により掘削した後、人力による遺構確認を行った。その結果、縄文時代と思われる竪穴住居跡が２軒（TP4）、古墳時代の竪穴住居跡が１軒（TP2）、平安時代と思われる竪穴住居跡が４軒（TP2・TP4・TP7）、掘立柱建物跡の一部と思われるピット列が２ヶ所（TP3・TP11）、土坑が１基（TP1）、組石遺構が１基（TP1）、溝状遺構が２基（TP１・TP2・TP3・TP6）発見された。また、自然流路と考えられる沢地形がTP6・8・10・12で確認できた。

遺物は縄文時代の土器・石器・黒曜石片、古墳時代の土師器、平安時代の土師器、中世以降のものと思われる陶磁器等が出土した。

住居跡は開発予定地北側に集中している。平面形態や出土土器から縄文時代・古墳時代・平安時代の住居跡と考えられる。ピット列は２ヶ所発見され、ピット３基のもの（TP3）と２基のもの（TP11）が検出された。おそらくそれぞれが掘立柱建物跡になると考えられる。

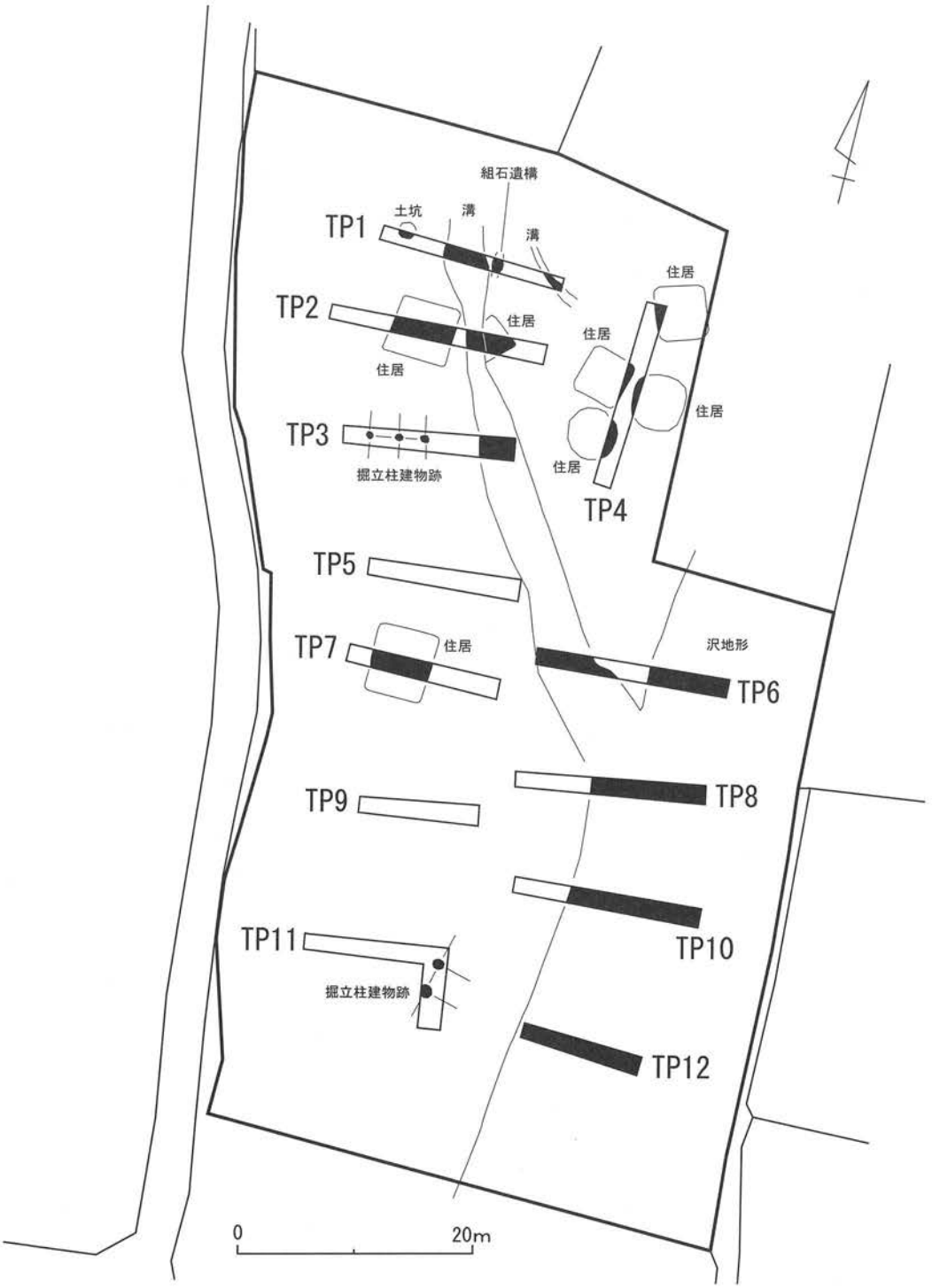
調査区中央には溝が走り、途中で沢地形と合流すると考えられる。TP1・2・3・6を通る溝の底部には砂利が堆積していたので、水が流れていた可能性が高い。東側の沢地形では、土器等の遺物が出土しなかったので自然流路の可能性がある。

遺物の出土したのはTP1・2・3・5・6・7・11の７ヶ所で、主に北側から多く出土した。南側は表土の下に盛土層があり、その直下が黄褐色土の地山になっており、包含層は掘削されていた。そのため遺物の出土量は少なかった。

調査結果から、開発予定地内に縄文時代・古墳時代・平安時代の集落が確認され、窪田遺跡の範囲が開発予定地全体に広がっていることが判明した。よって、埋蔵文化財保護措置が必要となり、今後開発事業者との協議をしていく予定である。

**参考文献**

長坂町教育委員会　2003『窪田遺跡　町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』




第１図　試掘坑および遺構推定図

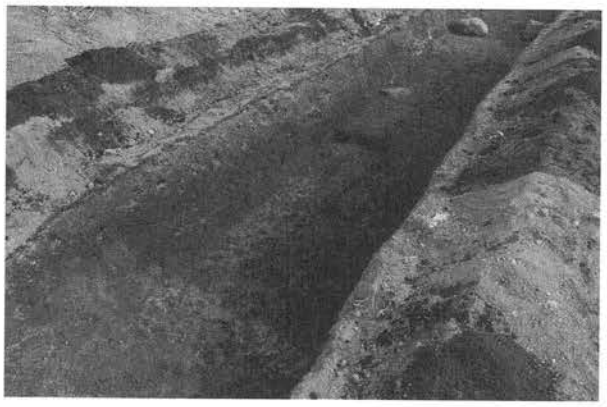


写真１　ＴＰ２

写真２　ＴＰ４

# 16　頭無A（かしらなしえー）遺跡

調査地点位置図

**所在地**　北杜市長坂町夏秋289外
**調査原因**　大規模太陽光発電実証研究事業
**調査期間**　2006年1月25日～2006年3月31日
**調査面積**　3,000㎡
**担当者**　村松佳幸

長坂町夏秋地内において大規模太陽光発電実証研究事業が計画されたため、その開発予定地内の試掘調査を実施した。開発予定地は、長坂インターチェンジから南へ約1.5km離れた中央自動車道沿いのところで、その範囲は約９haにも及ぶ。標高は660～682mである。地形は西側の台地部と北東側にある痩せ尾根と、それ以外の低地部に分かれる。その範囲内には、大々神Ｂ遺跡・治郎田遺跡・頭無Ａ遺跡が存在する。

開発予定地内に85ヶ所の試掘坑（以下TP○と表記）を設定し、重機により掘削した後、人力による遺構確認を行った。現状で山林や荒地が広がっていたため、掘削可能な場所に試掘坑を設定した。TP16～23が北東側痩せ尾根、TP64～82が西側台地部、それ以外が低地部にあたる。

調査の結果、弥生時代末～古墳時代初頭と考えられる住居跡１軒（TP23）、古墳時代と思われる竪穴住居跡１軒（TP82）、平安時代の竪穴住居跡３軒（TP42・TP68・TP71・TP74）、中世のものと考えられる竪穴状遺構１基（TP21）、土坑47基（TP16・TP17・TP20・TP21・TP23・TP42・TP56・TP57・TP58・TP60・TP64・TP68・TP71・TP72・TP74・TP77・TP78）、ピット３基（TP14）、溝状遺構17基（TP20・TP42・TP55・TP56・TP57・TP58・TP59・TP60・TP71・TP72・TP76）、性格不明遺構８基（TP19・TP22・TP72・TP75）が発見された。

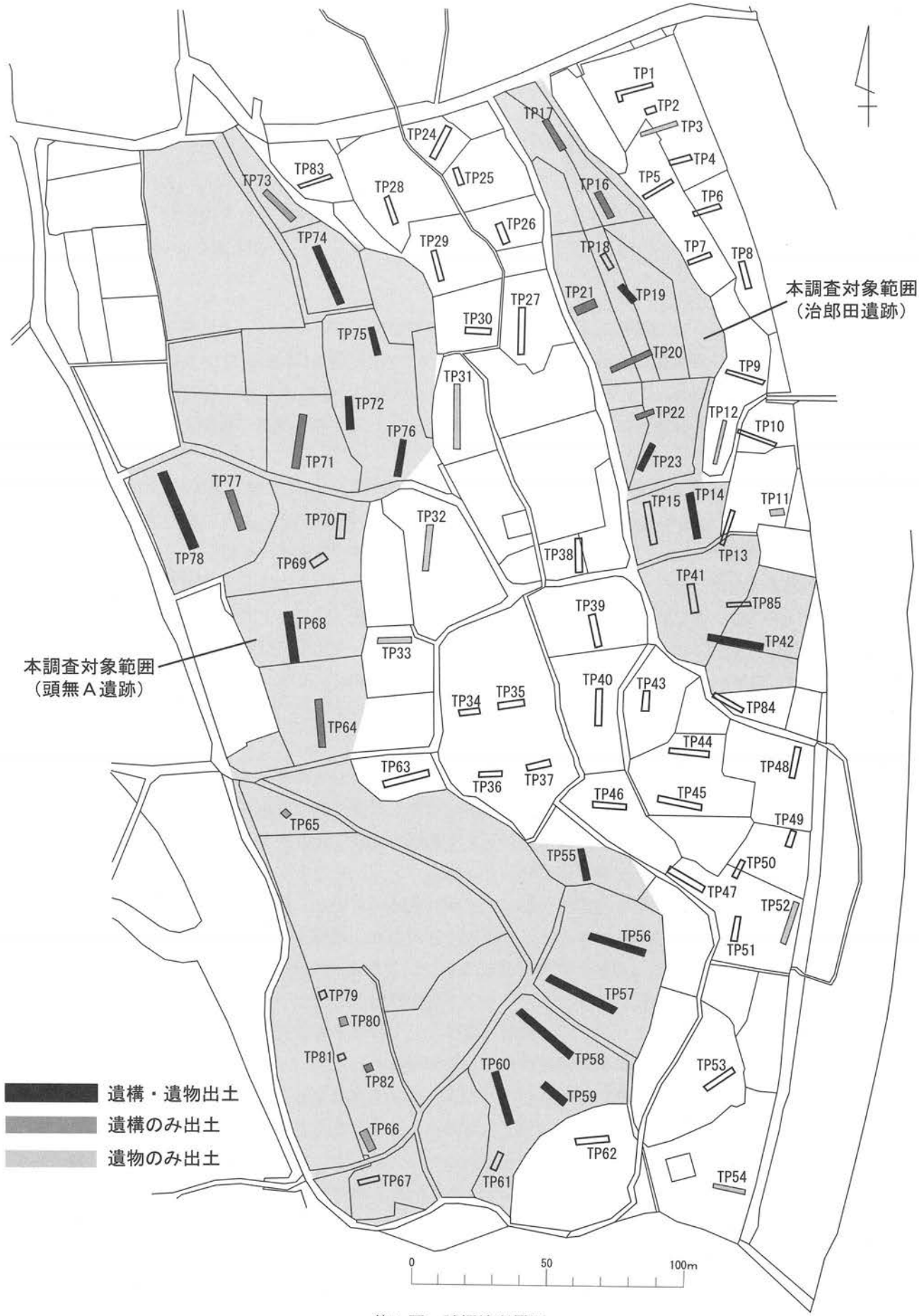
遺物は、縄文時代の土器・石器、古墳時代の土師器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器、中世の土師質土器、中世以降の陶磁器等が出土した。遺構・遺物が確認された試掘坑は37ヶ所になる。

調査の結果と現地形を参考にして、第１図に示した範囲を埋蔵文化財保護措置が必要な範囲とした。図示したところは、台地部および痩せ尾根にあたる場所であり、そこを中心に遺構が分布していることになる。西側の台地部はこれまで北側の一部に大々神Ｂ遺跡がかかり、南側に頭無Ａ遺跡が広がっていたが、その台地上に広く遺跡の存在することが確認できたので、頭無Ａ遺跡とした。

北東側の痩せ尾根では新たに遺跡の存在が確認できた。これまでTP38周辺が治郎田遺跡とされていたが、今回の調査で遺構が発見されず、また、そこで表面採取される土器は西側台地にある遺跡から流れ落ちてきたと考えられる。よって、その場所は遺跡としてはほとんど内容がないことが判明した。そこで新たに遺跡が発見された北東側の痩せ尾根を治郎田遺跡とした。

台地部と痩せ尾根に挟まれた部分は沢筋になり、50～60cmも掘削すると水が湧き出てくるところである。一部に葦の生えている箇所があるほど地下水位が高い場所である。低地部では、遺構が発見された試掘坑はなく、遺物を出土したのがわずかに見られるだけであった。なお、TP13～15・41・42・85と、TP55～61周辺は台地や尾根上ではないが、ちょっとした断丘面で低地の中ではわずかに高く、遺構・遺物が発見されたので調査対象範囲とした。

調査の結果から、開発予定地西側の台地部と北東側の痩せ尾根に弥生～古墳時代と平安時代の集落や中世の遺構が確認できた。よって、その範囲については埋蔵文化財保護措置が必要となり、今後開発事業者との協議をしていく予定である。


TP1
TP2
TP3
TP4
TP5
TP6
TP7
TP8
TP9
TP10
TP11
TP12
TP13
TP14
TP15
TP16
TP17
TP18
TP19
TP20
TP21
TP22
TP23
TP24
TP25
TP26
TP27
TP28
TP29
TP30
TP31
TP32
TP33
TP34
TP35
TP36
TP37
TP38
TP39
TP40
TP41
TP42
TP43
TP44
TP45
TP46
TP47
TP48
TP49
TP50
TP51
TP52
TP53
TP54
TP55
TP56
TP57
TP58
TP59
TP60
TP61
TP62
TP63
TP64
TP65
TP66
TP67
TP68
TP69
TP70
TP71
TP72
TP73
TP74
TP75
TP76
TP77
TP78
TP79
TP80
TP81
TP82
TP83
TP84
TP85
本調査対象範囲
（治郎田遺跡）
本調査対象範囲
（頭無Ａ遺跡）
遺構・遺物出土
遺構のみ出土
遺物のみ出土
0
50
100m

第１図　試掘坑配置図

# 17　史跡谷戸城跡

所　在　地　北杜市大泉町谷戸字城山
調査原因　史跡整備に伴う遺構確認調査
調査期間　2006年１月30日～３月31日
調査面積　310㎡
担　当　者　渡邊泰彦

調査地点位置図

今年度は整備工事に伴って一の郭土塁、二の郭空堀、三の郭空堀の一部、一の郭西虎口前面を調査したほか、補足調査として二の郭と北西斜面の調査を行った。

## 一の郭

東側虎口に面した土塁の崩落を防ぐために設置されていた石積みを撤去したので、土塁断面の確認を行った。土塁は中央から東側（二の郭側）にローム土、西側（一の郭側）に黒色土を盛り上げており、ローム土部分が全体の７割程度となっている。土を大まかに盛り上げているようで、全体的には雑な印象を受けた。断面の観察からは、もともとあった土塁（ローム土）に黒色土を付け足して規模を大きくした可能性も考えられる。工事に伴い、規模の大きい東側土塁の数地点でサブトレンチによる試掘を実施したが、土塁の内側（一の郭側）では黒色土が、頂上近くではローム土が風化して細かいブロック状になった土が確認された。しかし、外側（二の郭側）でも黒色土が確認されたので、断面観察の結果とは異なり、盛土の方法は一様ではないようである。

また、郭南側斜面にあった階段の撤去に伴い調査を行った。ここでは、土塁法面がそのまま斜面へと続いており、平場と斜面の境に築かれた土塁の基底部の土層断面を観察することができた。土は均一には盛られておらず、土塁の中心側の盛土量が少なくなるように傾斜をつけながら盛り上げて崩落を防いでいたようである。土を叩き締めた様子はなかった。

## 二の郭

平成10年度の調査時に建物跡を発見したが、調査トレンチの間のベルト（幅１ｍ）が未調査だったため建物の全体が不明確となっていた。今回は、そのベルト部分を調査し柱穴の確認を行った。

調査の結果、４個の柱穴状遺構を確認したが、10年度に発見した建物の一部となるのは１個だけのようである。

## 三の郭

三の郭も二の郭と同様に、郭外縁に土塁が巡らされているが、現況では一部に土塁が確認できない部分がある。この部分の確認が不十分であったため、２箇所にトレンチを設定して調査を行った。

その結果、土塁の痕跡が確認できない部分でも褐色と白色の粘性土で版築を行っていたことが確認された。10cmに満たない厚さで２種類の土を交互に積み重ねており、その勾配は約60°と急である。また、空堀は自然堆積では埋まりきらず、埋め土をして平坦にしていたことも判明した。しかし、郭外縁を空堀が巡り、その外側に土塁があったことを想定すると、版築の確認がとれた位置では土塁の大半は斜面側に張り出す形となる。あるいは、法肩部分を補強する目的で行われた版築とも考えられる。

## 北西斜面

城内へ通じる通路があったと想定されるため確認調査を行い、２本の帯状となった黒色土が南北へ伸びていることを確認した。黒色土は北側の最も浅いところで表土下30cm程度で確認された。20～30cmの厚さで堆積しており、途中に固く締まったブロック状のローム土が薄い層となって入っている。黒色土を除去するとローム層となるが、地形からは切土によって平場を造成しているように見える。ローム面も固く締まっていることから、ある一時期に通路となっていたことが考えられる。しかし、その使用時期については特定できなかったため、今後の検討が必要である。（渡邊泰彦）

一の郭　土塁断面

一の郭　南斜面断面

二の郭　調査状況

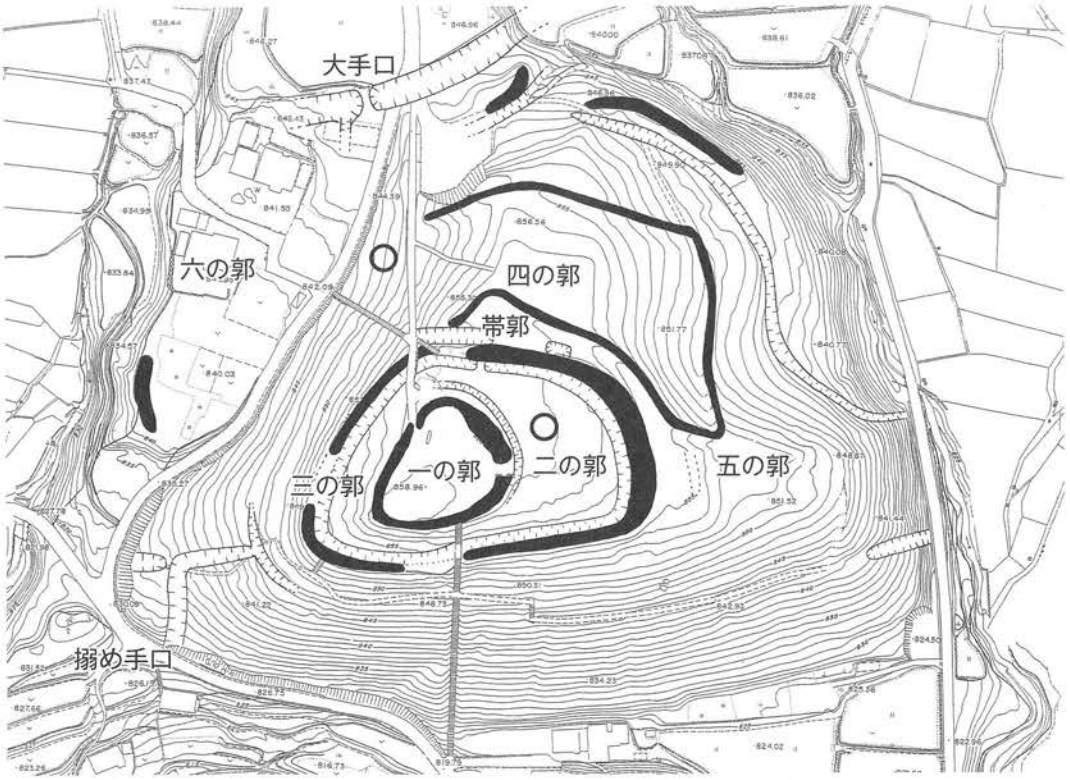
二の郭　柱穴状遺構プラン

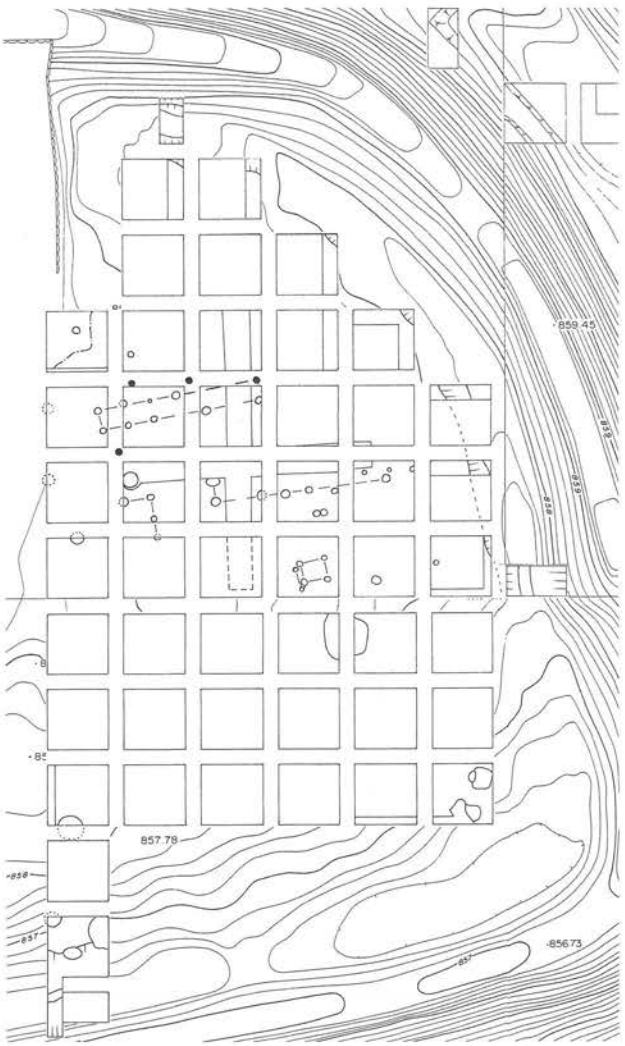
三の郭　空堀

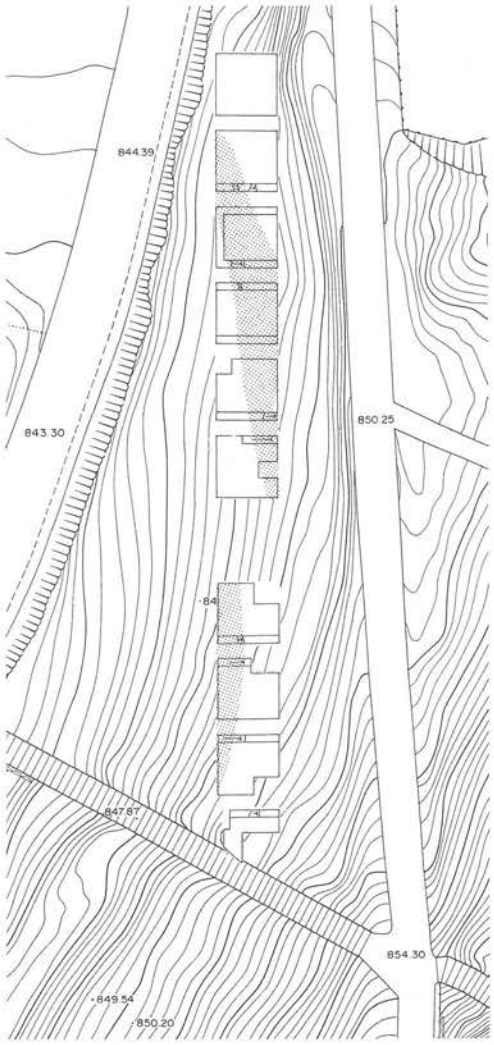
三の郭　空堀外側の版築状況

北西斜面　調査状況

北西斜面　黒色土部分断面

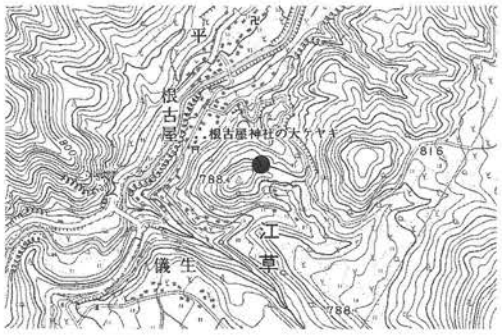




上：谷戸城全体図（○が下図の調査地点）　左下：二の郭調査区（黒丸が今回確認した柱穴状遺構　S＝1／500）
右下：北西斜面調査区（網掛け範囲が黒色土部分　S＝1／500）

# 18　獅子吼城（ししくじょう）跡



調査地点位置図

**所在地**　北杜市須玉町江草字城山5539番地ほか
**調査原因**　集落道改良工事
**調査期間**　2005年10月６日～2005年10月７日
**調査面積**　140㎡
**担当者**　佐野隆

北杜市指定史跡「獅子吼城跡」は、江草兵庫助信泰の居城とされ、天正十年に北条氏が徳川勢と戦う際に入城した山城である。周囲には湯戸、根古屋、駒ヶ入の集落があるが、湯戸集落から駒ヶ入集落に通じる集落道は狭隘で緊急車両の通行もままならない状況であったため、田園空間整備事業において集落道の改良工事が計画された。

改良前の集落道は、獅子吼城跡が所在する通称「城山（じょうやま）」の中腹を段切りして通じており、城山東側の山腹では城跡の「出構え」もしくは曲輪と思われる平坦面の一部を破壊していた。改良工事ではこの集落道をさらに２ｍほど拡幅し、土留擁壁を設置する計画であったため、事業主体である山梨県峡北地域振興局農務部（当時、現山梨県中北農務事務所）と北杜市教育委員会とで協議した結果、施工に先立ち発掘調査を実施することとした。発掘調査経費は602,596円で、峡北地域振興局農務部が負担した。この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 文化財保護法第94条による通知 | 平成17年８月18日付け峡北農第1122号 |
| 同通知に係わる指示文書 | 平成17年８月25日付け教学文第1335号 |
| 埋蔵文化財発掘調査費に関する協定書 | 平成17年９月29日付け |
| 文化財保護法第99条による発掘着手報告 | 平成17年12月12日付け北杜生学第714-3号 |
| 獅子吼城跡発掘調査実施結果報告書 | 平成18年４月３日付け北杜生学第59号 |

発掘調査は、集落道改良工事範囲のうち、先述した「出構え」と思しき平坦面地点、竪堀と思われる凹地２地点、竪堀を渡る土橋と思われる地点の４地点において実施した。また、改良工事により城域の一部が失われるため、地形測量を実施し、航空写真を撮影した。なお調査内容は軽微であるため、この報告をもって本報告とする。

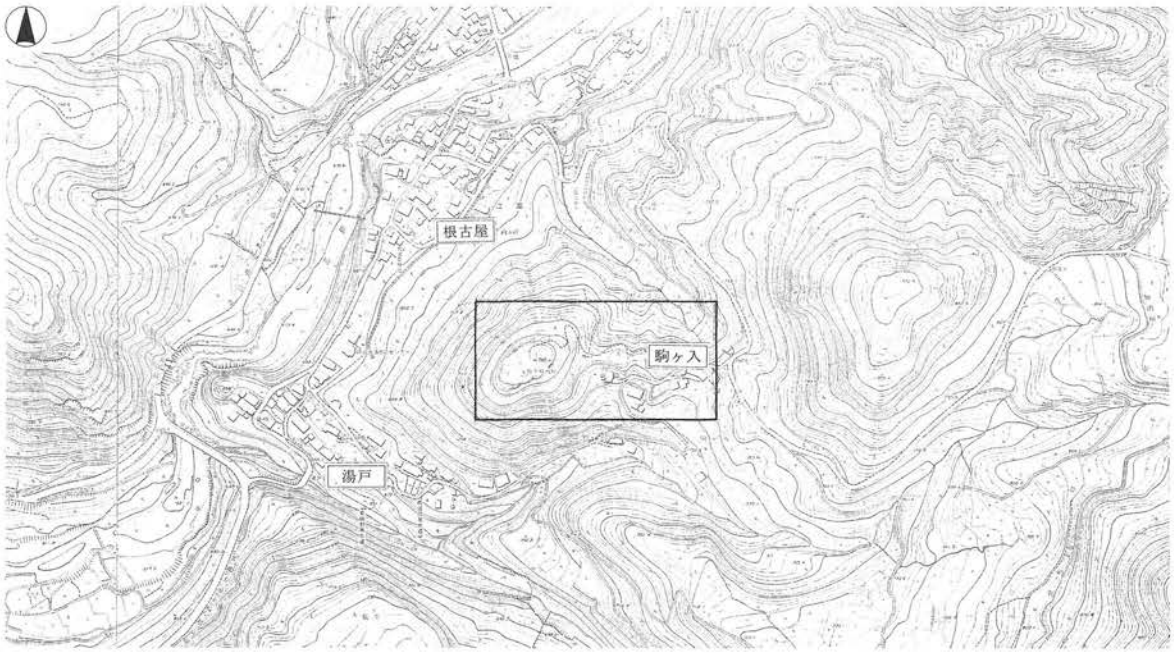
出構地点では幅0.7m×長25mの試掘溝を発掘した。出土品はなかったが、溝断面の土層観察によって自然地形の尾根筋の頂上部を人為的に削平して平坦面を造成していることを確認した。竪堀と思われる１地点でも試掘溝を発掘したが、既存の集落道によりすでに竪堀は失われていて、近世以降の墓地に上がる階段状の道跡を検出したにとどまった。ここでは縄文時代の土器破片数点が出土した。

他の竪堀１地点では既存の土留擁壁の撤去工事の際に、土層の断面観察を実施したが、工事による掘削は竪堀に至らず、竪堀の有無、人為的造成か自然地形の谷を利用したものか確認することはできなかった。同様にして土橋の存在も調査した。土橋は竪堀の可能性がある谷地形の谷頭部分の自然の尾根筋をそのまま利用しているらしく、人為的な盛土造成の痕跡はみられなかった。その限りでは自然地形であり、「土橋」とみなしうるものか不明である。

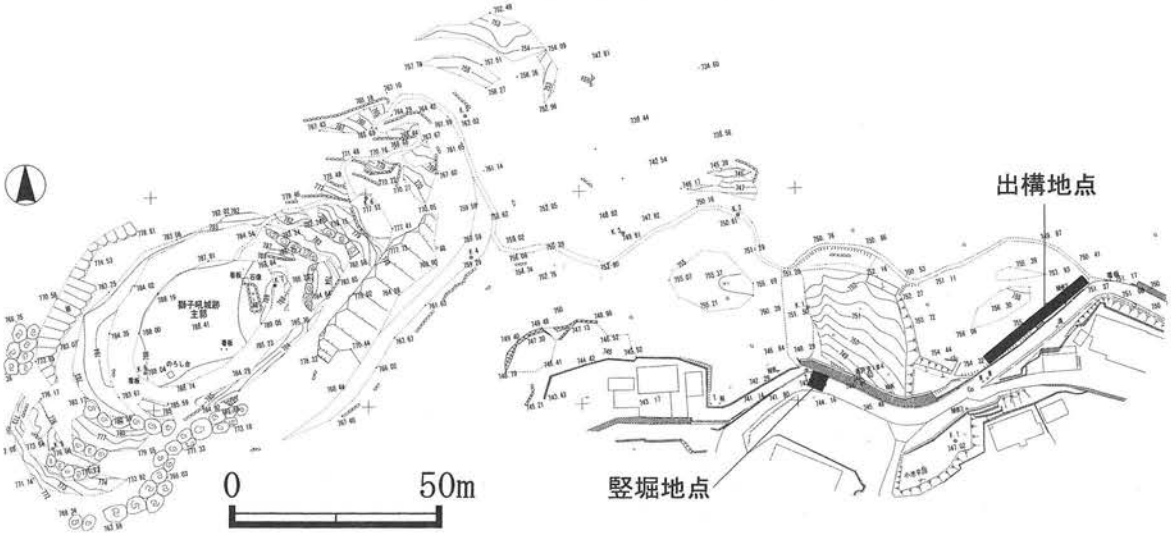
この発掘調査に係わる記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターに保管されている。末筆ならが、発掘調査に際し、駒ヶ入集落と関係者、関係機関の協力を賜ったことを記し、感謝申し上げたい。

（佐野隆）

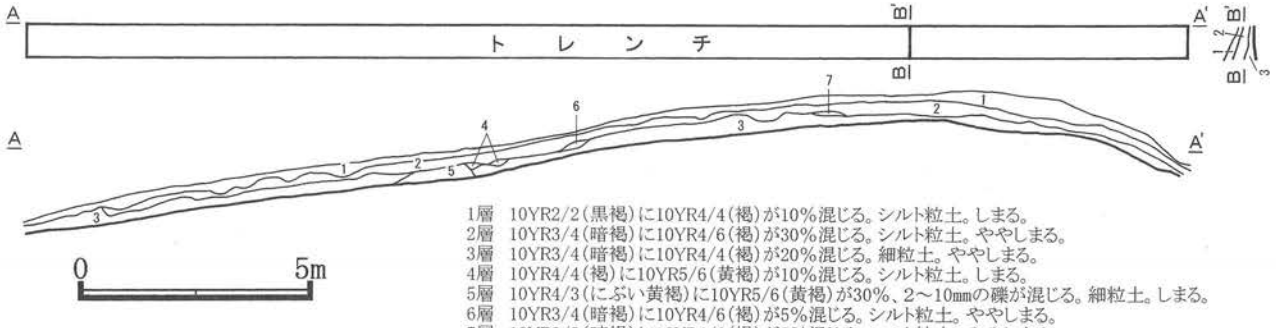
第１図　遺跡位置図（１／100,000）




第２図　調査区位置図（１／10,000）




第３図　調査区位置図




1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%混じる。細粒土。ややしまる。
4層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、2～10㎜の礫が混じる。細粒土。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。
8層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　10YR4/3(にぶい黄褐)。細粒土。しまる。

第4図　トレンチ　セクション図

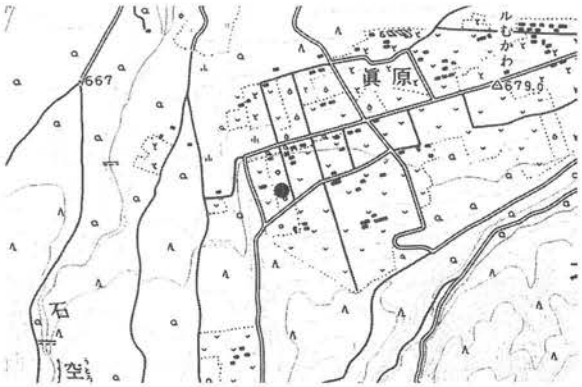
獅子吼城全景（南方上空から）

調査地点近景

出構地点トレンチ

竪掘地点

# 19　真原A遺跡
## —第７・８次調査—



※　調査地点位置図　1/25,000

所　在　地　北杜市武川町3567外
調査原因　個人営農活動
財　　源　国庫補助事業
調査期間　第７次　2005年２月19日～３月31日
　　第８次　2005年７月29日～８月19日
調査面積　第７次　1429㎡　第８次　792㎡
担　当　者　坂口広太

北西を石空川、南東を黒沢川に挟まれた北傾斜をなす舌状台地上に立地し、標高は約710mである。縄文時代中期後半、曽利式期を主体とする集落遺跡で、平成８年度より民間開発、個人営農活動（栗園を開墾し、普通畑に転作するため）に伴い、６回の発掘調査が行われている。検出された遺構は住居跡が17軒、土坑が約200基であり、住居跡の時期はいずれも曽利Ⅱ～Ⅲ式期であった。第６次調査の12号住居跡では炉と奥壁の間に配石遺構が検出されており、そこから釣手土器が出土するなど稀少な調査例となっている。また３軒の住居跡で高さ約70cm前後の大型の埋甕が出土している。土坑は住居跡とほぼ同時期と考えられるが、第４次調査で曽利Ⅳ式期の土器が11個体埋設された土坑が検出され、他の土坑と大きな相異を示している。

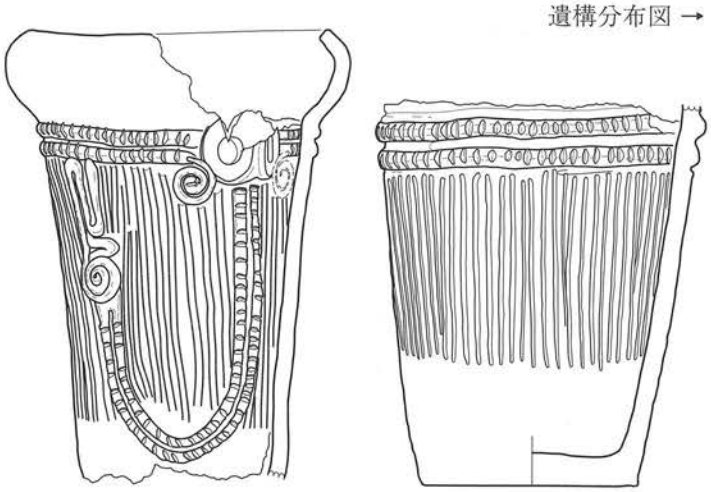
第７・８次調査地点は過去の調査からも遺構が良好に残されていることが予想された。そこで教育委員会は地権者と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡を現状保存するために保護層を設けた上で普通畑に転作すること、営農行為以外の掘削を行わないこと、ヤマイモ、ゴボウなどの深耕作物を栽培しない旨の保存協定を交わした。調査は遺構の数やその位置の記録にとどめ、住居跡など個別遺構の発掘は行わなかった。遺構確認後は調査区全体に砂10cm・赤土20cmによる保護層を設け、一度剥ぎ取った表土の埋戻し作業を行った。

第７・８次調査で検出された遺構は住居跡が12軒、土坑が約200基である。遺構確認面から出土した土器片から住居跡の時期は概ね曽利Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。また曽利Ⅰ式期の土器も若干出土しており、集落の発生段階を知る上で重要な発見となった。長軸８m以上の住居跡が３軒検出されており、本遺跡では最大級の住居となっているが、いずれも２軒以上の重複住居という可能性もあり確実視できない。

本調査によって住居総数は29軒となり、その分布状況から全体では50軒以上の環状集落を形成することが予想できた。曽利式期全般の集落遺跡としては中規模クラスの遺跡と考えられるが、住居の継続期間は非常に短く、こと一時期の集落景観を復元するならば他の大型遺跡と同等以上の情報量を有した遺跡といえる。（坂口広太）

保存協定区域図 ↑ (1/3,000)

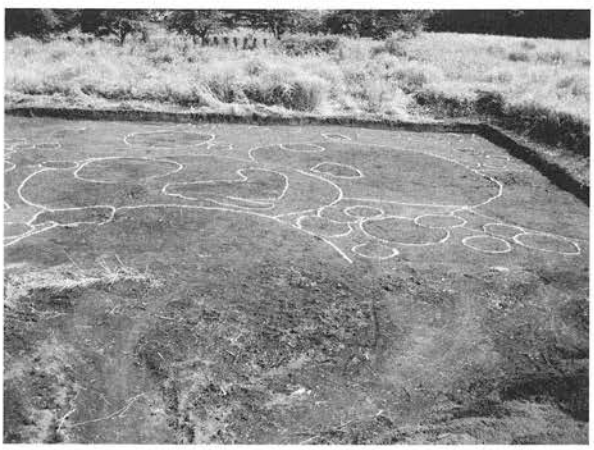
遺構分布図 → (1/800)



曽利Ⅰ式期の土器 (1/4)

遺構の盛土保存 ( 砂・赤土敷き均し作業 )

第 7 次調査 遺構検出状況



第 8 次調査 遺構検出状況

平成17年度の文化財保護法第93条届出及び埋蔵文化財保護措置の一覧（届出受理順）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 面積(㎡) | 調査原因 | 調査期間 | 種別 | 保護措置の別 | 調査結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甲ッ原遺跡第21地点 | 大泉町西井出字和田9130 | 200 | 個人住宅 | 20050705 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 2 | 宮地第４遺跡 | 大泉町西井出字宮地1830－２ | 700 | 個人住宅 | 20050425 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 3 | 古林第３遺跡 | 大泉町西井出字古林8748－１ | 206 | 個人住宅 | 20051219 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 4 | 下大内遺跡 | 明野町小笠原字下大内3212 | 1053 | 倉庫建設 | 20050518 | 集落跡 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 5 | 古林第３遺跡 | 大泉町西井出字古林8665－１ | 675 | 個人住宅 | 20050606 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 6 | 一道下遺跡 | 須玉町大蔵字一道下526－１ | 1223 | 宅地造成 | 20060213～0215 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構現状保存 |
| 7 | 長原Ｅ遺跡 | 高根町浅川字長原1990 | 839 | 個人住宅 | 20050711 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 8 | 山本遺跡 | 長坂町渋沢字龍角1307－１ | 3178 | 宅地造成 | 20050607～0613 | 集落跡 | 試掘調査・一部本調査 | 包蔵地範囲変更・一部現状保存 |
| 9 | 大坪遺跡 | 高根町五町田字口ヶ坪1907－１ | 614 | 個人住宅 | 20050621 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 10 | 上日野遺跡 | 長坂町日野字上日野21－４ | 370 | 個人住宅 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 11 | 桜畑南遺跡 | 長坂町小荒間字桜畑54－５ | 1907 | 宅地造成 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 12 | 後原遺跡 | 高根町小池字後原1191－２ | 274 | 個人住宅 | 20050705 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 13 | 新宿区健康村遺跡 | 長坂町中丸字新代1620－３ | 748 | 個人住宅 | | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 14 | 石堂遺跡 | 大泉町西井出字石堂8240－3067 | 2986 | 宅地造成 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 15 | 柳原遺跡 | 白州町白須字柳原419－１ | 918 | 個人住宅 | 20050803～0804 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 16 | 渋田北遺跡 | 長坂町大八田字渋田1122－１ | 643 | 個人住宅 | | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 17 | 堤前遺跡 | 高根町箕輪字堤前2106－１ | 973 | 個人住宅 | 20050824 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 18 | 豆生田第３遺跡 | 大泉町谷戸字豆生田565－１ | 404 | 個人住宅 | 200512121 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 19 | 村之内Ⅲ遺跡 | 明野町上手字下反保682 | 166 | 個人住宅 | 20051220 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 20 | 後原遺跡 | 高根町上黒沢字東久保1570－１外 | 1466 | 宅地造成 | 20050830 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 21 | 窪田遺跡 | 長坂町大八田字窪田1580外 | 25517 | 工場用地造成 | | 散布地 | 試掘調査 | 開発協議 |
| 22 | 屋敷平遺跡 | 白州町台ヶ原字西久保274－１外 | 2033 | 工場建設 | 20050908～1011 | 散布地 | 試掘調査・本調査 | 縄文時代晩期の住居跡・土坑他 |
| 23 | 池平昭和堤北遺跡 | 長坂町日野字池平701－１ | 340 | 個人住宅 | 20050824 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 24 | 御所遺跡 | 高根町五町田字御所794－１ | 918 | 個人住宅 | 20051012 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 25 | 下原遺跡 | 高根町箕輪新町字下原301－１ | 475 | 個人住宅 | 20050913 | 集落跡 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 26 | 山本遺跡 | 長坂町渋沢字龍角1307－１ | 250 | 個人住宅 | 20051213～1217 | 集落跡 | 試掘調査・本調査 | ８山本遺跡と同じ開発物件 |
| 27 | 米山遺跡 | 長坂町大八田字米山6811－28外 | 9675 | 宅地造成 | 20060331 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 28 | 稲荷田遺跡 | 高根町村山西割字稲荷田1467－１ | 485 | 個人住宅 | 20051109 | 集落跡 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 29 | 中久保Ａ遺跡 | 高根町上黒沢字中久保1052－５ | 460 | 個人住宅 | 20051117 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 30 | 大々神遺跡 | 長坂町夏秋字神田182－１ | 1099 | 個人住宅 | 20060417～0419 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 31 | 蛭久遺跡 | 須玉町若神子新町字大門425 | 589 | 個人住宅 | 20051121 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 32 | 中原１遺跡 | 白州町横手字中原1209 | 155 | 無線基地 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 33 | 新井Ａ遺跡 | 高根町村山北割字新井1942－２外 | 439 | 個人住宅 | 20051124 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 34 | 横森東下遺跡 | 高根町箕輪字横森東下674－５ | 501 | 個人住宅 | 20051219 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 35 | 後田遺跡 | 須玉町若神子字御所村1429－２ | 200 | 個人住宅 | 20051226 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 36 | 西原Ａ遺跡 | 武川町牧原字西原958－１ | 699 | 個人住宅 | 20060105 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 37 | 牛久保遺跡 | 長坂町白井沢字糀屋敷3397－２ | 496 | 個人住宅 | 20060130 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 38 | 石堂遺跡 | 大泉町西井出字石堂8240－7822 | 260 | 個人住宅 | 20060110 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 39 | 上原遺跡 | 武川町牧原字上原44－１ | 574 | 個人住宅 | 20060105 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 40 | 三枝土佐守屋敷遺跡 | 須玉町東向字中屋敷2588 | 934 | 個人住宅 | 20060203 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 41 | 油川第２遺跡 | 大泉町西井出字石堂8240－101外 | 742 | 個人住宅 | 20060203 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 42 | 横森遺跡 | 高根町箕輪字横森613外 | 915 | 個人住宅 | 20060116 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 43 | 南新居北遺跡 | 長坂町大八田字南新居2043－２ | 258 | 個人住宅 | 20060213 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 44 | 多屋前遺跡 | 須玉町大豆生田字多屋前590 | 185 | 個人住宅 | 20060214 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 45 | 宮の前Ｂ遺跡 | 高根町蔵原字宮の前1711 | 800 | 個人住宅 | 20060206 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 46 | 石田前遺跡 | 高根町村山東割字石田前754 | 577 | 個人住宅 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 47 | 東原遺跡 | 長坂町大八田字渋田1061 | 429 | 個人住宅 | 20060324 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 48 | 後原遺跡 | 高根町上黒沢字東久保1496－１外 | 2997 | 宅地分譲 | 20060209～0213 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 49 | 浅尾原Ⅵ遺跡 | 明野町浅尾字浅尾原5260－24外 | 13266 | 廃棄物最終処分場 | 20050606～20070331 | 散布地 | 試掘調査 | 梅之木遺跡確認調査に併せて調査 |
| 50 | 御所遺跡 | 高根町五町田字御所854－１外 | 571 | 工場建設 | 20060213～0222 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 51 | 中原遺跡 | 高根町小池字中原37－７外 | 415 | 個人住宅 | 20060228 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 52 | 長原Ｅ遺跡 | 高根町浅川字中反2026－１ | 567 | 個人住宅 | 20060410 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 53 | 多屋前遺跡 | 須玉町大豆生田字大免678－１ | 239 | 個人住宅 | | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 54 | 西原北遺跡 | 高根町村山西割字西原2326－２外 | 776 | 工場建設 | 20060306～0307 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 西原遺跡 | 高根町村山西割字西原2282－3外 | 677 | 宅地分譲 | 20060301 | 散布地 | 試掘調査 | 開発協議 |
| 56 | 中村遺跡 | 大泉町西井出字辻2379 | 223 | 個人住宅 | 20060228～0306 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 57 | 窪田遺跡 | 長坂町大八田字窪1749－1外 | 3849 | 駐車場造成 | 20051220～0121 | 集落跡 | 試掘調査 | 盛土保存 |
| 58 | 浅尾原Ⅵ遺跡 | 明野町浅尾字浅尾原5259－589外 | 37638 | 廃棄物最終処分場 | 20050606～20070331 | 散布地 | 試掘調査 | 梅之木遺跡確認調査に併せて調査 |
| 59 | 泉・上手原遺跡 | 高根町東井出字上手原4986－496 | 822 | 個人住宅 | 20060407 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 60 | 日影田遺跡 | 高根町下黒沢字日影田2333－3外 | 2993 | 宅地分譲 | 20060307～0309 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 61 | 村之内Ⅲ遺跡 | 明野町上手字下反保606－1 | 364 | 無線基地 | 20060310 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 62 | 眞原Ａ遺跡 | 武川町山高字眞原3567－3 | 792 | 個人営農活動 | 20050729～0819 | 集落跡 | 試掘調査・本調査 | 遺構現状保存 |

平成17年度の文化財保護法第94条通知及び埋蔵文化財保護措置の一覧（通知受理順）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 面積(㎡) | 調査原因 | 調査期間 | 種別 | 保護措置の別 | 調査結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後原遺跡 | 高根町村山西割字宮地1675－1 | 1092 | 放課後児童クラブ | 20050526～0530 | 集落跡 | 試掘調査 | 遺構現状保存 |
| 2 | 西ノ原Ｂ遺跡 | 高根町村山西割字西の原1887－1外 | 7957 | 市営住宅建設 | 20051018～0329 | 集落跡 | 試掘調査・本調査 | 縄文時代・古墳時代の集落跡 |
| 3 | 御所遺跡 | 高根町五町田字御所852外 | 2659 | 県道改良 | 20051027～1209 | 散布地 | 試掘調査・本調査 | 平安時代の集落跡 |
| 4 | 平山遺跡 | 須玉町江草字平山5743－1外 | 2000 | 農産物加工施設 | 20050621～0722 | 集落跡 | 試掘調査・本調査 | 縄文時代・弥生時代の集落跡 |
| 5 | 御崎前遺跡 | 須玉町若神子字御崎前716外 | 740 | 市道改良 | 20050909～1021 | 集落跡 | 試掘調査・本調査 | 中世の集落跡 |
| 6 | 妻の神遺跡 | 高根町堤字西ノ入61 | 70 | 耐震貯水槽 | 20051108 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 7 | 獅子吼城 | 須玉町江草字城山5539外 | 1334 | 集落道改良 | 20051006～1007 | 城館跡 | 本調査 | 中世の山城跡 |
| 8 | 甲ッ原遺跡 | 大泉町西井出字和田9131外 | 763 | 農道改良 | 20051212～1222 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 9 | 法性寺前遺跡 | 長坂町小荒間字稲久保732－3外 | 61 | 市道改良 | 20051130 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 10 | 二ツ木Ｂ遺跡 | 須玉町大豆生田字二ツ木1159－9外 | 4170 | 市道改良 | 20051107～0331 | 散布地 | 試掘調査 | 遺構不検出 |
| 11 | 頭無Ａ遺跡 | 長坂町夏秋字頭無383外 | 93763 | その他開発（大規模太陽光発電実証研究施設） | 20060125～0331 | 散布地 | 試掘調査 | 平安時代の集落跡を確認 |
| 12 | 大々神遺跡 | | | | | | 試掘調査 | |
| 13 | 大々神Ｂ遺跡 | | | | | | 試掘調査 | |
| 14 | 治郎田遺跡 | | | | | | 試掘調査 | |
| 15 | 平林遺跡 | 明野町上手字平林9340外 | 854 | 市道改良 | 20060120 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 16 | 蟻塚遺跡 | 長坂町長坂上条字蟻塚1959外 | 883 | 農道改良 | 20060124 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 17 | 下村遺跡 | 長坂町塚川字西久保1720－1外 | 1222 | 農道改良 | | 散布地 | 試掘調査 | 中世の居館跡？ |
| 18 | 金生遺跡 | 大泉町谷戸字金生地内 | 244 | 水路改修 | | 集落跡 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 19 | 二ツ木Ｄ遺跡 | 須玉町大豆生田961－1 | 170 | 集会施設 | 20060227 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 20 | 二ツ木Ｄ遺跡 | 須玉町大豆生田961－1 | 3245 | 駐車場 | 20060314 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 21 | 御所遺跡 | 高根町五町田字御所794－1外 | 22 | 下水道工事 | 20060302 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 22 | 二ツ木Ｄ遺跡 | 須玉町大豆生田961－1 | 100 | 市道改良 | 20050419 | 散布地 | 工事立会 | 遺構不検出 |
| 23 | 向山遺跡 | 須玉町小倉字向山2606外 | 1127 | 農道改良 | 20050426～0704 | その他の墓 | 試掘調査・本調査 | 中世の墓域 |

平成17年度刊行の埋蔵文化財調査報告書一覧

| 書名 | | | 副書名 | 主な遺構と遺物 |
|---|---|---|---|---|
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第11集 | 鳥原平遺跡群３ | 県営畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 縄文時代中期の住居跡23、平安時代の住居跡3、土坑群、地下式土坑 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第12集 | 梅之木遺跡 | 縄文時代中期の集落遺跡の平成17年度確認調査概要報告書 | 縄文時代中期末葉の環状集落跡、水辺の敷石遺構、集石土坑、道路跡 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第13集 | 平山遺跡 | 食品加工施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 弥生時代中期の住居2、掘立柱建物跡、縄文時代中期の住居1、土坑 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第14集 | 御崎前遺跡 | 市道若神子大蔵線工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 平安時代の住居跡1、掘立柱建物跡、中世後半頃と思われる配石墓 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第15集 | 史跡谷戸城跡 | 平成17年度環境整備事業に伴う発掘調査概報 | 中世城郭跡 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第16集 | 屋敷平遺跡第2次調査 | 金精軒製菓株式会社工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 | 縄文時代晩期の住居跡、土坑群、中世の掘立柱建物跡、円形土坑、地下式土坑 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第17集 | 向山遺跡 | 広域農道工事に伴う中世墓群の発掘調査報告書 | 丘陵斜面の中世墓地、墳墓堂と思われる建物跡、五輪塔、火葬施設 |
| 北杜市埋蔵文化財調査報告 | 第18集 | 駒飼場遺跡平林遺跡 | 個人住宅建設に伴う縄文時代中期の集落遺跡の発掘調査報告書 | 縄文時代中期の住居跡2、土偶、人面装飾付土器 |

北杜市文化財年報

北杜市教育委員会
平成17年度年報

平成18年３月25日　印　刷
平成18年３月31日　発　行

編集・発行　北杜市教育委員会

印　　刷　ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5
TEL（026）244-0235

山　梨　県　北　杜　市

YASHIKIDAIRA

# 屋　敷　平　遺　跡

第　2　次　調　査

金精軒工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

２　０　０　６

金精軒製菓株式会社
山梨県北杜市教育委員会

# 例　言

1．本書は、2005（平成17）年に実施した山梨県北杜市白州町台ヶ原433・274-1番地に所在する屋敷平遺跡の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、金精軒製菓株式会社の食品加工場建設に伴う記録保存のために、金精軒製菓株式会社の委託を受けて北杜市教育委員会が実施した。
3．本遺跡の現地発掘調査期間は、2005年９月８日～同年10月11日である。
4．発掘調査及び本書の編集は坂口広太が行った。
5．本書に関わる出土品及び記録図面・写真等は北杜市教育委員会にて保管している。
6．本遺跡の調査及び報告書作成に際し、金精軒製菓株式会社をはじめ多くの関係者のご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。
7．発掘調査参加者（敬称略、五十音順）
秋山かつゑ、厚芝金夫、粟澤美香、石原すみゑ、石渡節子、井出正美、井上町子、長田重子、小澤久恵、小野一英、小尾トヨ子、片山和江、兼松章子、上村ゆきえ、河手寿子、小松原千津、酒巻正道、清水里子、清水さゆり、清水千尋、清水ヤス子、清水泰倫、鈴木節夫、鈴木照香、筒井つや子、壺屋てる子、名取初子、野崎美智恵、長谷川規愛、畠山己幸、藤原喜美子、三井啓介、水上勝美、皆川由紀子、皆川禮子、八巻久子、八巻まさ子、山田雅子、山中敏夫

# 凡　例

1．掲載した地図は、国土地理院発行５万分の１地形図「韮崎」と旧白州町役場発行１万分の１平面図３を使用した。
2．掲載した遺構・遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりである。
（遺構）調査区全体図１/250、土坑・ピット配置図１/100、掘立柱建物跡１/80、竪穴住居跡１/40、地下式坑１/60、土坑１/40
（遺物）図上復元土器・土器拓本１/３、土製品１/３、石鏃１/１、その他石製品１/３
3．遺構断面図中ポイント部分の数値は標高を示す。
4．遺構覆土色・土器胎土色等は『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。
5．住居跡平面図における柱穴内の数値は床面レベルからの深さ（cm）である。

# 目　次

例言・凡例
本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第１章　調査の経緯と遺跡の概要
第２章　発見された遺構と遺物

# 挿図目次

第１図　屋敷平遺跡の位置と周辺の遺跡
第２図　調査区位置図
第３図　調査区全体図
第４図　土坑・ピット配置図①
第５図　土坑・ピット配置図②
第６図　１号住居跡
第７図　掘立柱建物跡
第８図　土坑・地下式坑
第９図　１号住居跡出土遺物
第10図　出土土器①
第11図　出土土器②
第12図　出土土製品
第13図　出土石器

# 表目次

第１表　土坑一覧表
第２表　単独ピット一覧表
第３表　土器観察表
第４表　土製品観察表
第５表　石器観察表一覧

# 写真図版目次

図版１　屋敷平遺跡調査区近景
１号住居跡検出状況
１号住居跡完掘状況
縄文時代晩期の土坑（161号土坑）
縄文時代晩期の土坑（168号土坑）
図版２　縄文時代晩期の土坑群
１号・２号掘立柱建物跡
３号掘立柱建物跡
５号掘立柱建物跡
円形土坑群
図版３　１号地下式土坑骨検出状況
１号地下式土坑セクション
44号土坑セクション
91号土坑セクション
２号地下式土坑
掘立柱建物跡と円形土坑、方形土坑の重複関係を示す
調査風景

## 1　調査に至る経緯と概要

平成17年６月20日、金精軒製菓株式会社（山梨県韮崎市中田町）が食品加工場建設を計画する北杜市白州町台ヶ原274番地及び433番地における埋蔵文化財の有無について、同社が土地測量等を委託した測量業者より北杜市教育委員会に照会があった。市教委は当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地であるため文化財保護法に基づく届出が必要である旨を回答し所定の手続きを経るよう指導した。これを受けて平成17年８月17日、金精軒製菓株式会社から文化財保護法第93条届出が提出された。

工場建設の着工予定時期が迫っていたことから、市教委は、事務手続きと併行して平成17年８月３日から４日に当該地において試掘調査を実施したところ、中世と思われる円形土坑と掘立柱建物跡の一部と思われるピットが検出され、縄文時代晩期の土器片が出土した。８月15日には、土木工事の主体者である金精軒製菓株式会社に、この試掘結果を報告し、当該地における土木工事の施工に伴い埋蔵文化財の保護措置を講じることが必要と説明した。

金精軒製菓株式会社と工事設計者、市教委とで遺構状況と工事計画とを照らして検討したが、工場規模が大きく、基礎工事には一定深度以上の掘削が不可欠であり、工場直下の遺構の現状保存は困難との結論に至り、工事着手前に記録保存のための発掘調査を実施することとした。なお、用地敷地面積2007㎡のうち、発掘調査対象としたのは768㎡で、残余は遺構保存区域とした。

市教委では、直ちに調査経費を積算して調査費を2,300,000円とし、金精軒製菓株式会社と「食品加工場建設に伴う屋敷平遺跡発掘調査に関する協定書」を平成17年９月５日付けで締結した。調査経費は直ちに前納され、９月８日より発掘調査に着手した。なお、屋敷平遺跡では後述のとおり過去に発掘調査が実施されているため、本調査を第２次調査とする。

調査区域は建物申請地をⅠ区、排水処理設備の埋設部分をⅡ区とした。調査は重機による表土掘削に始まり、遺構・遺物が検出された面より人力で掘り下げた。グリッド杭は打たず、任意に杭を数本打ち、光波測量機を据える基準点とした。遺物の取り上げや遺構平面図の測量は基本的に光波測量機で行い、その他必要な図面は簡易遣り方による手実測で図化した。

調査の結果、縄文時代晩期の住居跡１軒と土坑群、時期不明の掘立柱建物跡、円形土坑群、地下式坑、溝状遺構が検出された。

現地調査は、平成17年10月11日をもって終了したが、試掘調査結果に基づいて市教委が見積もった調査経費に不足が生じることとなった。これは主に試掘調査では充分に予測できなかった縄文時代晩期の土坑百数十基からなる土坑群の調査が必要となったためである。そこで、市教委は再度、金精軒製菓株式会社と協議し、150,000円の追加負担を依頼し、同社の理解と承諾を得て、平成18年３月30日付けで「食品加工場建設に伴う屋敷平遺跡発掘調査に関する変更協定書」を締結。同社は速やかに追加負担額を納付した。

こうして記録保存のための発掘調査が終了した。この間、金精軒製菓株式会社と関係者は、終始、文化財の保護に深い理解を示し、調査の進捗に協力いただいた。この点を特に記して感謝申し上げたい。記録保存の調査後、食品加工場工事は計画通り施工された。

## 2　遺跡周辺の環境と調査履歴

屋敷平遺跡は釜無川とその支流である尾白川に挟まれた標高約565m の平坦な河岸段丘面に位置する。段丘面は両河川の合流点に向かって緩やかに傾斜し、北東縁辺部では河川敷との比高差が20m 程の急崖となっている。釜無川の左岸には八ヶ岳岩屑流、通称「七里ヶ岩」があり、尾白川の右岸には中世の砦が築かれた中山がある。

遺跡の西側には国道20号線、旧「甲州街道」が走る。この甲州街道沿いには宿場街「台ヶ原宿」の町並みが残る。

屋敷平遺跡の存在は古くより知られ、昭和58年の遺跡分布調査の際には大規模な館跡の可能性があると報告された。平成３年に台ヶ原農工団地建設に伴い発掘調査が行われ、溝状遺構が１条、遺構外から縄文時代早期、晩期、弥生時代の土器が発見された。この第１次調査では、約50,000㎡の農工団地用地が開発予定地とされ、白州町誌に「大規模な館跡の可能性がある」と指摘されていることから、平成２年４月に試掘調査と周辺踏査を行い、土坑や石組などの遺構が検出され、内耳土器などが出土した。

試掘調査の結果、遺物の分布範囲が34,000㎡、遺構の存在の可能性がる範囲が20,000㎡と確認され、そのうち造成工事等により遺跡が破壊される9,500㎡を対象に平成３年４月19日から５月24日まで本調査を行った。

本発掘調査では、溝状遺構が１本検出された（第２図）。溝状遺構は、調査区中央から北東方向に30m、東に向かって50m程延び、調査区域外へ続いている。東の延長線上にある釜無川に面する台地縁辺は浸食されている。南西の延長上には、下層の覆土と同じ白色の砂礫が堆積している帯が40m程延びている。これはぶどう園の地下に埋設された給水管の可能性がある。

この調査では、縄文時代中期前半、弥生時代中期の土器片数点が出土したほか、土師質土器、内耳土器、青磁などの中世の遺物が多数出土したが、小片で摩耗が激しい。また、遺構外から出土した遺物には、縄文早期に属する条痕をもつ土器片980ｇ、縄文時代前期、中期前半、晩期の土器破片、土製円盤などがある。

溝状遺構の埋土にみられた砂礫には人為的な淘汰がなく、したがって自然の営為による洪水で生じたものと考えられることから、この第１次調査では、人工の遺構は検出されなかったことになる。

## ３　遺構と遺物

### (1)　竪穴住居跡

基本層序のⅢ層上面で検出された住居跡である。東側１／３が調査区外のため正確な規模は不明だが、平面形は方形と予想される。壁沿いに深さ20～50cmの柱穴が９本検出され、それを繋ぐように深さ15～20cmの周溝が巡る。床面のほぼ全面にわたり拳大から人頭大の礫が多数出土した。礫は近隣河川で採集できる石材種の亜角礫で、その総重量は305kgである。地山には礫がほとんど含まれず、ピット及び周溝の上面には礫が見られなかったため床面に敷き詰められたものと判断した。ただし地山が砂質のため堅くしまった床面は検出されず、住居使用時に礫が敷き詰められていたかはわからない。礫を青灰色系、花崗岩、灰白系の礫に分類した図示したが、各々偏った分布はみられず、配置方法には色彩的・絵画的な意図は読みとれない。出土遺物は浮線文や細密条痕文が施文された土器片、有茎鏃などが出土し、縄文時代晩期後半に属する住居跡と思われる。しかし、ピット５から出土した土偶（12図27）を除いていずれも出土層位が高く、正確な住居の使用年代を把握するのは困難である。

### (2)　縄文時代晩期の土坑群

Ⅰ区北東域はⅢ層が帯状に広がり、住居跡や地下式坑などを除き遺構プランが確認できなかったため、溝状遺構、もしくは自然流路の可能性があるものとして掘り下げたが、15～20cmほど下げたところで円形や楕円形、隅丸方形の多数の土坑が確認された。土坑の規模は一覧表を参照していただきたい。土坑の出土遺物は浮線文、細密条痕文を施文した土器片、石棒破片、打製石斧のほか、土製円盤や焼成粘土塊、希有なところでは小型の土冠が１点出土している。

### (3)　掘立柱建物跡

Ⅲ層上面で黒褐色覆土のピットが多数検出され、掘立柱建物跡（以下掘建）５棟を確認した。ピットは、確認面から３～10cm下げ、中央に黒褐色土が残り周囲の埋土と識別されるものを柱痕と捉えてから

調査することとした。ピットの底から柱の根締石や礎石は出土せず、素掘りの柱穴であった。長軸方向は５号掘建を除き概ね北西を向く。

１号掘建は３間×３間の総柱構造で桁行約10m、梁行約5.3mの長方形である。10号ピットで縄文時代中期と思われる土器破片１点（14図125）が出土したほか遺物がない。12号ピットが縄文時代晩期の土坑を切り、６号ピットは中世と思われる円形土坑に切られていることから、概ね古代か中世の建物跡と想像される。ただし、調査では古代の遺物は一切出土していない。

２号掘建は、１号掘建の附属施設のように寄り添って検出された１間×２間の建物跡である。桁行約3.6m、梁行約2.5mの長方形で、出土遺物はない。

３号掘建は、１号、２号掘建と主軸方向を同じくし、下屋もしくは庇を有すると思われる遺構である。桁行約6.4m、梁行約５m、２間×４間の長方形である。出土遺物はない。

４号掘建は、桁行約5.2m、梁行約2.8m、１間×３間の長方形建物跡である。出土遺物はない。

５号掘建は、４号掘建と接する位置で検出された１間×２間の建物跡で、桁行約4.8m、梁行約1.8mの長方形である。主軸方向は１号掘建等とほぼ直交する。出土遺物はない。

掘立柱建物跡を構成するピット以外にも同様の規模のピットが検出されているが、建物跡を想定するには至らなかった。

### (4) 円形土坑群及び地下式坑

Ｉ区中央付近から東側にかけての区域で直径１mほどの円形土坑が検出された。いずれの埋土も人為的に急速に埋め戻した様相が観察された。出土遺物は混入と思われる縄文時代の土器破片のほかはないが、中世の円形墓と推測される。

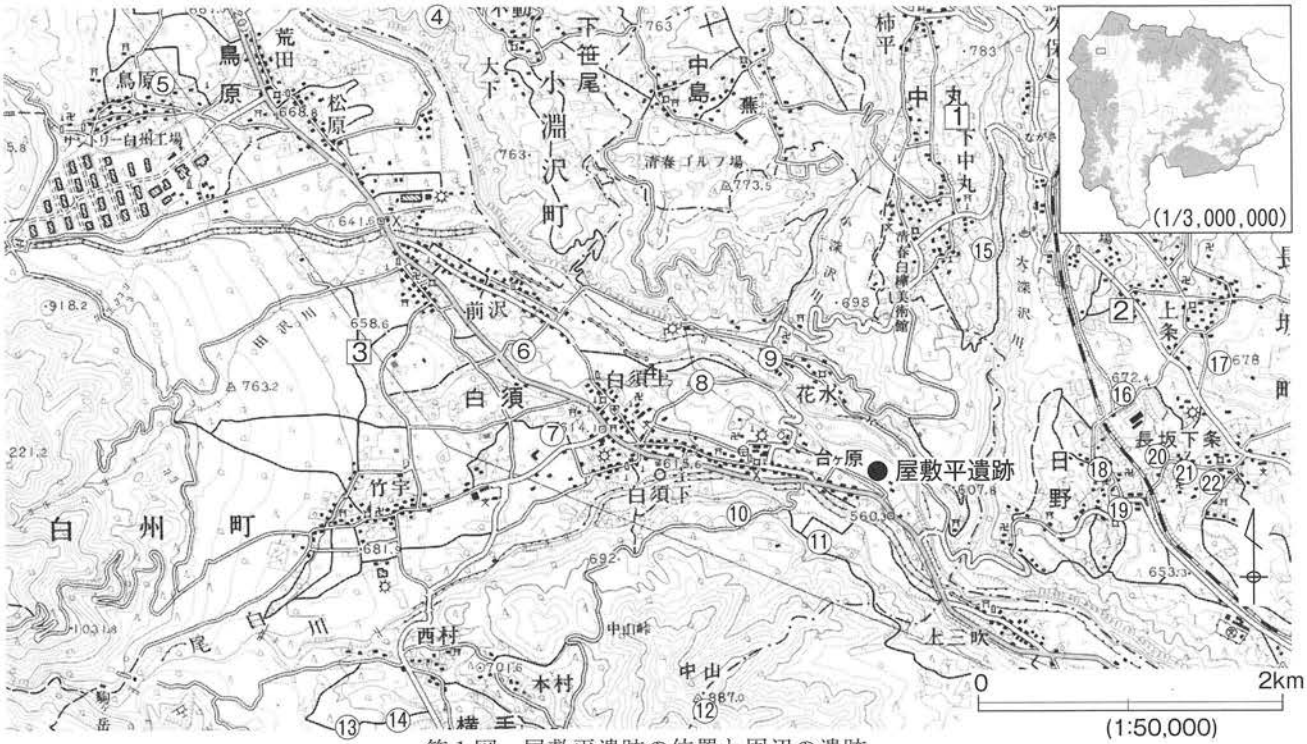
地下式土坑は２基が検出された。１号地下式土坑の竪坑上面（旧17号土坑）では、埋土上面で骨片が検出された。調査の際には、発掘作業の安全を確保するため、竪坑を掘り進めた後に天井部を取り除き、地下坑部分の調査を行った。出土遺物はなかったが、周辺での調査事例から中世の所産と推測される。

### (5) 溝状遺構

Ｉ区を東西に貫くように溝状遺構１条が検出された。出土遺物はなく、時期は不明である。

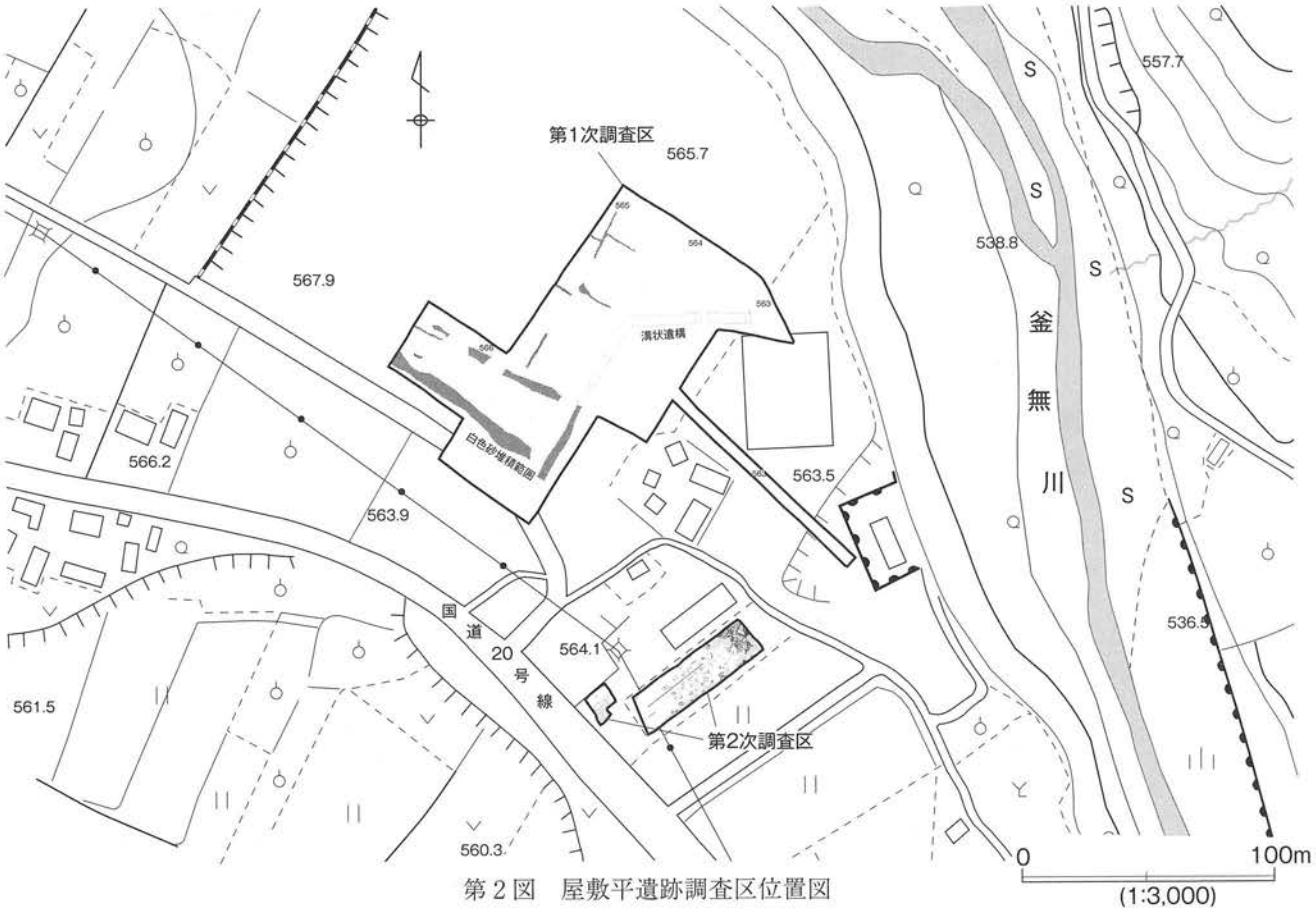
参考文献

白州町教育委員会　1991　『屋敷平遺跡』
白州町誌編纂委員会　1986　『白州町誌』

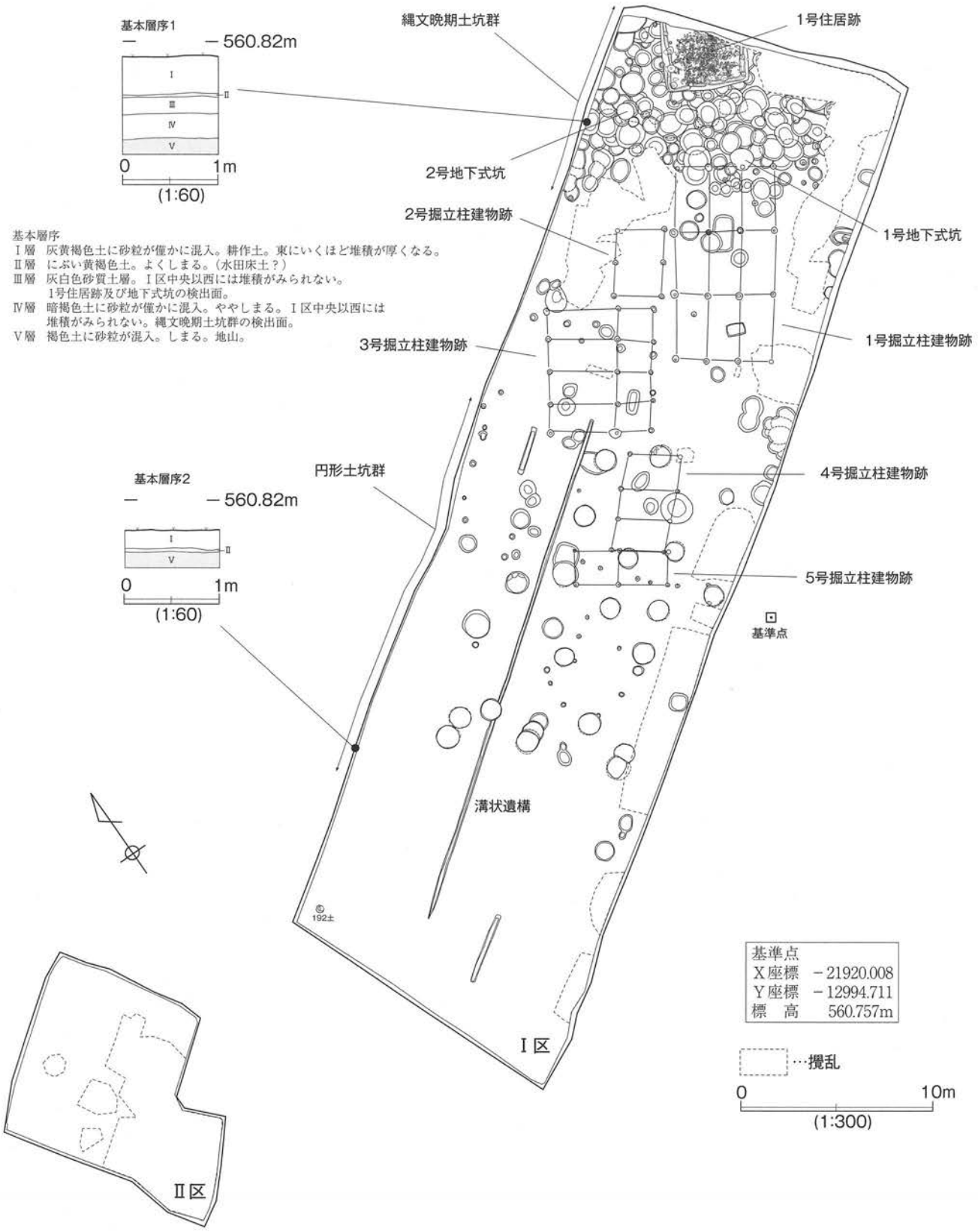



第1図　屋敷平遺跡の位置と周辺の遺跡

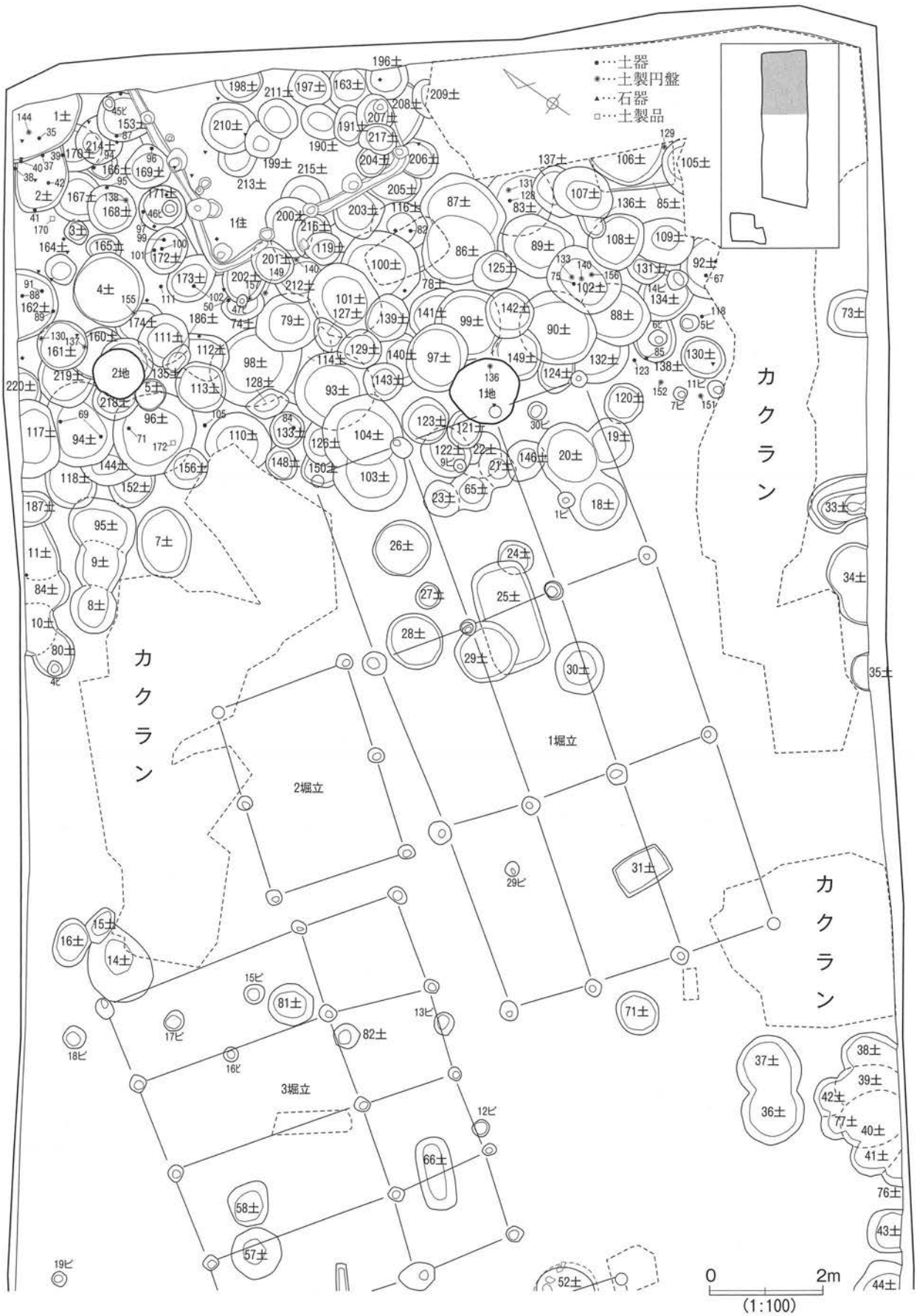
1　健康村遺跡　2　長坂上条遺跡　3　雑木遺跡　4　笹尾砦　5　鳥原遺跡群　6　坂下遺跡　7　馬場氏館跡
8　大久保遺跡　9　曲淵氏屋敷跡　10　陣ヶ原1・2遺跡　11　根古屋遺跡　12　中山砦　13　上北田遺跡
14　新居道上遺跡　15　深沢砦　16　反田遺跡　17　長坂氏屋敷跡　18　向囲丹下氏屋敷跡
19　田中氏屋敷跡　20　三井氏屋敷跡　21　相吉氏屋敷跡　22　相吉遺跡　（※　□…縄文晩期　○…中世）



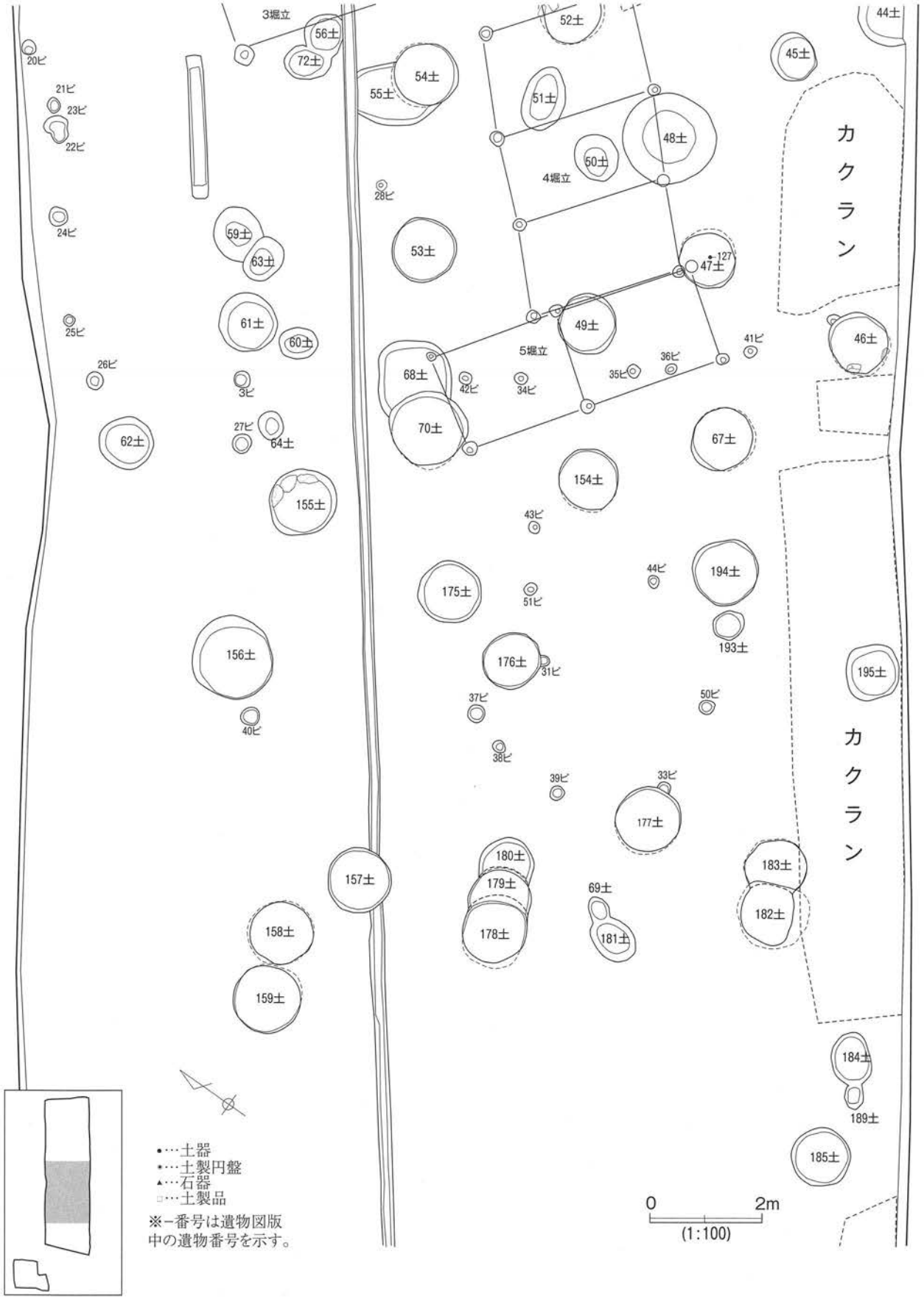

第2図　屋敷平遺跡調査区位置図


基本層序1
— 560.82m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
0 1m
(1:60)
基本層序
Ⅰ層 灰黄褐色土に砂粒が僅かに混入。耕作土。東にいくほど堆積が厚くなる。
Ⅱ層 にぶい黄褐色土。よくしまる。(水田床土？)
Ⅲ層 灰白色砂質土層。Ⅰ区中央以西には堆積がみられない。
1号住居跡及び地下式坑の検出面。
Ⅳ層 暗褐色土に砂粒が僅かに混入。ややしまる。Ⅰ区中央以西には
堆積がみられない。縄文晩期土坑群の検出面。
Ⅴ層 褐色土に砂粒が混入。しまる。地山。
基本層序2
— 560.82m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅴ
0 1m
(1:60)
縄文晩期土坑群
1号住居跡
2号地下式坑
2号掘立柱建物跡
1号地下式坑
3号掘立柱建物跡
1号掘立柱建物跡
円形土坑群
4号掘立柱建物跡
5号掘立柱建物跡
基準点
溝状遺構
©192土
Ⅰ区
Ⅱ区
基準点
X座標 −21920.008
Y座標 −12994.711
標 高 560.757m
…攪乱
0 10m
(1:300)

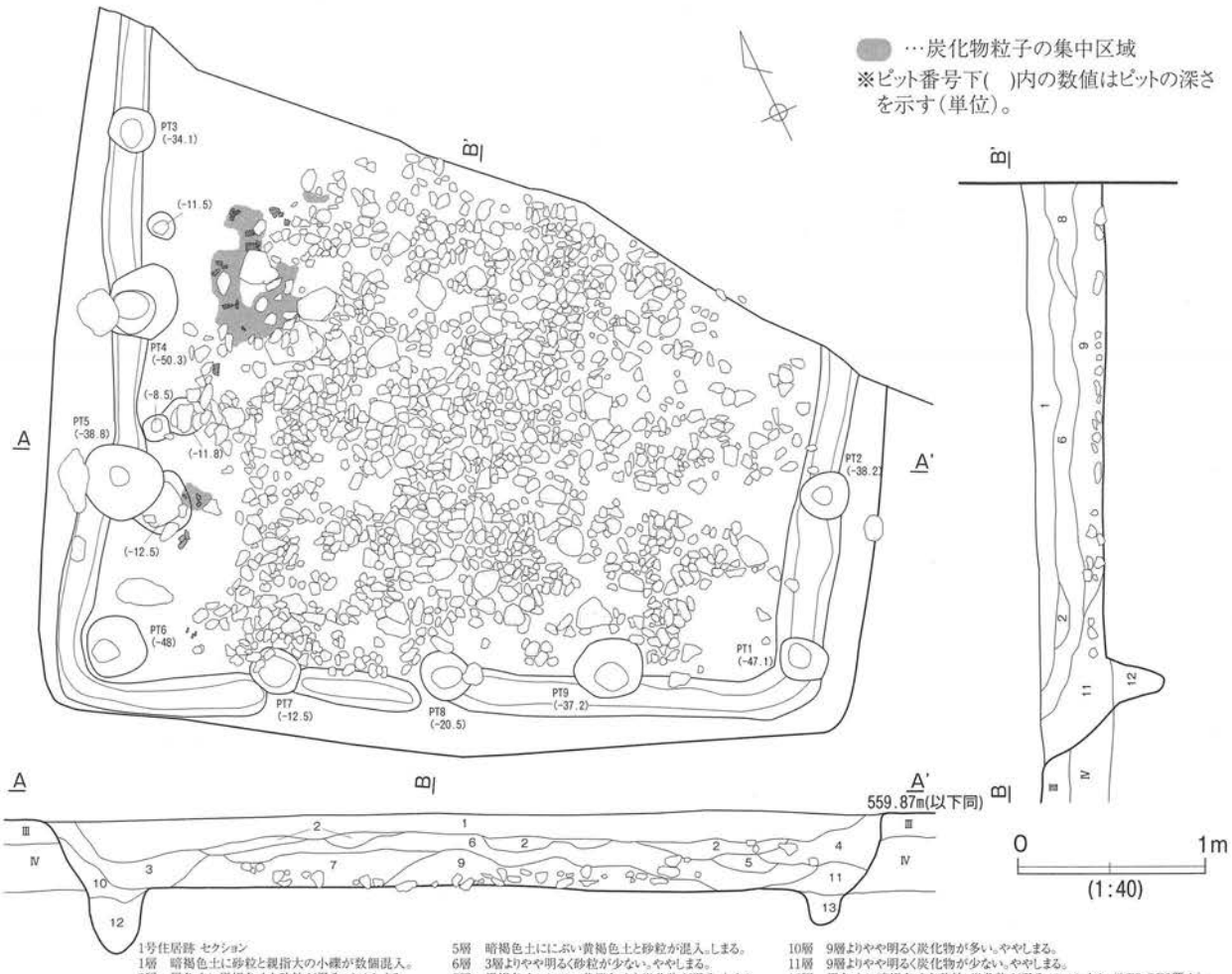
第3図 調査区全体図




第４図　土坑・ピット位置図①

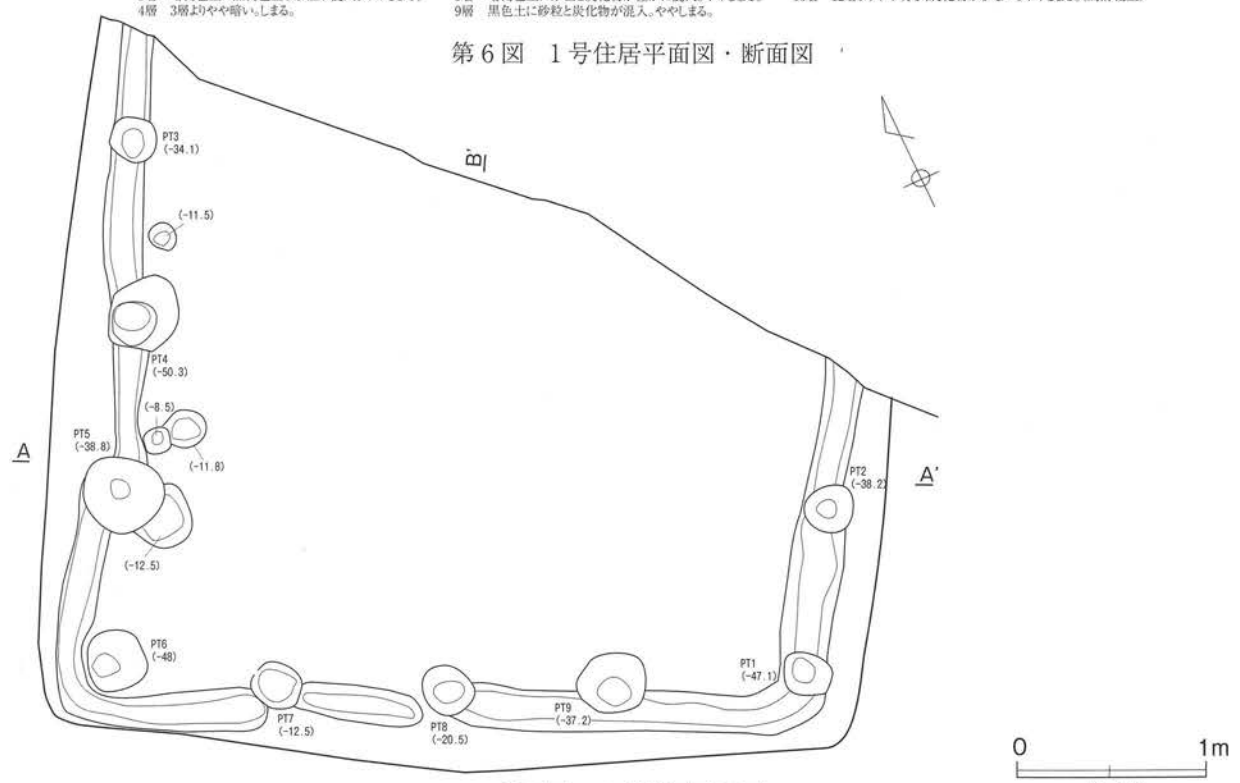



第５図　土坑・ピット位置図②

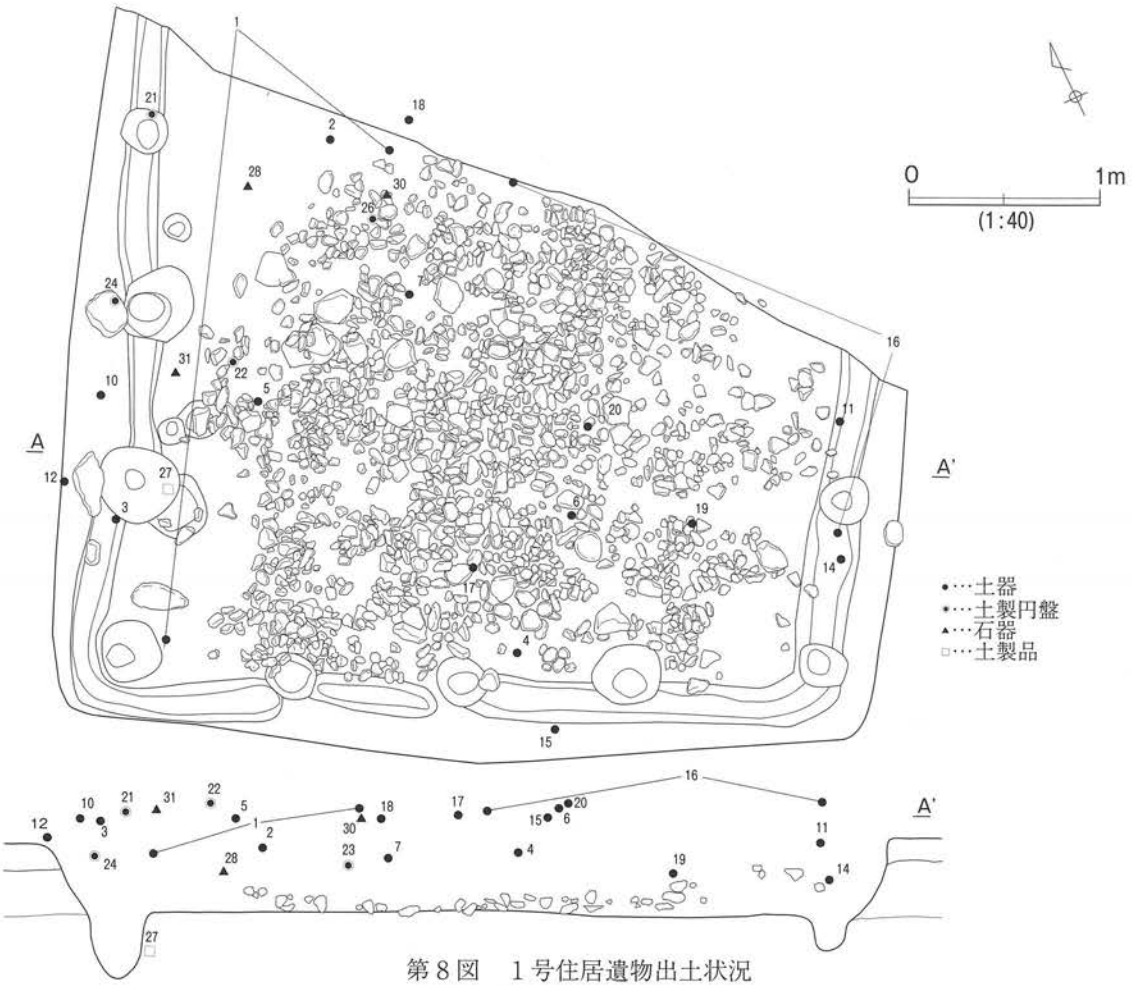



1号住居跡 セクション
1層　暗褐色土に砂粒と親指大の小礫が数個混入。
2層　黒色土に黒褐色土と砂粒が混入。ややしまる。
3層　暗褐色土に黒褐色土と砂粒が混入。ややしまる。
4層　3層よりやや暗い。しまる。
5層　暗褐色土ににぶい黄褐色土と砂粒が混入。しまる。
6層　3層よりやや明るく砂粒が少ない。ややしまる。
7層　黒褐色土ににぶい黄橙色土と炭化物が混入。しまる。
8層　暗褐色土に砂粒と炭化物が僅かに混入。ややしまる。
9層　黒色土に砂粒と炭化物が混入。ややしまる。
10層　9層よりやや明るく炭化物が多い。ややしまる。
11層　9層よりやや明るく炭化物が少ない。ややしまる。
12層　黒色土に暗褐色土と砂粒、炭化物が混入。ややしまる。(PT5・PT8覆土)
13層　12層よりやや明るく炭化物が少ない。ややしまる。(周溝覆土)

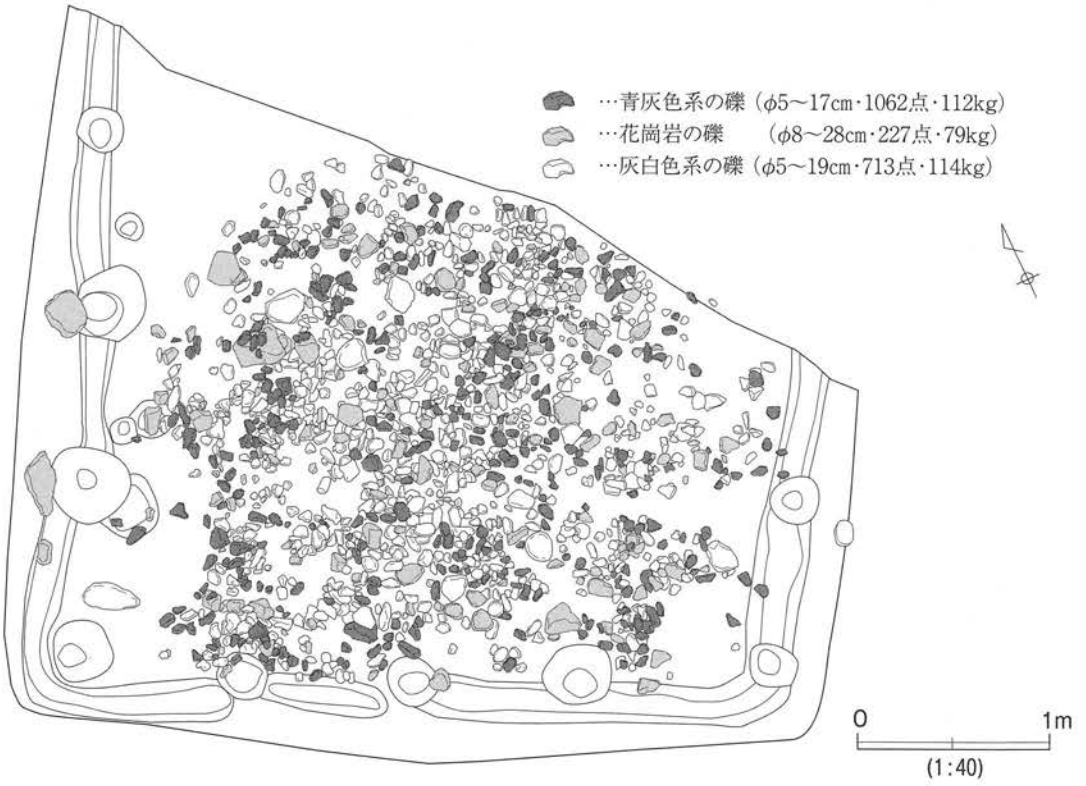
第6図　1号住居平面図・断面図



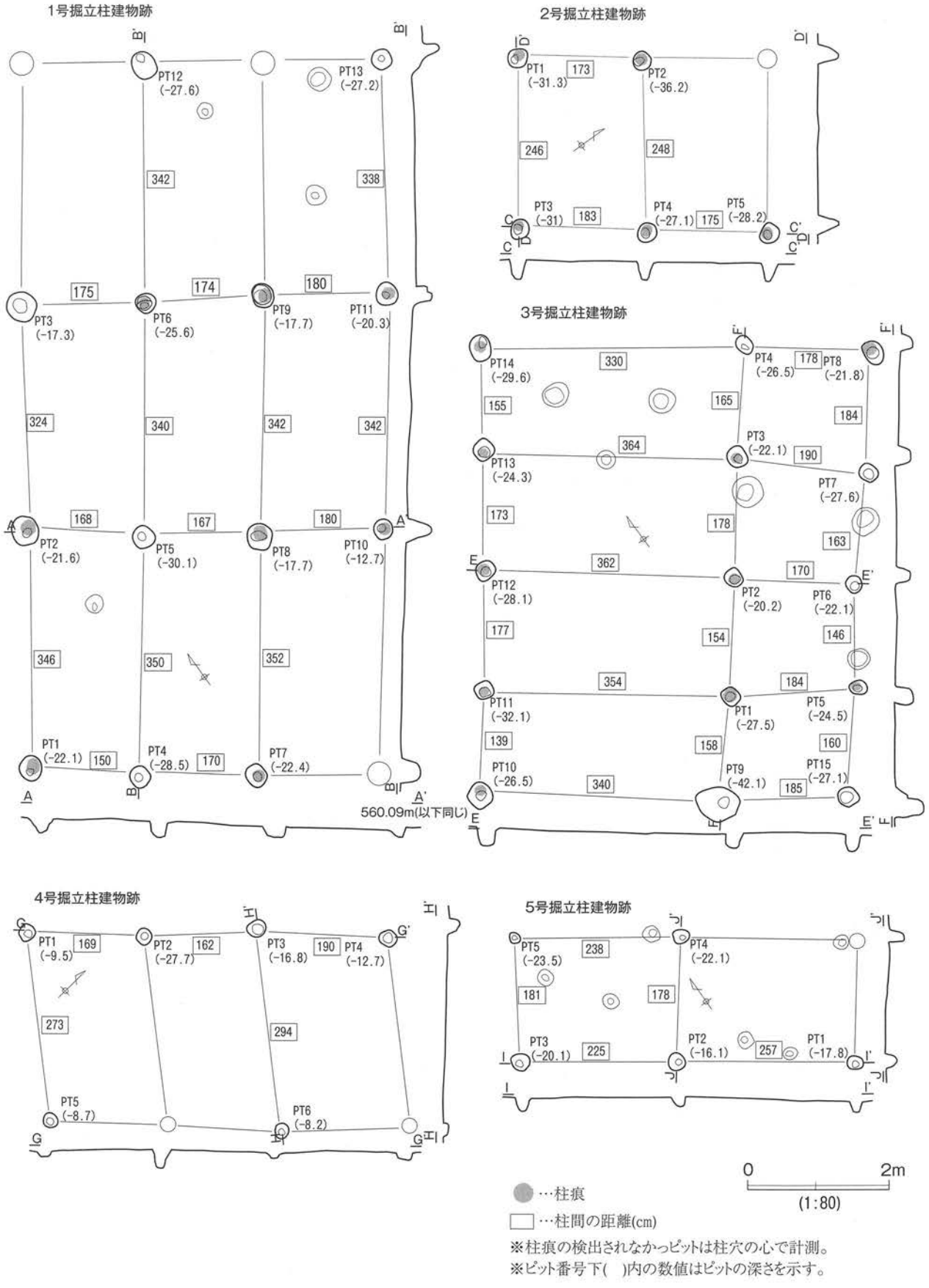

第7図　1号住居平面図



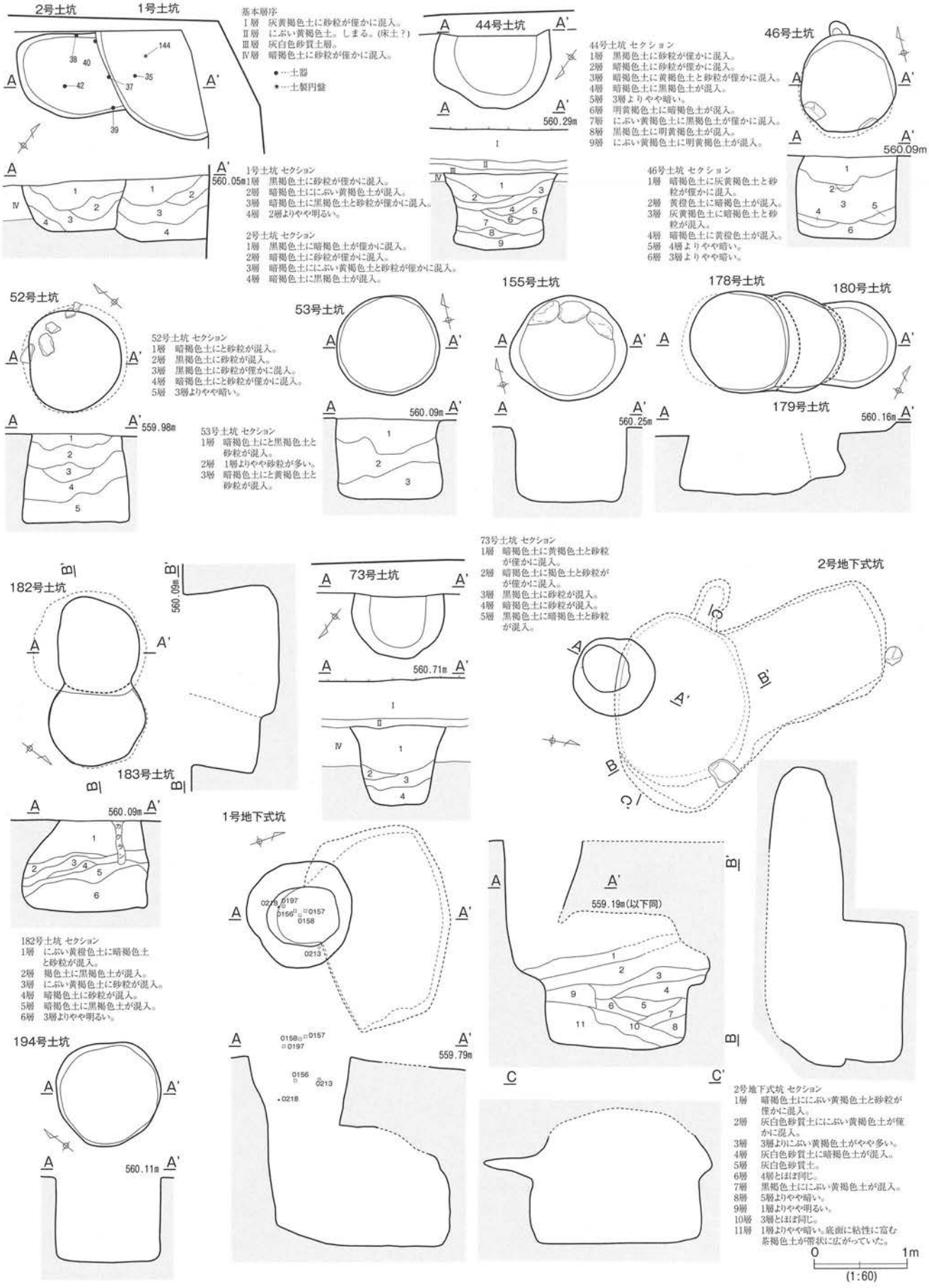

第８図　１号住居遺物出土状況




第９図　１号住居小礫分布図

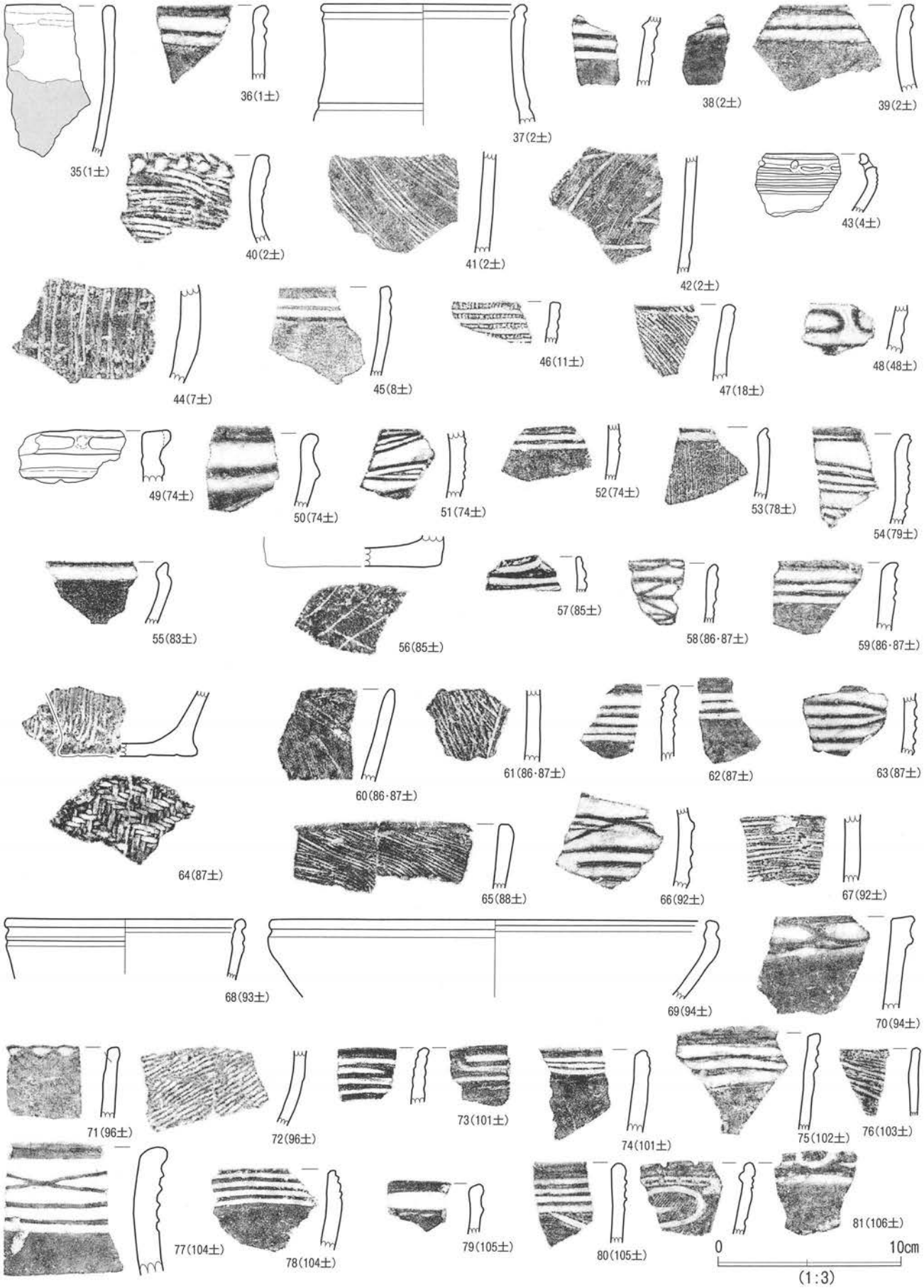

1号掘立柱建物跡
PT12 (-27.6)
PT13 (-27.2)
342
338
175
174
180
PT3 (-17.3)
PT6 (-25.6)
PT9 (-17.7)
PT11 (-20.3)
324
340
342
342
168
167
180
PT2 (-21.6)
PT5 (-30.1)
PT8 (-17.7)
PT10 (-12.7)
346
350
352
PT1 (-22.1)
150
PT4 (-28.5)
170
PT7 (-22.4)
560.09m(以下同じ)
2号掘立柱建物跡
PT1 (-31.3)
173
PT2 (-36.2)
246
248
PT3 (-31)
183
PT4 (-27.1)
175
PT5 (-28.2)
3号掘立柱建物跡
PT14 (-29.6)
330
PT4 (-26.5)
178
PT8 (-21.8)
155
165
184
364
PT3 (-22.1)
190
PT13 (-24.3)
PT7 (-27.6)
173
178
163
362
170
PT12 (-28.1)
PT2 (-20.2)
PT6 (-22.1)
177
154
146
354
184
PT11 (-32.1)
PT1 (-27.5)
PT5 (-24.5)
139
158
160
PT10 (-26.5)
340
PT9 (-42.1)
185
PT15 (-27.1)
4号掘立柱建物跡
PT1 (-9.5)
169
PT2 (-27.7)
162
PT3 (-16.8)
190
PT4 (-12.7)
273
294
PT5 (-8.7)
PT6 (-8.2)
5号掘立柱建物跡
PT5 (-23.5)
238
PT4 (-22.1)
181
178
PT3 (-20.1)
225
PT2 (-16.1)
257
PT1 (-17.8)
0
2m
(1:80)
…柱痕
…柱間の距離(cm)
※柱痕の検出されなかったピットは柱穴の心で計測。
※ピット番号下( )内の数値はピットの深さを示す。

第10図　掘立柱建物跡

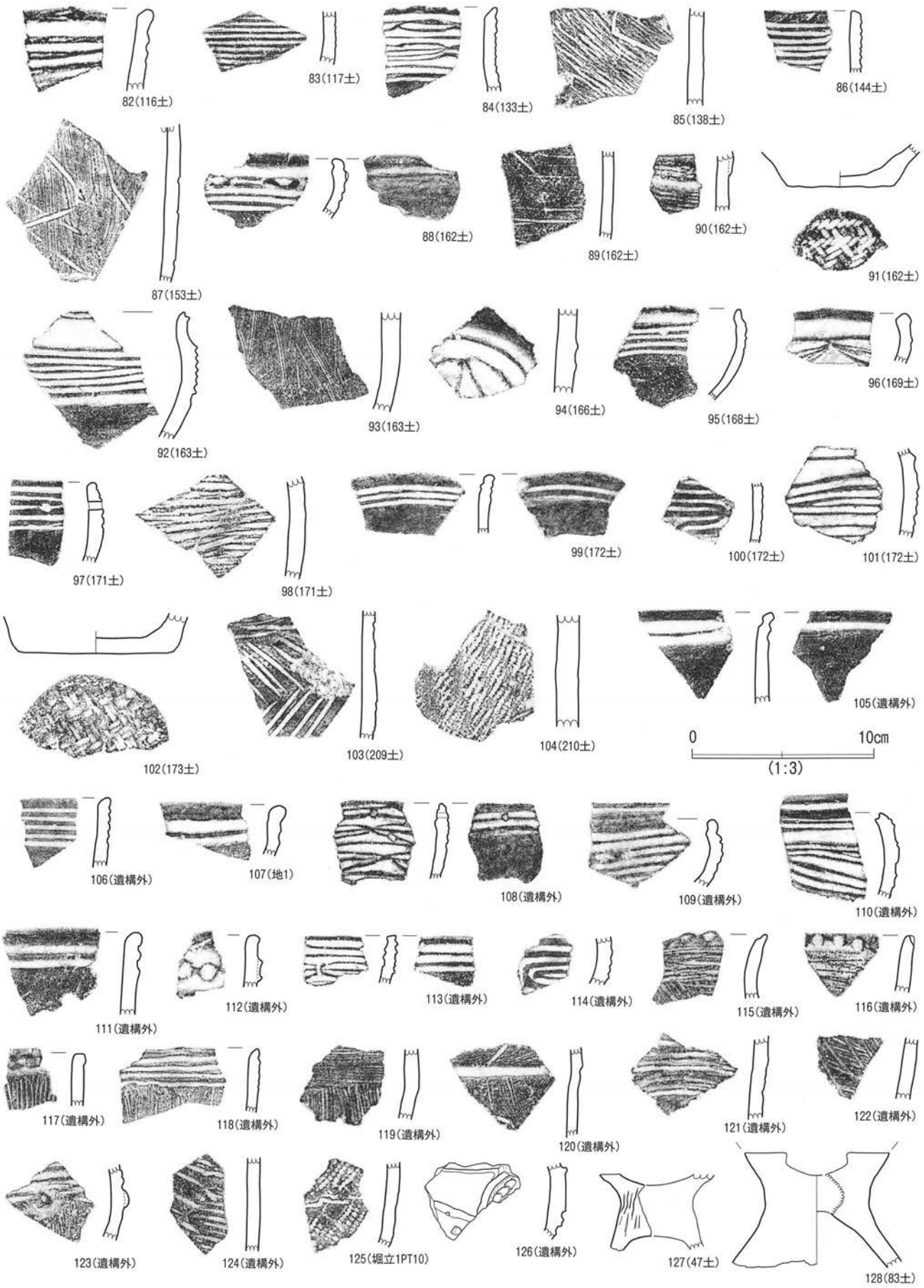

2号土坑
1号土坑
基本層序
Ⅰ層　灰黄褐色土に砂粒が僅かに混入。
Ⅱ層　にぶい黄褐色土。しまる。(床土？)
Ⅲ層　灰白色砂質土層。
Ⅳ層　暗褐色土に砂粒が僅かに混入。
●…土器
*…土製円盤
44号土坑
44号土坑 セクション
1層　黒褐色土に砂粒が僅かに混入。
2層　暗褐色土に砂粒が僅かに混入。
3層　暗褐色土に黄褐色土と砂粒が僅かに混入。
4層　暗褐色土に黒褐色土が混入。
5層　3層よりやや暗い。
6層　明黄褐色土に暗褐色土が混入。
7層　にぶい黄褐色土に黒褐色土が僅かに混入。
8層　黒褐色土に明黄褐色土が混入。
9層　にぶい黄褐色土に明黄褐色土が混入。
46号土坑
1号土坑 セクション
1層　黒褐色土に砂粒が僅かに混入。
2層　暗褐色土ににぶい黄褐色土が混入。
3層　暗褐色土に黒褐色土と砂粒が僅かに混入。
4層　2層よりやや明るい。
2号土坑 セクション
1層　黒褐色土に暗褐色土が僅かに混入。
2層　暗褐色土に砂粒が僅かに混入。
3層　暗褐色土ににぶい黄褐色土と砂粒が僅かに混入。
4層　暗褐色土に黒褐色土が混入。
46号土坑 セクション
1層　暗褐色土に灰黄褐色土と砂粒が僅かに混入。
2層　黄橙色土に暗褐色土が混入。
3層　灰黄褐色土に暗褐色土と砂粒が混入。
4層　暗褐色土に黄橙色土が混入。
5層　4層よりやや暗い。
6層　3層よりやや暗い。
52号土坑
52号土坑 セクション
1層　暗褐色土にと砂粒が混入。
2層　黒褐色土に砂粒が混入。
3層　黒褐色土に砂粒が僅かに混入。
4層　暗褐色土にと砂粒が僅かに混入。
5層　3層よりやや暗い。
53号土坑
53号土坑 セクション
1層　暗褐色土にと黒褐色土と砂粒が混入。
2層　1層よりやや砂粒が多い。
3層　暗褐色土にと黄褐色土と砂粒が混入。
155号土坑
178号土坑
180号土坑
179号土坑
182号土坑
183号土坑
73号土坑
73号土坑 セクション
1層　暗褐色土に黄褐色土と砂粒が僅かに混入。
2層　暗褐色土に褐色土と砂粒がが僅かに混入。
3層　黒褐色土に砂粒が混入。
4層　暗褐色土に砂粒が混入。
5層　黒褐色土に暗褐色土と砂粒が混入。
2号地下式坑
1号地下式坑
182号土坑 セクション
1層　にぶい黄橙色土に暗褐色土と砂粒が混入。
2層　褐色土に黒褐色土が混入。
3層　にぶい黄褐色土に砂粒が混入。
4層　暗褐色土に砂粒が混入。
5層　暗褐色土に黒褐色土が混入。
6層　3層よりやや明るい。
194号土坑
2号地下式坑 セクション
1層　暗褐色土ににぶい黄褐色土と砂粒が僅かに混入。
2層　灰白色砂質土ににぶい黄褐色土が僅かに混入。
3層　3層よりにぶい黄褐色土がやや多い。
4層　灰白色砂質土に暗褐色土が混入。
5層　灰白色砂質土。
6層　4層とほぼ同じ。
7層　黒褐色土ににぶい黄褐色土が混入。
8層　5層よりやや暗い。
9層　1層よりやや明るい。
10層　3層とほぼ同じ。
11層　1層よりやや暗い。底面に粘性に富む茶褐色土が帯状に広がっていた。
0　1m
(1:60)

第11図　土坑・地下式坑

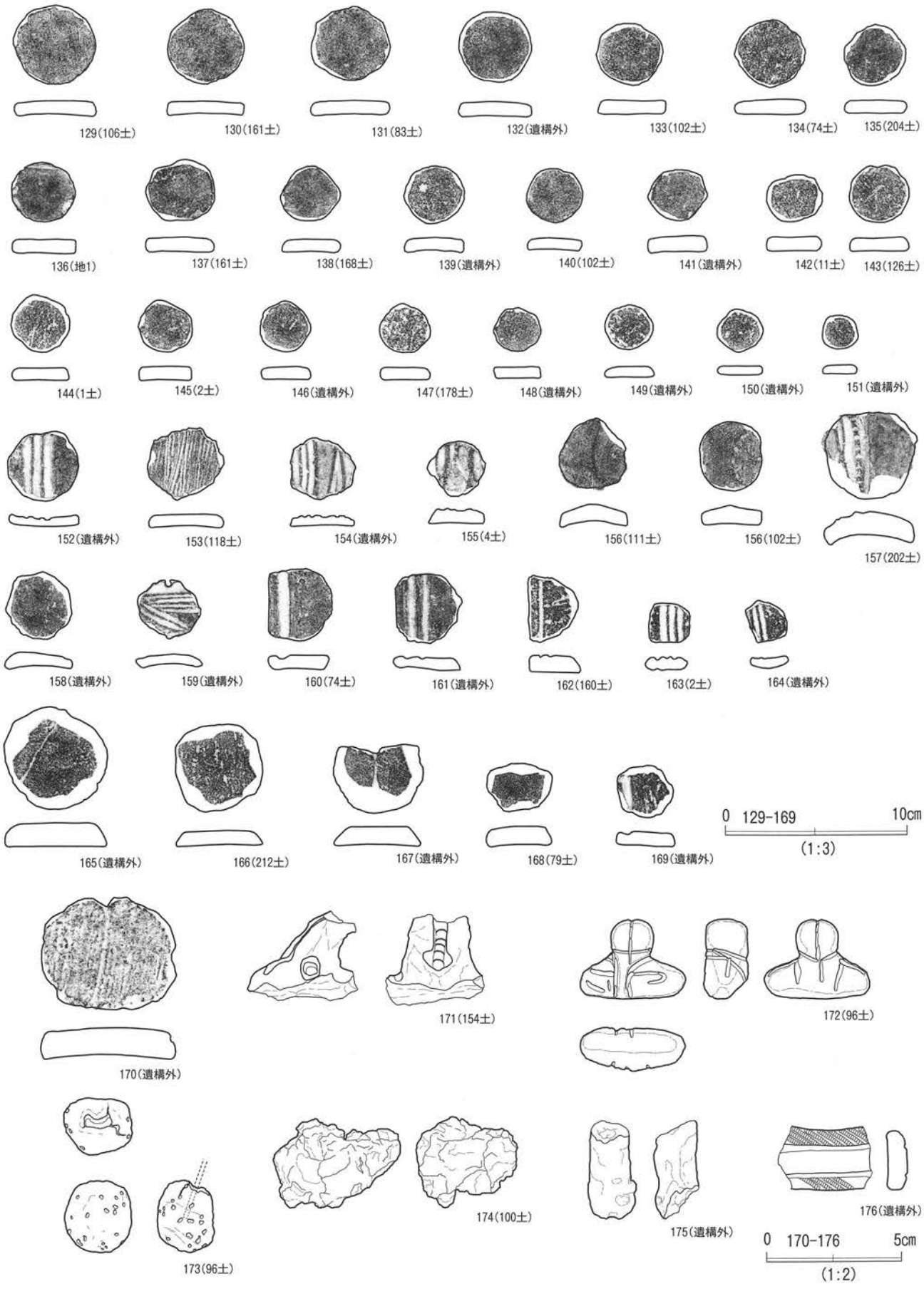
第12図　1号住居出土遺物


35(1土)
36(1土)
37(2土)
38(2土)
39(2土)
40(2土)
41(2土)
42(2土)
43(4土)
44(7土)
45(8土)
46(11土)
47(18土)
48(48土)
49(74土)
50(74土)
51(74土)
52(74土)
53(78土)
54(79土)
55(83土)
56(85土)
57(85土)
58(86·87土)
59(86·87土)
60(86·87土)
61(86·87土)
62(87土)
63(87土)
64(87土)
65(88土)
66(92土)
67(92土)
68(93土)
69(94土)
70(94土)
71(96土)
72(96土)
73(101土)
74(101土)
75(102土)
76(103土)
77(104土)
78(104土)
79(105土)
80(105土)
81(106土)
0
10cm
(1:3)

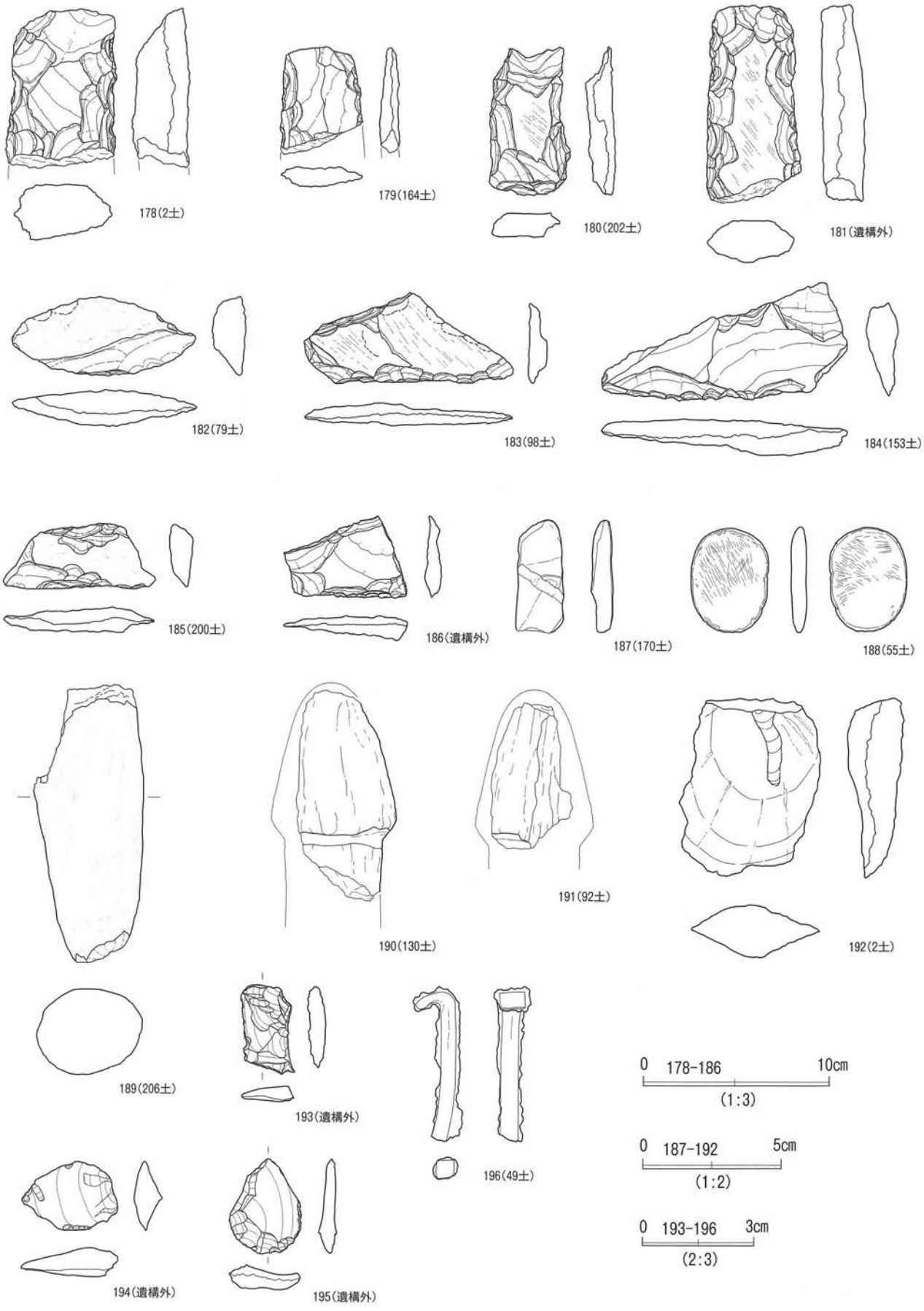
第13図　出土遺物①


82(116土)
83(117土)
84(133土)
85(138土)
86(144土)
87(153土)
88(162土)
89(162土)
90(162土)
91(162土)
92(163土)
93(163土)
94(166土)
95(168土)
96(169土)
97(171土)
98(171土)
99(172土)
100(172土)
101(172土)
102(173土)
103(209土)
104(210土)
105(遺構外)
0
10cm
(1:3)
106(遺構外)
107(地1)
108(遺構外)
109(遺構外)
110(遺構外)
111(遺構外)
112(遺構外)
113(遺構外)
114(遺構外)
115(遺構外)
116(遺構外)
117(遺構外)
118(遺構外)
119(遺構外)
120(遺構外)
121(遺構外)
122(遺構外)
123(遺構外)
124(遺構外)
125(堀立1PT10)
126(遺構外)
127(47土)
128(83土)

第14図　出土遺物②


129(106土)
130(161土)
131(83土)
132(遺構外)
133(102土)
134(74土)
135(204土)
136(地1)
137(161土)
138(168土)
139(遺構外)
140(102土)
141(遺構外)
142(11土)
143(126土)
144(1土)
145(2土)
146(遺構外)
147(178土)
148(遺構外)
149(遺構外)
150(遺構外)
151(遺構外)
152(遺構外)
153(118土)
154(遺構外)
155(4土)
156(111土)
156(102土)
157(202土)
158(遺構外)
159(遺構外)
160(74土)
161(遺構外)
162(160土)
163(2土)
164(遺構外)
165(遺構外)
166(212土)
167(遺構外)
168(79土)
169(遺構外)
0 129-169 10cm
(1:3)
170(遺構外)
171(154土)
172(96土)
173(96土)
174(100土)
175(遺構外)
176(遺構外)
0 170-176 5cm
(1:2)

第15図　出土遺物③


178(2土)
179(164土)
180(202土)
181(遺構外)
182(79土)
183(98土)
184(153土)
185(200土)
186(遺構外)
187(170土)
188(55土)
189(206土)
190(130土)
191(92土)
192(2土)
193(遺構外)
194(遺構外)
195(遺構外)
196(49土)
0 178-186 10cm
(1:3)
0 187-192 5cm
(1:2)
0 193-196 3cm
(2:3)

第16図　出土遺物④

第1表　土坑一覧表

単位：cm　（　）は推定値

| 番号 | 番号 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 1 | 不明 | | 66 |
| 2 | (140) | (99) | 58 |
| 3 | 42 | 40 | 18 |
| 4 | 137 | 128 | 84 |
| 5 | 58 | 51 | 20 |
| 7 | 128 | 99 | 14 |
| 8 | (89) | (85) | 13 |
| 9 | (102) | (96) | 18 |
| 10 | 95 | (85) | 33 |
| 11 | 不明 | | 28 |
| 14 | (146) | 114 | 51 |
| 15 | 68 | 42 | 11 |
| 16 | 88 | 63 | 11 |
| 18 | 105 | (92) | 17 |
| 19 | 90 | (81) | 18 |
| 20 | (118) | (106) | 31 |
| 21 | 73 | (58) | 14 |
| 22 | (88) | (80) | 20 |
| 23 | 70 | 62 | 19 |
| 24 | 69 | (65) | 18 |
| 25 | 199 | 106 | 26 |
| 26 | 102 | 102 | 27 |
| 27 | 48 | 45 | 6 |
| 28 | 106 | 96 | 16 |
| 29 | 109 | 109 | 36 |
| 30 | 100 | 96 | 16 |
| 31 | 100 | 66 | 11 |
| 33 | (141) | 98 | 38 |
| 34 | (152) | (95) | 10 |
| 35 | (69) | (54) | 9 |
| 36 | 110 | (106) | 24 |
| 38 | 125 | 84 | 35 |
| 39 | (129) | (78) | 42 |
| 40 | 不明 | | |
| 41 | (100) | (71) | 17 |
| 42 | (69) | (59) | 19 |
| 43 | (97) | 79 | 25 |
| 44 | (128) | (120) | 84 |
| 45 | 90 | 77 | 18 |
| 46 | 111 | 109 | 89 |
| 47 | 103 | 97 | 104 |
| 48 | 166 | 164 | 102 |
| 49 | 105 | 102 | 113 |
| 50 | 87 | 79 | 20 |
| 51 | 117 | 75 | 20 |
| 52 | 115 | 110 | 96 |
| 53 | 113 | 110 | 90 |
| 54 | 113 | 112 | 11 |
| 55 | (187) | 114 | 114 |
| 56 | 81 | (73) | 13 |
| 57 | 94 | 92 | 18 |
| 58 | 84 | 78 | 30 |
| 59 | (105) | 87 | 43 |
| 60 | 69 | 57 | 10 |
| 61 | 107 | 101 | 102 |
| 62 | 95 | 93 | 15 |
| 63 | 84 | 61 | 40 |
| 64 | 51 | 45 | 24 |
| 65 | 78 | 不明 | 16 |
| 66 | 132 | 62 | 19 |
| 67 | 119 | 104 | 111 |
| 68 | (146) | 128 | 24 |
| 69 | (47) | 36 | 16 |
| 70 | 142 | 132 | 82 |
| 71 | 83 | 75 | 12 |
| 72 | 84 | 60 | 20 |
| 73 | (106) | 85 | 90 |
| 74 | 77 | (60) | 18 |
| 76 | 不明 | | |
| 77 | 不明 | | |

| 番号 | 番号 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 78 | 145 | 84 | 14 |
| 79 | (117) | 104 | 33 |
| 80 | (82) | 80 | 27 |
| 81 | 84 | 75 | 22 |
| 82 | 45 | 44 | 29 |
| 83 | 141 | 121 | 31 |
| 84 | 不明 | | 33 |
| 85 | 不明 | | 18 |
| 86 | 120 | 112 | 28 |
| 87 | 125 | 100 | 26 |
| 88 | 126 | 109 | 19 |
| 89 | (129) | 103 | 31 |
| 90 | 142 | (130) | 21 |
| 92 | (126) | (125) | 25 |
| 93 | 140 | (137) | 22 |
| 94 | (155) | (149) | 28 |
| 95 | (124) | (104) | 41 |
| 96 | (158) | (151) | 38 |
| 97 | 100 | 92 | 17 |
| 98 | (181) | (136) | 28 |
| 99 | 129 | (122) | 18 |
| 100 | 140 | (121) | 36 |
| 101 | (136) | 113 | 37 |
| 102 | 132 | 104 | 28 |
| 103 | 130 | (121) | 70 |
| 104 | 130 | (126) | 55 |
| 105 | 不明 | | 23 |
| 106 | 不明 | | 26 |
| 107 | 113 | 88 | 33 |
| 108 | 110 | 93 | 26 |
| 109 | 119 | 83 | 19 |
| 110 | 119 | (102) | 24 |
| 111 | 94 | 89 | 39 |
| 112 | (99) | (81) | 24 |
| 113 | 96 | 88 | 34 |
| 114 | 不明 | | 21 |
| 116 | 不明 | | 45 |
| 117 | 140 | (96) | 35 |
| 118 | (107) | (92) | 28 |
| 119 | 67 | 60 | 17 |
| 120 | 77 | 68 | 19 |
| 121 | 69 | 65 | 22 |
| 122 | 96 | 89 | 25 |
| 123 | 85 | 82 | 27 |
| 124 | (73) | 64 | 17 |
| 125 | 80 | 72 | 27 |
| 126 | (90) | (65) | 25 |
| 127 | (70) | (53) | 23 |
| 128 | 77 | 51 | 26 |
| 129 | 79 | 70 | 25 |
| 130 | 79 | 72 | 10 |
| 131 | (71) | (58) | 19 |
| 132 | (124) | (90) | 14 |
| 133 | 66 | 62 | 24 |
| 134 | (109) | (90) | 20 |
| 135 | (111) | 94 | 34 |
| 136 | 不明 | | 14 |
| 137 | (97) | (81) | 19 |
| 138 | (86) | 77 | 14 |
| 139 | 87 | 74 | 29 |
| 140 | (100) | (68) | 14 |
| 141 | (104) | (68) | 20 |
| 142 | 90 | 85 | 不明 |
| 143 | 80 | 69 | 22 |
| 144 | 不明 | | 32 |
| 146 | 78 | 66 | 13 |
| 148 | 66 | 54 | 27 |
| 149 | (92) | 91 | 22 |
| 150 | (73) | (69) | 20 |
| 152 | (96) | (78) | 14 |

| 番号 | 番号 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 153 | 91 | (84) | 24 |
| 154 | 114 | 108 | 75 |
| 155 | 130 | 122 | 84 |
| 157 | 116 | 116 | 28 |
| 158 | 114 | 108 | 68 |
| 159 | 129 | 121 | 71 |
| 160 | 97 | (95) | 32 |
| 161 | 91 | 89 | 33 |
| 162 | 不明 | (131) | 28 |
| 163 | (84) | (76) | 15 |
| 164 | 57 | 50 | 19 |
| 165 | 不明 | 64 | (43) |
| 166 | 不明 | | 23 |
| 167 | (99) | 90 | 28 |
| 168 | 89 | 87 | 47 |
| 169 | 80 | 77 | 26 |
| 170 | 不明 | (86) | 25 |
| 171 | 87 | 84 | 23 |
| 172 | 87 | 72 | 16 |
| 173 | (101) | (76) | 16 |
| 174 | (88) | 不明 | 35 |
| 175 | 113 | 111 | 102 |
| 176 | 107 | 97 | 38 |
| 177 | 117 | 116 | 45 |
| 178 | 131 | 115 | 66 |
| 179 | 112 | (91) | 50 |
| 180 | 100 | (92) | 12 |
| 181 | 91 | 68 | 26 |
| 182 | 141 | 115 | 102 |
| 183 | 109 | 105 | 84 |
| 184 | (95) | 69 | 9 |
| 185 | 110 | 106 | 16 |
| 186 | 61 | 38 | 39 |
| 187 | (88) | 62 | 15 |
| 189 | (46) | 35 | 6 |
| 190 | (77) | 60 | 24 |
| 191 | 73 | 55 | 16 |
| 192 | 41 | 39 | 21 |
| 193 | 59 | 51 | 12 |
| 194 | 120 | 119 | 94 |
| 195 | 108 | 101 | 22 |
| 196 | (76) | 73 | 22 |
| 197 | 78 | (70) | 19 |
| 198 | 86 | (63) | 23 |
| 199 | 71 | (71) | 28 |
| 200 | 111 | 85 | 14 |
| 201 | (83) | 68 | 23 |
| 202 | (107) | (79) | 19 |
| 203 | (83) | (83) | 19 |
| 204 | (58) | 53 | 23 |
| 205 | 不明 | | 12 |
| 206 | (79) | 66 | 17 |
| 207 | (76) | 66 | 29 |
| 208 | 不明 | | 15 |
| 209 | 71 | (53) | 57 |
| 210 | 99 | 96 | 23 |
| 211 | 72 | 62 | 23 |
| 212 | (74) | 54 | 26 |
| 213 | 68 | 62 | 21 |
| 214 | 83 | 78 | 53 |
| 215 | 不明 | | 18 |
| 216 | (80) | 68 | 21 |
| 217 | 66 | 58 | 39 |
| 218 | (93) | (79) | 32 |
| 219 | (115) | (102) | 23 |
| 220 | 不明 | | 18 |

第２表　単独ピット一覧表

単位：cm

| 番号 | 長軸 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 1 | 29 | 28 | 16 |
| 2 | | | 22 |
| 3 | 32 | 29 | 29 |
| 4 | 27 | 26 | 27 |
| 5 | 30 | 28 | 31 |
| 6 | 33 | 27 | 47 |
| 7 | 24 | 23 | 25 |
| 9 | 20 | 19 | 20 |
| 10 | | | 24 |
| 11 | 29 | 27 | 30 |
| 12 | 31 | 31 | 31 |
| 13 | 40 | 37 | 33 |
| 14 | 37 | 35 | 46 |
| 15 | 38 | 36 | 43 |
| 16 | 27 | 27 | 17 |
| 17 | 41 | 35 | 49 |
| 18 | 42 | 40 | 38 |

| 番号 | 長軸 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 19 | 28 | 27 | 12 |
| 20 | 27 | 25 | 39 |
| 21 | 26 | 25 | 14 |
| 22 | 31 | (26) | 30 |
| 23 | 45 | (31) | 23 |
| 24 | 35 | 34 | 23 |
| 25 | 20 | 20 | 11 |
| 26 | 33 | 29 | 26 |
| 27 | 35 | 34 | 17 |
| 28 | 20 | 19 | 22 |
| 29 | 19 | 19 | 19 |
| 30 | 33 | 31 | 21 |
| 31 | (19) | 18 | 11 |
| 32 | | | 12 |
| 33 | 22 | 19 | 18 |
| 34 | 23 | 20 | 10 |
| 35 | 23 | 23 | 34 |

| 番号 | 長軸 | 短軸 | 深さ |
|---|---|---|---|
| 36 | 20 | 17 | 9 |
| 37 | 31 | 29 | 14 |
| 38 | 22 | 18 | 10 |
| 39 | 25 | 23 | 10 |
| 40 | 34 | 30 | 14 |
| 41 | 22 | 19 | 35 |
| 42 | 24 | 21 | 9 |
| 43 | 21 | 17 | 17 |
| 44 | 22 | 20 | 24 |
| 45 | 24 | 18 | 28 |
| 46 | 26 | 24 | 16 |
| 47 | 23 | 19 | 9 |
| 48 | | | |
| 49 | | | |
| 50 | 26 | 24 | 15 |
| 51 | 22 | 19 | 9 |

第３表　土器観察表

| 図版 | 番号 | 文様種別 | 重量 | 色調（外面） | 胎土質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第９図 | 1 | 浮線文 | 405ｇ | 2.5YR3/6 | 雲母．石英．長石．黒　密 | |
| 第９図 | 2 | 浮線文 | 17.7g | 10YR 6／4 | 雲母．長石．黒．白　やや密 | |
| 第９図 | 3 | 浮線文 | 48.7g | 10YR 5／4 | 雲母．石英．長石．黒．白．赤　やや粗い | |
| 第９図 | 4 | 浮線文 | 20.4g | 5 YR 4／8 | 雲母．石英．長石．黒．白．赤 密 | |
| 第９図 | 5 | 浮線文 | 27g | 2.5YR 3／1 | 雲母．長石．黒．白　やや粗い | |
| 第９図 | 6 | 浮線文 | 41g | 10YR 7／6 | 雲母．石英．長石．黒．白．粗い | |
| 第９図 | 7 | 条痕文 | 18.1g | 10YR 3／2 | 雲母．石英．長石．黒．白．粗い | |
| 第９図 | 8 | 条痕文 | 12.2g | 7.5YR 5／6 | 雲母．石英．長石．黒．白．やや粗い | |
| 第９図 | 9 | 条痕文 | 17.3g | 10YR 6／6 | 長石．黒．白　やや粗い | |
| 第９図 | 10 | 条痕文 | 12.5g | 10YR 5／6 | 雲母．長石．黒．白．赤 | |
| 第９図 | 11 | 条痕文 | 13g | 2.5YR 5／4 | 雲母．長石．黒．白．やや粗い | |
| 第９図 | 12 | 浮線文 | 258g | 5 YR 4／4 | 雲母．長石．黒．白．密 | |
| 第９図 | 13 | 条痕文 | 118g | 10YR 5／6 | 雲母．長石．黒．白．やや粗い | |
| 第９図 | 14 | 条痕文 | 33.1g | 7.5YR 6／6 | 雲母．長石．黒．白．やや粗い | |
| 第９図 | 15 | 条痕文 | 40g | 2.5YR 3／6 | 雲母．長石．黒．白　やや密 | |
| 第９図 | 16 | 無文 | 40g | 5 YR 5／6 | 雲母．長石．黒．白　密 | |
| 第９図 | 17 | 縄文 | 52g | 10YR 6／4 | 石英．長石．黒．白．密 | 網代痕あり |
| 第９図 | 18 | 条痕文 | 18.7g | 7.5YR 4／3 | 雲母．長石．黒．白　密 | |
| 第９図 | 19 | 縄文 | 30.1g | 10YR 6／6 | 長石．黒．白　やや密 | |
| 第９図 | 20 | 縄文 | 21.8g | 10YR 5／3 | 雲母．長石．黒．白　やや密 | |
| 第10図 | 35 | 条痕文 | 26.3g | 10YR 2／1 | 黒，白，密 | |
| 第10図 | 36 | 浮線文 | 14g | 10YR 5／6 | 雲母．石英．長石．黒．白．やや粗い | |
| 第10図 | 37 | 浮線文 | 48.3g | 10YR 3／2 | 雲母，黒，白，密 | |
| 第10図 | 38 | 浮線文 | 9.2g | 10YR 3／3 | 雲母，長石，黒，白，密 | 赤彩あり |
| 第10図 | 39 | 浮線文 | 14g | 10YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 40 | 条痕文 | 29g | 7.5YR 7／6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 41 | 条痕文 | 46.3g | 7.5YR 4／6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 42 | 条痕文 | 29.8g | 10YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 43 | 浮線文 | 13.2g | 7.5YR 3／1 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 44 | 条痕文 | 74.3g | 5 YR 4／6 | 雲母，長石，白，やや密 | |
| 第10図 | 45 | 浮線文 | 22g | 7.5YR 3／3 | 雲母，石英，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 46 | 条痕文 | 7.6g | 7.5YR 3／3 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 47 | 条痕文 | 14.7g | 2.5YR 5／8 | 雲母，石英，長石，赤，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 48 | 浮線文 | 13g | 5 YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 49 | 浮線文 | 26g | 2.5YR 4／4 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 50 | 浮線文 | 21g | 10YR 7／6 | 雲母，赤，黒，白，密 | |
| 第10図 | 51 | 浮線文 | 15g | 5 YR 4／8 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 52 | 条痕文 | 14g | 10YR 6／6 | 雲母，長石，赤，黒，密 | |
| 第10図 | 53 | 条痕文 | 15.2g | 10YR 4／3 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 54 | 浮線文 | 16g | 10YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 55 | 浮線文 | 15g | 10YR 5／4 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 56 | 縄文 | 41g | 5 YR 5／6 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 57 | 縄文 | 6ｇ | 10YR 3／1 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第10図 | 58 | 浮線文 | 8ｇ | 7.5YR4.3 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 59 | 浮線文 | つｂ | 10YR 6／6 | 長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 60 | 条痕文 | 25.8g | 7.5YR 6／8 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 61 | 縄文 | 18g | 5 YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 62 | 浮線文 | 13g | 10YR 4／4 | 雲母，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 63 | 浮線文 | 17g | 5 YR 5／6 | 雲母，赤，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 64 | 縄文 | 59g | 2.5YR 3／6 | 雲母，石英，長石，黒，白 | 網代痕あり |
| 第10図 | 65 | 条痕文 | 42.1g | 2.5YR 4／6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 66 | 浮線文 | 28g | 10YR 6／6 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 67 | 条痕文 | 22g | 7.5YR 5／6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |

| 図版 | 番号 | 文様種別 | 重量 | 色調（外面） | 胎土質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10図 | 68 | 浮線文 | 90g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 69 | 浮線文 | 154g | 7.5YR5/4 | 雲母，石英，長石，赤，黒，白，密 | |
| 第10図 | 70 | 浮線文 | 48g | 7.5YR6/8 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 71 | 浮線文 | 21g | 5YR3/4 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 72 | 縄文 | 26g | YR6/8 | 長石，赤，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 73 | 浮線文 | 11g | 7.5YR6/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 74 | 浮線文 | 22g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 75 | 縄文 | 22g | 5YR3/4 | 雲母，黒，白，やや密 | |
| 第10図 | 76 | 条痕文 | 6.6g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，密 | |
| 第10図 | 77 | 浮線文 | 97g | 10YR6/8 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 78 | 浮線文 | 27g | 2.5YR4/6 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第10図 | 79 | 浮線文 | 9g | 2.5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白，粗 | |
| 第10図 | 80 | 条痕文 | 14g | 7.5YR5/8 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第10図 | 81 | 縄文 | 85g | 7.5YR6/6 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 82 | 浮線文 | 25.7g | 5YR4/4 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 83 | 条痕文 | 14g | 10YR7/6 | 雲母，長石，黒，密 | |
| 第11図 | 84 | 浮線文 | 18.6g | 2.5YR4/4 | 雲母，長石，黒，白，密 | 赤彩あり |
| 第11図 | 85 | 条痕文 | 40g | 5YR4/8 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 86 | 縄文 | 10g | 10YR7/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 87 | 条痕文 | 49g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 88 | 浮線文 | 16g | 7.5YR4/3 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 89 | 条痕文 | 21g | 10YR6/4 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 90 | 条痕文 | 10g | 7.5YR6/6 | 長石，黒， | |
| 第11図 | 91 | 縄文 | 36.1g | 7.5YR6/6 | 雲母，石英，長石，やや粗 | 網代痕あり |
| 第11図 | 92 | 浮線文 | 47g | 5YR4/6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 93 | 条痕文 | 51g | 7.5YR6/6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 94 | 浮線文 | 38g | 5YR4/6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 95 | 浮線文 | 18.8g | 5YR3/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 96 | 浮線文 | 15g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 97 | 浮線文 | 16g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 98 | 条痕文 | 35g | 7.5YR6/8 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 99 | 浮線文 | 17.5g | 2.5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 100 | 浮線文 | 10.3g | 7.5YR6/4 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 101 | 浮線文 | 25.9g | 10YR3/2 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 102 | 縄文 | 89g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，赤，黒，白，やや粗 | 網代痕あり |
| 第11図 | 103 | 縄文 | 36g | 2.5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第11図 | 104 | 縄文 | 67g | 5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 105 | 浮線文 | 19g | 2.5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 106 | 浮線文 | 12.1g | 10YR6/8 | 雲母，黒，白，密 | |
| 第11図 | 107 | 浮線文 | 13g | 10YR3/1 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 108 | 浮線文 | 16.3g | 10YR4/4 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 109 | 浮線文 | 20g | 7.5YR4/3 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 110 | 浮線文 | 24g | 5YR6/6 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 111 | 浮線文 | 30g | 7.5YR6/6 | 長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 112 | 浮線文 | 8g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 113 | 浮線文 | 8g | 5YR3/3 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 114 | 浮線文 | 9.1g | 7.5YR4/3 | 長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 115 | 条痕文 | 12.3g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 116 | 条痕文 | 11g | 10YR7/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 117 | 条痕文 | 6.4g | 10YR3.1 | 長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 118 | 条痕文 | 19g | 10YR6/6 | 雲母，黒，白，密 | |
| 第11図 | 119 | 条痕文 | 20.6g | YR5/4 | 雲母，黒，やや粗 | |
| 第11図 | 120 | 条痕文 | 19g | 10YR5/3 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 121 | 条痕文 | 18.4g | 2.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第11図 | 122 | 条痕文 | 11.6g | 5YR4/4 | 雲母，長石，やや粗 | |
| 第11図 | 123 | 条痕文 | 17g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 124 | 条痕文 | 15g | 2.5YR5/8 | 雲母，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 125 | 縄文 | 14.8g | 7.5YR6/6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 126 | 縄文 | 18.6g | 10YR5/4 | 雲母，黒，白，やや粗 | |
| 第11図 | 127 | 条痕文 | 64g | 5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白，密 | |
| 第11図 | 128 | 無文 | 98g | 2.5YR5/6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |

第4表　土製品観察表

| 図版 | 番号 | 種別 | 最大幅 | 重量 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第9図 | 21 | 土製円盤 | 4.25 | 16.9g | 10YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第9図 | 22 | 土製円盤 | 3.3 | 9.1g | 7.5YR5/8 | 雲母，黒，白 | |
| 第9図 | 23 | 土製円盤 | 2.75 | 4.9g | 5YR5/8 | 雲母，黒，白 | |
| 第9図 | 24 | 土製円盤 | 3.5 | 12.3g | 10YR5/4 | 雲母，黒，白 | |
| 第9図 | 25 | 土製円盤 | 2.75 | 8g | 10YR3/3 | 雲母，黒，白 | |
| 第9図 | 26 | 土製円盤 | 4.9 | 21.9g | 10YR5/6 | 雲母，黒，白 | |
| 第9図 | 27 | 土偶 | 4.3 | 22.2g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白，やや密 | |
| 第12図 | 129 | 土製円盤 | 4.55 | 20g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 130 | 土製円盤 | 4.25 | 15.7g | 5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 131 | 土製円盤 | 4.05 | 15.6g | 5YR5/8 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 132 | 土製円盤 | 4.35 | 15.8g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，白 | |

| 図版 | 番号 | 種別 | 最大幅 | 重量 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12図 | 133 | 土製円盤 | 3.9 | 13.4g | 10YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 134 | 土製円盤 | 3.75 | 11.6g | 10YR4/3 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 135 | 土製円盤 | 3.45 | 10.5g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 136 | 土製円盤 | 3.55 | 11.9g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 137 | 土製円盤 | 3.85 | 13.2g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 138 | 土製円盤 | 3.3 | 9.9g | 5YR4/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 139 | 土製円盤 | 3.3 | 10.9g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 140 | 土製円盤 | 3.1 | 7.4g | 10YR5/6 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 141 | 土製円盤 | 3.2 | 9.4g | 10YR6/6 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 142 | 土製円盤 | 3.1 | 8.5g | 10YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 143 | 土製円盤 | 3.4 | 12.2g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 144 | 土製円盤 | 3.3 | 10.4g | 10YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 145 | 土製円盤 | 3.0 | 9.9g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 146 | 土製円盤 | 2.9 | 8.6g | 10YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 147 | 土製円盤 | 2.85 | 7.9g | 10YR6/6 | 雲母，石英，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 148 | 土製円盤 | 2.7 | 6g | 10YR5/4 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 149 | 土製円盤 | 2.9 | 5.8g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 150 | 土製円盤 | 2.55 | 4.5g | 5YR5/8 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 151 | 土製円盤 | 2.0 | 2.9g | 5YR4/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 152 | 土製円盤 | 3.95 | 12.1g | 5YR3/8 | 雲母，石英，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 153 | 土製円盤 | 4.3 | 16.8g | 10YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 154 | 土製円盤 | 3.65 | 10.7g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 155 | 土製円盤 | 3.2 | 10.2g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 156 | 土製円盤 | 3.8 | 16g | 10YR2/1 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 157 | 土製円盤 | 3.3 | 16g | 10YR6/6 | 雲母，石英，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 158 | 土製円盤 | 5.0 | 37.3g | 7.5YR5/8 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 159 | 土製円盤 | 3.7 | 12.9g | 10YR6/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 160 | 土製円盤 | 3.7 | 8.0g | 5YR5/6 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 161 | 土製円盤 | 3.5 | 14.1g | 10YR5/4 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 162 | 土製円盤 | 3.7 | 11.7g | 10YR5/6 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 163 | 土製円盤 | 28.5 | 11.2g | 7.5YR5/6 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 164 | 土製円盤 | 2.3 | 4.7g | 5YR4/8 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 165 | 土製円盤 | 2・1 | 3.1g | 10YR5/4 | 雲母，黒，白 | |
| 第12図 | 166 | 土製円盤 | 5.7 | 49.1g | 10YR5/6 | 雲母，長石，赤，黒，白 | |
| 第12図 | 167 | 土製円盤 | 4.9 | 23.2g | 10YR5/8 | 雲母，石英，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 168 | 土製円盤 | 4.9 | 24.5g | 10YR3/3 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 169 | 土製円盤 | 3.7 | 11.7g | 10YR3/1 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 170 | 土製円盤 | 7.25 | 8.3g | 10YR2/1 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 171 | 土錘 | 5.0 | 30.7g | 7.5YR6/6 | 雲母，石英，長石，黒，白，やや粗 | |
| 第12図 | 172 | 把手破片 | 4.1 | 25.5g | 10YR6/8 | 小石，長石，やや粗 | |
| 第12図 | 173 | 土冠 | 3.9 | 14.5g | 10YR4/2 | 雲母，長石，黒，白 | |
| 第12図 | 174 | 焼成粘土塊？ | 2.6 | 12.7g | 7.5YR5/6 | 黒，白，密 | |
| 第12図 | 175 | 焼成粘土塊 | 4.9 | 31g | 7.5YR5/6 | 雲母，長石，白 | |
| 第12図 | 176 | 土偶 | 3.7 | 9g | 10YR3/2 | 長石，白，やや粗 | |
| 第12図 | 177 | 把手？ | 3.4 | 6.9g | 10YR6/6 | 雲母，黒，密 | |

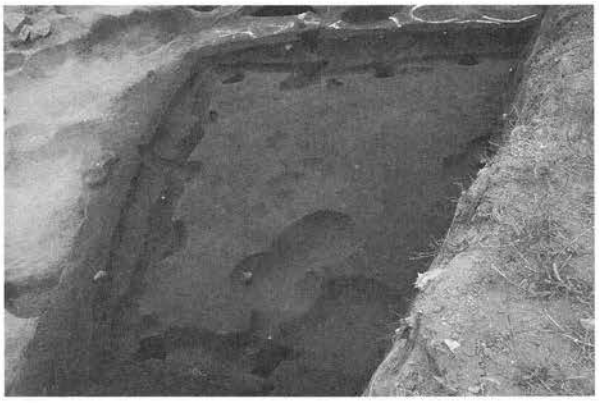
第5表　石器・鉄製品観察表

単位：cm

| 図版 | 番号 | 器種 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 材質 | 重量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第9図 | 28 | 打製石斧 | 9.2 | 5.5 | 2.4 | 頁岩 | 150g | |
| 第9図 | 29 | 打製石斧 | 4 | 5 | 1 | 頁岩 | 27.8g | |
| 第9図 | 30 | 横刃形石器 | 6.8 | 12.9 | 2.9 | 硬砂岩 | 290g | |
| 第9図 | 31 | 石鏃 | 2.4 | 1.9 | 0.5 | 黒曜石 | 1.2g | |
| 第9図 | 32 | 石鏃 | 2 | 2.6 | 0.65 | 黒曜石 | 2.5g | 未成品 |
| 第9図 | 33 | 剥片 | 2 | 1.8 | 0.4 | 黒曜石 | 1.2g | 調整痕あり |
| 第9図 | 34 | 剥片 | 1.6 | 3.5 | 0.7 | 黒曜石 | 2.8g | 調整痕あり |
| 第13図 | 178 | 打製石斧 | 8.8 | 6.1 | 3.15 | 粘板岩 | 212g | |
| 第13図 | 179 | 打製石斧 | 5.8 | 4.4 | 1.05 | 頁岩 | 34.3g | |
| 第13図 | 180 | 打製石斧 | 8.1 | 4.4 | 1.35 | 頁岩 | 63.6g | |
| 第13図 | 181 | 打製石斧 | 10.8 | 5.1 | 2.45 | 粘板岩 | 204g | |
| 第13図 | 182 | 横刃形石器 | 4.3 | 10.05 | 1.9 | 頁岩 | 74g | |
| 第13図 | 183 | 横刃形石器 | 5 | 11.4 | 1 | 頁岩 | 51g | |
| 第13図 | 184 | 横刃形石器 | 6.5 | 13.3 | 1.7 | 泥岩 | 108g | |
| 第13図 | 185 | 横刃形石器 | 3.5 | 8.3 | 1.3 | 頁岩 | 39.8g | |
| 第13図 | 186 | 横刃形石器 | 4.5 | 6.7 | 1 | 珪質頁岩 | 31g | |
| 第13図 | 187 | 磨石 | 4.1 | 1.8 | 0.75 | 頁岩 | 8.5g | |
| 第13図 | 188 | 磨石 | 2.95 | 3.8 | 5.5 | ホルンフェルス | 11.6g | |
| 第13図 | 189 | 磨製石斧 | 10.1 | 3.95 | 3.1 | グリーンタフ | 198g | |
| 第13図 | 190 | 石棒 | — | 4.2 | — | 結晶片岩 | 55.6g | |
| 第13図 | 191 | 石棒 | — | 4.2 | — | 結晶片岩 | 22g | |
| 第13図 | 192 | 石核 | 6.7 | 4.7 | 1.4 | 頁岩 | 62.2g | |
| 第13図 | 193 | 剥片 | 2.4 | 1.3 | 0.5 | 黒曜石 | 1.6g | 調整痕あり |
| 第13図 | 194 | 剥片 | 1.9 | 2.7 | 0.85 | 黒曜石 | 3.0g | 調整痕あり |
| 第13図 | 195 | 剥片 | 2.6 | 2 | 0.4 | 黒曜石 | 2.0g | 調整痕あり |
| 第13図 | 196 | 釘 | 4.1 | 0.95 | — | 鉄 | 5.1g | |

調査地点近景

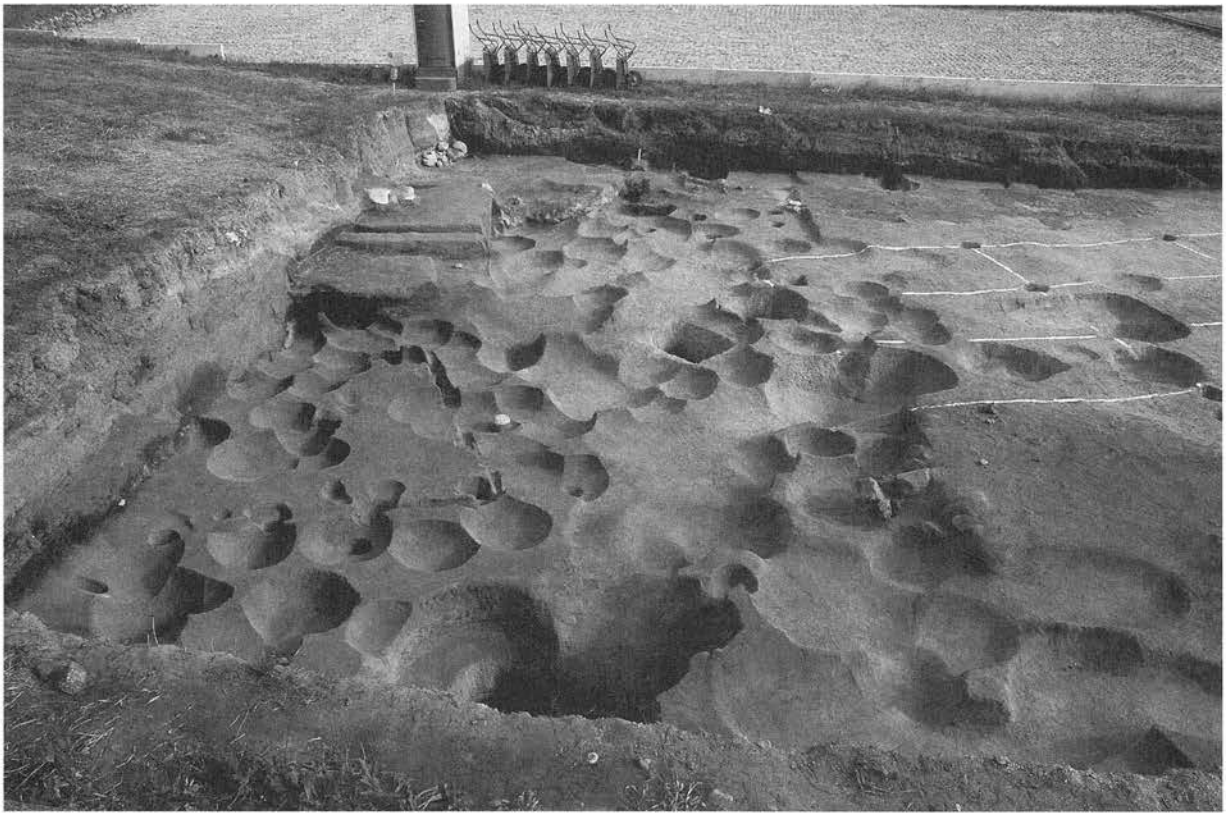
1号住居検出状況



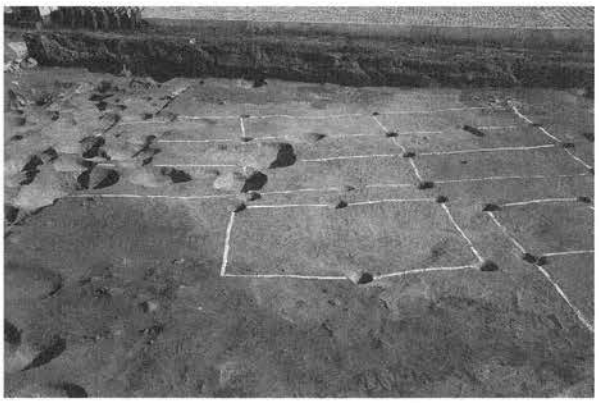
1号住居完掘状況

縄文時代晩期の土坑（161号土坑）

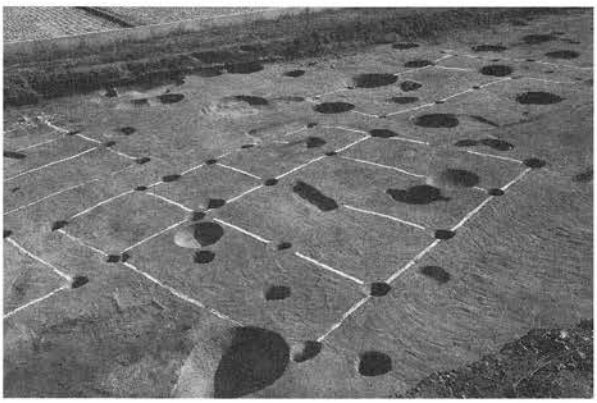
縄文時代晩期の土坑（168号土坑）



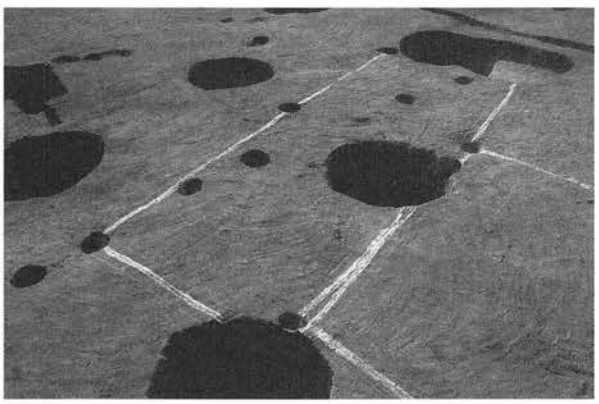
縄文時代晩期の土坑群



1号・2号掘立柱建物跡

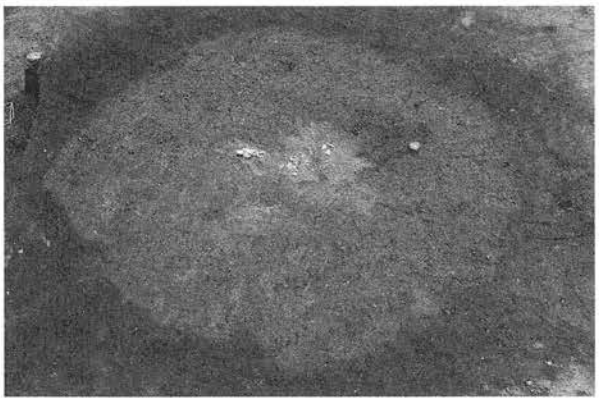


3号掘立柱建物跡

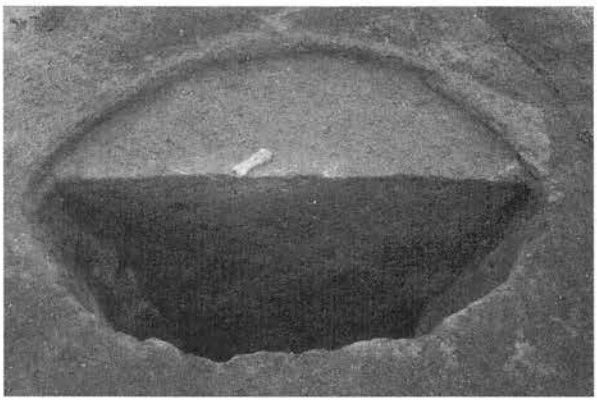


5号掘立柱建物跡

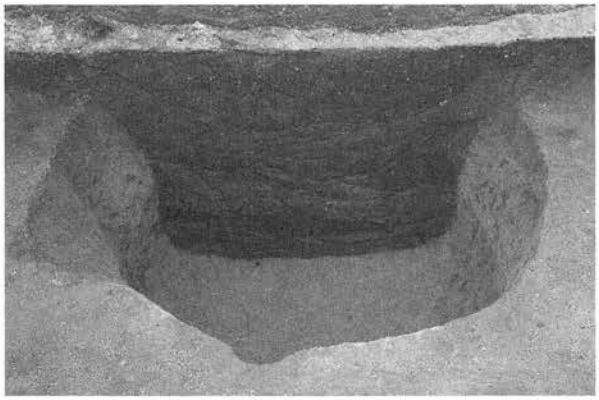
円形土坑群



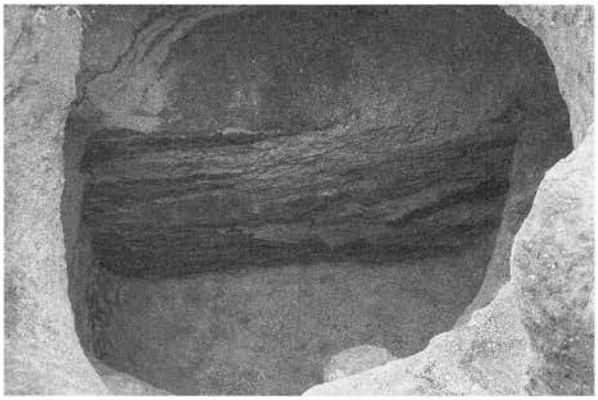
1号地下式土坑骨検出状況



1号地下式土坑セクション



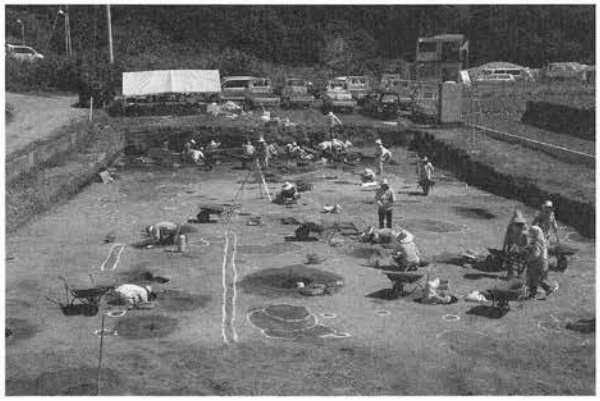
44号土坑セクション



91号土坑セクション

2号地下式土坑

掘立柱建物と円形土坑、方形土坑の重複関係を示す



調査風景

調査風景

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | やしきだいらいせき　だいにじちょうさ |
| 書名 | 屋敷平遺跡　第２次調査 |
| 副書名 | 金精軒製菓株式会社工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 北杜市埋蔵文化財発掘調査報告 |
| シリーズ番号 | 第16集 |
| 編著者名 | 坂口広太 |
| 編集機関 | 北杜市教育委員会 |
| 所在地 | 〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1　　TEL 0551-42-1373 |
| 発行年月日 | 西暦2006年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 屋敷平（やしきだいら）遺跡（いせき） | 山梨県北杜市（やまなしけんほくとし）白州町（はくしゅうちょう） | 19209 | 7016 | 35°<br>48′<br>08″ | 138°<br>21′<br>20″ | 20050908<br>～<br>20051011 | 768 | 工場建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 屋敷平遺跡 | 散布地 | 縄文・弥生・平安・中世 | 縄文時代晩期の住居跡<br>縄文時代晩期の土坑群<br>中世の掘立柱建物跡<br>中世の円形墓<br>中世の地下式土坑 | 縄文時代晩期の土器・石器<br>縄文時代晩期の土冠・土偶 | 北杜市内では稀少な縄文時代晩期の墓域と思われる土坑群と住居跡 |

| | |
|---|---|
| 要約 | |


北杜市埋蔵文化財発掘調査報告　第16集

屋敷平遺跡　第２次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2006年３月25日　印　刷
2006年３月31日　発　行

編集・発行　北杜市教育委員会
〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
TEL　0551-42-1373

印　　刷　ほおずき書籍株式会社
〒381-0012　長野県長野市柳原2133-5
TEL　026-244-0235